

令和7（2025）年度

長崎国際大学

学生による授業アンケートに対する

自己点検・評価報告書

（アクションプランシート）

後期



自己点検・評価委員会

番号	担当者	科目名称	曜日	時限	履修者数	頁
後 期						
人間社会学部国際観光学科						
1	井上 英也	ホテル管理論	月	2	41	1
2	井上 英也	観光リーダーシップ論	水	3	61	2
3	落合 知子	博物館実習B	火	4	12	3
4	落合 知子	博物館実習B	木	1	14	4
5	田中 誠	TOEIC対策B	月	4	61	5
6	田中 誠	教養セミナー	火	2	12	7
7	滝 知則	ビジネス文書	金	3	119	9
8	滝 知則	教養セミナー	木	3	11	11
9	落合 和昭	宿泊業論	火	4	152	13
10	落合 和昭	ホテル・ブライダルオペレーション	土	1	69	14
11	乙須 翼	教育原理	月	4	60	15
12	尾場 均	コンピュータ基礎 I B	火	3	95	17
13	尾場 均	情報処理論	火	5	51	19
14	城前 奈美	地域観光研究A(アジア・オセアニア)	水	3	191	21
15	松山 博明	専門演習ⅢB	月	5	11	22
16	松山 博明	スポーツ心理学	火	1	165	23
17	松山 博明	専門演習ⅡB	火	3	11	24
18	松山 博明	ジュニアスポーツ指導法	水	1	16	25
19	松山 博明	専門演習ⅠB	木	1	18	26
20	松山 博明	教養セミナー	木	3	11	27
21	山内 美穂	日本語Ⅰ	火	4	23	28
22	池永 正人	観光政策論	火	3	224	30
23	安部 直樹(嶋内 麻佐子)	茶道文化ⅢB	水	3	10	32
24	嶋内 麻佐子	茶道文化ⅠB	月	3	40	34
25	嶋内 麻佐子	茶道文化ⅠB	火	2	124	36
26	嶋内 麻佐子	茶道文化ⅣB	火	3	14	38
27	嶋内 麻佐子	茶道文化ⅠB	木	2	60	40
28	嶋内 麻佐子	茶道文化ⅡB	金	3	33	42
29	山崎 祐一	英語ⅡB	金	2	25	44
30	浦郷 淳	道徳教育論	火	1	29	45
31	浦郷 淳	専門演習ⅡB	火	3	12	46
32	浦郷 淳	専門演習ⅠB	木	1	9	47
33	浦郷 淳	教育方法論	木	5	50	48
34	浦郷 淳	教養セミナー	火	2	10	49
35	川上 直彦	英語ⅡA	火	4	37	50
36	坂口 さとこ	博物館経営論	木	2	128	51
37	坂口 さとこ	民俗学	金	4	135	52
38	坂口 さとこ	教養セミナー	木	3	12	54
39	塩田 裕明	専門演習ⅠB	月	3	8	56
40	塩田 裕明	専門演習ⅡB	火	3	6	57
41	塩田 裕明	英語科教育法Ⅳ	木	2	4	58
42	塩田 裕明	教養セミナー	木	3	11	59
43	竹田 文雄	ツアープランニング	金	5	51	60
44	東出 朋	日本語入門ライティングB	水	2	43	61
45	東出 朋	言語と文化B	木	3	168	62
46	森尾 真之	MICE論	水	2	43	63
47	森尾 真之	旅行業論	木	5	81	64
48	森尾 真之	教養セミナー	火	2	11	65
49	井畑 敦子	Practical EnglishⅡB	月	2	19	66
50	江島 弘晃	専門演習ⅢB	月	4	10	69
51	江島 弘晃	卒業研究	月	その他	10	71
52	江島 弘晃	運動生理学	水	1	129	73
53	江島 弘晃	専門演習ⅠB	金	2	9	75

番号	担当者	科目名称	曜日	時限	履修者数	頁
54	江島 弘晃	専門演習ⅡB	金	3	12	77
55	江島 弘晃	武道	月	2	20	79
56	江島 弘晃	教養セミナー	木	3	11	81
57	川上 知子	生徒指導論(栄養)	月	2	4	83
58	川上 知子	生徒指導論	火	4	28	84
59	川上 知子	進路指導論	水	1	28	85
60	John Patrick Owatari-Dorgan	Practical English ⅡA	月	3	18	86
61	John Patrick Owatari-Dorgan	Japanese Culture B	金	1	25	87
62	末永 貴久	スポーツ社会学	水	2	164	88
63	張 美慶	地域振興論	火	1	95	90
64	張 美慶	テーマパーク論	火	5	160	92
65	長津 恒輝	保健体育科教育法Ⅰ	金	4	43	94
66	長津 恒輝	スポーツ実習B	月	5	39	95
67	吹上 新悟	器械体操	金	4	28	96
68	諸石 慈	日本語Ⅱ	火	4	13	97
69	諸石 慈	日本語Ⅲ	火	5	10	99
70	諸石 慈	日本語基礎B	金	1	7	101
71	諸石 慈	教養セミナー	火	2	9	103
72	余 乾生	専門演習ⅡB	火	3	3	105
73	余 乾生	貧困に対する支援	金	1	65	107
74	余 乾生	専門演習ⅠB	金	2	11	109
75	余 乾生	Japanese Economy	金	5	18	111
76	余 乾生	社会保障Ⅱ	土	2	60	113
77	余 乾生	教養セミナー	火	2	10	115
78	Lohr Michael Cory Daniel	English Writing Skills Ⅱ	水	1	18	116
79	Lohr Michael Cory Daniel	English Reading Skills Ⅱ	木	4	19	117
人間社会学部社会福祉学科						
80	木村 勝彦	倫理学	木	1	255	118
81	柳 智盛	専門演習B	月	4	7	121
82	柳 智盛	卒業研究	月	5	6	122
83	柳 智盛	加齢と障害に関する理解	火	3	18	123
84	大島 啓	社会福祉の原理と政策Ⅱ	水	3	51	124
85	梅野 潤子	専門基礎演習B	水	1	8	125
86	梅野 潤子	ソーシャルワーク演習(社会)Ⅳ	木	3	10	126
87	野田 健	ソーシャルワークの基盤と専門職(社会)	月	4	42	127
88	野田 健	ソーシャルワーク実習指導(社会)Ⅰ	火	4	12	128
89	韓 榮芝	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	月	3	56	129
90	韓 榮芝	卒業研究	月	5	9	131
91	韓 榮芝	保健医療と福祉	火	3	56	132
92	韓 榮芝	専門基礎演習B	水	1	10	134
93	足立 孝子	精神保健福祉の原理Ⅱ	月	4	13	135
94	足立 孝子	ソーシャルワーク演習(精神)Ⅲ	水	1	9	136
95	浦 秀美	生活支援技術ⅢB	月	5	9	137
96	浦 秀美	介護概論ⅠB	水	3	21	139
97	中村 尚生	臨床心理学	木	1	7	141
98	久田 貴幸	介護概論ⅠA	火	5	47	143
99	久田 貴幸	介護過程ⅢB	水	その他	5	144
100	久田 貴幸	介護過程ⅡB	金	1	7	145
101	久田 貴幸	介護過程Ⅰ	金	2	9	146
102	裴 孝承	社会福祉調査の基礎	木	2	54	147
103	丸山 貴志	ソーシャルワーク演習(精神)Ⅰ	金	3	10	148
104	針塚 緑樹	心理学	水	3	23	149
105	山下 彦	ソーシャルワーク演習(社会)Ⅳ	木	3	12	151
健康管理学部健康栄養学科						
106	熊井 まどか	栄養生理学実習	金	2/3	38	153

番号	担当者	科目名称	曜日	時限	履修者数	頁
107	熊井 まどか	栄養生理学実習	金	4/5	30	154
108	古賀 貴子	調理学実習Ⅲ	火	1/2	29	155
109	古賀 貴子	調理学実習Ⅲ	火	4/5	29	157
110	古賀 貴子	調理学実習Ⅱ	金	2/3	30	158
111	古賀 貴子	調理学実習Ⅱ	金	4/5	30	160
112	林 俊介	臨床栄養管理学Ⅱ	金	1	59	162
113	廣田 昌彦	卒業研究	水	4/5	2	165
114	山口 留美	臨床栄養管理学Ⅰ	月	3	58	166
115	山口 留美	給食栄養管理実習(学内)	月	4/5	38	167
116	山口 留美	臨床栄養管理実習	金	4/5	49	168
117	川内 美樹	生化学	木	1	32	169
118	川内 美樹	生化学	金	5	34	170
119	藤井 俊輔	食品学Ⅱ	月	2	39	171
120	藤井 俊輔	食品学Ⅱ	火	1	33	172
121	松尾 嘉代子	応用栄養学Ⅱ	月	3	66	173
122	吉村 亮二	基礎栄養学	火	2	39	174
123	吉村 亮二	基礎栄養学	水	2	41	175
124	射場 仁美	微生物学実習	水	2/3	33	176
125	射場 仁美	微生物学実習	木	4/5	36	178
126	小田 和人	スポーツ栄養学	木	2	5	180
127	小田 和人	スポーツ栄養学	金	2	61	181
128	小田 和人	教養セミナー	水	1	5	182
129	川野 香織	公衆栄養学Ⅱ	月	2	38	183
130	川野 香織	公衆栄養学Ⅱ	木	2	30	184
131	菊地 優子	健康科学実習	木	1/2	38	185
132	菊地 優子	公衆衛生学Ⅰ	木	2	39	186
133	菊地 優子	健康科学実習	木	4/5	29	187
134	菊地 優子	公衆衛生学Ⅰ	木	5	45	188
135	高江洲 有沙	栄養教育論Ⅰ	木	4	61	189
136	高江洲 有沙	国際栄養論	金	3	7	191
137	吉永 奈津希	給食経営管理論Ⅱ	月	1	68	192
薬学部薬学科						
138	佐々木 茂貴	生物有機化学	火	2	102	193
139	栴島 力	臨床薬物代謝学	水	2	114	194
140	栴島 力	薬剤学	木	3	101	195
141	市川 和洋	物理学演習	火	1	30	196
142	市川 和洋	薬品物理化学Ⅱ	木	2	97	197
143	岸原 健二	免疫学	木	1	93	198
144	宇都 拓洋	生薬学Ⅱ	水	1	98	200
145	大磯 茂	医薬品情報論	木	4	110	201
146	大庭 義史	分析化学Ⅰ	木	3	85	202
147	小川 由起子	公衆衛生学Ⅱ	火	1	89	203
148	小川 由起子	病原微生物学	火	3	105	205
149	小川 由起子	薬物治療学Ⅲ	木	2	88	207
150	隈 博幸	疾病学Ⅰ	火	3	90	209
151	黒川 健児	細胞生物学	金	1	100	210
152	小島 直人	医薬品化学Ⅱ	木	1	82	211
153	小林 秀光	病原微生物学	火	3	107	212
154	小林 秀光	微生物学	水	2	96	213
155	平良 文亨	地球環境論	金	1	281	214
156	高井 伸彦	放射線化学	金	1	83	215
157	長岡 寛明	公衆衛生学Ⅱ	火	1	90	217
158	西奥 剛	薬理学Ⅱ(末梢-1・前臨床)	火	4	107	218
159	室 高広	医薬品情報論	月	4	110	219
160	山口 拓	薬物治療学Ⅲ	水	1	88	220

番号	担当者	科目名称	曜日	時限	履修者数	頁
161	山口 拓	薬物治療学Ⅰ	金	2	115	222
162	山口 泰史	有機薬化学Ⅰ	木	2	84	224
163	太田 一寿	医療生命倫理	木	1	84	226
164	神谷 誠太郎	製剤学	水	1	105	227
165	川崎 達也	臨床薬物代謝学	水	2	114	228
166	神田 紘介	病院薬学	月	2	99	230
167	田中 宏光	分子細胞生化学演習	火	2	89	231
168	田中 宏光	医療生命倫理	木	1	84	232
169	出口 雄也	衛生化学Ⅰ	土	4	92	233
170	縄田 陽子	薬理学Ⅳ(中枢)	火	1	107	234
171	藤井 佑樹	機能形態学Ⅱ	火	2	85	235
172	藤木 司	教養セミナー	水	3	5	236
173	藤本 京子	生化学Ⅰ	水	1	87	238
174	山田 耕平	生物有機化学	火	2	102	240
175	石原 知明	細胞生物学	金	1	100	241
176	榎本 彩乃	物理学演習	火	1	28	243
177	大久保 伸哉	総合実習	火	5	77	244
178	倉岡 卓也	生化学実習	木	4	87	246
179	末廣 真理恵	病院薬学	月	2	99	247
180	相田 美和	毒性学	木	2	103	248
181	相田 美和	化粧品学	木	3	93	249
182	高崎 伸也	臨床検査学	月	1	98	250
183	中村 沙織	機器分析学	木	2	93	252
184	吉田 達貞	物理学演習	火	1	32	253
185	北川 翔大	生薬学実習	木	5	87	255
186	中島 健輔	総合実習	木	5	77	256
187	波多江 日成子	コンピュータ基礎ⅠB	月	4	83	257
188	福森 良	コンピュータ基礎ⅠB	月	4	83	258

アクションプランシート

2025年度後期 月2

科目名 ホテル管理論

教員名 井上 英也

回答者数/履修者数 36/41

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>今年度の満足度は4.6となり、昨年度の4.7と比較すると0.1ポイント低下する結果となった。しかし、評価4以上の学生の割合は依然として高く、授業全体としては概ね高い満足度を維持していると考えられる。</p> <p>一方で、予習・復習など授業外学習に関する項目では昨年度よりやや評価が低下しており、学生の主体的な学習行動を促す工夫が課題として認識された。今後は、授業内容と連動した簡単な事前課題や振り返りの機会を設けるなど、授業外学習を促す仕組みを取り入れることで、理解度と満足度のさらなる向上を図りたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>対象が3年生であることから、ホテル会社の経営や運営を題材として、就職活動や将来のキャリアと関連づけた内容を意識して授業を行っている。具体的には、ホテル業界の経営事例や観光産業の動向を取り上げ、学生が実社会とのつながりを意識しながら学ぶことができるよう工夫した。</p> <p>また、長崎における新規ホテル開業や観光関連のニュースなど、メディアで取り上げられる最新的话题を授業内で紹介することにより、学生の関心を高め、授業への積極的な参加につながっていると感じている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業内容に関する評価 (Q3~Q5) は4.8前後と高い水準を維持しており、授業構成や内容については概ね学生の理解と関心を得られているものと考えられる。</p> <p>しかしながら、ホテル産業を取り巻く環境は近年大きく変化しており、インバウンド市場の回復や新たな宿泊ビジネスモデルなど、業界の動向も日々更新されている。今後も基礎的な理論をしっかりと押さえつつ、最新のホテル経営や観光ビジネスの事例を積極的に取り入れることで、学生が現代のホテル産業の変化を実感できる授業内容の充実を図りたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>授業方法に関する評価 (Q6~Q11) は4.7~4.9と高い水準であり、授業の進め方や教材の使用については概ね適切であると考えられる。</p> <p>今後は、学生の理解度をより高めるため、短時間のディスカッションや意見交換などを取り入れ、学生が自ら考え発言する機会を増やすことを検討している。こうした双方向型の授業運営を強化することで、学生の主体的な学習参加を促進し、より効果的な授業を目指したい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>本授業はホテル関連科目の総仕上げとして、ホテル経営や運営の実務的な内容を扱うため、学生にとってはやや難易度の高い内容となる場合もある。しかしながら、観光・宿泊産業の現状や将来のキャリアを考える機会として、一定の関心を持って受講している学生も多いと感じている。</p> <p>今後は学生の理解度をより丁寧に把握しながら授業内容を調整するとともに、観光産業やホテルビジネスの最新動向を取り入れることで、学生の職業意識や学習意欲の向上につながる授業づくりを継続していきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 水3

科目名 観光リーダーシップ論

教員名 井上 英也

回答者数/履修者数 45/61

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>今年度の満足度は4.6となり、昨年度と同水準を維持する結果となった。履修者数が33名から61名へ増加したことを踏まえると、授業内容や方法は概ね学生に受け入れられていると考えられる。</p> <p>一方で、予習・復習など授業外学習に関する項目では大きな改善が見られないことから、学生の主体的な学習行動を促す仕組みづくりが今後の課題である。今後は授業内容に関連した振り返り課題などを取り入れ、理解度と満足度のさらなる向上を図りたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本授業では、リーダーシップを一部の特別な人の能力ではなく、誰もが習得可能なスキルであることを繰り返し伝え、学生が主体的に学ぶ意識を持てるよう授業を構成している。</p> <p>また、講義とグループワークを組み合わせることで、理論と実践の双方から理解を深めることを意図している。観光産業や地域社会におけるリーダーシップの事例を紹介することで、学生が実社会とのつながりを意識しながら学ぶことができ、学習意欲の向上につながっていると考えられる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業内容に関する評価 (Q3~Q5) は4.6~4.7と比較的高い評価を得る結果となった。授業構成や内容については概ね学生の理解と関心を得られていると考えられる。</p> <p>今後は、観光産業や地域社会におけるリーダーシップの具体的事例をさらに充実させ、学生が実際の場面を想定しながらリーダーシップを理解できる授業内容の強化を図りたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>授業方法に関する評価 (Q6~Q11) は4.5~4.7と比較的高い水準であり、授業の進め方や教材の使用については概ね適切であると考えられる。</p> <p>履修者数の増加により、学生一人一人の発言機会を確保することが難しい場面も見られたため、今後はグループワークの進め方やディスカッション方法を工夫し、学生が主体的に参加できる機会をさらに増やしていきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>リーダーシップは観光分野のみならず、社会生活や職業生活において重要な能力である。本授業では理論と実践を組み合わせることで、学生が自分自身のリーダーシップの可能性を考える機会を提供してきた。</p> <p>履修者数の増加により授業運営の難しさもあったが、今後も授業方法の工夫を重ねながら、学生が主体的に学び成長できる授業づくりを進めていきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火4

科目名 博物館実習B

教員名 落合 知子

回答者数/履修者数 10/12

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>授業に対する満足度は4.8と高得点である。本実習は国家資格の学芸員を取得するための必須科目であり、15名を定員とする少人数制の実習であることから、ひとり一人に丁寧に指導した結果といえる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>博物館実習Bは、通年の実習科目である。歴史資料の取扱い（掛軸、卷子本、刀剣など）と自然史系資料の標本製作（さく葉標本）、ワークショップの指導力を高めるための封入標本製作、勾玉製作、後期は紙資料の修理修復を学ぶ。特に紙資料の修理修復技術を学ぶことができる大学は少なく、学生たちからの評価は高い。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>実習室が狭く、使用する機材も老朽化しており、学生たちに不便をかけていることは否めない。来年度から一クラスの定員を10名として、より丁寧な指導ができる体制にする予定である。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>改善が求められる項目としては、質問8および9であるが、実習であるため板書、機器は使用しない。教科書を使用しているが、殆どの学生が持参しないため適切でないことではない。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>全体を通して評価が高いため、特に改善する必要はないと考えている。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木1

科目名 博物館実習B

教員名 落合 知子

回答者数/履修者数 10/14

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>授業に対する満足度は4.7と高得点である。本実習は国家資格の学芸員を取得するための必須科目であり、15名を定員とする少人数制の実習であることから、ひとり一人丁寧に指導した結果といえる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>博物館実習Bは、通年の実習科目である。歴史資料の取扱い（掛軸、卷子本、刀剣など）と自然史系資料の標本製作（さく葉標本）、ワークショップの指導力を高めるための封入標本製作、勾玉製作、後期は紙資料の修理修復を学ぶ。特に紙資料の修理修復技術を学ぶことができる大学は少なく、学生たちからの評価は高い。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>実習室が狭く、使用する機材も老朽化しており、学生たちに不便をかけていることは否めない。大年度から一クラスの定員を10名にして、より丁寧な指導ができる体制とする。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>改善点としては、授業内容をあまりよく理解できないという学生が1名いたことであるが、本人の受講する意欲の無さと考えている。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>満足度が高いことから、特に所感はない。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 月4

科目名 TOEIC対策B

教員名 田中 誠

回答者数/履修者数 53/61

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>満足度については、昨年度が4.5で、今年度は4.6という結果となった。今年度は、5または4と記入している学生の割合が94.3%であった。例年のことではあるが、なかなか全員を満足させることは難しいと感じている。TOEICの試験は非常に難しいし、学生の英語力の差が大きくなってきているだけでなく、年々下の方に振れているので、英語が苦手な学生にも満足できるような授業内容になるように常に工夫してはいるが、非常に難しい。特に、近年では、留学生の履修が増えて、静かに授業を聞かせることが難しくなっている。このような状況下でも、学生の英語力を最大限に伸ばすことができるような授業内容、参考資料の作成の仕方などを研究していくことで、さらに改善していきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>対面で授業をすることができるようになり、特にライブ感を意識した授業をしている。授業外学修の時間を増やすために、例年通り毎回の授業でマナバを活用して、2種類の課題を出し、提出させる取り組みも実施した。授業中もアクティブラーニングを意識して、リスニング問題のトレーニングをすることで、単に講義を聞くだけの授業にならないような工夫もした。また、例年通り、毎回授業の終わりにマナバのresponの機能を使用したり、リフレクション・カードを使用し、授業の理解度やコメントなどを記入させた。そして、授業のコメントに対して、学生が疑問に思っていることや、授業で分かりにくかったと感じた事項に関して、responの場合は簡単な回答はその場で、時間がかかりそうな場合は、次回の授業で導入としてコメントをしたり、参考資料を作成して配布したりして理解度を高める努力をした。さらに、難しい中でも「楽しい」と思ってくれる学生が少しでもでてくるような授業も意識した。学生のコメントにも「楽しい授業をありがとうございます。」などのコメントが見受けられた。今後とも、様々な英語力の学生に対して、少しでも満足度を高めるような授業を展開していきたい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3に関しては、昨年度が4.6、今年度は4.8、Q4に関しては、昨年度が4.6、今年度が4.9、Q5に関しては、昨年度が4.5、今年度が4.7であった。全ての項目で4.7以上なので、少し、甘めの評価をしてもらった感じはするが、ある程度良い授業が提供できたのではないかなと思う。英語のプレイスメントテストの結果からも、今年度も1年生の中には英語力が非常に低い学生がいることは、分かっていたので、丁寧に指導をすることで、高いポイントを得られることができたのだと考える。これからも、高いレベルを維持していきたい。学生のコメントには、例年通り「毎授業分かりやすいです」などのコメントも見受けられた。次年度以降も、より良い授業が提供できるように教材研究に時間をかけていくことで、どのレベルの学生にも対応できるような努力を続けていきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6~Q11に関して、個別に見ていくと、Q6に関しては、昨年度が4.5、今年度が4.8、Q7に関しては、昨年度が4.7、今年度が4.9、Q8に関しては、昨年度が4.6、今年度が4.9、Q9に関しては、昨年度が4.5、今年度も4.7、Q10に関しては、昨年度が4.6、今年度も4.6、Q11に関しては、昨年度が4.3、今年度が4.6であった。全ての項目で4.6以上であるので、少し甘めの評価ではあると思うが、ある程度の評価は得られたものと認識している。しかし、Q9とQ11に関して、この高評価の中でも、1と評価した学生がいたことは、反省点である。Q6の「話し方は明瞭でしたか」については1名だけ、3と評価した学生がいた。例年、早口ではやす傾向があり、聞き取りにくいと指摘されることもあるのだが、今回は、3と評価した学生以外は、4か5をつけているので、この早口で話すということについては、今回は少し改善されたのかもしれない。学生のコメントにも「授業中は聞き取り</p>

項目見出し	コメント
	<p>やすい声量で集中して受けることができた。」のようなコメントが見られた。Q7の「熱意の感じられる授業でしたか」に関しては、毎年常に意識して授業を展開しているので、4.9というポイントを得られたのは、こちらの熱意が授業を聞いている学生に十分に伝わった結果だと思えるので、正直に言ってうれしい。今後とも、熱意の感じられる授業を展開していきたい。Q11については、講義型の授業でもあるので、ポイントを上げるのに苦勞している。「授業参加を促すような工夫」はリスニングのトレーニングでは行っているのだが、他の項目では、どうしてもこちらの解説する量が増えてしまっている点は改善を検討したい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>今年度の授業についても、日本語力の低い学生が履修していたので、こちらの説明がうまく伝わらないことがあった。英語力も高くなく、日本語力も低いという学生がいる中での授業展開は、非常に困難を伴うこともあった。このような状況下で、少しでも英語力を向上させることができるようにmanabaにアップする資料も動画等も含めて、様々なレベルに対応できるように資料をアップしたり、講義内容も極力分かりやすい説明をするように努めた。今後とも、少しでも良い授業が提供できるように、教材研究の努力をしていきたい。このような努力もあって、学生のコメントには「先生の教え方は分かりやすく、例も交えてくださいました。私たちの質問に親切に答えてくださり、やる気を引き出すように授業を進めてくださったので、とても良い経験になりました。」のようなコメントが見られた。今後とも、学生の評価が高い点は、さらに良くなるように努力しつつ、改善すべき点には改善を加えながら、少しずつでもより良い授業が提供できるように努力をしていきたい。また、英語力を伸ばすためには、授業外での学びが非常に重要なので、これからも毎回やればできるレベルと量の課題等を出すことを継続して実施することで、授業外学修時間の向上にも寄与していきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火2

科目名 教養セミナー

教員名 田中 誠

回答者数/履修者数 11/12

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>満足度に関しては、今年度は5.0であった。ちょっと甘い評価だと思うが、それでも高い満足度と評価してもらい、ほっとしている。このクラスは日本語能力の低い留学生が中心のクラスであったので、良い授業ができるかどうか、本当に不安しかなかったが、この結果を見る限りは、ある程度の質の高い授業を提供できたのではないかと考えている。学生のコメントにも「It's really good to take your classes. I hope to learn more in the coming days.」のようなものが見られた。改善点に関しては、さらに学生の興味関心を引くことができるように授業で使用する教材やスライドの準備をしっかり行いたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>今学期も、授業前から日本語能力の低い留学生が中心のクラスであるということが分かっていたので、平易な日本語を使用し、視覚にも訴えながら授業を展開した。何よりもまず、私が話している内容をしっかり理解してもらおうということに重点を置き、基礎的な事項を徹底することを重視して、学生の表情なども注意深く観察しながら授業を展開した。そのため、資料も平易な日本語、フリガナ付きの資料などの対応をして、理解を高める努力をした。日本語力は低い英語は分かる学生もいたため、そのような学生向けには少し英語を交えたりしながら、授業を展開した。このような努力が、学生に伝わった結果だと思う。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>今年度のQ2に関しては5.0、Q3に関しては4.9であった。かなり高得点であった。前項目で述べたように、日本語能力の低い留学生が中心のクラスということは事前に分かっていたので、良い授業ができるかどうか、正直に言うとなんか不安しかなかったが、この結果を見る限りは、高いポイントを得ることができているので、ある程度のレベルの授業はできたのではないかと考えている。改善が必要な点については、今後は、もっと日本語を発言する機会を多く持つような工夫をしていきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q4Q7の全ての項目で、評価は5.0であった。特に、熱意を持って授業をする点は、常に意識しているので、それが伝わったことがうれしい。言葉はうまく通じなくても、熱意は必ず伝わると信じて授業を展開したことが、結果につながったと思う。授業の際は、不明な点は気軽に質問できる雰囲気作りを大事にして、学生の授業への参加を促すように努めた。さらに、授業外でも授業で指示した内容を確認するために重要事項は、文字で確認できるようにLINEを使用して連絡するなど、様々な手段を使って、「知らなかった」や「分からなかった」がないように努力をした。このような一つ一つの努力が学生にも伝わったと思う。次年度も継続していきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>本科目は、秋に入学したばかりで、日本の習慣等もよく分かっていない留学生が履修する授業であり、日本語が苦手な留学生も多いと分かっていたので、授業の準備には、通常の授業よりもかなり多くの時間を費やした。どのような日本語を使用して説明すれば、理解してもらえるのか、何か理解の手助けになるような視覚的な資料はないのかなど、準備には本当に時間がかかった。英語で言えば通じる学生もいるが、英語ばかり話すと日本語力が身につかないので、バランスを考慮しながらコミュニケーションを取った。このように苦労も多かった授業ではあるが、良い評価を得られてほっとしている。学生からのコメントには、「授業が分かりやすく、担当の先生も丁寧に説明してくださったので、安心して学ぶことができました。」などが見受けら</p>

項目見出し	コメント
	れた。次の学期でも、今回の経験を活かして、さらに良い授業ができるように、努力していきたい。

アクションプランシート

2025年度後期 金3

科目名 ビジネス文書

教員名 滝 知則

回答者数/履修者数 70/119

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>Q13 R6年度実績 4.4、R7年度実績 4.6 昨年度に比べて若干の改善が見られた。今後の向上策として、具体例の提示、ふりがなの活用、聞き手である学生にとって理解しやすい話し方を引き続き行う。また、落ち着いて授業に参加できる環境の維持、ならびに学生の授業参加の促しも行う。向上策の具体的な内容は以下に示す。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>この科目の直接のねらいは、ビジネス文書の作成スキルの修得、つまり書き言葉の学修である。ただし書類を作成しても、話し言葉でのコミュニケーションを念頭において書類を作成することが大切であることを伝えた。 講義においては、検定試験の教科書の記載をオウム返しするのではなく、実用的な内容を述べることに努めた。職場の人間関係を述べる時、Aさん、Bさんではなく、佐藤さん、高橋さんのような実在の名前を使った。また職場の人間関係を板書する際に人型のイラストを書く、あるいは人名と人名の間に矢印を書くなどをした。 今年度からの取り組みとして、授業プリントならびにマナバの課題にふりがなを付けた。留学生の学修を支援することを目指したものである。これに加え、ビジネス文書の学修に用いる日本語の中には、日本人の学生も日常では触れることが少ない用語がある。ふりがなを付けることは、このようなニーズにも対応したと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3 (授業の編成、まとめ、わかりやすさ) R6年度実績 4.4、R7年度実績 4.7 Q4 (シラバスと授業内容の整合性) R6年度実績 4.4、R7年度実績 4.7 Q5 (授業内容は興味あるものだったか) R6年度実績 4.3、R7年度実績 4.6 授業のまとめ、シラバスと授業内容の整合性ともに、評価が若干改善した。授業内容への興味についても、改善が見られた。 職場でのやりとりの状況を具体的にイメージしてもらえ、例を、今後も用意する。これにより学修内容の理解を、今後はさらに広く深くしてもらえるように努める。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6 (話し方は明瞭か) R6年度実績 4.4、R7年度実績 4.7 教員が自分の頭の中にあることを、自分の都合で機械的に話してしまうことは避けることに努めた。理解してほしいことが伝わりやすくなることを念頭に、若干ゆっくりと話した。一方で、伝えるべきことがらを所定の時間内に伝えることにも努めた。 Q7 (熱意の感じられる授業だったか) R6年度実績 4.4、R7年度実績 4.6 Q8 (教科書、参考書、配布プリントの使用は適切か) R6年度実績 4.4、R7年度実績 4.6 Q9 (板書や機器の使用は適切か) R6年度実績 4.6、R7年度実績 4.6 Q10 (遅刻や私語への対応) R6年度実績 4.6、R7年度実績 4.6 Q11 (学生の授業参加の促し) R6年度実績 4.5、R7年度実績 4.6 私語があった場合は適切に注意喚起を行いし、他の学生が授業に集</p>

項目見出し	コメント
	<p>中できる環境の維持に努めた。 毎回の授業では講義・説明を行ったのち、練習問題に回答してもらう時間をとった。この時間には机間巡視を行い、学生の学修を促した。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>Q12 R7年度実績 4.7 R6年度実績 4.4 昨年度までと比べて留学生の受講者数が増えたほか、留学生の単位取得者が増えた。日本語でビジネス文書を読んだり書いたりする力の関心が高いことが推察される。 上述したことの繰り返しになるが、「分かりやすい日本語」で授業を行ったことが、当初の対象であった留学生のみならず、日本人学生にとっても効果があった。今年度よりもさらに「分かりやすい」授業にすべく、次年度も励む。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木3

科目名 教養セミナー

教員名 滝 知則

回答者数/履修者数 7/11

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>2024年度には教養セミナーの担当はなかったため、授業アンケートの実績は2025年度のみを記載する。2026年度のアクションプランシートでは、前年度（2025年度）との比較を表示する。</p> <p>Q10 （このセミナーに参加して満足できたか） R7実績 4.1</p> <p>後述するように、Q1からQ3までの評価の低いことが、Q10の結果に影響していると考えられる。</p> <p>この科目の実施状況を振り返ると、出席の回数、発言の頻度、リーダーシップないしフォロワーシップの発揮の頻度に関して、それぞれが多い学生と少なめの学生があった。</p> <p>ゼミの受講生たちが安心して出席することができ、安心して発言できる環境づくりに努めたが、新年度はこの環境づくりにより一層励む。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>地域理解の活動では、ゼミ内のグループの編成、フィールドワーク実施場所の選定、ならびにフィールドワークの結果報告の作成を進めるにあたり、ゼミ生たちの話し合いの結果を尊重した。</p> <p>自分の出身地の魅力に関するスピーチや、フィールドワークの結果報告を行った際に相互評価を実施した。他の学生の学修成果についての評価は、学修において重要であると自分自身が考えていることの反映である。他の学生について評価したことを、自分でも引き続き行うことを勧めた。</p> <p>地域理解の活動（フィールドワークの準備、実施、調査結果のまとめ、ゼミ内プレゼンテーション）では、2つのグループのメンバーがそれぞれ自律的に活動した。リーダーシップとフォロワーシップが適切に行われていた。</p> <p>合同プレゼンテーションの際、発表予定者の一人が体調不良のため残念ながら欠席した。しかし作成したスライドをmanabaに提出しており、代表チームの他のメンバーが予定通りプレゼンを実施した。予定外のできごとがあっても各自が責任を果たしたことに、感心させられた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q2（内容は興味を持てるものだったか） R7実績 3.7</p> <p>Q3（学ぶことに対して興味・関心が増したか） R7実績 3.9</p> <p>ブレンストロミングやKJ法は2年次以降の学修のためにも重要な学修内容である。次年度は、これらの方法への関心を強く持ってもらえるように工夫する。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q4（教員のセミナーに対する熱意） R7実績 4.6</p> <p>Q5（疑問や質問に誠実に応えたか） R7実績 4.3</p> <p>Q6（学生の参加を促していたか） R7実績 4.3</p> <p>Q7（相談等に対して誠実に対応していたか） R7実績 4.1</p> <p>授業に対する教員の熱意は認めもらった。ゼミ活動を進めるにあたり、学生が行う判断と提案を尊重した。</p> <p>相談があったときには、誠実に対応した。これに加え、学生から相談をしやすい環境作りにさらに努める。学生の様子にさらに注目し、学生に対する過度の干渉となることは避けつつ、相談してもらう糸口</p>

項目見出し	コメント
	<p>を作る。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>Q8 (聞く・話す・読む・書くの基礎訓練になったか) 4.1 Q9 (物の見方・考え方や学習方法等の勉強になったか) 4.0 Q8とQ9の評価結果はいずれも4.0以上ではあるが、全体の平均よりは低い。このことの改善の方法として、上記(1)で述べた通り、ゼミの受講生たちが安心して出席することができ、安心して発言できる環境づくりに、より一層励む。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火4

科目名 宿泊業論

教員名 落合 和昭

回答者数/履修者数 108/152

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>2025年度も前年に引き続き満足度は4.5となった。評価できる点としては、回収率が前年+10.6%の71.1%まで上昇し、より総意として満足度が評価できる点、一方課題としては、2024年度が2点0名、1点が1名であったが、2025年度では、2点2名、1点1名と注視が必要な評価が認められる点にある。ただし、改善の手掛かりとなる自由意見でのコメントは、前年の2倍以上が投稿され、また殆どがポジティブなコメント（一部に要望は有り）であったため、現段階では大幅な見直しには至らず、引き続き全体を通じて確認を行い、細部にわたって授業の浸透を図っていくこととしたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>以前よりレスポンスを使った意見交換を行っていたが、今年度から教員が教室内を巡回し、直接意見を聴取する機会を設けて更なる学修への参画意識向上を図った。聴講意識の高い学生からは、多様な見解を共有できることへの評価も寄せられており、次年度以降も実施していくこととしたい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>満足度5点が60%以上を占めており、1点も0名であることから、引き続き水準の維持に努めることとしたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>教科書、参考書、配布プリントの使用（平均4.2）について、また板書や機器の使用（平均4.5）について、不満足の記事（1点各3名）がある。自由意見でも、資料の掲載期間やレポート提出期限について延長の希望が見受けられた。安易な配慮は生成AIの乱用や、授業への集中力低下にも繋がりがかねないと危惧するが、今後の課題として留意していきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>前年の課題に回収率の向上を記載しており、その成果は達成することができた。自由意見からも前向きな取り組みが数多く寄せられており、授業の改善方針は概ね裏付けられたと考える。今後の改善としては、留学生に対する「やさしい日本語」への配慮や、一部不適切な授業態度が見られる学生への指導など、細部にわたる検討を続けていきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 土1

科目名 ホテル・ブライダルオペレーション

教員名 落合 和昭

回答者数/履修者数 43/69

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>ホテルオペレーションとブライダルマネジメントの授業を一体化した本講義で、初めての満足度調査となったが、4.8と非常に高い水準であった。理解度・満足度とも全て4～5点で構成され、5点の構成比は75%を超える。自由意見でもポジティブなコメントが1頁にわたって並び、月曜日1限にも関わらず、高い授業への関心度がうかがえた。課題としては、回収率が62.3%に留まったことがあげられ、総意形成に向けて更なる工夫を図りたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>ゲストスピーカーによる臨場感ある説明が授業の基本となるが、それを学修活動として理解し易く解説することで、高い満足度に至ったものとする。内容が異なるため単純比較には馴染まないが、2023年度のホテルオペレーションでは、満足度4.4で自由意見も本年度の半分程度であったことから、内容の更新とともに授業展開の更なる充実を図りたい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>平均が4.7または4.8、3点評価が1名のみ、2点以下は無し、といった状況である。自由意見にも特筆すべき事項は見当たらず、本年度の方針拡充を図りたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>平均が4.7～4.9、2点以下が無し、といった状況で、前項同様に自由意見にも特筆事項は無く、二つの授業統合は問題無く実施できたと考える。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>同様の形態で行っていた「ホテルオペレーション」「ブライダルマネジメント」の評価も決して低い水準にあった訳では無い(4点台中盤)が、ホテルオークラJRハウステンボスから派遣される現役ホテルエによる質の高い講義に改めて感謝したい。観光以外の進路を検討する履修生も少なくない現状で、具体的なホテルの現状を伝え観光人材育成への手掛かりとして、より浸透を図る機会となるよう授業の改善を図っていききたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 月4

科目名 教育原理

教員名 乙須 翼

回答者数/履修者数 46/60

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>授業に対する満足度は4.8であり、昨年(4.6)、一昨年(4.4)より満足度が向上し、本科目、またおそらく自身が担当する講義科目では過去最高の満足度となった。受講者60名のうち回答者が46名とやや回答数が少ないため、積極的に参加した学生が主に回答した可能性はあるが、これまでと授業方法等に変更はないため、向上した理由は不明である。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>上に述べたように、本科目の授業方法は例年と同様であり、各回のキーワードに基づき予習をさせ、教科書とレジュメ、スライドを用いて講義を行った後、授業内で提示した問いに回答する形でコメント提出させるというサイクルを15回続けている。また、学生が書いた優秀なコメントについては、学生の授業への取り組み意欲の向上と、予習・復習への活用のため、毎回スレッドに名前を表示した上で掲示している。今年はこの点について、学生から、「モチベーションの向上につながった」「予習と授業後のコメントのサイクルが良い」など、具体的に授業への取り組み意欲が向上したとの感想があった。授業者側は授業方法に変更を加えていないが、今年2年生、3年生も10名程度参加していたため、上位学年の学生を中心にこの授業方法が功を奏したと思われる。1年生については、例年と同様、保健体育の免許希望者も多く、授業にあまり真面目に取り組まない学生もいたが、難しいながらも授業についていこうとする積極的な姿勢を見せる学生も数名見受けられた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業の内容に関しては、4.8と4.9であり、これらの設問もこれまでよりも0.2ポイント程度高く、過去最高となった。これらも今年変更を加えた点はなく、また話をする内容に関しても大きく変更した点はないため、結果が向上した理由は不明である。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>授業方法に関しても、4.7から4.9と高い満足度が示されており、こちらも過去最高となった。授業時に配布しているレジュメも今年大きな修正を加えていないが、自由記述において、「プリントが見直ししやすい」、「プリントがわかりやすい」、「コメントを書くやり方が良い」など、具体的に肯定的な記述が見られた。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>今年度は予想以上に学生の満足度が高く、自身としても驚いている。今年大きな改善を加えた部分はないが、一つ挙げるとすれば、受講する学生の書く力を伸ばすためにコメントの書き方についての指導を授業中に何度も行った点が挙げられる。今年度は毎回提出するコメントに生成AIを使用したと思われるものが多数見られ、その点については何度も授業中に指摘を行った。学生自身も、文章を書く力が弱い、教</p>

項目見出し	コメント
	<p>師になるためには書く力の向上が不可欠である、ということを実感している感があり、その点を丁寧に説明した部分が一部の学生には良い効果をもたらしたのかもしれないと感じている。また、上述したが、本科目は教職課程の中でも難しい内容を多く含み、特に本学の1年生には理解が難しいところもあるが、今年度は2年生、3年生の受講生が例年より多かったため、優秀コメントも見本となるようなコメントがあり、そのような影響が良い形で1年生に伝わったと思われる。授業者の授業の内容や方法だけでなく、受講学生の構成や雰囲気によっても授業評価が変わってくることを今年には実感する結果となった。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火3

科目名 コンピュータ基礎 I B

教員名 尾場 均

回答者数/履修者数 87/95

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>これまで自由記述欄に見られた「授業内容が難しい」といった意見は、今回は寄せられていない。一方で、一部の学生からは、丁寧に説明していても進行が速く感じられるとの声があったため、重要なポイントについては意識的に繰り返し説明するよう工夫している。</p> <p>その結果、今年度も課題提出率はほぼ100%を維持し、テストの成績も良好であることから、学生の理解が着実に深まっていると考えられる。広い教室環境ではあるが、アシスタント学生とPC画面を確認しながら進捗を把握する方法を取り入れたことも、理解度向上に寄与しているといえる。</p> <p>また、留学生の理解度が高い点についても、説明を丁寧に行い、繰り返し確認する姿勢を徹底していることが要因の一つであると推察される。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>前年度から毎回の冒頭に前回内容の振り返りを行う形式を新たに取り入れた。これにより、学習内容の定着を図るとともに、理解の抜け漏れを補う機会を確保した。また、授業中の席を自由にする事で学生同士が、内容に共有して主体的に参加する姿勢が見られるようになり、本当は騒がしくなるはずの教室で、受講態度や学習意欲の向上につながったと考えられる。</p> <p>さらに、学生のニーズを的確に把握するため、今年度も毎回アンケートを実施し、寄せられた意見には速やかに対応した。こうした継続的な改善の積み重ねが、授業満足度の向上に大きく寄与していると感じている。</p> <p>授業内容については、教科書に沿った基礎的事項に加え、実務で活用可能なデータ分析や具体的な事例を積極的に取り入れた。その結果、実践性が高まったとの評価を得ることができた。今後も、現場で役立つ内容の充実を図るとともに、ICT関連分野や時事的テーマも適宜取り上げ、学生の学習意欲を一層高めていきたい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3 4.6 Q3 4.7 Q5 4.6 (2024年度 Q3 4.3 Q3 4.4 Q5 4.3)</p> <p>今年度は、すべての評価項目においてスコアが0.3ポイント向上した。これは、毎年継続して授業内容や方法の改善に取り組んできた成果であると受け止めている。</p> <p>授業はシラバスに沿って計画的に進行したが、一部の演習では進度に遅れが生じる場面もあった。しかし、学生一人ひとりの進捗を丁寧に確認しながら、学生アシスタントと連携してきめ細かな支援を行ったことで、学習の遅れを最小限に抑えることができた。</p> <p>その結果、約90名が履修する必修科目でありながら、アンケートは全項目で昨年度を上回る高評価となった。この規模の科目としては非常に満足いく結果である。毎回の授業後に得られたフィードバックを着実に反映させてきたことが、満足度の向上につながったと考えられる。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>今年度は、「授業への熱意」に関する学生評価がさらに向上した。(4.8) これは、継続的に授業改善へ取り組んできた成果であると考えている。これまで同様、学生が質問しやすい雰囲気づくりを意識するとともに、授業時間外にも研究室で個別指導の機会を設けたことが、理解度の向上につながっていると推察される。また、授業内容や進め方についても見直しを行い、特に説明スピードの調整や授業構成の再検討に努めた。その結果、学生からの評価は大きく改善し、満足度の向上という形で表れている。さらに、シラバスの進行状況に応じて柔軟に対応しながらも、授業の質を維持することを重視している。加えて、新しい情報や最新の動向を積極的に取り入れることで、内容の充実を図った。</p>

項目見出し	コメント
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>今年度の授業アンケートでは、評価項目で昨年度を上回り、特に「授業への熱意」に関する評価が向上したことを大変心強く受け止めている。これは、説明方法や授業構成の見直し、進行スピードの調整など、継続的に改善に取り組んできた成果であると考えている。毎回の冒頭で前回内容を振り返る形式の導入や、授業中の意見共有の機会設定により、学生の主体的な参加と理解の定着が促進された。また、授業後アンケートを通じて学生の声を把握し、迅速に反映してきたことも満足度向上につながった。演習の進捗に課題はあったが、学生アシスタントと連携し個別に進捗を確認することで対応した。課題提出率や成績も良好であり、理解の深化がうかがえる。今後も質を維持しつつ、実務やICT、時事的テーマを取り入れた実践的な授業を展開していきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火5

科目名 情報処理論

教員名 尾場 均

回答者数/履修者数 40/51

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>授業では、教科書の内容に加え、情報分野の最新ニュースや社会情勢を分かりやすく解説し、学生にとって身近な事例を積極的に紹介した。また、近年重要性が高まっているDX（デジタルトランスフォーメーション）に関する話題も取り入れ、社会や企業におけるデジタル活用の動向について触れた。その結果、授業で得た知識を自らの行動に結び付け、その体験や感想を報告する学生が多数見られた。実際に体験する機会を設けたことにより、授業内容への理解と満足度が向上したと考えられる。体験学習や社会生活と関連づけた内容の充実が、学生の主体的な学びと満足度の向上につながった。さらに、教科書内容の陳腐化に対応するため、常に最新の情報を取り入れた授業準備を行った。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>昨年度に引き続き、学生からの授業評価は総じて高い水準を維持し、特に「授業内容への興味」に関するスコアは前年より向上した。これは、学生の関心に寄り添ったテーマ設定と授業方法の工夫が成果として表れたものと考えられる。 AIやスマートフォンに関する話題には多くの質問が寄せられ、学生の高い関心がうかがえた。また、スライド資料は情報デザインの原則を踏まえて構成し、視覚的な分かりやすさを重視した。あわせて、情報デザインそのものの考え方についても解説を行ったところ、学生の興味を引く結果となった。 さらに、包括連携協定を締結している企業と連携し、DXに関する内容を授業に取り入れたことも、学生の学習意欲の向上に寄与したと考えられる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>昨年度の学生からの要望を踏まえ、今年度は必要な資料を事前に配布する形へと改善した。あわせて、授業中のPC持ち込みを認めたことで、疑問点が生じた際にその場で調べられる環境を整え、主体的な学習を促した。これにより、学習効果の向上が期待できる体制となった。 授業運営においては、話し方や熱意といった基本的な姿勢を大切にしつつ、説明の進め方にも配慮した。これまで見られた「説明が速い」といった意見は寄せられなくなり、内容面・方法面の双方で改善が進んだと考えられる。 また、教科書の内容にとどまらず、最新のテクノロジーに触れる機会を設けるとともに、授業内外での実践的な体験を重視した。実社会との関連性を意識した講義構成と、体験を通じた理解の深化が相乗効果を生み、学生の受講態度や学習意欲は大きく向上した。授業中の居眠りも減少し、積極的に参加する姿勢が顕著に見られるようになった。実社会との接続と体験的学習の充実が、学習意欲の向上につながった結果であると考えられる。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>本授業は、遅刻や欠席が少なく、私語もほとんど見られないなど、落ち着いた学習環境が維持されている点が特徴である。学生が集中して授業に臨む姿勢が定着しているといえる。 授業実施にあたっては、事前準備やデモンストレーションを徹底して行った。一部機器トラブルは発生したものの、計画的に進行管理を行ったことで、限られた時間内に予定していた内容をすべて扱うことができた。 前年度同様、PCの持ち込みを認めたことで、授業中に関連事項をその場で確認・検討できる環境を整え、理解の深化や内容の改善につなげることができた。授業内容・方法の両面において、単に「聞く」だけでなく、「考える」「実践する」ことを重視する形へと発展させることができ、全体としてより良い方向へ改善できたと考えられる。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>昨年度より、複数の企業の協力を得た授業を新たに導入し、実社会と接点を持つ学習機会を拡充した。その成果の一つとして、授業内アン</p>

項目見出し	コメント
	<p>ケートからは、情報分野に関する資格取得への関心が高まっている様子うかがえた。</p> <p>授業では常に社会の動向に目を向け、多角的な視点で物事を捉える姿勢の重要性を繰り返し指導した。現代はインターネットを通じて容易に情報を入手できる反面、接する情報が偏りやすいという課題も抱えている。とりわけ、新聞やテレビなどの従来型メディアに触れる機会が少ない若年層に対しては、国内外の情勢や社会的事件に加え、仮想通貨やネットカジノといった賭博に関わる問題など、法的リスクを含む現実の社会課題も取り上げた。こうした題材を通して、情報社会を生きるうえで必要となる正しい知識と判断力を身につけさせることを重視している。履修後も本分野への関心を持ち続け、社会の中で主体的に活躍できる人材へと成長していくことを期待している。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 水3

科目名 地域観光研究A (アジア・オセアニア)

教員名 城前 奈美

回答者数/履修者数 134/191

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>2025年度「地域観光研究A (アジア・オセアニア)」の満足度評価は4.6、2024年度「観光経済論」の満足度評価は4.5、2023年度「観光経済論」の満足度評価は4.3と、徐々に向上している。191名の履修生がいながらも、留学生と日本人学生が共創するグループワークの時間を作ることで、満足感を高められたと考える。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>成績評価につながる課題がグループプレゼンと期末試験であったことは、受講意欲につながったと考える。学生によっては、プレゼンと試験のいずれかにしてほしいとの自由記述があったが、留学生受講生と日本人受講生との共創によるグループプレゼンを組み入れたことは、留学生と日本人学生との相互交流につながっており、さらに、期末試験を取り入れたことは、個人の努力が試されることにつながっていると考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3は4.6 (昨年4.4)、Q4は4.7 (昨年4.5)、Q5は4.6 (昨年4.4) であり、前年度と比較し、今年度はいずれも0.2ポイント伸ばすことができた。全体平均と比較すると、同程度であった。引き続き、授業の内容については、精査していきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6は4.7 (昨年度4.6)、Q7は4.7 (昨年度4.6)、Q8は4.6 (昨年度4.6)、Q9は4.6 (昨年度4.6)、Q10は4.6 (昨年度4.4)、Q11は4.7 (昨年度4.5) であり、概ねどの項目も向上した。全体平均と比較して、同程度である。Q11授業参加の促進については、出席管理システムの他に、グループディスカッションの成果報告の際に、再度出席確認が取れたことが出席促進につながったと考える。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>この「地域観光研究A (アジア・オセアニア)」は、多くの留学生と日本人学生が混在する191名もの受講生ながら、授業満足度4.6を取れたことは良かったと考える。授業前半の講義、授業後半のグループワークと、めりはりがあったこと、出席管理システムの他に毎回のグループワークの成果報告をすることで出席促進につながり、主体的に取り組む姿勢ができたと考える。受講生の多い授業で、グループワーク課題と期末試験の両方を用いることは、教員負担が大きいですが、引き続き、学生が主体的に取り組めるような課題を提供していきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 月5

科目名 専門演習ⅢB

教員名 松山 博明

回答者数/履修者数 2/11

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>学生による評価が4.5と高く、満足できていたと思う。しかしながら、回答者が少なかったため参考程度に留めておこうと思う。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生は、卒論が主な内容になった。学生にとって、いろいろな角度からのアプローチがあったため、満足度が高かったと推測できる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>この授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかった、シラバスと授業内容に整合性はあった、授業内容は興味あるものであったかに対して4.5~5.0の評価があったことは満足できる内容であったと思う。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>この授業は、卒論指導が主になった。明瞭で熱意の感じられる授業であったことや学生の授業参加を促すような工夫があったことに関して高い評価が得られた。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>この評価を受けて、ほとんどが4.5以上の高い評価を得られていたが全体の総意での内容でないため慎重に受け止めたい。この現状に甘んずることなく、引き続き、現状維持ではなくさらなる向上に向けて精進していきたいと思う。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火1

科目名 スポーツ心理学

教員名 松山 博明

回答者数/履修者数 102/165

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>学生による評価が4.7と高く、満足できていたと思う。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>話術だけでなく、スライドや動画、ゲストスピーカーなどを招聘した。学生にとって、いろいろな角度からのアプローチがあったため、満足度が高かったと推測できる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>この授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかった、シラバスと授業内容に整合性はあった、授業内容は興味あるものであったかに対して4.6以上の評価があったことは満足できる内容であったと思う。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>学生は話し方は明瞭で熱意の感じられる授業、教科書、参考書、配布プリントの使用は適切であったと高い評価であった。また、同様に板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切、遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していた、学生の授業参加を促すような工夫がなされていたことに関しても高い評価が得られた。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>この評価を受けて、ほとんどが4.6以上の高い評価を得られていた。この現状に甘んずることなく、引き続き、現状維持ではなくさらなる向上に向けて精進していきたいと思う。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火3

科目名 専門演習ⅡB

教員名 松山 博明

回答者数/履修者数 9/11

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>学生による評価が4.8と高く、満足できていたと思う。この授業は、主に卒論に向けて準備を行っている。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>この授業はゼミ形式であるため対話が多かった。しかしながら、スライドや動画、ゲストスピーカーなどを招聘した。学生にとって、いろいろな角度からのアプローチがあったため、満足度が高かったと推測できる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>この授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかった、シラバスと授業内容に整合性はあった、授業内容は興味あるものであったかに対して4.6以上の評価があったことは満足できる内容であったと思う。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>学生に対して、話し方は明瞭で熱意の感じられる授業、教科書、参考書、配布プリントの使用は適切であったと4.7以上の高い評価であった。また、同様に板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切、遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していた、学生の授業参加を促すような工夫がなされていたことに関しても同様に4.7以上の高い評価が得られた。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>この評価を受けて、ほとんどが4.6以上の高い評価を得られていた。この現状に甘んずることなく、引き続き、現状維持ではなくさらなる向上に向けて精進していきたいと思う。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 水1

科目名 ジュニアスポーツ指導法

教員名 松山 博明

回答者数/履修者数 15/16

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>学生による評価も4.9であり、この授業に参加して満足できていたと感じた。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>アクティブラーニングを積極的に行い、学生が飽きない内容に務めた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>学生による評価が4.5以上であり、この状態を維持しつつ、更なり授業の質を高めていきたいと考えている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>学生の評価は4.7以上であり、話し方は明瞭で、熱意の感じられる授業であったと評価できる。また学生の評価が4.5であったが、教科書、参考書、配布プリントの使用は適切であったと思う。それ以外の学生評価が4.7に対して、遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応や学生の授業参加を促すような工夫がなされていたと思う。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>授業に関しては、一定の高い評価が得られている。この現状を維持し、向上できるよう努めていきたいと思う。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木1

科目名 専門演習ⅠB

教員名 松山 博明

回答者数/履修者数 17/18

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>学生による評価が4.8と高く、ほとんど満足できていたと思う。この現状を把握して、継続していきたいと思う。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生に対して、ただ話術だけでなく、スライドや動画、ゲストスピーカーなどを招聘した。学生にとって、いろいろな角度からのアプローチがあったため、満足度が高かったと推測できる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>学生に対して、授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかった、シラバスと授業内容に整合性はあった、授業内容は興味あるものであったかに対して4.6以上の評価があったことは満足できる内容であったと思う。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>学生に対して話し方は明瞭で熱意の感じられる授業、教科書、参考書、配布プリントの使用は適切であったと高い評価であった。また、同様に板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切、遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していた、学生の授業参加を促すような工夫がなされていたことに関しても4.7以上の高い評価が得られた。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>学生数が18名と多く、まとめることが大変であったが、スポーツを共通な話題を提供して、満足のいく内容であったと考えられる。授業に関しては、更なる向上を目指して頑張っていきたいと思う。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木3

科目名 教養セミナー

教員名 松山 博明

回答者数/履修者数 6/11

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>ほとんどの学生が満足の内容であったと評価していた。この状態を維持できるよう日々努めていきたいと思う。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>アクティブラーニングを利用したことによって、学生が退屈しない授業展開が出来たと認識している。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>学生の評価から5.0に近い評価があった。今後も、継続して実施していきたいと思う。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>セミナーに対して熱意を持っており、疑問や質問に対して誠実に応えていた。 また学生の参加（ディスカッションなど）を促していた。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>ほぼ5.0に近い評価であったため、継続して実施していくつもりである。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火4

科目名 日本語Ⅰ
 教員名 山内 美穂
 回答者数／履修者数 19／23

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q10</p>	<p>本授業に対する満足度は平均4.9だったので、学生は概ね満足だったと言える。本授業は主に留学生1年次を対象にしたもので、日本で大学生活をおくるうえで必要とされる基礎的な日本語力の向上を念頭に授業を展開した。</p> <p>日本語を読む、書く、聞く、話すの全般的な力を伸ばすための様々なタスクや課題を用意し、最初は日本語力運用にあまり自信がもてなかった多くの学生が、学期の終わりにはかなりいろいろな表現を覚え使えるようになった。今回の満足度は、そうした学生の達成度が影響しているのではないかと考えている。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>大多数の学生が暫定的に設定している日本語の入門レベルクラスの既修者だった。これはN4以下レベルの入学生を対象にした対策クラスで、そこで日本語の文字や簡単な表現を学んでこのクラスを受講するシステムを構築している。この日本語ⅠではN3受験可能レベルの日本語運用力を目指して授業を展開した。授業では教科書にそって日本語の文型や表現を紹介し、発音リピートやシャドウイング、学生同士の会話練習も多く取り入れた。学生にとっては、簡単すぎず難しすぎないタスクすることで新しい表現を覚えられたので、学習意欲が続いたのであろう。それと、様々なテーマの作文の他、「声のレポート」という課題を複数回出しテーマにそって日本語で話した録音ファイルを提出させた。これの課題は自身のことを日本語で表現するという力が身に付いたと考えるし、1人1人の課題に対し丁寧にコメントともにフィードバックしたことが意欲向上につながったと思う。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>質問3～5も4.9以上だったので、学生は授業内容について概ね「良い」と考えていると言える。しかし、4と回答した学生も2名いた。授業内容に100%、満足ではない学生もいたということは、受けとめなければならないだろう。日本語運用力が伸びた学生が複数いる一方で、なかなか到達目標には達せずD判定を付けた学生も数名いる。なぜ、この授業の到達目標（N3受験可能レベル）に達しない学生が数名いたのか、それらの学生に対してどのようなタスクや指導を入れればよかったのか現在分析中である。どうしても、私自身が、よく話したり自己表現が伸びている学生に目が行きがちだったとも感じている。今後は全体練習でもシャドウイングの他にバズリーディングなども取り入れて、1人1人の到達度合を確認しながら、つまづいている学生にもさらに個別に声をかけたり、指導をするつもりである。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>これらの質問群の中で、「熱意の感じられる授業」であるかを問う質問と「学生の授業参加を促すような工夫」の有無を問う質問で4と答えた学生が1名いた。学生の日本語運用力を向上させたいと熱意をもって、さまざまな工夫を取り入れ授業をしたつもりだが、100%そうは受け取られていなかったことを心にとめ、次学期にはすべての学生に心を配れるように努力すべきであろう。板書やパワーポイントなどの面で4と答えた学生も1名いた。教科書を2冊使用し、教員が準備したPPTも使用し授業をし、タスクの答えもmanabaに毎回アップしたが、復習のときにわかりにくかった学生もいたかもしれない。今後はこの部分を改善し、学んだことが教科書以外でも十分確認できるような工夫をしたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>9月の授業スタート時のときより、多くの学生の日本語運用力は少なからず向上し、今後N3への受験意欲を示している学生もいる。その意味では学習効果があったと言える。しかし、表現力も増え、いろいろなことを話したり書いたりできるようになった学生一方で、あまり伸びず再履修が必要な学生も数名いた。来学期は全員が目標レベル</p>

項目見出し	コメント
	に達成できるよう、1人1人にもう少し細かく気を配り、フィードバックを丁寧にしていきたい。

アクションプランシート

2025年度後期 火3

科目名 観光政策論

教員名 池永 正人

回答者数/履修者数 198/224

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>2024 (令和6) 年度：4.5 (日本人学生4.4 留学生：4.9) → 2025 (令和7) 年度：4.6 (日本人学生4.5 留学生：4.7)</p> <p>履修者数は223名(昨年度180名)、単位修得者163(73%) (昨年度149名(83%))である。</p> <p>履修者数は昨年度の180名から大幅に増加し、過去最多の223名であった。毎回の授業は、昨年度同様に重要な用語を記入させる穴埋め型のプリントを配布し、パワーポイントを用いて説明した。プリントの説明内容はパワーポイントと同じであり、挿入した地図・統計グラフ・表・写真などは、内容を一層分かりやすくするために昨年度以上に更新・改良に多くの時間を費やした。その結果、「観光政策について理論だけでなく、全国各地の具体例を通じて学ぶことができ、観光が地域活性化や文化継承に果たす役割を深く理解することができました。」「板書や資料が整理されており、復習しやすかったことや、重要なポイントを繰り返し説明して下さったことです。」などの良好な意見をいただいた。</p> <p>また、履修者の毎回の課題提出と授業の復習に活用するために、毎回の授業終了後にパワーポイントをPDFに変換してマナバに掲載した。しかし、昨年度と同様の授業内容であるにも関わらず、昨年度に比べて単位修得率が10%も低下している。その要因は課題の未提出者が増えたこと、授業内容の理解が困難なネパールやスリランカなど非漢字圏の履修者が急増したことが考えられる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>私語については、少しでも聞こえるとその都度厳しく注意をしているので、授業を妨げる問題になっていない。しかし、座席を指定していないので大教室の4101教室では、後方座席でスマホを見て静かにしている学生が多いのが現実である。200余名を対象としたこの授業では、授業中にこまめにスマホ視聴を注意することは困難であり、対策に苦慮している。</p> <p>また、欠席者を少なくするための対策として、15回の授業のうち2回の小テストを実施した。その際、出席カードをひとり一人に配布・回収したことで授業参加を促す一時的な効果はあった。</p> <p>学習意欲の向上に関しては、「地名や用語の背景まで丁寧に解説してくれたため、暗記では無く理解を重視して学びました。」「映像やレジュメを活用してより深く学びやすいような形をとられていて、とても分かりやすかった。」といった意見が出され、授業内容を理解させる効果はあったと認識している。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>2024 (令和6) 年度：4.5 (日本人学生4.4 留学生：4.8) → 2025 (令和7) 年度：4.5 (日本人学生4.4 留学生：4.8)</p> <p>この授業の基本姿勢である「わかりやすい深い学び」を意識して、既述のように授業の教材研究に多くの時間を費やし、パワーポイントの説明文・地図・グラフ・写真などは、最新の情報と統計数値に改めた。そのために、休日には教材研究の野外調査に出かけて現地の事情の把握に努めた。そして、「内容がやや多く感じる回もあったので、要点を整理する時間や小テスト形式での確認があると、より理解が深まると思いました。」「扱う情報量が多く、重要なポイントが埋もれてしまうこともあったため、各回の要点やキーワードをまとめた復習資料があると、より学習効果が高まると感じました。」といった貴重な意見は、真摯に受け止めて改善することにする。</p> <p>成績評価については、昨年度同様に授業中に実施した2回の小テストの成績と、毎回宿題として与えた確認問題の解答得点を全体の6割の評価とした。また、最終回の総合テストは4割の評価を行い、専門知識を確実に習得させるように努めた。</p> <p>なお、授業の最終回に実施している総合テストは、これも昨年度同</p>

項目見出し	コメント
	様にマナバに掲載した問題に解答を入力する方式である。
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>2024（令和6）年度：4.5（日本人学生4.4 留学生：4.8） → 2025（令和7）年度：4.6（日本人学生4.4 留学生：4.8）</p> <p>昨年度に比べて、出席カードリーダーに学生証をかざした後授業に参加しない、いわゆるピー逃げの学生が多くいた。このような不正行為を防ぐために、10回目の授業以降は授業中に紙の出席カードをひとり一人配布・回収し、二重の出席確認に努めた。このような作業は、余計な時間と労力であるが、やらざるを得ない現実に残念な思いである。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>「聞いた風な話では無く、経験でものを言う」、「正確に、わかりやすく、興味をひく授業」、これは私の授業に対する信念である。時間を割いて十分な教材研究を行い、学生の意見を反映させた授業方法の改善に、引き続き真摯に取り組む所存である。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 水3

科目名

茶道文化ⅢB

教員名

安部 直樹（嶋内 麻佐子）

回答者数／履修者数 7／10

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q10</p>	<p>Q13の授業に参加して満足できましたかの平均は4.7、前回は4.9で0.2ポイント低い。全体平均より0.1ポイント高い。回答者数を見ると、満足が5名、やや満足が2名である。</p> <p>茶道文化ⅢAでは、これまでに習得してきた薄茶点前や濃茶点前を基本として、雪吹点前を習得や茶事やもてなしについて考えることを授業内容にした。後期に開講する茶道文化ⅢBの錦秋茶会や創立80周年記念茶会を催すため、授業の中でも茶会に合わせて、亭主・半東の練習、接待（お運び）の練習、水屋での美味しいお茶の点て方の練習を取り入れた。学生自身が各自で役割を選び、その動作を確認することで、茶会を実施するためのグループの動きを確認することができた。つまり点前だけでなく、茶会を開催するために必要な内容を幅広く授業で行ったことが、満足度向上の一因になったと思われる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生の受講態度は、今回は4.9、前回は4.9で同数である。全体平均より0.3ポイント高い。</p> <p>前回、および全体平均よりも高い数値が出ていることは良好である。本クラスは受講者数が10名と少なく、少人数で授業を行うことができた。担当者にも質問がしやすい環境で、細かな点まで指導を受けることができるのは、学生の学習意欲の向上につながっていると思う。また、少人数で他学科の学生とも交流することができたことは、楽しく受講することのきっかけとなっているようである。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3の授業はよく編成され、まとまっており、分りやすかったですかについての平均は4.6、前回は4.8で、0.2ポイント低い。全体平均は同じである。回答者数を見ると、良いが5名、やや良いが1名、普通が1名である。</p> <p>Q4のシラバスと授業内容に整合性はありましたかについての平均は4.7、前回は4.7で、同じポイントである。全体平均より0.1ポイント高い。回答者数を見ると、良いが5名、やや良いが2名である。</p> <p>Q5の授業内容は興味あるものでしたかについての平均は4.7、前回は4.9で、0.2ポイント低い。全体平均との比較は、0.1ポイント高い。回答者数を見ると、良いが5名、やや良いが2名である。</p> <p>どの項目も高い数値が出ているが昨年より0.2ポイント低い数値もある。しかしながら高い数値が出ていることは良好である。中風炉点前や雪吹点前といった新しい点前や「錦秋茶会」開催というフィールドワーク、茶道文化Ⅳに向けての茶事の流れの講義等、多岐にわたる内容を取り入れたことで、これまでの茶道文化よりも深く学ぶことにつながっていることが、高い数値が出ている要因だと考える。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q6の話し方は明瞭でしたかについての平均は4.4、前回は4.8で、0.4ポイント低い。全体平均より0.2ポイント低い。回答者数を見ると、良いが5名、普通が2名である。</p> <p>Q7の熱意の感じられる授業でしたかについての平均は4.7、前回は4.7で同じであり、全体平均と比べると0.1ポイント高い。回答者数を見ると、良いが5名、やや良いが2名である。</p> <p>Q8の教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかについての平均は4.6、前回は4.6で同じである。全体平均も同数である。回答者数を見ると、良いが5名、やや良いが1名、普通が1名である。</p> <p>Q9の板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切でしたかについての平均は4.1、前回は4.6で、今年度は0.5ポイント低い。全体平均と比較すると、0.5ポイント低い。回答者数を見ると、良いが5名、普通が1名、良くないが1名である。</p> <p>Q10の遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していましたかについての平均は4.3、前回は4.6で、0.3ポイント低い。全体平均と</p>

項目見出し	コメント
	<p>比較すると0.3ポイント低い。回答者数を見ると、良いが4名、やや良いが1名、普通が2名である。</p> <p>Q11の学生の授業参加を促すような工夫がなされていたかについての平均は4.9、前回は4.9で、同数である。全体平均と比較すると0.3ポイント高い。回答者数を見ると、良いが6名、やや良いが1名である。</p> <p>Q8とQ9については、茶道文化は実技を中心とした授業内容を行うため、教科書や板書、機器を使用する場面がほとんどないが、今回は班ごとに教科書を見ながら説明をするシーンが見られたことが良かった。</p>
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>茶道文化Ⅲまで履修している学生であることから、茶道に向き合う姿勢や興味・関心は総じて高い水準にあると感じられた。授業では、錦秋茶会や創立80周年記念茶会について説明を行い、亭主・半東・接待・水屋といった各役割を確認しながら、学生自身が茶会運営を実践できるよう内容を構成した。</p> <p>実際に茶会を運営する経験を通して、これまでに習得してきた知識や技術が、どのようにもてなしにつながっているのかを理解する機会となったと思われる。また、茶道文化Ⅰ・Ⅱで学んだ基礎を踏まえ、その応用として茶道文化Ⅲの特性を十分に発揮できた授業となった。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 月3

科目名 茶道文化ⅠB

教員名 嶋内 麻佐子

回答者数/履修者数 33/40

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>Q13の授業に参加して満足できましたかの平均は、4.8で、回答数を見ると満足が26名、やや満足が7名である。全体平均と比較すると0.1ポイント高い。</p> <p>本クラスは、40名と授業的には少人数の形がとりやすい人数配分である。自明堂を使用し、1班を7～8名の少人数に編成し、各班に1名の指導者を配置して授業を行った。点前に関しては、前期に学んだ薄茶点前（前半）の続きとして、薄茶点前（後半）を習得することを目標とした。道具の準備から片付けまでの一連の流れを習得することで、前期よりも詳しく茶道文化を学ぶことにつながり、満足度の向上に寄与したものと考えられる。また、後期には、茶の歴史に関する講義や、初釜、松芳忌といった儀礼を通じた学びの中で、日本文化への理解を深めることができたことも満足度向上の要因の一つと思われる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生の授業態度については、平均が4.6で回答数を見ると熱心が23名、やや熱心が9名である。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。</p> <p>前期は初めて茶道を経験する学生がほとんどであったが、前期に薄茶点前（前半）の実技確認まで行ったこともあり、後期は前期よりもスムーズに点前を覚えることができ、学生の様子を見ていると授業を楽しむ余裕が感じられた。また、初釜や松芳忌では、着物を着た補助員（SA）が点前をする姿を見る機会があり、茶道について広く、深く学ぶことができたことは受講態度や学習意欲の向上につながったものと考えられる。さらに、本クラスは、薬学科の学生が多く履修していることもあり、茶道文化の授業が心をリフレッシュする時間になっている。日頃の忙しい時間と異なる、ゆっくりとした時間を過ごすことができることも茶道文化の授業の魅力であり、学習意欲の向上に寄与している。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3の授業は良く編成され、まとまっており、わかりやすかったかについての平均は、4.8で、回答者数を見ると良いが27名、やや良いは5名、普通が1名である。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。</p> <p>Q4のシラバスと授業内容に整合性はありましたかについての平均は、4.8で、回答者数では、良いが26名、やや良いが6名、普通が1名である。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。</p> <p>Q5の授業内容は興味あるものでしたかについての平均は4.8で、回答者数を見ると良いが28名、やや良いが4名普通が1名である。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。</p> <p>授業内容に関しては、全体平均と比較してもどの数値も高くなっている。茶道文化の授業では、毎回点て出しを行っており、お茶とお菓子を準備している。回を重ねることにお茶を点てるのが上手になる学生や、様々なお菓子に触れることで美味しさに気付く学生がおり、日本文化の楽しさを知る機会となっていることが考えられる。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q6の話し方は明瞭であったかについての平均は、4.9で、回答者数を見ると良いが29名、やや良いが4名である。全体平均との比較では、0.2ポイント高い。</p> <p>Q7の熱意の感じられる授業でしたかについての平均は4.9で、回答者数を見ると良いが30名、やや良いは3名である。全体平均との比較では、0.2ポイント高い。</p> <p>Q8の教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかの平均は、4.6で、回答者数を見ると良いが24名、やや良いが6名、普通が2名である。全体平均との比較では、0.1ポイント低い。</p> <p>Q9の板書や機器の使用は適切でしたかについての平均は4.6で、回答者数を見ると良いが24名、やや良いが4名、普通が5名である。全体</p>

項目見出し	コメント
	<p>平均との比較では、0.1ポイント低い。 Q10遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応してましたかについての平均は、4.8で、回答者数を見ると良いが28名、やや良いが2名普通が3名である。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。 Q11学生の授業参加を促すような工夫がなされていきましたかについての平均は、4.9で、回答者数を見ると良いが30名、やや良いが3名である。全体平均との比較では0.2ポイント高い。 どの項目を見ても全体平均と比べポイントは高くなっている。 授業方法に関して、今年度は概ね昨年度と同様の数値が出ているが、Q9の板書や機器の使用については、全体平均より0.1ポイント低い数値となっている。これは、茶道文化が実技を主とする授業の特性を持っていることから、板書やOHPなどの機器を使用することはほとんどないのが要因と考える。</p>
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>学生のコメントの中には、各班の指導者の説明が丁寧であることが多く挙がっており、少人数での授業体制が良好であることがわかった。特に、茶道文化Ⅰの授業ではSAを配置しており、より質問のしやすい環境を作ることができ、学生と指導者の相互交流促進のきっかけとなっている。後期に開講される茶道文化ⅡBでは、「茶の歴史と鎮信流」についての講義を取り入れており、茶道を通した日本の歴史の学びや地域の再理解や再発見の機会となっていることがわかった。さらに、初釜や松芳忌を執り行うことで、日本の年中行事である正月の意味や、創立者が茶道を教育に取り入れた由来などを知ることにつながっている。</p> <p>本クラスは薬学部の学生が履修しており、学生のコメントには「茶道について知らなかったことを知ることができた」「茶道の和の文化を感じることができた」「気持ちをリフレッシュする時間になって楽しい」とあった。座学中心の講義が多い学生たちにとっては、茶道を学ぶことで心を落ち着かせることにつながっており、茶道文化の授業は新鮮で有意義な時間であったように見受けられる。将来、薬剤師となる学生にとって、茶道文化で感じた癒しの部分を患者に伝えていくことができるよう、茶道の魅力を今後も発信していきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火2

科目名 茶道文化 I B

教員名 嶋内 麻佐子

回答者数/履修者数 78/124

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>Q13の授業に参加して満足できましたかの平均は、4.6で、回答数を見ると満足が58名、やや満足が13名、普通が5名、やや不満足が2名で全体平均と同数である。</p> <p>前期に比べると、茶道の時間が楽しいとか、心が落ち着き良い時間であったとの意見も見られた。</p> <p>本クラスは履修者が124名と多く、自明堂・不息庵・2101教室の3会場に分かれて授業を実施した。点前については、前期に学んだ薄茶点前（前半）に続き、後半の習得を目標とした。履修者の多くが初めて茶道を学ぶ学生であり、点前確認に対して不安を抱く声も見られたが、アンケートのコメントからは、少人数での授業形態が大変好評であったことがうかがえた。</p> <p>また、前期と比較すると、「茶道の時間が楽しい」「心が落ち着き、良い時間を過ごすことができた」といった肯定的な意見が増加していた。少人数教育により、学生が質問しやすく、丁寧な指導を受けられる環境が整ったことが、授業満足度の向上に大きく寄与したものと考えられる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生の授業態度については、平均が4.6で回答数を見ると熱心が52名、やや熱心が22名、普通が4名である。全体平均と同数である。</p> <p>前期は初めて茶道を経験する学生がほとんどであったが、前期に薄茶点前（前半）の実技確認まで行ったこともあり、後期は点前の習得がよりスムーズに進んだ。授業中の学生の様子からは、前期よりも余裕をもって取り組み、茶道の学びを楽しむ姿が見受けられた。</p> <p>また、学生のコメントからは、茶道を通して身につく礼儀作法や道具を大切に扱う心を、将来の生活にも活かせる学びとして捉えていることが読み取れた。茶道に前向きに向き合う姿勢が、受講態度や学習意欲の向上につながっていると考えられる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3の授業は良く編成され、まとまっており、わかりやすかったかについての平均は、4.6で、回答者数を見ると良いが55名、やや良いは16名、普通が4名、やや良くないが1名である。全体平均との比較では、同数である。</p> <p>Q4のシラバスと授業内容に整合性はありましたかについての平均は、4.6で、回答者数では、良いが57名、やや良いが12名、普通が8名、やや良くないが1名である。全体平均との比較では、同数である。</p> <p>Q5の授業内容は興味あるものでしたかについての平均は4.5で、回答者数を見ると良いが56名、やや良いが11名、普通が7名、やや良くないが1名である。全体平均との比較では、0.1ポイント低い。</p> <p>授業内容についての結果に関しては、同数の箇所が多いが、回答数を見ると良いが多く良好である。Q5は全体平均との比較で0.1ポイント低い結果となっている。学生のコメントを見ると否定的な意見は見られず、「前期は点前確認が難しかったが、後期は楽しく学ぶことができた」という声が多く寄せられた。前期の学習経験を踏まえ、学生の習熟状況を丁寧に把握しながら授業を進めたことが、学習の負担感を軽減し、後期の学びの楽しさにつながったものと考えられる。</p> <p>今後も、予習・復習の一環として茶道文化研究所が作成した動画教材を活用し、学生の興味・関心をさらに高めていきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p>	<p>Q6の話し方は明瞭でしたかについての平均は4.6、昨年度は4.5で、今年度は0.1ポイント高い。回答者数を見ると、良いが58名、やや良いが13名、普通が5名で、良くないが2名である。</p> <p>Q7の熱意の感じられる授業でしたかについての平均は4.7、昨年度は4.7で同数である。全体平均より0.1ポイント高い。回答者数を見ると</p>

項目見出し	コメント
<p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>、良いが60名、やや良いが13名、普通が5名である。 Q8の教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかについての平均は4.5で全体平均との比較で0.1ポイント低い。回答者数を見ると、良いが51名、やや良いが14名、普通が12名である。 Q9の板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切でしたかについての平均は4.4で、全体平均との比較は0.1ポイント高い。回答者数を見ると、良いが47名、やや良いが15名、普通が16名である。 Q10の遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応したかの平均は4.7、昨年度は4.5で、今年度は0.2ポイント上がり、全体平均より0.1ポイント高い。回答者数を見ると、良いが58名、やや良いが14名、どちらとも言えないが6名である。 Q11の学生の授業参加を促すような工夫がなされていたかについての平均は4.5で、全体平均より0.1ポイント低い。回答者数を見ると、良いが53名、やや良いが15名、普通が9名である。 授業方法に関して、今年度は概ね昨年度と同様の数値が出ている。特にQ8は0.1ポイント低い数値が出ているが、茶道文化が実技を主とする授業の特性を持っていることから、配布プリント等がなく、板書やOHPなどの機器を使用することはほとんどないのが現状である。 Q10では、授業中のマナーについては、一部の学生の言動により「恥ずかしい思いをした」との意見が寄せられた。また、「もう少し厳しく指導してもよいのではないか」という声も見られた。今後は、学生が互いに気持ちよく学べる環境づくりのため、基本的なマナーや態度について、より丁寧かつ適切に指導していく必要があると考える。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>授業構成については、実技確認という明確な目標を設定したことで、学生がその達成に向けて主体的に授業へ取り組む姿勢がより強まったと考えられる。一方で、指導者によって教え方が異なるとの指摘も見受けられたため、今後は指導者間での指導方法の統一を図るとともに、ローテーションを希望する声にも応えられるよう、情報共有を密にしながら授業環境の整備に努めていきたい。 後期に開講される茶道文化ⅠBでは、「茶の歴史と鎮信流」に関する講義を取り入れたことで、茶道を通じた日本史の学びや、地域文化の再理解・再発見の機会となっている。また、初釜や松芳忌を執り行うことで、日本の年中行事である正月の意味や、創立者が茶道を教育に取り入れた背景を知る学びにもつながっている。 本クラスは、茶道文化ⅠA・ⅠBの中でも履修者が100名を超える最大規模のクラスである。そのため、少人数での指導体制を確保するために3会場（茶室2会場・講義教室1会場）を使用し、毎週ローテーションしながら授業を行った。3回に1回は畳や床の間といった日本文化の佇まいがない講義教室での授業となったが、花を設え、禅語や花の紹介を行い、点前の稽古では茶道文化研究所の動画を活用するなど、割り稽古を徹底した。講義教室で学んだ内容を茶室で実践できるよう工夫したことが、良好な授業評価につながったと考える。しかし一方で、一部にマナーの悪い学生もおり、他の学生の学びに影響を及ぼす場面も見られ、指導に苦慮した。 しかしながら補助員（SA）の学生との交流は、受講生にとって良い刺激となり、学習意欲の向上に寄与した。大規模クラスでありながらも、学生が安心して学べる環境づくりに努めたことが、授業全体の満足度向上につながったものと思われる。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火3

科目名 茶道文化IV B

教員名 嶋内 麻佐子

回答者数/履修者数 11/14

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>Q13の授業に参加して満足できましたかの平均は4.6である。昨年度は5.0で今年度は0.1ポイント低いが全体平均より0.2ポイント高い。回答者数を見ると、満足が9名で、普通が2名で、全体平均との比較においては高い数値が出ており良好である。</p> <p>本クラスは、前期の茶道文化IVAで学外での波佐見茶会を経験していることもあり、後期には卒業茶会を企画し、学園内の来客を招いて懐石料理を取り入れた形式で実施した。正式な茶事には及ばないものの、学生が4年間の学びを総合的に発揮できる場となり、教育成果の可視化と参加者満足度の向上に寄与した。卒業茶会の実施に加え、80周年記念茶会の準備に取り組んだことが、学生の達成感と満足度の向上につながった。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生の受講態度についての平均は4.5、昨年度は4.9で、今年度は0.4ポイント低いが全体平均より0.1ポイント高い。全体平均は高い数値となっている。授業では、卒業茶会に向けて学生が熱心に練習に取り組む姿が見られた。懐石料理の扱いは初めてであったが、出す順番や所作に苦戦しながらも、メモを取り合い、学生同士で協力しながら習得していた。また、今年度は80周年記念茶会もあり、一部の学生は卒業茶会と並行してアルカスでの茶会にも参加した。これらの経験を通して、学生一人ひとりが役割を担い、練習や本番を重ねることで、学習意欲やモチベーションの向上につながったと感じている。さらに、授業では逆勝手の点前にも取り組み、茶室の使い方や客の位置に応じた動きを学ぶことで、より広く茶道への興味関心を深めることができた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3の授業はよく編成され、まとまっており、分りやすかったですかについての平均は4.4、昨年度は5.0で、今年度は0.6ポイント低い。回答者数を見ると、良いが6名、やや良いが3名、2名である。</p> <p>Q4のシラバスと授業内容に整合性はありましたかについての平均は4.5、昨年度は4.9で、今年度は0.4ポイント低いが、回答者数を見ると、良いが8名、普通が3名である。</p> <p>Q5の授業内容は興味あるものでしたかについての平均は4.5である。昨年度は5.0で、今年度は0.5ポイント低いが全体平均より0.1ポイント高い。回答者数を見ると、良いが8名、やや良いが1名、普通が2名である。</p> <p>すべての項目では、全体平均よりは低い数値が出ている。茶会実施にあたり、全員で分担し協力することの大切さを学ぶ機会となった。一部の学生には協調性に課題が見られ、役割を十分に果たせない場面もあったが、活動を通して茶道への興味や関心が高まったという声が多く、学習意欲の向上につながった。亭主や接待の動きのみならず、茶会で使用する道具の組み合わせについての説明をすることで茶会のテーマ等を共有した。茶会を通してホスピタリティを学ぶことにつながっており、学生にとって有意義な時間となっていることがわかる。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6の話し方は明瞭でしたかについての平均は4.4、昨年度は5.0で、今年度は0.6ポイント低い。全体平均と同じである。回答者数を見ると、良いが6名、やや良いが3名、普通が2名である。</p> <p>Q7の熱意の感じられる授業の平均は4.5である。全体平均より0.1ポイント高い。回答者数を見ると、良いが8名、やや良いが1名、普通が2名である。</p> <p>Q8の教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかについての平均は4.3、昨年は5.0で、0.7ポイント低い。回答者数を見ると、良いが7名、普通が4名である。</p> <p>Q9の板書や機器の使用は適切でしたかについての平均は4.2、昨年度は4.2で同じである。回答者数を見ると、良いが6名、やや良いが1名</p>

項目見出し	コメント
	<p>、普通が4名である。 Q10の遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していたかの平均は4.1、昨年度は4.9で、今年度は0.8ポイント低く、全体平均より0.3ポイント低い。回答者数を見ると、良いが4名、やや良いが4名、普通が3名である。 Q11学生の授業参加を促すような工夫がなされていたかの平均は4.2で、回答者数を見ると、良いが5名、やや良いが3名、普通が3名である。授業方法に関しても全体平均よりも低い数値が出ているが、否定的な回答はないことは良好である。Q9については、茶道文化の授業の特性上、板書や機器の使用がないことから、全体平均よりも大幅に低い数値が出ていると思われる。 茶会に向けての取り組みの中で、指導者や同じクラスの学生と問題解決につて話し合い交流を深めたことは向上の一因であると考え。</p>
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>茶道文化IVAでは、後期に4年間の学びの集大成として、懐石料理を含めた簡略形式の卒業茶会を計画し、学園内より客を迎えてもてなしの実践を行った。少人数での授業であったことから、担当者との交流も活発に行われ、学生の熱心な取り組みが理解度や満足度の向上につながった。また、クラスの仲間と協力して茶会を作り上げた経験は、大きな達成感を生み、良い評価につながったと考える。 さらに、本年度は80周年記念茶会にも一部の学生が参加し、学外の場での運営やもてなしを経験したことが、学生の自信や主体性を高める機会となった。学生のコメントからは、4年間茶道を続けたことで、より深く茶道と向き合える自分に出会えたことへの感動が多く寄せられている。 今後も、卒業後に社会で即戦力となるよう、茶道を通じて「もてなしの心」を育む教育を継続していきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木2

科目名 茶道文化 I B

教員名 嶋内 麻佐子

回答者数/履修者数 55/60

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>Q13の授業に参加して満足できましたかの平均は、4.8で、回答数を見ると満足が46名、やや満足が9名で、前回より0.2ポイント高い。全体平均と比較すると同数である。本クラスは履修者が60名ということで自明堂を使用して、1班を7～8名の少人数に編成し、各班に1名の指導者を配置して授業を行った。点前に関しては、前期に学んだ薄茶点前（前半）の続きとして、薄茶点前（後半）を習得することを目標とした。道具の準備から片付けまでの一連の流れを習得することで、前期よりも詳しく茶道文化を学ぶことにつながり、満足度の向上に寄与したものと考える。また、後期には、茶の歴史に関する講義や、初釜、松芳忌といった儀礼を通じた学びの中で、日本文化への理解を深めることができたことも満足度向上の要因の一つと思われる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生の授業態度については平均4.8と高く、「熱心」が46名、「やや熱心」が9名と、前回より0.2ポイント上昇した。薄茶点前（後半）の実技確認を行うことで、学生にとって明確な目標が生まれ、毎回の授業への取り組みがより主体的で充実したものとなった。昨年度は実技確認の範囲が広く、初学者には難しいとの声もあったため、今年度は茶室で自主練習ができる環境を整えた。この体制づくりが学生の学習意欲向上につながったと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3の授業は良く編成され、まとまっており、わかりやすかったかについての平均は、4.9で、回答者数を見ると良いが50名、やや良いは5名である。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。 Q4のシラバスと授業内容に整合性はありましたかについての平均は、4.9で、回答者数では、良いが50名、やや良いが5名である。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。 Q5の授業内容は興味あるものでしたかについての平均は4.8で、回答者数を見ると良いが47名、やや良いが5名、普通が3名である。全体平均との比較では同数であるが、前回より0.4ポイント高い。全体平均では、0.2ポイント高い。 学生のコメントを見ると、「茶道は奥深い。学んでいるうちに楽しくなった。」「禅語が日常生活においてとても有用であった」「茶道のマナーが身についた。」との声もあり、授業内容については肯定的に捉えている面もある。さらに「説明が分かりやすく一人一人に対応してくださり学びやすかった」などの好評を得ている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q6の話し方は明瞭でしたかについての平均は4.9、昨年度は4.5で、今年度は0.4ポイント高い。全体平均と比較すると0.2ポイント高い。回答者数を見ると、良いが48名、やや良いが6名、普通が1名である。 Q7の熱意の感じられる授業でしたかについての平均は4.9、前回は4.7で0.2ポイント高い。回答者数を見ると、良いが49名、やや良いが6名である。 Q8の教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかについての平均は4.6、前回は4.5で、今年度は0.1ポイント高い。回答者数を見ると、良いが41名、やや良いが8名、普通が6名である。全体平均とは同数である。 Q9の板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切でしたかについての平均は4.6、昨年度は4.3で、良いが40名、やや良いが7名、普通が1名である。全体平均より0.2ポイント低い。 Q10の遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応したかの平均は4.8、前回は4.5で、今回は0.3ポイント高く、全体平均より0.2ポイント高い。回答者数を見ると、良いが47名、やや良いが7名、普通が1名である。</p>

項目見出し	コメント
	<p>Q11の学生の授業参加を促すような工夫がなされていたかについての平均は4.9、前回は4.5から今回は0.4ポイント高く、全体平均より0.1ポイント高い。回答者数を見ると、良いが48名、やや良いが6名、普通が1名である。</p> <p>授業方法に関して、今年度は概ね前回より高い数値が出ている。毎回の授業で、指導者が分かりやすく丁寧に指導していることが、学生の満足度を高めていることがアンケートから読み取れる。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>学生のコメントからは、各班の指導者による丁寧な説明が多く挙がっており、少人数での授業体制が学習環境として非常に良好であることがうかがえた。特に、茶道文化ⅠではSAを配置することで質問しやすい雰囲気生まれ、学生と指導者の相互交流がより活発になっている。</p> <p>後期開講の茶道文化ⅡBでは、「茶の歴史と鎮信流」に関する講義を取り入れており、茶道を通して日本の歴史を学ぶ機会となるだけでなく、地域文化の再理解や新たな発見につながっている。また、初釜や松芳忌を執り行うことで、日本の年中行事である正月の意味や、創立者が茶道を教育に取り入れた背景を知る機会ともなり、学生の学びをより深めることができた。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 金3

科目名 茶道文化ⅡB

教員名 嶋内 麻佐子

回答者数/履修者数 30/33

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>Q13の授業に参加して満足できましたかの平均は4.8(留学生5.0)、前回は4.7で0.1ポイント高い。また全体平均より0.1ポイント高い。回答者数を見ると、満足が24名、やや満足が5名、普通が1名である。本クラスは33名が履修している。自明堂で授業を実施したことで、点前練習では1人1釜を確保でき、落ち着いて技術を磨くことができる環境を整えた。さらに、少人数の班編成と各班への指導者配置により、学生が疑問点を気軽に相談できる体制を構築した。これらの取り組みが点前技術の確実な習得を促し、授業満足度の向上に寄与したと考えられる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生の受講態度についての平均は4.8、前回は4.7で、0.1ポイント高い。全体平均より0.3ポイント高い。回答者数を見ると、熱心が24名、やや熱心が5名、普通が1名である。大半の学生が熱心・やや熱心であると回答しており、高い数値が出ているのは良好である。茶道文化ⅡBでは、濃茶点前の習得を主とした授業内容を計画しているが、着付けや生け花、絵手紙の中から学生が希望する内容を行うオプション授業も設けている。点前以外にも日本文化を体験する時間を設けることで、楽しみながら日本文化に触れ、理解を深めることにつながっていることも受講態度や学習意欲の向上に影響しているものと考えられる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3の授業はよく編成され、まとまっており、分りやすかったですかについての平均は4.7(留学生4.9)、前回は4.7で同じであり全体平均より0.1ポイント高い。回答者数を見ると、良いが24名、やや良いが4名、普通が2名である。 Q4のシラバスと授業内容に整合性はありましたかについての平均は4.8(留学生5.0)、前回は4.6で、今年度は0.2ポイント高い。全体平均は0.1ポイント低い。回答者数を見ると、良いが25名、やや良いが4名、普通が1名である。全体平均より0.2ポイント高い。 Q5の授業内容は興味あるものでしたかについての平均は4.8(留学生5.0)、前回は4.6で、今年度は0.2ポイント高く、全体平均より0.2ポイント高い。回答者数を見ると、良いが25名、やや良いが4名、普通が1名である。 授業内容に関しては、すべての項目において高い数値が出ており概ね良好である。茶道文化Ⅰでは点前の習得が主であったが、茶道文化Ⅱでは濃茶点前他にオプション授業や錦秋茶会のサポートというフィールドワーク、炭点前やオプション授業等の多岐にわたる内容が計画されていたこともあり、学生の興味関心を惹いたのではないかと考えられる。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6の話し方は明瞭であったかの平均は4.8(留学生5.0)で、回答者数を見ると、良いが24名、やや良いが5名、普通が1名である。前回との比較では、0.1ポイント低い。全体平均との比較では、0.2ポイント高い。 Q7の熱意の感じられる授業であったかの平均は4.8(留学生5.0)で、回答者数を見ると、良いが24名、やや良いが5名、普通が1名である。前回との比較では、0.1ポイント高い。全体平均は0.2ポイント高い。 Q8の教科書、参考書、配布プリントの使用は適切であったかの平均は4.5(留学生5.0)で、回答者数を見ると、良いが20名、やや良いが6名、普通が4名である。前回との比較では、0.1ポイント低い。全体平均との比較は0.2ポイント高い。 Q9の板書や機器(OHP、パワーポイントなど)の使用は適切であったかの平均は4.4(留学生5.0)で、回答者数を見ると、良いが19名、</p>

項目見出し	コメント
	<p>やや良いが6名、普通が4名である。前回との比較では、同じである。全体平均との比較では、0.2ポイント高い。</p> <p>Q10の遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応したかの平均は4.7（留学生5.0）で、回答者数を見ると、良いが22名、やや良いが4名、普通が2名である。前回との比較では、0.1ポイント高い。全体平均との比較では、0.2ポイント高い。</p> <p>Q11の学生の授業参加を促すような工夫がなされていたかの平均は4.7（留学生5.0）で、回答者数を見ると、良いが22名、やや良いが7名、普通が1名である。前回との比較では、同じであり、全体平均より0.1ポイント高い。</p> <p>授業方法に関しては、概ね良好な数値が出ている。やはり少人数で、質問がしやすい環境は学生にとって有益であることがわかる。一方で、Q8とQ9については全体平均より低い数値となっている。茶道文化は実技を主とする授業の特性を持っていることから、配布プリント等がなく、板書やOHPなどの機器を使用することはほとんどないのが現状である。そのため、Q8やQ9の項目については、低い数値となっていると考える。</p>
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>茶道文化Ⅱは選択科目となり、必修科目である茶道文化Ⅰに比べると履修者が減少する。そのため、少人数での班編成を組むことにつながり、指導者の目が行き届き、各班で充実した点前の稽古ができていたことは大変良好な点である。また、薄茶点前を基本として、濃茶点前や炭点前の理解を深めることで、茶道文化ⅡB終了時に鎮信流初歩伝免許状を申請することができるのも、学生にとっては大きな付加価値となっている。さらに、着付けや生け花、絵手紙といったオプション授業も毎年好評で、様々な日本文化を経験することが新鮮で、魅力的な授業内容となっている。</p> <p>学生からは「授業が具体的で分かりやすく毎回新しい知識を学ぶことができた。特に身近な話題を用いて説明してもらったのが印象に残っている。」という声もあり、これまでの学びは茶道文化Ⅲへの足掛かりとなっているのではないかと感じられる。学内で学んだことを学外で表現できる機会を設け、学生が主体的に学ぶことができる授業を組み立てていきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 金2

科目名 英語ⅡB
 教員名 山崎 祐一
 回答者数/履修者数 19/25

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>平均4.9の評価であり、概ね良好と言える。受講生との信頼関係を重視することが、学習意欲の向上につながり、満足度の向上にも直結する。今後もできる限り個別に対応し指導する。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>4.5と4.6の評価であり、概ね良好である。受講態度も真剣な学生が多かった。学習意欲の向上については、言葉の背景にある文化を通して、それらの関連を具体例を用い解説した。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>4.7-4.8の評価であり、良好である。学生の英語学習の動機付けを、内容および学生とのコミュニケーションを維持することではかっている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>4.7-4.9の評価であり、良好と言える。授業に対する熱意を大切に、学生たちに内容が確実に伝わるように講義した。教材についても、適切な難易度のものを選別し、配布物も学生がさらに興味を持つような自分が連載している新聞記事などを用いた。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>受講生の表現力と発音力が向上した。言語の特徴や異文化理解についても意欲的に取り組みが見られた。今後も言葉と文化はコミュニケーションの両輪であるという考えのもと、教室で学習した知識を実際のコミュニケーションの現場で活用できるよう継続的に学習に取り組んでもらいたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火1

科目名 道德教育論

教員名 浦郷 淳

回答者数/履修者数 29/29

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>本年度初めて担当した科目であったが、満足度が4.8と高得点となった。一方で4や3をつけた学生もいたことから、学生が満足する授業の在り方について、方法と内容の両方から改善をしていけたらと考える。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生が授業後でも活用できるような指導案作成、模擬授業、フィードバックをセットにして授業を行った。授業者役、生徒役の両方を経験することで、主体的に関わる態度が培われたと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業の内容については20名以上が良いとしているが、そうでない数も一定いることから、改善は必要である。模擬授業となるとどうしても単調となる部分があるので、指導方法の展開について、更に工夫をしていけたらと考える。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>多くの項目でポイントが高かったが、話し方について、2という回答があったため、改善を図っていききたい。板書やスライドについても、教師側からの提示は限定的であったため、使い分け等含めて指導を工夫していききたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>初めて実施した科目であったが、全体的に高得点であったと考える。次年度は担当から外れたため、本年度のみの担当結果となる。ただし、今回のこの結果を他の教職科目での指導に活かしていきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火3

科目名 専門演習ⅡB

教員名 浦郷 淳

回答者数/履修者数 12/12

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>満足度は75%の学生は5であったが、1名3があった。本科目は、学外でのイベント企画に関する取組と卒論に向けての取組を行ったため、そこに上手く関わるができなかった学生の満足度が十分でなかったと考える。学生が主体的に取り組むことができるように努めていきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本科目では、イベント参加のための企画・準備・運営を授業の中で行ったことから、この点が満足度につながったと思われる。また、卒論についても計画的に取り組めるようにしていることから、この点が評価につながったと推察する。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>半分以上の学生が5を付けているが、4や3の学生も一定するいることから、授業の計画、まとめ、興味等を常に改善しながら授業を展開していくことが必要であると考え。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>話し方、資料の活用、学生参加といった点で評価が低かったり、3の採点を付けている学生がいたことから、授業中の節度を保ちつつ、学生に任せる部分とこちらで指導する部分の両方をしっかりと整理して授業を行っていきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>学習内容が様々な科目であるため、学生の満足度といった点で課題も見られた。そのため、学ぶことの目的意識やその内容に応じた指導方法の工夫、学生の意欲を引き出しつつ、学びを価値づけていくこと等を次年度の改善の課題としたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木1

科目名 専門演習 I B

教員名 浦郷 淳

回答者数/履修者数 9/9

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>満足度は4.8とポイントとしては高かったが、例年それよりも高かったため、本年度は少し下げた結果となった。多くの学生が満点だったが4点の学生もいたため、学生の声に耳を傾けながら授業改善を図っていきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本科目は、主として学生主体の演習科目となっており、個々の満足度も高まったものと思われる。また、外部からの講師もあり、その方々からのアドバイスもあって、学生の万読ぞも向上したものと思われる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>全ての項目で4.8以上となっており、学生の満足度としては高かったが、4点の学生が2名ずついるため、この点での改善が必要であると考える。学生の声に耳を傾けながら、改善を行っていきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>ほぼ全ての項目が4.8以上であり、その結果をもとに考えると全ての学生が満足はしていると思われる。授業の受け方は個々に異なることから、声かけをしながら、指導を行っていきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>授業の態度についての質問が一番低いポイントとなっていたことから、学生自身が学んだことへの意識づけができるように指導・支援を行っていきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木5

科目名 教育方法論

教員名 浦郷 淳

回答者数/履修者数 45/50

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>満足度は4.8であり、昨年度よりも0.1ポイント向上した結果となった。また全員が4以上の回答（昨年度は2人が3）となっているため、授業の改善はできたものと考ええる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>今学期は、実際に教職として働いている卒業生を招くなどしたことから、その結果が効果として得られたと思われる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>どの項目も4.8~4.9であり、多くの学生が満足していると言える。興味のある内容であったかという回答で、1名3がいたことから、全員が満足できるような授業改善を行いたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>3と回答している学生が1名いる質問が、話し方と他の学生への対応という所だったので、この点が次年度への課題としておきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>概ね4.8以上の回答となっているが、質問の1にある、復習や予習については、昨年度から0.2ポイント下げており、改善が必要となっている。特に、2や1といった復習、予習をしていない学生の存在が例年以上に目途っている。また、学生の受講態度に課題があることから、この点の改善を図りたい。具体的には、学生自身が学びを自覚できるような手立てをとっていきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火2

科目名 教養セミナー

教員名 浦郷 淳

回答者数/履修者数 10/10

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>参加の満足度は8名が満点であったが、1名3を付けていたことから、学びの価値が伝わっていなかったものと思われる。学生の学びの足跡をフィードバックするとともに、学びの成果を自覚化できるような指導の積み上げを行っていききたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生が主体的に学習に取り組むことができるように努めた。特にフィールドワークやプレゼンなどは、個々にも指導を行ったことから、満足度は高かったと思われる。一方で、欠席がちな学生への対応が不十分であったため、この点は改善を行っていききたい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>内容への興味の部分が3点の学生が2名いたことから、主旨の説明がもう少し必要であったと思われる。目的、方法をさらに具体的に示すことで、学生の満足度を向上させていききたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>全ての学生が4以上をつけており、学生に対する指導については、学生側の満足度も高かったことが伺えた。この点がさらに満足してもらえるように、次年度も努めたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>1年生後期科目が教養セミナーとなったことから、授業評価を実施した。結果、指導方法についての満足度は高かったものの、態度や内容、効果、満足度といった点での結果が低かった。これらは、学生が何のためにこの学修をおこなっているのかを十分に理解していないことが原因として考えられるため、学生に学びの目的、方法、そして得られた成長の足跡を自覚できるようにしていくといった点での改善を図っていききたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火4

科目名 英語ⅡA

教員名 川上 直彦

回答者数/履修者数 32/37

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>履修学生のこの授業に参加しての満足度は、3.8とあまり評価はよくなかった。学生のコメントに記載があったが、授業内容がむずかしすぎたようである。標準レベルのクラスなのだが、年々学生のレベルが低くなっていると感じる。来年度からは、授業のレベルは下げるようにして対応する。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>授業中における学生への問いかけ、毎週の宿題、小テストと15回の授業をつうじて色々なことをやらせて学生に飽きさせないようにしたが、そもそも論として、授業内容がむずかしすぎたようで、学習意欲の向上にはうまくつながらなかった。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>質問3-5について、質問3と質問5が3.7と3.8とあまりよくなかった。授業内容がむずかしすぎたよと感じている。来年度からは、授業のレベルは下げるようにして対応する。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>質問6-11について、質問6と質問9が3.8とあまりよくなかった。質問6はすべて英語で話したため、むずかしすぎたのが理由であると感じる。質問9については、板書の使用を増やしていこうと考えている。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>上述(1)のとおりである。履修学生のこの授業に参加しての満足度と理解度は、両方とも3.8とあまり評価はよくなかった。授業内容がむずかしすぎたのがその理由であると考え。標準レベルのクラスなのだが、年々学生のレベルが低くなっているため、来年度以降は、標準レベルのクラスにおいても、授業のレベルを1段階下げるようにして対応する。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木2

科目名 博物館経営論

教員名 坂口 さとこ

回答者数/履修者数 64/128

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>本年度の「博物館経営論」における授業満足度の平均値は4.5であり、全体平均とほぼ同じであった。留学生においては4.8ということにより満足度が高い結果となっていると考える。今年度は初年度ということ、授業全体の向上を目標として、まずは学生の理解度や関心を逐次把握するために授業内で質問を投げかけ、それに対して双方向的でありかつ詳細なフィードバックを行う時間を設けた。これらの傾向を次回の授業の内容に活かして、より理解度そして満足度の高い授業設計を行いたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本科目は博物館経営論ということで、受講生の関心層が学芸員志望者から観光学専攻者まで多岐にわたることを踏まえて、理論の伝達に留まらず博物館の経営が「自分事」になるような授業設計にすべく注力した。授業内で質問をしたり、また期末レポートは知識を問うだけでなく、学生が自身の生活圏や将来のキャリアに関連した「生きた課題」として自身の考えを述べる課題に取り組めるように設定した。結果として出席率は高く、期末レポートにおいても能動的な姿勢が見られた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>今年度は初年度ということもあり、博物館経営の基礎理論と、地域遺産や観光資源の実例紹介を組み合わせた多角的な授業構成を試みた。評価推移については初年度のため過去の数値との直接的な比較は難しいが、項目別の評価を分析すると「熱意」については4.6の数値が出ておりこちらの熱意が少なからず伝わったと理解している。改善点としては、予習や復習をする数値が3.9であり、授業を受けるにあたって何か準備を促すような工夫をしていきたいと考えている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>授業はパワーポイントを使用して進めている。博物館に特化した複雑な経営指標や組織構造を理解させるため、また、多岐にわたる個別の事例を紹介するために、写真や図解を多く使用した視覚的な資料作成に努めた。集計結果は4.5であったが、パワーポイントの内容に工夫を凝らして、より理解しやすい内容に改善していきたい。授業当初は初年度ということもあり講義室の機器機材の使用に慣れる必要を感じたので、このあたりも改善していきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>自由記述のコメントでは積極的な意見ばかりで励みになった。文化財保護法の改正や、近年の観光政策における博物館の活用事例、最新のデジタル・アーカイブ化の動向など、常に情報のアップデートを行い、教科書的な知識に留まらない「生きた経営論」を展開したいと考える。これまでの実務の経験を活かして、「具体例の提示」をさらに深化させるべく、博物館の経営的視点を、実際の実例と結びつけてなるべく具体的に論じ、理解の深化と高い満足度につなげていきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 金4

科目名 民俗学
 教員名 坂口 さとこ
 回答者数/履修者数 70/135

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>民俗学の授業のアンケートにおける満足度は、日本の学生と留学生の両方において、総じて評価を得ていると考えています。特に留学生からの満足度が顕著に高く、日本の伝統文化や生活様式に対する関心の強さが結果に反映されているのではないかと思います。</p> <p>自由記述においては、「民俗学、毎回内容が面白くて授業参加するのが楽しみでした」「日本の民俗に関して色々学びました。全く知らないことも沢山あったのでとてもためになりました。」など励みになります。</p> <p>本年度から赴任して初めての授業のため推移は不明ですが、次回からの向上策としては、さらに民俗学の取り扱う内容の幅を広げ、そして内容を深めて分かりやすく伝えていきたいと考えます。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>民俗学の理解ということですが、抽象的な概念に留まらず、自分にとって身近な日本の伝承や食文化を扱うことで、学生が自分事として捉えやすい構成にしていることが、学生の受講態度や学習意欲の向上に繋がったと考えています。</p> <p>また留学生にとっては、日本の民俗学的な事象例えば「ハレとケ」や「年中行事」などが、自身の母国の習慣と比較することも興味深く、かつ日本という国の多様なそして広く深い理解につながり、面白く感じられ、学生の受講態度や学習意欲の向上に繋がっています。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>民俗学において改善が必要と思われるのは、授業の前に事前準備や予習が必要な授業の構成にすることだと考えます。問1の、「なんらかの準備学習（教科書を予め読む等の予習や、前回の復習、関連する図書などを調べる）などをしましたか」のスコアが若干低く、毎回の授業の前に、予習や事前の準備が必要である構成にすることで、学生の授業に対する理解度がさらに進むのではないかと思います。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>パワーポイントを使って授業を行いました。祭礼具や古民家の構造などを画像・映像資料で多用したことで分かりやすく、理解が進んだと考えています。自由記述にも「先生の説明も丁寧で、具体例を使って話してくれるので理解しやすかったです。特に写真を使った紹介は、内容をイメージしやすく興味を深まりました。」などあります。</p> <p>留学生においても言語の壁を越えた理解が促進されました。さらなる改善策としては、民俗学的事象の動画をもっと導入することで、さらに理解が深まるものと考えています。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>民俗学の授業を行っている中で、単位は取得しないが興味があり好きで授業を受けている学生の存在を複数確認していました。また、最前列で熱心に受講する留学生も多く、民俗学に興味のある学生が多いと感じていましたが、それが授業アンケートにもあらわれていると思いました。</p> <p>本講義が提供する「日本文化の再発見」という視点が、学生の知的好奇心に合致した結果であると受け止めています。また、留学生にとっては日本の民俗行事や生活習慣は、単なる知識ではなく、現在の日本社会を理解するための重要な鍵となっており、その切実な学習意欲が評価につながっていると考えています。</p>

項目見出し	コメント
	<p>今後も民俗学の学問的理論や歴史の変遷といったより専門的な理論体系を分かりやすく伝えるという目標を掲げつつ、多角的に考察できる環境づくりをしていきたいと思ひます。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木3

科目名 教養セミナー

教員名 坂口 さとこ

回答者数/履修者数 9/12

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>評価結果は満足度をはじめとして全体的に平均的な傾向にあると考えられます。本年は本校での授業開始年となりますので推移の明示は次年度からとなります。教養セミナーの授業内容は全クラス共通の内容となりますが、授業内の運営やグループワークやグループ内の意思決定の過程、および個別対応においては、学生の取り組みを支援してこれからの大学における学びに直結した知的好奇心を刺激するような内容を入れるなど、学生の主体性を引き出して、満足度を高めていきたいです。</p> <p>「ホスピタリティセミナー」「教養セミナー」の初年次教育は大学生活の基盤を作る重要なプロセスであると考えています。高校とは異なる学業への取り組みや大学生生活の学びにつながる内容を伝えることに集中するとともに、定型を教えるだけでなく、学生が自ら問いを立てる楽しさを実感できる仕掛けを増やして、満足度の向上をめざして改善に取り組んでいきたいと考えます。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>「問9：物の見方・考え方や学習方法等の勉強になりましたか」の評価結果が全体平均以上でした。レポートの書き方、試験の受け方、大学における学習の進め方、読書の重要性を授業内で何度も分かりやすく話しました。このことが評価に反映されたのではないかと考えます。</p> <p>また、実際にフィールドワークをして調査を行い、その結果をゼミ内で、また他ゼミ生の前で発表するというを行いました。自らテーマを立てて地域の現状や課題に対し、自らの足でデータを収集する「生きた学習」をしたこと、また、少人数のグループワークを基盤とし、全員が何らかの役割を担う体制を構築した結果、当初はかなり消極的だった学生が、調査を通じて代表的な意見を述べたことがあり、学習意欲の向上に繋がる教育効果を感じさせる結果となりました。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>問2と問3のアンケート結果は平均的でした。授業の内容は全クラス共通の内容となりますが、前期までに学んだ「聞く・話す・読む・書く」といった基礎的なスタディスキルを活用・実践しながら、ディスカッションやフィールドワーク、プレゼンテーション等、課題解決に必要なスタディスキルを学修し、2年次からの専門的な学修の基礎を作っていくという内容です。レポート作成や文献購読といった「アカデミックスキル」の習得が、学生にとって「非常に難しい作業」として捉えられがちですが、ステップに分けて小さなマイルストーンを打つこと、仲間と共にやっていき、すぐにフィードバックすることで、スキルを習得させるように指導して行きたいと考えます。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>問4～問7に対してアンケート結果は総じて平均的であったと考えます。</p> <p>授業内容は、前期までに学んだ「聞く・話す・読む・書く」といった基礎的なスタディスキルを活用・実践しながら、ディスカッションやフィールドワーク、プレゼンテーション等、課題解決に必要なスタディスキルを学修するものですが、その方法は、単なる知識の伝達に留まらず、学生が主体的に課題を解決する能力を養うため、グループワークと対話を用いました。特に、多様な意見を集約し、グループとしての意思決定を行うプロセスの設計と運用を重点項目としました。改善策としては、グループ内の役割分担を持ち回りで運用するなど全員の参画意識が高まるように改善して行きたいと考えます。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>自由記述において学生から好意的なフィードバックを得られたことは授業運営の励みとなります。この教養セミナーは、高校生から大学生への「学びの転換」を促す役割を担っています。今後は、大学生生活における基本的な学修態度の養成を重点的にしっかりと行い、そして、観光学を専門とする学問的姿勢の重要性をよりはっきりと明確に示し</p>

項目見出し	コメント
	て、学生自らが意識の変革を自覚できるような指導方法の工夫を検討していきたいと思います。

アクションプランシート

2025年度後期 月3

科目名 専門演習ⅠB

教員名 塩田 裕明

回答者数/履修者数 5/8

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>5名中全員が「5」を付けており、今回の専門演習に満足していると思われる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>日本人学生1名を除いて全員が留学生であり、日本人学生も留学生も全員ある程度の英語力があつたことから、6~7割程度は英語で授業を行った。配布資料は日本語で作成したが、英語を併記した。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>演習の内容は異文化理解にかかわるものであつたため、留学生にとっては、学びやすかつたかもしれない。また、日本人学生も英語習得や異文化理解に力を入れている学生であつたため、学びやすかつたと思われる。様々なテーマで活発なディスカッションを行うことができた。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>(2) で書いたように、本演習は、留学生のために6~7割程度は英語で行つた。また、指定教科書は日本語で書かれた専門書であつたが、留学生にとっては読むのが難しく、同様の内容で英語で書かれた文献を紹介した。今後は、履修する学生の状況に応じた授業内容の決定や教科書選定を行いたいと考えている。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>概ね評価は良かつたが、それに満足することなく、より良い演習となるように演習内容や演習方法の見直し、修正を図りたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火3

科目名 専門演習ⅡB

教員名 塩田 裕明

回答者数/履修者数 6/6

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>6名中全員が「5」を付けており、今回の専門演習に満足していると思われる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>今回の演習では、卒業論文執筆に向けた取り組みを始めたので、それが学生の受講態度や学習意欲の向上につながったと考えられる。卒業論文研究のテーマを探ることから始め、関連する文献を読み、レポートを作成し、演習内で発表するという形を繰り返した。それらに意欲的に取り組む学生たちの姿が見られた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>6名中全員が「5」を付けており、授業内容については良かったものと思われる。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>6名中全員が「5」を付けており、授業方法についても満足のいくものであったと思われる。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>概ね評価は良かったが、それに満足することなく、より良い演習となるように演習内容や演習方法の見直しを図り、必要に応じて修正を行ってきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木2

科目名 英語科教育法Ⅳ

教員名 塩田 裕明

回答者数/履修者数 4/4

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>4名中3名が「5」を、1名が「4」を選択していることから、おおよそ満足できたのではないと思われる。しかし、「4」がある以上は、改善が必要な部分があると考え、授業内容を見直し、より学生が満足できる内容へと修正していきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>自由記述欄にも書いてあるように、今期は、中学校・高等学校で行う50分の英語授業から指導内容ごとに一部分（例えば、オーラル・イントロダクションやパターン・プラクティス、コミュニケーション活動など）を取り出し、それぞれ、教員が実際にモデルを見せて、学生に練習、実践させるという形式で授業を行った。それが学生の受講態度や学習意欲等の向上につながったと考えられる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>評価は「5」と「4」で占められているが、「4」があるということは改善の余地があるということだと考える。今回は、毎回の授業ごとに学生の感想は取らなかったが、今後はそれを毎回実施し、改善すべき点を明らかにし、授業内容を修正していきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>授業方法に関する評価については、質問9で「4」が1つある以外はすべて「5」の評価であった。基本的に毎回パワーポイントでスライドを表示したが、今後はICTを用いてよりインタラクティブな授業を展開したい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>概ね評価は良かったが、それに満足することなく、より良い授業となるように授業内容の見直しを図り、また、ICTなどを取り入れるなど授業方法も改善していきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木3

科目名 教養セミナー

教員名 塩田 裕明

回答者数/履修者数 7/11

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>教養セミナーに対する学生の満足度については、全員が「5」を付けており、満足のいくセミナーであったようである。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>今回のセミナーでは、「地域の課題を解決し、地域が持つ魅力を活かすためには」というテーマで実地調査を学生主体で行った。教員はサポート役にまわり、学生が中心となって本課題を見事に完遂することができた。この体験が、学生の受講態度や学習意欲の向上につながったと考えられる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>少数ではあるが、「4」を付けている学生がおり、セミナーの内容に若干満足できないものが含まれていたのかもしれない。これについては、各活動が終わるごとに、学生に感想を聞き、必要に応じて内容を修正していきたいと考える。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>質問6に対しては「4」を付けたが学生が1名いた。担当教員として学生の授業への参加を促したつもりでいたが、不足している部分があったのかもしれない。また、欠席や遅刻が多い学生も数名いた。これについては、学生への声掛けを徹底し、今後も授業への参加を促していきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>評価は概ね良かったが、授業内容や授業方法を再度見直し、必要に応じて修正を加え、学生がより満足できるセミナーにしていきたいと考える。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 金5

科目名 ツアープランニング

教員名 竹田 文雄

回答者数/履修者数 43/51

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>満足度平均4.8。留学生以外の満足度平均4.7。留学生満足度平均4.9。 担当教員は毎週必ず事前に講義の予習とシミュレーションを実施し、授業90分間の流れを掴むように心がけていた。満足度の更なる向上のために、全体の組み立てを再考する予定である。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>1) 担当教員自身の予習と復習。 2) 授業内容を膨らませるための視覚素材の選定。 3) レジユメの再構成と課題内容の変更。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業の内容は現行を基本的に踏襲していく。ただし、授業中の学生との会話の頻度をさらに増やし、よりアクティブなコミュニケーションを取っていききたい。 学生が興味や関心を抱くネタをさらに取り込んでいきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>レジユメ（配布プリント）は、昨年度版に対して大きく手を加えたが、内容を複雑にしてしまって逆効果となってしまった感がある。 また、ツアープランのフォーマットが決して使い勝手の良いものではなかったため、次年度に向けて修正を施していく。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>留学生比率が上がっていることから、前年度と比較して、授業の内容および進行ペースを少しスローダウンした（余儀なくされた）。このことにより日本人学生に対しては手持無沙汰な時間を与えてしまったのではないかと自己分析している。しかしながらこの学生構成の傾向は継続していくであろうことから、日本人学生を飽きさせず、なおかつ留学生もついてこれるような、2極志向の授業内容が求められることとなる。 毎週の事前予習を欠かさずに講義に臨んだことで、今年度はこの評価を得ることができているが、次年度は2極志向の授業を遂行するための最善の落としどころを見つけて、その結果として当該授業のグレードアップを図るべく、まずは使用資料の見直しから実施いたしたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 水2

科目名 日本語入門ライティングB

教員名 東出 朋

回答者数/履修者数 39/43

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	非常に良好
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	学生が主役
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	概ね良好
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	概ね良好
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	特になし

アクションプランシート

2025年度後期 木3

科目名 言語と文化B

教員名 東出 朋

回答者数/履修者数 139/168

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	概ね良好
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	ピア活動
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	概ね良好
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	概ね良好
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	特になし

アクションプランシート

2025年度後期 水2

科目名 MICE論

教員名 森尾 真之

回答者数/履修者数 26/43

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>本年から現地視察を組み込んだことが、実務的な視野を持つことにつながったのではないかと考えている。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>(1) に述べたように、現場の視察により、その規模の大きさや講義内容との関連性を理解することができたことがよかった。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>想定内のスコアであった。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>できるだけ自分の考えを反映させるレポートを組み込んだことが、特に設問11のスコアに示されていると思う。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>本年からは前期実施となることから、特に留学前後のグローバル学生の履修を促し、英語を使ったキャリア構築につなげたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木5

科目名 旅行業論

教員名 森尾 真之

回答者数/履修者数 33/81

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>実務的な講義であることから、満足度がキャリア構築につながってほしいと思う。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本年度から講義初回のテキスト配布をやめ、毎回の講義での配布に切り替えたことで、多少出席率が上がったように感じる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>講義中に自分で考える問いに対しての時間を意識的にもう少しとるようにすべきであった。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>例年と大きく変わらない。引き続き旅行各社の協力や講義内容の改善に努める。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>オンラインの集約となってから、どうしても回収率が上がらない。講義時間内に回答時間をとることは難しく、非常に苦慮している。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火2

科目名 教養セミナー

教員名 森尾 真之

回答者数/履修者数 10/11

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>毎年学生の質が変わり、同じことをやってもリアクションが違うという前提であれば、大過なく終えた。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>毎年ペアワークなどでセミナー内の親睦を図る取り組みを行ってきたが、今回は途中でやめた。セミナーの存在価値が年々薄くなり、一つの講義と同様の扱いになっているようである。常に改善努力はしているが、教員としての満足度は低下しているため、特に向上につながった実感はない。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>決まった内容を進めるだけであるため、特にコメントの必要はない。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>スコアは想定範囲内であり、特にコメントはない。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>初年次セミナーについては、一般教員にとって非常にハードルの高い科目であり、常に教員の改善を求めるアンケートの在り方には疑問を感じる。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 月2

科目名 Practical English II B

教員名 井畑 敦子

回答者数/履修者数 13/19

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>前期と比較して、満足度は低下している印象を受ける。満足度が「2」の学生が1名、「3」の学生が3名存在する点は、軽視すべきではない。具体的な指摘事項がアンケート上明示されていないため、改善点を特定することは容易ではないが、授業全体として段階的なレベルアップが図られた設計であったとは言い難い。同様の内容やワークが繰り返され、結果としてルーティン化していた側面は否めない。教える立場としても、十分に納得のいく到達度に達したとは言えず、その点は真摯に受け止める必要がある。</p> <p>この数字はチームティーチング体制の在り様を反映した結果でもあると考えられる。相方としての自分の責任は重大であり、これを回避する意図は一切ない。ただし、全クラスの内容設計およびインストラクションは主導権を持つもう一人の教員が担っていた。というのも、昨年度の段階でコース長より主導権を委ねる方針が示されており、授業運営上の意思決定構造は実質的に一方向化しているからである。</p> <p>また、昨年度まで中心的に担当していた教員2名の離職に伴い、授業システムの大幅な改修が必要となった。また、入学時の学生の英語力の変化に応じた内容調整も求められ、全面的な刷新が迫られる状況にあった。その負担を一手に担った教員の労務は相当なものであったと推察する。しかしながら、その状況であったがゆえにチームとしての協働を提案しても、十分に機能することはなかった。授業デザインおよびスライド作成は全てその教員が担当し、評価に基づく改善点を反映させる形で資料を差し込むよう努めたものの、後半ではそれも採用されなくなった。各回の授業後にリフレクションを兼ねた打ち合わせを提案したが、前期以上に実現は困難であった。私自身、本科目を初めて担当する立場であったことから、まずは学ぶ姿勢を優先し、過度な介入は控えていた側面もある。結果として、主担当者が単独で作成の方が効率的であるとの判断が働いた可能性もあり、提案そのものを差し控える場面が増えていった。このような状況の中で、自身の発言力や影響力の限界を自覚せざるを得ず、そのことが授業全体の改善速度を鈍らせ、ひいては学生の期待値との乖離を生んだ可能性は否定できない。以上の点を踏まえ、チームティーチングの意思決定構造および改善プロセスの可視化、透明化が今後の課題である。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本授業は「活動量」は多い。しかし「学習量」は少ない。この乖離こそが最大の問題である。難易度は導入水準に固定され、理解度に応じた段階的上昇が制度的に組み込まれていない。負荷が上がらない授業は訓練にならない。認知的緊張を伴わない反復は、能力形成ではなく安心感の提供に過ぎない。これは自由記述に表示されている様に、学生自身の声にもある：「英語力が本当に身につけているのか自分の中の疑問になっています。何か他にも英語力をつけられるような、ことをする時間に費やすことができる授業がしてみたい」</p> <p>これは、最初の一時間が宿題の自習であることに帰する。授業冒頭30分を外部教材 (English Central) の自習に充てる設計は、さらに問題を深めている。同内容は家庭学習でも課されている。つまり対面授業時間の三分之一が、家庭でも可能な作業に充てられている。これは時間資源の浪費であり、対面教育の存在意義を自ら希薄化している。International Virtual Exchange (IVE) も同様である。国際交流的外観はあるが、アクセス量に依存した自動評価は量を担保するのみで質を担保しない。動画投稿や編集作業は技術経験にはなるが、言語能力や批判的思考の深化と構造的に接続されていない限り、教育効果は限定的である。</p> <p>学生は英語によるグループワークを好む。したがって、その時間を増やせば満足度は維持できる。しかし、満足度は成果の代理指標ではない。体系的インプットが欠落した状態でアウトプット中心の構成を続けければ、語彙も構文も思考も伸びない。目的説明や理論的根拠の提示</p>

項目見出し	コメント
	<p>も不十分であり、活動は「やっている」状態にとどまり、「なぜそれを行うのか」という学習の意味づけが欠落している。これも学生により、自由記述表示にて指摘されている：「IVEプロジェクトなどのプロジェクトを行う前に、英語のどんなスキルが伸びるのかを説明してもらえるとモチベーションにつながります。説明がないままプロジェクトを進めても、「なぜこれを行っているんだろ」と思って意欲的に取り組めなく自分の英語力が伸びないと思います。」この状態が継続すると、以下の帰結が不可避である：満足度と到達度の乖離の固定化、上級科目における基礎力不足の顕在化、カリキュラム全体の整合性の不在、「活動していること」と「学んでいること」の制度的混同</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>授業は活動量こそ多いが、認知的負荷が低く、難易度の段階的上昇も設計されていない。インプットが体系化されないままアウトプット中心で進行し、活動はあるが深化はない。学生満足度は維持されるが、到達度の保証は弱い。授業時間の三分の二を外部教材自習に充て、同内容を家庭学習でも課す設計は、対面授業時間の価値を自ら毀損している。IVE等の実践的活動も量的評価に依存し、質的成果の担保がない。これらの問題は一時的な見落としではない。改善提案が提出されながら、制度的に放置されている。教育の質保証は管理職の職務である。問題が継続しているという事実は、以下のいずれかを意味する：1 問題を認識していない 2 認識しているが是正しない 3 是正能力がない</p> <p>満足度の高さをもって問題を看過する姿勢は、短期的安定を優先し、長期的教育効果を犠牲にする選択である。これは学生に対する説明責任を果たしているとは言い難い。</p> <p>さらに深刻なのは、改善要求が繰り返し無視されることで、内部の専門的知見が制度的に排除されている点である。専門的提案が反映されない組織は、学術機関としての自己修正機能を失う。教育機関における最大のリスクは、明白な問題があるにもかかわらず「動かない」ことである。現状はまさにその状態に近い。したがって、本件は個別授業の改善にとどまらず、教育設計の検証体制の再構築、管理責任の明確化、改善提案に対する公式回答義務の制度化、到達度検証の第三者的評価導入を含む、ガバナンスレベルでの是正が必要である。教育の質保証は理念ではなく義務である。満足度を優先し、負荷を上げない設計が暗黙の正解になっているとすれば、それは教育機関としての自己否定に等しい。</p> <p>厳密な設計よりも「クレームが出ないこと」が評価軸になっているならば、それは教育ではなくサービス業的発想である。教育は本質的に負荷を伴う。負荷なき教育は、成果なき教育である。設計思想の転換が必要である：インプット・アウトプット・メタ認知的振り返りを循環させる構造への再設計、到達目標の明文化と難易度上昇曲線の制度化、授業内外活動の役割分担の再定義（対面時間の再価値化）量的評価中心主義から質的評価への転換、教育効果測定 of 制度化（客観的到達度検証の導入）</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>当該授業の構造的問題については、これまで複数回にわたり具体的な改善提案を行ってきた。しかし、実質的な再設計は行われていない。これは担当教員個人の力量の問題ではなく、教育設計を統括する管理体制の問題である。</p> <p>学生からは、「より実質的に英語力を伸ばしたい」「IVEプロジェクトの前に、どのスキルがどのように伸びるのかを説明してほしい」「目的が示されないまま進むと、自分の英語力向上に結びついていない実感が出ていない」「IELTS対策に関する授業も取り入れてほしい」といった声が上がっている。これは単なる要望ではなく、到達目標の不明確さと学習プロセス設計の不備を示す重要な指摘である。目的・方法・評価の三点が接続されていなければ、学習は断片化し、努力は成果へと収斂しない。また、IELTSを担当していた教員の離職に伴い関連したインプットも同時に無くなり、アカデミック英語の要素も消失し、学内試験自体も廃止になったので授業での対策もなく、スコアも大幅ダウンした。</p>

項目見出し	コメント
	<p>しかし、必要なのは部分的な改善ではなく、設計思想の転換である。すなわち、インプット・アウトプット・メタ認知的振り返りを循環させる構造への再設計、到達目標の明文化と段階的難易度上昇の制度化、授業内外活動の役割分担の再定義、量的評価中心主義から質的評価への転換、そして客観的到達度検証を含む教育効果測定の制度化である。</p> <p>満足度を守ることは容易である。しかし能力を伸ばすことは困難である。単なる英会話学校でも語学専門学校でもない、学術機関である大学が担うべきは後者である。現状維持は一見安定に見えるが、実態は緩慢な機能不全であり、放置すれば修復コストはさらに増大する。いま求められているのは、責任の所在を曖昧にすることではなく、制度として教育の質を再構築する覚悟である。でないと、やる気をもって英語を伸ばしたいと留学までする希少な日本人学生とそれをサポートする保護者が報われない。</p> <p>90分授業の内60分が宿題の自習であると上述したが、残りの30分も宿題のはずの動画作成に時間を取ったり、余ればリスニングアクティビティということで大学受験のリスニングの水準ではない初歩の設問を一つ取り上げるのみで、圧倒的にカバレッジが少なく、英語資格試験などのスコアの伸びにも反映されず、かといって改善の意見は聞き入れられずに無力感にさいなまれた30回であった。</p>
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>自由記述欄が設けられたことで、今回ようやく部分的ではあるが学生の率直な声を可視化することができた。数値上は比較的高い評価が並んでいるが、学生は概して自己抑制的であり、波風を立てないよう空気を読む傾向が強い。したがって、表層的な数値のみをもって授業が機能していると判断するのは早計である。実際、高評価の多くは授業の大半を担ったチームリーダーの運営努力に依拠している側面が大きい。しかし現実には、今年は18名という小規模にもかかわらず半数以上がコースを離脱している。昨年、その前も同様に離脱率は高い。表向き理由は「金銭的事情」と整理されるが、個別に相談を受ける中で繰り返し聞かれるのは「英語力が伸びる実感がない」「これなら自分で勉強した方がいい」「英会話教室のようで、中学時のALTと変わらない」という訴えが繰り返されることである。これは個人の努力不足ではなく、既に指摘してきた授業構造上の問題に起因する。とりわけ、大学教育の根幹である質的な認知能力形成の機会が十分に設計されていない点は看過できない。</p> <p>こうした声を受け、チームおよびコース運営側に対し複数回にわたり改善提案を行ってきた。しかし実質的な変更はなされず、設計思想も共有されないまま三年が経過した。本来であれば議論と検証を経て再設計が図られるべきであるが、その回路自体が機能していない。この場以外に公的に共有する手段がないため繰り返し記しているが、問題意識が組織として受け止められている実感は乏しい。</p> <p>さらに懸念すべきは、こうした構造的課題に沈黙したままでも評価や昇進が進むという制度環境である。アンケートに実質的な記述を残さない教員が存在しても、それが問題視されない現状は、教育改善のインセンティブを根底から損なう。逆に大学の発展を願い改善を提案する者は異物排除となり、ここに記すことの実効性に疑念を抱かざるを得ない。しかし、学生の抑圧と離脱という事実が積み重なっている以上、沈黙こそが最も無責任であると考え、最後に声を上げておきたい。大学が大学であるために、大学が提供すべき英語教育が実現するために、構造の問題としてここに注意喚起し、再検討されることを強く求める。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 月4

科目名 専門演習ⅢB

教員名 江島 弘晃

回答者数/履修者数 10/10

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>授業に対する理解度・満足度は7名が「できた」と評価し、学生達が満足いく専門演習を実施してくれたと感じている。またQ12の授業内容の理解に関しても納得のいく「できた」と評価してもらった。自由記述の記載に関しても学生1名から「とても勉強になった」という記載には教員としての満足のいく結果である。この評価は次年度も尊重して学生との介入を増やしていきたい。今年度は学生が6名と昨年度は10名と人数が減少したため、各学生個人にある程度の学生指導が出来たとも感じ、次年度は学生数が10名と若干増加する分、教育的指導を増やし、学生一人一人の専門性を高めるよう個別指導を積極的に展開したいと考えている。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>専門演習ということで主に卒業研究の論文制作に注視した。学生には目標課題を各自達成させるとともに共通の条件も設けた。共通の条件は規定にあるように2万字の文章に達していない場合は卒業研究の論文を満たしていないというものである。この共通条件は各自が目標達成出来るように学生の意欲向上につながったのではないかと考えている。そして最も工夫した点は一度、学生全員で進捗報告を設定したことになると考える。これは各自がどの程度進捗しているのか把握できる点や自分自身の位置状況も把握できる点が効果的だったと考えられる。確かに進捗状況を発表した後は学生の受講態度の変化も見られたと考えられる。卒論発表会でもその成果が表れたと感じている。内容は次年度でも展開させ、内容自体の良さであるのか本年度の学生のみ適用できたのかを検討したい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>授業の内容に関して7名の大半は設問の3つに対して「良い」の評価を得たため、授業内容に関心を持って受講してくれたものだと考えている。その一方で、1名のみ授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったのかは「3」、1名はシラバスとの整合性および授業内容に興味はありましたか「3」と平均的な回答だったため、今後は履修学生全員が5と評価してもらえるように改善する必要がある。改善策としては主に個別での指導を積極的に導入していく点やシラバスでの内容を教員と学生双方で相互確認し合うことで改善が期待できると考えている。次年度は人数が若干増加するため、各学生にマンツーマンで指導し適切な課題を解決できるように指導していきたい。平均的な数値は4.6以上であったためこれまでの評価と比較しても満足のいく結果だと捉えている。次年度では学生も変わり、授業の内容を適時修正しながら対応していく予定である。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>授業の内容に関して7名の大半は設問の3つに対して「良い」の評価を得たため、授業内容に関心を持って受講してくれたものだと考えている。その一方で、1名のみ授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったのかは「3」、1名はシラバスとの整合性および授業内容に興味はありましたか「3」と平均的な回答だったため、改善する必要があるようである。改善策としては主に個別での指導を積極的に導入していく点やシラバスでの内容を教員と学生双方で相互確認し合うことで改善が期待できると考えている。次年度は人数が増加するが、専門演習IIで卒業論文の制作を進めており、十分な指導が実行できると考えている。平均的な数値は4.7または4.8以上であったため概ね満足のいく結果だと捉えている。次年度では学生も変わり、授業の内容を適時修正しながら対応していく予定である。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>授業の方法に関しては(1)(3)と比較して十分なアンケート評価が得ることが出来なかった。話し方の明瞭は平均が4.6であり、最大評価の5にするためにも事前に話す内容を事前練習し要改善する必要があると考える。熱意の感じられる授業の問いには7名が5を記載していたため、熱意のある授業展開にするためにも方法を見直す必要がある</p>

項目見出し	コメント
	<p>と考えている。教科書、参考書、配布プリントの使用の適切さは6名が5だった点や板書や機器の使用の適切さに関しては8名が5であったため、プロジェクタースクリーンやスライドを用いての進捗状況の各自の発表方法が良かったと考えている。また遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応をしていたのかの問いに関しては8名が5と評価しており、昨年度はこの項目はばらつきがあったため、私語厳禁を学生に指導することを次年度での課題としていたが、概ね改善されたと考えている。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 月その他

科目名 卒業研究
 教員名 江島 弘晃
 回答者数/履修者数 10/10

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>授業に対する理解度・満足度は6名が「できた」と評価していた。そのため、満足度は80%という結果だったが、履修者数が少ないため評価のしがいがないが、学生達が満足いく卒業研究を実施してくれたと感じている。また設問12の授業内容の理解に関しても納得のいく「できた」が6名だったため、全学生が同様の結果と評価していた。自由記述の記載はなかったが専門演習Ⅲbと同様の評価であると捉えている。平均は4.5と最高得点の評価であった。これは学生も満足のいく結果だったととらえており、今後も次年度の卒業研究制作でも同等の評価を得る必要があるように創意工夫していきたい。しかし、専門演習Ⅲbと同様に学生が8名と今年度は人数が少なかつたため、学生個人に十分な学生指導が出来たことがその要因であるとも捉えることが出来る。次年度は学生が10名と今年度より人数が増加するため制作に関しても細部に拘って指導していきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>卒業研究は8名がこれまでの担当教員の専門による内容であり、主に野球や運動、運動不足などに関心がある学生達であったため教員自身の専門性のある動物実験を用いた解析による研究を卒業研究とした。その際、前者は学生が理解しやすい内容である一方で研究倫理書の作成に注視させた。動物実験に関する卒業研究を担当した学生はまず実験などに関する理解・知識が圧倒的に不足していたため夏季休業中に個別指導を実施した。以上のように学生達には公平性を保つようにはばらつきがないように指導を実施した。結果として卒業研究発表会では全員が満足のいく発表を行ってくれたと捉えている。卒業研究を執筆する際にも規定を満たすように設定したことは学生自身が目標を持って取り組む姿勢になると考えており、学習意欲の向上につながったと考えている。反省点としては、短い期間での卒業研究の制作になってしまったため、実施することが限られていたことである。この点は次年度から解消できるため対応できると捉えている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったですかという問いに関しては8名がよい、各1名づつが4と3という評価であったため授業内容といえる卒業研究に関心を持って取り組んでくれたものだと考えている。シラバスと授業内容に整合性はありましたかという問いに関しては、同様に8名がよいという最高の評価であり、実際整合性のある卒業研究制作に取り組めていくことが出来たと考えている。授業内容は興味あるものでしたかという問いに関しては、7名がよい、3名が4という評価であった。次年度は履修生全員が5となるように反省点として改善していきたい。次年度では学生も10名と増加するため、学生一人に対する指導の時間を増やすことができるため内容の適時修正しながら対応していく予定である。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>話し方は明瞭でしたかとの問いは良いに値する5が7名と平均が4.7、熱意の感じられる授業でしたかとの問いもほぼ同様であり、教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかとの問いは質問6と同様の数値であった。これらの問いは概ね平均が4.7の満点であり学生は方法に関して最高評価を行っていた。とくに、配布プリントは最近の研究論文を提示することで学生主体の考察力などを育くんだ結果、良い回答に繋がったのではないかと考えている。板書や機器(OHP、パワーポイントなど)の使用は適切でしたかの問いは、6名が最高の5にしており、実際パワーポイントを多用することで理解促進につながった点と学生たちの現状把握につながっていった。遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していましたがの問いに関しては、平均が4.8と昨年よりとても良い評価となった。これは学生たちの意欲も関係していたと考えている。学生の授業参加を促すような工夫がなされていたかとの問いには、熱意と同様の回答結果であった。これらの回答結果を統合すると、学生の回答はすべてが4.8以上であり、授業</p>

項目見出し	コメント
	<p>展開を継続すれば学生にも満足いく評価になってくれると考えている。次年度は学生も10名と人数が増加する一方で、今回のアンケート結果の数値が向上維持できるよう柔軟に対応したいと考えている。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>卒業研究に関しては、学生からのアンケートを見る限りは10名全員が満足いく結果であったということで専門演習Ⅲbと同様な回答結果と捉えている。また、専門演習Ⅲbでは授業の方法に関しては改善する必要があると考えていたが卒業研究はとくに改善する必要はなさそうで、授業展開を創意工夫すれば、おのずと卒業研究で満足いく結果になるのではないかと考えている。専門演習同様、授業の内容に関しては概ね「良し」のアンケート回答が多いという結果と捉えている。本年度から担当した専門演習の学生たちは担当期間が1年と期間が短い学生は前年度と比べて少なく、次年度の学生は専門演習Ⅰから履修しているため、より深い専門的な卒業研究の制作が可能と考えている。学生の自由記述はとくに記載がなかったため、その点を改善できるよう積極的に記載を促すようにしたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 水1

科目名 運動生理学

教員名 江島 弘晃

回答者数/履修者数 102/129

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>運動生理学では講義形式のため、129名の受講者数に対して102名の回答(79.1%)があり、全受講者のアンケート回答を反映しているものとらえている。設問の授業に対する理解度・満足度は、73名が満足の「5」であり、22名が4と平均が4.6という結果であった。設問12の授業内容を理解出来ましたかに関しては、設問13とほぼ同様の結果となったことから平均が4.8以上となるアンケート結果は受講した学生が満足のいくものとなったと捉えている。実際、自由記述に関しては大半の学生が、理解しやすかった、スライドが分かりやすいと記載しており、学生も納得のいく授業展開が出来たのではないと考えている。専門演習と異なり、学生一人一人との面談を重ねて個人の状況を把握するということは出来ないが、学生が履修しやすいような学習環境を整える必要があると感じている。円グラフ上では、理解度・満足度は5の評価は半分以上、4の評価は4分の1以上と全体制で見ても満足のいく結果だったため、評価結果には満足している。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>まず、学生の理解の浸透度を高めるために各授業毎にノートでスライドの部分を記載するよう設定した。これはスライドの内容と同様のものので学生にはスライドを見ながら、自身のノートで記述確認する形式をとった。これは授業の教室が広く、学生はスライドを確認できない恐れがあったこと、聞き逃しがあるかもしれないがそのような意見はなく概ね良い結果になった考える。結果的には学生から好評だったようで自由記述に記載があったため、学生の学習意欲の向上につながった方法であると考えている。実際、プリントがないとの意見もあったが、授業後に学生がしっかり理解できているかどうか課題を設けるなど確認することが出来たため学生の受講態度も評価することが出来ると考えている。テストの際にノートの持ち込みも設定し、良い評価になった。また教科書の使用を今後頻繁にするなど教員自身の改善すべきものとして次年度に生かしたい。また、運動生理学の講義を行う際、身体のごさきなどはイメージがしにくいいためスライドの中で図示を多用することで学生の理解、学習意欲の向上を促した。これが学生の分かりやすかったという評価の回答になったと思うので次年度も活用していきたい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったですかという問いに関しては84名がよい、15名が4と平均が4.8以上の良いという評価だった。専門演習と異なり、履修学生もある程度多人数の中での数値は授業内容に問題はないと考えられる。シラバスと授業内容に整合性はありましたかという問いに関しては、80名がよいの5、18名が4とこちらも平均が4.7以上という同様の回答結果であった。実際、授業展開としてはシラバス通りに展開した結果が評価につながったと考える。授業内容は興味あるものでしたかという問いに関しては、上述の問いとほぼ同様の75名がよい、23名が4と平均が4.7以上の結果となった。(3)に関しては3つの設問ではすべて4.7以上の数値という結果となり、授業の内容自体は学生たちは関心があると感じた。反省点は、出席状況が良くない学生はいないなかで、課題のみ集中している学生が数名いた気配があったことから、次年度では授業の講義途中や出席を厳格にすることで授業の内容を把握できているのか試すなどをすることで、授業の内容を発展させていきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11</p>	<p>話し方は明瞭でしたかとの問いは良いに値する5が80名、平均が4.8、熱意の感じられる授業でしたかとの問い、教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかとの問いは平均が4.7と同様の数値であった。したがって平均が4以上と学生は方法に関してとても良い回答を行っていた。板書や機器(OHP、パワーポイントなど)の使用は適切でしたかとの問い83名が最高の5にしており、スライドの出来の効果が大きかったのではないかと推察している。遅刻や私語が授業の妨げ</p>

項目見出し	コメント
スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー／教 養セミナー Q4～Q7	<p>にならないように対応していましたかの問いに関しては、平均が4.8という評価を得たがこれは学生が基本的に私語厳禁にした配慮が大きかったと考えている。これは履修した学生全体の意欲にもつながるため、継続していきたい。学生の授業参加を促すような工夫がなされていなかったかの問いには、平均が4.7と他の設問とほぼ同様または若干減少した結果となった。まとめとして、学生の回答はすべてが4以上であり方法に関しては多数の学生が履修した講義の中で良い評価の回答結果だったと考えている。次年度はこのアンケート結果と同等の数値またはそれ以上となるように継続性を保つことで学生の意欲を向上させていきたい。</p>
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>アンケートの結果を見る限りでは学生は満足いく講義を履修してくれたと考えている。昨年度は実行しなかった定期試験を慣行し、それに向けての勉強やノートをまとめるなど学生は授業外の時間に復習の時間を設けてくれたと考えている。このことから次年度も定期試験を実施し、自主学習ができるよう工夫したい。アンケートでの評価を詳細に検討すると授業の内容は4.7、授業の方法は4.7前後、理解度、満足度は4.6と学生の満足度が明確になったのではないかと考えており、この評価を継続できるようつとめていきたい。一方で、態度に関しては平均が4.1と非常に数値が少ないが前年度よりは向上した。その一方で自己評価は平均が4と他の項目よりも数値が低く、より多くの学生が予習・復習を行えるように復習を行ったか確認するなどの対策を講じたい。毎授業開始時に復習の時間を設けているがその際に学生がきちんと履修できているのか実施する予定である。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 金2

科目名 専門演習ⅠB

教員名 江島 弘晃

回答者数/履修者数 9/9

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>専門演習Ⅰbでは、主に二年生9名を対象に専門演習を展開した。二年生ということで専門的な学習を導入した。教員が専門とする運動生理学に関する研究を紹介しながら、各自興味のある研究や論文を輪読する作業を実施した。学生9名に対して、授業に対する理解度・満足度は7名が「できた」に値する5と評価し、2名が4のアンケート評価を回答した。平均は4.8と他の専門演習と比較すると、数値は高く、学生が授業構成に何らかの理解感を得られていると思われる。他にはこの授業に対して満足出来たかとの問いには9名が満足の5と評価し、平均が5.0と高い数値だった。つまり学生の理解度は高くそれなりの満足感を得ていることとなる。本授業の履修した学生8名は全員が十分な単位を取得しており、次年度では卒業研究の作成の準備段階になるため、専門演習Ⅱと同様に教員自身の専門性のある授業を展開していくことが必須と捉えている。円グラフ上でも理解度・満足度は5の評価は半分以上、4の評価は30.0%以上と全体的に見ても学生は満足していると考えている。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>専門演習Ⅰbでは学生がどのような研究に興味があるのかサイトなどを活用して自分自身で調査させた。この際に学生の取り組みの姿勢などを伺ったが、熱心に取り組む学生と熱心に欠ける学生と分かれる印象もあった。しかし、課題を授業後に実施させるなど課題をやり遂げるということを終始徹底させたことは次年度での専門演習で活用できると考えている。学生の受講態度は私語などはせず、よく質問してくれる学生が多い印象を持った。また、学生の理解の浸透度を高めるために授業に教員作成のスライドでのプレゼンテーションを視聴させることで理解促進につなげた。結果としては理解度にばらつきはなく、満足度は高かったため、学生自身は満足していると考えている。また、学生に体力測定を実施させることで自身の運動能力を把握させる実践的な取り組みを行うことで学生には良い勉強になったなどの意見をもらい学習意欲の向上につながったのではないかと考えている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>専門演習Ⅰbでは他の専門演習と同程度の人数のゼミ生ということもあり、他の専門演習との比較も検討した。授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったですかという問いに関しては9名がよい(5)と平均が5.0以上の良いという評価であり、他の専門演習とほぼ同様の値から概ね良いの評価であったと考えている。シラバスと授業内容に整合性はありましたかという問いに関しては、9名がよい(5)、と平均が5.0以上という上述の設問と近似した回答結果であった。授業展開としてはシラバス通りに運動処方理解や運動する意義などを理解させるような授業展開が評価につながったと考える。授業内容は興味あるものでしたかという問いに関しては、9名がよい(5)、と平均が5.0以上の授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったですかという問いと同様であった。これらを踏まえると、専門演習Ⅱbの授業の内容自体は学生たちは関心があると感じた。反省点としては、課題が少なく学生によく復習予習などの時間を設けさせるなどを行わせることを次年度の課題としたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>各設問に対する回答結果を考察していく。話し方は明瞭でしたかとの問いは良いに値する5が9名、と平均が5.0、熱意の感じられる授業でしたかとの問い、教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかとの問い、板書や機器(OHP、パワーポイントなど)の使用は適切でしたかとの問いは5が9名、と平均が5.0とこれ以外の上記2は3つは同様の数値であった。それ以外は平均が4.8以上と学生は方法に関して良い回答を行っていた。遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していましたがの問いに関しては、平均が4.8と若干他の問いより数値が低下したが、これは学生に基本的に私語を厳禁にした配慮と遅刻だけはしないように終始徹底させたことが大きかったと考えている。</p>

項目見出し	コメント
	<p>る。学生の授業参加を促すような工夫がなされていたかの問いには、平均が5.0と他の設問とほぼ同様の結果となった。まとめとして、学生の回答はすべてが4.8以上であり方法に関しては学生は概ね良いという評価の回答結果だったと考えている。次年度は15名の学生が新規にゼミ配属となることから、このアンケート結果と同等の数値またはそれ以上となるように学生の意欲を向上させていきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>アンケートの回答結果では、学生は他の専門演習と同様に内容の理解や満足いく演習を履修してくれたと捉えている。その一方で、設問1または2の学生自身の復習・予習、態度はよい数値の評価を下しておらず、平均は4.1という値であった。このことは、学生自身の根本的な学習意欲を変える必要があると捉えている。予習や復習を徹底させることは他の授業にも活用できる行為であることを学生自身に理解させ、次年度から実施を試みたい。各設問の評点が5を記入した学生の比率は、授業の内容は40%、授業の方法は40%、理解度・満足度については60%と回答しており、総じて5と評価した学生の平均比率は50%を超えているのは他の担当授業と比較しても教員自身は満足いく結果ではなかったと考えている。一方で、学生による自由記述はなかったため、次年度よりより積極的に記載の促しを強化したいと考えている。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 金3

科目名 専門演習ⅡB

教員名 江島 弘晃

回答者数/履修者数 12/12

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>専門演習Ⅱbでは、主に三年生を対象に卒業研究の制作に向けた準備段階として専門的な演習を展開した。学生12名に対して、授業に対する理解度・満足度は12名が「できた」に値する5と評価し、1名が4と4のアンケート評価を回答していた。これは授業の理解に関しても同様であった。したがって評価は平均が4.9となる結果であり、専門演習Ⅲと同様に4.9以上の概ね学生からは満足のいく回答結果だと考えている。今後、評価をさらに向上させるためには学生の要望を聞きながらも教員自身の専門性のある授業を展開していくことで数値も向上し、評価も最高に達すると考えている。評価が高まれば良いわけではないが、学生一人一人との面談を重ねて個人の状況を把握する必要があると考えており、双方納得のいく専門演習を通して卒業研究の制作につなげていくのが良いととらえている。円グラフ上でも理解度・満足度は5の評価は半分以上、4の評価は10%以上と全体制で見ても満足度のいく結果だったのかもしれない。他の授業と比較しても専門演習では比較的學生から満足のいく回答が得られているととらえている。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生の受講態度をよくするために個別での授業展開を導入した。グループを作成し、そのグループで課題を行う形式を実施した。その課題は卒業研究につながる課題とし、達成することは自身のためであると理解させることで学習意欲の向上を図った。今年度の専門演習Ⅱでは比較的学習意欲の高い学生で構成されているが、全体的に学習意欲を向上するためのグループ編成を行った。結果として、全員が卒業研究のテーマを設定することが出来た。今後は、グループを設けるものの、1対1で進捗状況を話し合い、集団での進捗状況を発表しあうことで自主性のある卒業研究を実施していけるように指導していきたい。次年度での授業内容の課題としている。また、学生自身が卒業研究に向けて大まかなテーマを決めることが出来たのは学生の学習意欲の向上につながるものであり、次年度での専門演習と卒業研究に今後生かせていけると捉えている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったですかという問いに関しては11名がよい、4名が1と平均以上の良いという評価であったため授業内容に関しては理解などの下回ることはなかった回答結果であったことから専門演習に関心をもって取り組んでくれたものだと捉えている。シラバスと授業内容に整合性はありましたかという問いに関しては、同様の回答結果であった。実際、授業展開としても整合性のある専門演習に取り組めていくことが出来、平均を上回ることが出来た。授業内容は興味あるものでしたかという問いに関しては、上述の問いとほぼ同様の11名がよい、1名が4と平均が4.9と高い値という結果となった。このことから、授業の内容自体は学生たちは関心があるように見受けられる。反省点としては、欠席が目立つ学生が一定多数いたことから、次年度で毎回出席させるように改善していきたい。これは前年度の課題と同様であった。次年度では履修する予定の学生も10名と増加するため、内容の適時修正しながら対応していく予定であり、この点は卒業研究でも記載した。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>話し方は明瞭でしたかとの問いは良いに値する5が11名、4が1名と平均が4.9、熱意の感じられる授業でしたかとの問い、教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかとの問いは5.0の数値であった。したがって平均は4.9であり、昨年度より弱化的低下が見られた。とくに配布プリントは各学生が関心のある論文を提示し、読ませることで、学生主体の考察力と論文を執筆する上で技法を学ばせる意図であると認識させる方法がアンケートの回答結果に繋がったと捉えている。板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切でしたかとの問いは、5名が最高の5にしており、専門演習Ⅲおよび卒業研究に比べてばらつきが多少見られた。これはパワーポイントを多用する</p>

項目見出し	コメント
	<p>ことで理解促進につなげる方法をとったが、パワーポイントではない別の方法を模索する必要があると考える。具体的には板書を用いるなどの代替を用いることで方法の手法を変更すれば学生の理解も高まると考えている。遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応してましたかの問いに関しては、平均が4.9という評価を得たがこれは最高に近い点数だったため今後も維持していきたい。学生の授業参加を促すような工夫がなされていたかの問いには、熱意とほぼ同様だが、平均が4.6と他の設問と比べて最高に達した結果となった。回答結果を統合すると、学生の回答はすべてが4.9以上であり方法に関しては他の授業アンケートと同様に満足いく結果になったと捉えている。次年度は学生が10名と成績も良い学生が集まり集団が異なるため、学生一人一人に対して積極的に指導する方法を行うことで学生の意欲を向上させていきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>設問のあなたの授業を受けた態度については、問1は平均が4.9と概ね良い評価だったと考えている。また、授業中のあなたの態度（積極性、私語、遅刻、途中退出、居眠りなど）を自己評価してくださいの問いには、平均が4.9と他の授業回答と比べると概ね良い点数であった。授業内容や方法、理解度、満足度の回答と比べて平均が下回った点は改善するよう課題を常に設定する、態度を改めさせるよう終始徹底指導することに努めていきたいと考えている。今後は、専門演習Ⅲbを履修する予定の学生は卒業研究の制作に携わってくるためより専門のある知識習得に向けた授業展開を実施していく予定である。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 月2

科目名 武道

教員名 江島 弘晃

回答者数/履修者数 19/20

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>本実習の武道では、学生の授業に対する満足度は良いに達していたのは4.6であったため、前年度の4.2よりも向上し、学生は満足に達していたと推察している。とくに設問のQ10に限らず、Q1からQ13にかけてすべてが3-5としており、学生の授業態度も熱心だった者が多かったと思う。また、教職志望の学生が多く受講していたが、授業態度も教員の予想よりもよく、本人達からの満足度もアンケートを見る限り、高かったことから双方満足いく結果になったと考えられる。武道自体が日本人では理解も不足しているが、導入性が高いであろう柔道よりも剣道を主体とした授業展開を実施した。今回、有段者は2名いたがよく授業のサポートも担ってくれて、良い授業展開が出来たと思う。学生が授業に導入しやすいように、剣道の初歩から、基本技へと段階を追って実施したことがアンケートの結果につながったと考える。その一方で、自由設問には基礎が学べたと好意見をのべる意見もあったのでよしとする。学生がアンケートに回答している際、自由設問に記述するよう促したが、とくに意見などの記載はなかったため必ず記載させることが授業の今後のさらなる向上につながると考えられる。ただ、記載はないということは次年度の授業も同様の手順で実施していけば学生の満足度も得られると考える。この点は要注意であり自由設問の記入を促していきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>(1)に記載したように日本人の学生は資格取得の意識が強いので受講しているように感じた。そのため、双方納得のいくよう創意工夫したが、あくまでも授業であるということ認識させた。具体的にはまず、道着の装着方法からすり足の仕方などの基礎中の基礎となる基本技術を習得させるため、2~3コマ分の授業を用いて学生に指導するような形で授業展開を実施した。その結果、中盤以降の授業では大半の学生が基本技などの習得が容易に感じられた点、スポーツの実技に見られる試合形式の授業を多用せず、段階を追って授業展開を行ったことで学生の学習意欲につながったと考えられる。また、授業に対して熱心さに欠ける学生も一定数いたが有段者による試合を履修生の学生たちに観戦させた点は剣道のダイナミックな動きがあることを承知させることで迫力のある試合が出来る点や模範を示す点で学生の受講態度の向上につながったと考えられる。また、今年度はICT活用として、学生自身の動作確認を動画で撮影してポートフォリオに視聴させた工夫を実施した。剣道は素早い動きを行うことが試合での有利な展開につながると考えられるが、動きを取り入れた指導を行うことで、学生の興味がある、理解しやすい、意図がある授業展開につなげることが今後の課題と考えている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>受講した学生の半数が「良い」の5であったが、授業の編成、シラバスとの整合性、そして学生が興味を引くような授業展開を実施した結果だと考える。その一方で数名ほど評価が3の学生もいた。最低の1の評価をした学生はおらず、前年度より向上が見られた。今後の課題として、履修学生が満足いく内容にするためには学生一人一人に対しての密な教育指導が必要になる。また、本実習は学生の履修生も少なく、学生を特定することが出来るが、公平性を持って授業を展開する必要があり、個別性を理解した配慮が必要であると感じている。例えば、履修していた学生の中に今回有段者がいたため、模範となる学生一人に対して学生一人ずつ稽古を実施した工夫を取り入れることができた。その一方で素人同士で稽古をつけることがむずかかった。また、学習意欲も前年度より高く、剣道を学びたいという学生は多く見受けられた。この点は終盤に学生同士で技能の差が中盤以降から明確になっていたため、技能が低かった学生に対してもう少し親切丁寧に指導すれば有意差は改善でき、アンケート結果も変わったであろうと推察している。次年度からの課題として全履修者の技能レベル向上できるよう学生一人一人の密な指導による授業展開が必要であると認識</p>

項目見出し	コメント
	している。
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>アンケートの結果では、話し方、熱意は「良い」が12名と多く、4が7名程度で3が2名という評価であった。配布プリントを各授業で配布したことで授業の理解浸透度を高めるよう、また復習・予習の武道に関して事前学習を行うなどの創意工夫をしたが、なかなか評価しない学生がいたことが前年度の課題であったため、今年度はICT活用として動画撮影を実施した。機器の使用を頻繁に使用したことや授業の妨げにならないように学生に問いかける授業展開を行うことで学生自身もその対応を理解してくれていたと考えている。そして、学生が授業参加に積極的に介入するように試合形式を取り入れたり、団体戦での試合を実施したことが学生自身もその創意工夫を理解し、アンケートでの評価として表れたと考えられる。全体的に履修した大半の学生が「良い」と評価してくれており、次年度も今年度と同様の授業展開を実施していく計画にある。しかし、また次年度から学生の様相も変わるであることが予測されるため柔軟に対応していきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>授業アンケートの結果を閲覧し、率直な感想は満足のいく内容と感じている反面、不満を述べている学生は今回いなかったため、学生に対する配慮は前年度より向上したと思う。授業を行う際、配布プリントを多く使用し、またパワーポイントの使用、ときにはインターネット上で学生が理解しやすい剣道に関するルールを公開、そしてビデオでの有段者による試合の閲覧を実施するなどの工夫を凝らした。しかし、評価の低い学生は資格取得のための授業という認識しかなく、学ぶ姿勢はあまり感じられない。また、留学生に対しても時にはマンツーマンでの実技指導などを徹底することが出来たので双方満足 of いく授業展開が出来たと考えられる。マナハ上での課題提出などの授業を展開したが、楽しい、学べた、という評価を述べた意見もあった一方、上記の不平を述べる意見もあったため、今後の課題として、有段者の試合の動画を授業冒頭に見せるなど、創意工夫を行うようにしたい。さらに、自由設問に記入する学生は不平をのべる学生もいたため、次年度はより多くの学生に良い意見が記載してもらえるように記述時間の確保や記載の際に積極的に介入する必要があると考える。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木3

科目名 教養セミナー

教員名 江島 弘晃

回答者数/履修者数 11/11

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>教養セミナーでは、一般の他の授業でのアンケートと異なり、設問の10のこのセミナーに参加して満足できましたかという問いに満足の5を記した9名、4に1名という結果で平均が4.7だった。これは、授業に十分満足している学生が多数ということであり、2名のみは最高の5ではないものの概ね良いの評価を下していると捉えている。実際、自由記述の所でも資料を見やすくするためにプロジェクタースクリーンを用意してもらい良かった。先生の授業の進み方が良くて授業中の理解が容易だった。などの肯定的な評価を得た。また、発表の時のスライドの改善や助言より発表の手助けをしてもらい、とても助かった。発表の仕方などについて学ぶことが出来たなどの学生自身がセミナーを通して学習していたことが満足感を得た結果に繋がったのではないかと考えている。課題に関しては、学生もよく対応してもらい後期から積極性のある姿勢が見られた。一方で、否定的な意見も必要な中でマニュアル通りの授業展開に加えて教員自身のアレンジも学生の学習意欲の向上に生かしたいと考えている。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>教養セミナーでは、他の担当教員と同等の11名の履修であり、学生の配属は専門遠州とは異なり、学生自身の意思とは無関係である。そのため、学生の雰囲気も手探りの状況の中で前期を終え、学生一人一人の特性などを大部分把握することが出来た中で後期をむかえた。今回、担当した8名の学生は、ばらつきはあるものの皆素直なある程度真面目な学生達で熱心に課題などに取り組んでいた。とくに自由記述の方にも記載があったが、プロジェクターを用いたスライドでの授業展開は、学生から満足のいく、また学習意欲の向上につながったものと捉えている。さらに、マナバでのアンケート回答や課題提出などを実施させることで課題などを容易に取り組ませるような配慮を実施した。反省点としては8名と少ない人数だったため、もう少し学生同士の交流を増やし、仲が深まるように教員の方から授業展開を実施すべきだったと考えている。しかし、ある程度のグループが出来ていたことからグループ間でのいざこざなどはなく、学外授業での行動も8名でのグループ行動を実施することが出来、今後はより交流が深まるような授業展開を実施できるよう計画していきたい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>教養セミナーでの(3)に関する記述は、内容は興味が持てものでしたかおよび学ぶことに対して興味・関心が増したかの2つの設問に関しては満点の5の記載が8名、4が2名、普通の3が1名と平均が4.6と他の授業のアンケートの回答結果とは低い値だった。これは教養セミナーがある程度実施する内容に統一性があったため内容自体を大幅に変更することは出来なかったが、教員自身が多少のアレンジを加えることで学生に内容をよく理解させるよう務めなければならないと考えている。具体的にはビデオやスライドを用いた視覚的な理解などを多用することで学生にはよりよい理解促進につながるのではないかと考えている。今後の改善策としては、昨今の学生の実態を詳細に把握し興味関心があるもの、大学教育としてのシステムや親切丁寧な指導教育を行えばより学生から授業内容を理解してくれるものと考えている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教</p>	<p>教養セミナーにおける担当教員の取り組みに関して各設問に対する回答結果を考察していく。教員はセミナーに対して熱意をもっていましたがの問いは、良いに値する5が8名、4が2名と平均が4.6、あなたの疑問や質問に対して誠実に答えていましたかの問いは、良いに値する5が7名、4が1名と平均が4.9と高い水準だったのではないかと捉えている。また、学生の参加を促していましたかの問いには5が7名、4が3名と1名が3の平均を下回る評価を下していた。これは改善すべき点であるといえ、参加をより積極的に促すように次年度では参加を促す時間帯を設けるなどの対応を行いたい。あなたの相談などに対して誠</p>

項目見出し	コメント
養セミナー Q4～Q7	<p>実に対応していましたかの問いには9名が5、各1名が3と4と平均が4.7の満足のいく結果となった。今後は内容を多少学生が理解しやすいような取り組みを増やすとともに新年度の学生への取り組みとして十分注意しながら行うこと、今まで以上に誠実に対応することで学生の満足度は高まるのではないかと考えている。</p>
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>率直な意見としては教養セミナーの取り組みを理解し、新入生の担当教員として誠実に学生に対応できたと考えている。とくに単位取得の制度をよく学生に指導したことは、学生が教員の誠実に対応していたという回答結果に表れたのではないかと考えている。その一方で、セミナーの内容に関しては数値が低く、要改善が必要ではないかとも思える。これは内容の統一性の中から教員自身のアレンジを加える必要があり、より学生の理解促進に繋がるよう映像での理解やより分かりやすい説明・スライドの使用を行い、学生に内容理解に努めていきたい。また自由記述の中には少人数クラスの教養セミナーを実施できて良かったとも記載しており、少人数だからこそその授業展開をよりよく活用し、学生一人一人の丁寧な指導を次年度ではより展開したいと考えている。学外授業では、今年度ではやおづ六区での取り組みとなったが、次年度では別の場所で異なる内容を実施することでさらに国際観光だからこそ取り組めるオリジナルのある内容を展開したいとも考えている。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 月2

科目名 生徒指導論（栄養）

教員名 川上 知子

回答者数／履修者数 3／4

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q10</p>	<p>満足度は高い傾向にあったが、未回答の学生の状況が分からないことを踏まえ、引き続き、初心の気持で、学生の実態に応じた授業の方法の提案等を意識して、授業を展開していきたいと考える。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>主に3つの柱を大事に授業をすすめた。①学生自身の自己理解を深めるために、自分自身と向き合う時間（自分の考えを言語化）、他者との交流で、言語化したものをアウトプットする場を毎時間設定したこと。②毎時間の学生の学びをファイリングし、授業内外で振り返る仕組みを構築したこと（自分の変容、考えの深まりをメタ認知しやすくなる）。③互いの意見を交流する場（ペア、グループ）を設定し、多様な価値観があり、正解は1つではないことを時間する場を設定すること。この継続が、彼らの意欲向上につながっているかは定かではないが、彼らの授業内容との向き合い方の変化を感じることができた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>授業の内容については高い結果を得られたが、受講者が少ないため、多様な価値観の交流が不十分になりやすい。そのあたりの工夫は、引き続き意識して授業を展開したいと考える。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>授業の方法もまた、少人数ならではの良さもあるが、考え方の深まり、多様な考え方の出会いの数は、どうしても不足しがちである。そこを何で補っていくのか、教師の経験だけにとどまらず、映像や新聞等の情報も加えながら、工夫をしていきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>また、彼ら自身の知識の土台に、自分自身が受けてきた生徒指導が良くも悪くも根付いているため、その部分を一旦は横において、教師の視点で、そして実態に応じて、理解も実践ベースも再構築するイメージで授業を展開したが、学校現場に行った際、授業の知識を、しっかりとつなげていくためには、まだ課題が根深いと感じている。理論と実践をスムーズに往還させていく、授業内容、展開について、引き続き考えていきたいと思う。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火4

科目名 生徒指導論

教員名 川上 知子

回答者数/履修者数 18/28

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>満足度は高い傾向にあったが、未回答の学生の状況が分からないことを踏まえ、引き続き、初心の気持で、学生の実態に応じた授業の方法の提案等を意識して、授業を展開していきたいと考える。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>大きく3つの柱を大事に授業をすすめた。①学生自身の自己理解を深めるために、自分自身と向き合う時間（自分の考えを言語化）、他者との交流で、言語化したものをアウトプットする場を毎時間設定したこと。②毎時間の学生の学びをファイリングし、授業内外で振り返る仕組みを構築したこと（自分の変容、考えの深まりをメタ認知しやすくなる）。③互いの意見を交流する場（ペア、グループ）を設定し、多様な価値観があり、正解は1つではないことを時間する場を設定すること。この継続が、彼らの意欲向上につながっているかは定かではないが、彼らの授業内容との向き合い方の変化を感じることができた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>生徒指導論は、学生たちが受けてきた教育実践の影響を強く受けていることもあり、まずは、自身が捉える生徒指導についての考え、印象などを共有することを大事にしたい。2022年に新しく改訂されていることを受け、生徒指導は大きく価値観の変換がなされ、学校現場もその対応に追われていることが想定される。次年度に教育実習を控える学生たちの授業では、そういった学校現場の現状も一つの参考として共有するとともに、自分の考えを持つことの大切さも同時に伝えていきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>授業の方法については、高い結果となったなら、学生の実態は毎年変化していくので、初心の気持ちを大切にして、学生の実態把握を丁寧に行い、新しい気持ちで授業に臨んでいきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>授業外学修の設定において、課題を感じた。学生に予習と復習を意味ある時間として設定するための、課題の工夫について、今一度アイデアを練る必要があると実感した。 また、彼ら自身の知識の土台に、自分自身が受けてきた生徒指導が良くも悪くも根付いているため、その部分を一旦は横において、教師の視点で、そして実態に応じて、理解も実践ベースも再構築するイメージで授業を展開したが、学校現場に行った際、授業の知識を、しっかりとつなげていくためには、まだ課題が根深いと感じている。理論と実践をスムーズに往還させていく、授業内容、展開について、引き続き考えていきたいと思う。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 水1

科目名 進路指導論

教員名 川上 知子

回答者数/履修者数 17/28

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>受講者全員が回答できていないが、回答した学生全員が満足と感じていくれていることは、とても励みになる結果であった。しかし、何に対して満足と捉えているのか、学びに繋がる内容であったか、実践につながる考え方・力を培うことができたか、については、冷静に自身でも振り返りたいと考える。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>大きく3つの柱を大事に授業をすすめた。①学生自身の自己理解を深めるために、自分自身と向き合う時間（自分の考えを言語化）、他者との交流で、言語化したものをアウトプットする場を毎時間設定したこと。②毎時間の学生の学びをファイリングし、授業内外で振り返る仕組みを構築したこと（自分の変容、考えの深まりをメタ認知しやすくなる）。③互いの意見を交流する場（ペア、グループ）を設定し、多様な価値観があり、正解は1つではないことを時間する場を設定すること。この継続が、彼らの意欲向上につながっているかは定かではないが、彼らの授業内容との向き合い方の変化を感じることができた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>授業内容についても、学生の実感としては高い結果であったが、あくまで今年度の結果であり、次年度新しい学生との授業についても、実態把握を丁寧に行い、かつ、教職に就く上での資質能力を引き続き、育む意識で授業をつくっていきたいと考える。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>授業の方法についても、回答者全員が良いと回答してくれているが、未回答の学生もいるため、この結果に甘んじることがないように、初心の気持ちで授業を展開したいと考える。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>授業外学修の設定において、課題を感じた。学生に予習と復習を意味ある時間として設定するための、課題の工夫について、今一度アイデアを練る必要があると実感した。 また、彼ら自身の知識の土台に、自分自身が受けてきた進路指導が良くも悪くも根付いているため、その部分を一旦は横において、教師の視点で、そして実態に応じて、理解も実践ベースも再構築するイメージで授業を展開したが、学校現場に行った際、授業の知識を、しっかりとつなげていくためには、まだ課題が根深いと感じている。理論と実践をスムーズに往還させていく、授業内容、展開について、引き続き考えていきたいと思う。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 月3

科目名 Practical English II A
 教員名 John Patrick Owatari-Dorgan
 回答者数/履修者数 15/18

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>For Q13, students gave me a 4.7 which is a slightly lower score than last year. Since this score is fairly high, I believe that students were very satisfied with the class. Of course, I would like to raise the satisfaction for the class in the future. This class includes a lot of out-of-class work so that may have hurt student satisfaction. Also, I also believe that some students had trouble understanding some of the activities in the class. On the other hand, I believe that the changes made to the curriculum since last year has improved the class. This year, students were asked to complete a long interactive project this year that involved visiting Huis Ten Bosch. I believe that this project probably contributed to student satisfaction.</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>Students responded very well to the long project that we completed during the semester. During this project, students had to write, plan and record a video at Huis Ten Bosch. Many students talked about enjoying this project. In the next year, I am planning to expand the project to include more activity and interactivity. During the project, students were given a lot of personal attention. I believe that this personal attention helped the students feel satisfied with the class. We also gave students a lot of time to discuss various topics with their classmates. I think that this discussion time probably improved students satisfaction.</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>For Q3-5, the students gave me good score that show that most students were satisfied with the content of the course. Of course, I will work to improve the content. Since this class is a high-level English communication class (Global Tourism), it is natural that the material was difficult for students to understand. In general, I will try to improve the way that the content is presented to the students so that it is still challenging but provides the students with more time to think and prepare. Moreover, I will try to communicate more clearly with students about the requirements of the class and the homework. In general, I think that the students felt that the class was well organized and that the class followed the syllabus well.</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>In Q6-11, student gave me excellent scores and I believe that students were pleased with my communication, enthusiasm, materials and teaching methodology in class. I believe that students were satisfied with these elements because the class has followed the same plan for several years and went very smoothly with very little trouble. Students did not seem to have any problems with in-class participation. Based on this, I will try to continue to provide students with good opportunities to participate in the class. For example, I will try to encourage the students to voice their opinions about the project actively again next year. Students seem like they were a little displeased with that powerpoints and other classroom technology was handled. In the future, I would like to move away from and all digital classroom to give the class a more hands-on feel.</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>Overall, I am satisfied with the results of this survey. I feel that it provided me with significant insight into the needs of the students. I look forward to making changes to the class next year based on the information in the survey. Hopefully, students will be satisfied with the changes.</p>

アクションプランシート

2025年度後期 金1

科目名 Japanese Culture B

教員名 John Patrick Owatari-Dorgan

回答者数/履修者数 18/25

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>For question 13, students gave me a 4.6. This score is a slightly higher than previous scores for this class. I think that students are generally satisfied with the course. Of course, I would like to improve satisfaction as much as possible. In the future, I would like to implement changes to improve the satisfaction with the course. I believe that some of the students were not 100% satisfied with the class because the materials used in the class are challenging and require a lot of out-of-class preparation.</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>In order to raise student satisfaction, I will try harder to limit the amount of pre-reading for each lesson. I will also try to develop new discussion activities to help students feel more engaged with the material. I will also try to select materials that are easier to understand for the students. Furthermore, I will try to use more of other types of materials such as videos and news articles.</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>For questions 3-5, the students gave me good scores that show the materials were interesting for them. I believe that the materials are very difficult for the students so they are interested in them but require more support. I will also try to use more creative methods and materials to help them understand and remain interested. Moreover, I will try to do a wider variety of activities in class to improve engagement.</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>For questions 6-9, students gave me scores that are very good and I think this means that students are generally happy with the way that the class is managed. My scores were lowest on the section about materials and the section about classroom management. Next year, I think I need to find ways to help students prepare for class in a more engaging way. I will also try to slow the class down and take more time to explain important concepts to students. Furthermore, I will try to manage the students during class more effectively. This is always challenging because the class is discussion based.</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>I found the results of this survey very helpful and I now have a clear understanding of what I should do to improve this class and student satisfaction with this class. I think that it is very important for me to use the information in this survey to make the student experience better. I will work next year to make this class even better.</p>

アクションプランシート

2025年度後期 水2

科目名 スポーツ社会学

教員名 末永 貴久

回答者数/履修者数 114/164

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>平均4.6であり、学生が一定の満足感を得たと考えられ、良好な結果だと理解する。講義の準備や教材研究には、多様な媒体を活用し、時間を割いていることから、実際の授業においても余裕を持って取り組むことができている。今後もこのような結果を維持できるよう、スポーツが社会に与える影響を、世界の情勢や学生のニーズも捉えながら、参加意欲を高く持たせるよう心がけたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>スポーツと社会のつながりを考えていく講義であるため、まずはその時のタイムリーなスポーツの情勢を幅広く伝え、自分のこととして考えさせることから取り組ませている。毎回のよう、スポーツの本来あるべき姿、スポーツの陰と陽、利用されるスポーツ、スポーツと施策、そして「する・みる・支える」スポーツマネジメントについて、多方面から捉え、考察させている。また、その日の授業のトピックにあわせて、社会学的に課題をいくつかピックアップし、それについて個人の意見、グループワーク、発表なども盛り込んでいることが、積極的な受講態度につながっていると考えられる。</p> <p>授業の開始時には、前回の課題についてフィードバックしている。課題の回答内容を一部紹介することで他の学生がどのように考えたかを共有したり、課題提出の励みにさせている。時事の紹介では、インターネットからだけではなく、新聞やテレビも含めてなるべくスポーツ社会学に関連する記事を紹介し、興味を持たせている。同時に、動画も活用し、授業の流れに飽きないような対策をとっている。</p> <p>課題はほぼ実施している。内容については、まずは短時間で取り組むことができる設問や、自身のアイデアにつながるような事柄、さらに授業で考えた内容をさらに深め、提出が促進するよう心がけている。そのことにより、課題に取り組むことが、授業の予習・復習につながると考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業の構成には力を入れているため、学生は理解しやすいのではないかと考える。内容によっては情報量が多くなったり、説明が長く一方通行になることもあるので、授業の流れや強弱にはより気を遣いたい。</p> <p>授業の基本となる内容はほぼシラバスに合わせて進めているが、導入ではスポーツの時事ネタを多くと入り入れている。その時事の紹介や課題のフィードバックにも時間を取っているため、多少次回に繰り越すこともあるが、それも振り返りの機会として捉え、実施している。</p> <p>授業内容への興味も全体的には良好であることから、あまり興味が高くない学生に対しても、ある程度の意欲を持って取り組ませることができていると考える。スポーツの現状を伝えることに加え、学生がより興味を持つ内容や、印象に残ることを探求したい。</p> <p>また、受講人数が160人名程度の授業であるため、全体を見渡すことが難しく、中には授業以外のことをしている学生も存在していると思われる。動画の視聴や、グループワークのタイミングを上手く活用することで、授業への集中力を高めさせたい。また、授業中に質問を受けることが難しいため、授業中に取るカードなどを活用し、質問しやすい環境を作っていく必要がある。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p>	<p>幅広い種目や内容を取り上げる中で、自分の専門種目や興味のある内容についての現状を把握させ、動機付けを高め、授業に現実感を持たせている。その上で個人の調査、グループワーク、発表などを行わせ、積極的な参加を促そうと試みている。また、出席カード提出や授</p>

項目見出し	コメント
▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー／教 養セミナー Q4～Q7	業中の課題提出、またレスポンスも活用することで授業への参加を促し、不正出席対策にも取り組んでおり、そのことは学生にも伝わっている。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>全体としての授業評価は良好であり、授業全般で準備し、実施し、考えさせるアクティブな授業をしていることが学生にも伝わっていると考えられる。しかし質問1.2を見ると、まだ受け身の学生が多い印象であり、改善の余地は大きい。また、本授業では課題への取り組みが「予習・復習」の意味合いを持たせているが、その趣旨が伝わっておらず、学生自身が準備学習をしたと捉えていない。課題の内容を工夫し、学生が思考する時間や頻度を増やすことで、準備学習と感ずるよう見直していく必要がある。</p> <p>授業中の学生自身の態度・積極性などについても、積極的な学生が存在する反面、特に今年度は、おしゃべり、不関心な態度、居眠りの学生も見受けられたことから、より学生の積極性を導き出すことが課題である。改善していきたい。</p> <p>なお、この授業は1年生が基本の開講年次のため、スポーツへの関心を高め、スポーツへの多様な捉え方を学ぶ機会と位置づけている。また、教員の経験測に基づき、できるだけ現実的に繋げて考えさせることを心がけているので、スポーツの奥深さを感じる、様々なスポーツへの関わり方を考える機会になっていると思われる。これらのことから本授業は、学生が将来、そして生涯にわたりスポーツに何らかの関わりをもつ礎になっていくことを意識し、授業を充実させたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火1

科目名 地域振興論

教員名 張 美慶

回答者数/履修者数 81/95

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>「この授業に参加して満足できましたか」という項目では、5点満点中4.4点を取得しました。すべての学生が満足できる授業を行うことは容易ではありませんが、今後も履修する学生の満足度をさらに高められるよう、より質の高い授業運営に努めてまいります。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>今回の「地域振興論」の授業では、特に留学生の履修が多いという特徴を踏まえ、学生の受講態度や学習意欲の向上につながるよう、内容と方法にさまざまな工夫を加えた。本授業では、日本の地域振興を理解するうえで、他国の地域再生の動向を比較しながら学ぶことが効果的であると考え、中国、韓国、シンガポールなど、アジア諸地域の具体的な事例を積極的に取り入れた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>「授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったですか」という項目では 4.3点、「シラバスと授業内容に整合性はありましたか」では 4.5点、「授業内容は興味あるものでしたか」では 4.5点を取得し、いずれの項目も 4 点以上の評価を得ることができた。これらの結果を踏まえ、今後も授業構成や内容の整合性に一層の注意を払い、より質の高い授業づくりに努めていきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>アンケート質問項目6から11のすべてで 4.4 点以上を取得することができたが、今後は授業内容の説明をより一層明確にし、学生の理解度をさらに高められるよう努めていきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>今回の「地域振興論」の授業アンケート結果を受け、学生の皆さんから寄せられた評価や意見を大変貴重なものとして受け止めている。全体として、満足度を含む多くの項目で 4 点以上の評価を得ることができ、特に 質問6から11の項目ではすべて 4.4 点以上を取得した。授業構成、シラバスとの整合性、授業内容の興味深さなど、多方面で高い評価を得られたことは、授業担当者として大きな励みとなった。本授業は留学生の履修が多いという特徴がある。そこで、より多様な背景を持つ学生が理解しやすい授業となるよう、中国、韓国、シンガポールなどアジア諸地域の具体的な地域振興や地域再生の事例を積極的に取り入れた。学生にとって馴染みのある国の事例を扱うことで、学習内容が自身の体験と結びつきやすくなり、主体的に授業へ参加し</p>

項目見出し	コメント
	<p>ようとする姿勢が高まったように感じている。また、日本の地域振興施策を説明する際にも、他国の動向を比較することで、地域振興は特定の国の課題ではなく、多くの国々が共通して取り組んでいるテーマであることを理解してもらうことを意図した。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火5

科目名 テーマパーク論

教員名 張 美慶

回答者数/履修者数 125/160

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>本授業について、学生の満足度は5点満点中平均4.1点という評価を得ました。 高い数値ではありませんが、テーマパークに関する授業内容を履修した学生が、ある程度満足していることがうかがえます。 一方で、一部の学生からはチーム発表やディスカッションの時間をさらに充実させてほしいという要望も挙がっておりました。 これらの意見を踏まえ、今後はより実践的な事例の追加や学生同士の意見交換を促す活動の強化などを行い、さらなる授業改善に努めてまいります。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>今回の授業において、学生の受講態度や学習意欲の向上につながった取り組みとして、授業中の集中度を高めるための工夫を行った。学生の受講態度は多様であり、一概に傾向を特定することは難しいものの、中には授業中にスマートフォンを操作するなど、学習への集中が十分でない様子も見受けられた。そこで、授業の途中でレスポンス形式の質問を取り入れ、学生が自然と授業内容に注意を向けるよう促した。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>「授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったですか」という項目では、4.0点を取得しました。 学生が授業内容により関心を持って取り組めるよう、今後はさらに分かりやすく理解しやすい構成になるよう工夫していきたいと考えております。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>授業方法に関する「話し方は明瞭でしたか」という項目では、3.9点というやや低い評価を取得しました。 学生がより理解しやすい授業となるよう、今後は日本語の発音や話し方を一層明確にし、伝わりやすい説明を心がけてまいります。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>今回の授業アンケートの結果を拝見し、学生の皆さんから寄せられた評価や意見を大変貴重なものとして受け止めている。全体として、授業に対する満足度は5点満点中4.2点という評価を得ており、一定の成果が示されたと感じている。テーマパークに関する講義内容について、学生がある程度満足し、興味を持って受講してくれたことは授業担当者として大きな励みとなった。 一方で、「授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったですか」という項目では4.0点、「話し方は明瞭でしたか」という項目では3.9点と、比較的低めの評価も見られた。特に話し方や発音の明瞭さについては、日本語が母語ではない点もあり、学生に聞き取りにくさや理解しづらさを感じさせてしまった可能性があると考えてい</p>

項目見出し	コメント
	<p>る。今後は発音や語尾の処理、説明のテンポなど、日本語での伝達方法をより明確にし、理解しやすい授業運営に努めたい。</p> <p>また、授業中の集中度に関しては、学生の態度が多様であるため一概に評価することは難しいものの、講義中にスマートフォンに注意が向いてしまう学生が見られた。そこで、授業の途中にレスポンス形式の質問を取り入れることで、学生が自分自身の理解度を確認しつつ、自然と授業内容に集中できる仕組みを導入した。この取り組みは一定の効果があり、学生の参加意識を高める助けになったと感じている。さらに、一部の学生からはチーム発表やディスカッションの時間をより充実させてほしいという意見も寄せられた。学生同士が積極的に意見を交換し、主体的に学ぶ活動は、テーマパーク研究のような実践的内容において特に効果的である。</p> <p>今回の評価と意見を真摯に受け止め、学生が主体的に学び、理解を深められる授業づくりを引き続き目指していきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 金4

科目名 保健体育科教育法Ⅰ

教員名 長津 恒輝

回答者数/履修者数 31/43

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>本授業の満足度については、受講者31名中29名が最高評価である5を付けており、全体として非常に高い評価を得ることができた。授業では、体育の楽しさや面白さを子どもにどのように伝えるかという視点を重視し、単なる知識の習得にとどまらず、実践的に考えさせる内容を展開したことが評価につながったと考えられる。一方で、今後は学生間の理解度の差にも配慮しながら、より多様な視点から考察を深められるような課題設定や指導方法の工夫を行い、さらなる満足度の向上を目指していきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本授業では、学生の主体的な参加を促すため、模擬授業に加えて、全員が指導経験を持てるよう簡単な運動遊びの指導場面を設けた。これにより、受動的な学習にとどまらず、実践的に関わる機会を確保することができた。また、初回にスマートフォンの使用ルールを明確にし、学習活動に関連する使用は認めつつ、不適切な使用には厳格に対応する方針を示したことで、授業への集中を維持することができた。さらに、ICTを積極的に活用し、視覚的・即時的な情報共有を行うことで、理解の促進と学習意欲の向上につながったと考えている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>授業内容に関する評価は平均4.9以上と非常に高い水準を示しており、学生の興味・関心を喚起する内容構成が一定の成果を上げていると考えられる。特に、自身の生徒時代の経験と現代の教育環境との差異を提示し、現場で想定される課題を具体的に取り上げた点が、理解の深化につながった。また、シラバスに基づいた計画的な進行を心がけるとともに、模擬授業においては授業者と生徒役に加え観察者の役割を設定し、終了後にグループディスカッションを行うことで、多角的な視点からの振り返りを促した。今後もこれらの取り組みを発展させ、より実践的な学びの充実を図りたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>授業方法に関する評価についても平均4.9以上と高い値を得た。授業では、パワーポイント等のスライド資料を分かりやすく構成することを意識し、視覚的に理解しやすい提示を行った。また、知識を体系的に伝える場面と、情意面に訴えかける場面を意図的に使い分けることで、学習内容への関心と理解の双方を高める工夫を行った。加えて、私語の防止など授業規律の維持にも配慮し、集中できる学習環境の整備に努めた。さらに、各回にグループワーク等の活動を取り入れることで主体的な学びを促進した。今後は、学生の多様な学習スタイルに応じた方法のさらなる工夫を図りたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>本授業は全体として非常に高い評価を得ることができ、授業内容および方法の両面において一定の成果を上げられたと考えている。特に、主体的な学びを重視した授業設計や、実践的な活動の導入が学生の理解と意欲の向上に寄与したと感じている。一方で、専門性と学生の理解度とのバランスや、さらなる個別対応の必要性といった課題も認識している。今後はこれらを踏まえ、より質の高い授業の実現に向けて継続的に改善を図っていきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 月5

科目名 スポーツ実習B

教員名 長津 恒輝

回答者数/履修者数 35/39

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>本授業の満足度は平均4.9と非常に高い評価を得ることができた。高校までの体育とは異なり、「スポーツ実技」として運動やスポーツそのものの楽しさを実感できる授業を重視し、技能や記録に偏らない内容構成を行ったことが評価につながったと考えられる。また、男女差や留学生の有無、学年や運動経験の違いに配慮しつつ、できる限り多様な学生が混ざり合うようルールやグループ編成を工夫した。今後も多様性を尊重しながら、誰もが楽しめる環境づくりをさらに発展させていきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>授業内容については、学生の希望する種目を取り入れるなど一定の柔軟性を持たせることで、主体的な参加を促した。また、初回に十分なコミュニケーションの時間を設けることで、学生同士および教員との関係性を構築し、その後の授業への積極的な関与につながることができたと考えている。さらに、出欠や服装などの基本的なルールについては初回に明確に示し、継続的に徹底することで、授業への集中度を維持した。これらの取り組みにより、全体として良好な受講態度と学習意欲の向上が見られた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業内容に関する評価は平均4.8以上と高値を得た。学生の興味関心に基づいた種目選択を行うとともに、活動量や運動量を重視し、身体を動かす楽しさを実感できる内容とした点が評価につながったと考えられる。一方で、留学生にとっては馴染みのない種目も多く、ルール理解に困難が見られる場面もあった。今後は、説明時の語彙や表現を工夫し、視覚的な補助やデモンストレーションを取り入れることで、より理解しやすい授業内容の提供に努めていきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>授業方法に関する評価も高い評価を得た。体育館や屋外での実施という特性を踏まえ、常に明瞭で聞き取りやすい説明を心がけ、大きな声での指示や繰り返しの確認を行った。また、学生が理解できているかを適宜確認しながら進行することで、活動の停滞を防いだ。加えて、時間管理を意識し、活動と休憩のバランスを調整することで、効率的かつ安全な授業運営に努めた。今後もこれらの点を継続しつつ、より円滑で質の高い指導方法を追求していきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>本授業は全体として非常に高い評価を得ることができ、学生がスポーツの楽しさを実感しながら主体的に参加できる環境を一定程度構築できたと考えている。多様な背景を持つ学生が混在する中で、相互の関わりを促進しつつ授業を展開できた点も成果である。一方で、留学生への配慮や理解度の差への対応など改善すべき課題も明らかとなった。今後も安全性を最優先としながら、誰もが安心して取り組める授業づくりを継続していきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 金4

科目名 器械体操
 教員名 吹上 新悟
 回答者数/履修者数 23/28

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>受講者全員から回答を得ることができなかったが、高い割合で「理解できた」「満足」の評価を得た。授業方法と評価方法の一致、受講者が自身の成長を感じることでできる設計ができたことによるものであると思う。今後もより多くの理解や満足を得るため、到達目標を段階的に明示して設定しながら授業実践していきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>実技系の授業であり、技の「できる」「できない」がはっきりしている種目であること、身体にかかる負荷や衝撃が大きく、怪我につながりやすいといった特徴があるため、苦手意識を持った学生が多い。授業の中では丁寧にストレッチや補助運動、技の習熟段階を示すことに時間をかけ、学生たちが自身の体験を通して知ることを重視した。また、自身の体験を振り返らせるために、技能チェックシート及びワークシートを用意し、視覚的に達成度わかるように、自身の振り返りを確認して理解を深めることを意識つけた。自発的に課題に取り組むことができるように柔軟な時間設定を行い、受講者間の交流が増えるように働きかけた。自然発生的に受講者同士で教え合いが発生するように、動画撮影専用タブレット端末を常備した。配置した補助学生によって、安全の確保と受講者間のコミュニケーションが円滑に進んだ。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>受講者全員から回答を得ることができなかったが、高い割合で良い評価を得た。今回実施した内容自体に問題はなかったと感じるが、構成にばらつきがあり、授業編成やまとめ方に改善の余地がある。学習指導要領に照らし合わせれば、器械体操の中でマット運動、鉄棒、跳び箱、平均台を取り扱うことが示されているが、現在は平均台を省略している。用具がない問題を差し引いても、今後は補助運動などの中で、平均台に関連する動きを通して感覚的な刺激を入れ、器械体操に関わる能力の向上と学生が理解しやすい構成をしていく。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>受講者全員から回答を得ることができなかったが、高い割合で「良い」評価を得た。しかし、少数の「良くない」評価がQ10,11であった。この原因は授業の性質上、準備に時間がかかるため、体育館に集まった人から道具の設営、準備完了してから開始の形式であったため、遅刻者の取り扱いが甘くなったと反省している。また、目標に向かって行う建設的なコミュニケーションよりも雑談も散見されたことも原因の一つであった。今後は改善に向け、観察者と運動実践者の役割分担を柔軟に行い、学習者自身が立場を理解した上でコミュニケーションをとる機会を増やす。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>近年体育では「できる」よりも「わかる」を優先する風潮がある。運動を体験するなどの目的では、正しい面もあると思うが、スポーツの世界ではこの逆転現象が起こりうる。保健体育科教員を要請する立場として、「できない」のに「わかる」状態を基本的に認めたくない。運動指導者として、自身の経験から得られたことを学習者に伝えることはとても重要である。今回の授業アンケート評価は概ね高評価を得たが、成績としては高評価が少なかったため、自身の成績と照らし合わせたとき、学生たちがどう感じるか気になる。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火4

科目名 日本語Ⅱ

教員名 諸石 慈

回答者数/履修者数 9/13

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>平均値は4.8であり、満足 (5) が7名、やや満足 (4) が2名であった。3以下の評価は見られなかった。受講学生の多くが本授業に満足していることがわかる。ペア活動やグループ活動を取り入れたコミュニケーション中心の授業構成により、学生が主体的に参加できる学習環境が形成されていたことが満足度の高さにつながったと考えられる。向上策としては、今後もペア・グループ活動を通じたコミュニケーション活動を中心とし、学生が発話する機会を確保しながら授業を進めていく。また、学生の理解状況を確認しながら説明や活動の進め方を工夫し、より多くの学生が安心して参加できる授業環境づくりに努めることで、授業満足度の向上を図りたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本授業では、ペア活動やグループ活動を中心としたコミュニケーション重視の授業を実施した。日常生活に関連する身近なトピックを扱い、「聞く」→「書く(メモを取る)」→「話す」という流れで学習を進め、学習した語彙や文型を実際のコミュニケーションの中で使用する機会を確保した。特に、クラスメイトに質問したり、自分の意見や経験を簡単に説明したりする活動を取り入れることで、学生同士の相互交流を促し、主体的に授業へ参加する姿勢を育てることを目指した。</p> <p>また、各課の語彙や文型の理解を確認するために小テストを定期的実施し、学習内容の定着を図った。活動の際にはメモを活用しながら説明するタスクを取り入れることで、学生が学習した表現を整理し、自分の言葉で発話する機会を設けた。これにより、学生は単に知識を理解するだけでなく、実際に使う経験を積みながら日本語運用能力を高めることができたと考えられる。</p> <p>このように、学習内容を実際のコミュニケーション活動と結びつける授業構成により、学生が積極的に発話し、互いに学び合う学習環境を形成することができた。その結果、学生の授業参加意識や学習意欲の向上につながったと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>いずれの項目も高い評価が得られた。特に「シラバスと授業内容の整合性」(Q4)は平均5.0であり、授業計画に基づいた授業運営が適切に行われていたと考えられる。また、「授業内容は興味あるものであったか」(Q5)についても平均4.9と高い評価であった。一方、「授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったか」(Q3)は平均4.8であり、他の項目と比較するとわずかではあるが改善の余地が示唆される結果となった。</p> <p>改善策として、今後は、各回の授業の導入において学習目標や授業の流れをより明確に提示するとともに、活動間のつながりを意識した説明を行うことで、学生が学習内容の全体像を把握しやすい授業構成をさらに強化する。これにより、授業内容の理解しやすさと授業構成の明確さのさらなる向上を図る。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>全体的に高く、平均値は4.8-5.0の範囲であった。特に「教科書・参考書・配布プリントの使用は適切でしたか」(Q8)は平均5.0であり、教材の活用について高い評価が得られた。また、「話し方は明瞭でしたか」(Q6)および「学生の授業参加を促す工夫がなされていたか」(Q11)も平均4.9と高い評価であった。一方で、「熱意の感じられる授業でしたか」(Q7)、「板書や機器の使用は適切でしたか」(Q9)、「遅刻や私語が授業の妨げにならないよう対応していましたか」(Q10)は平均4.8であり、他の項目と比較するとわずかながら改善の余地が示唆される結果となった。</p> <p>改善策として、特に板書やスライドの構成を整理し、重要な語彙や文型、活動のポイントを視覚的にわかりやすく提示することで理解の促進を図る。</p>

項目見出し	コメント
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>授業内容、授業方法、理解度・満足度のいずれの項目においても高い評価が得られ、全体として学生が授業に積極的に参加し、概ね満足していることが確認できた。特に、教科書や配布資料の活用、学生の授業参加を促す工夫、授業への理解度および満足度に関する項目において高い評価が得られたことから、授業計画に基づいた授業運営やコミュニケーション活動を中心とした授業方法が、学生の学習意欲や主体的な参加につながったものと考えられる。</p> <p>本授業では、日常生活に関連する身近なトピックを扱い、「聞く・書く・話す」の活動を組み合わせながら学習を進めることで、学生が学習した語彙や文型を実際のコミュニケーションの中で使用する機会を確保することを重視した。また、ペア活動やグループ活動を通して学生同士の相互交流を促すことで、互いに学び合う学習環境の形成を目指した。このような授業構成が、学生の授業参加意識や満足度の向上につながったと考えられる。</p> <p>一方で、授業のわかりやすさや授業方法に関する項目では高い評価が得られているものの、授業の導入時に学習目標や活動の意図をより明確に示すなど、学生が学習内容の全体像を把握しやすい授業構成をさらに工夫していく。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火5

科目名 日本語Ⅲ

教員名 諸石 慈

回答者数/履修者数 10/10

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>平均値は4.8であり、「満足 (5)」が8名、「やや満足 (4)」が2名であった。3以下の評価は見られず、受講した学生の多くが本授業に満足していることが確認できた。授業では、学生が日本語を実際に使用する機会を重視し、グループ活動を取り入れたコミュニケーション中心の授業を行ったことが、学生の主体的な授業参加や満足度の向上につながったものと考えられる。</p> <p>向上策としては、来年度も学生同士の相互交流を促す活動を取り入れながら、日本語を実際のコミュニケーションの中で使用する機会を確保していく。また、授業の導入時に学習目標や活動の意図をより明確に示すことで、学生が学習内容の目的を理解しながら学習に取り組めるよう工夫する。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本授業では、学生同士のコミュニケーション活動を中心とした授業を実施した。授業では日常生活に関わる身近なトピック（出身地の料理、伝統的な行事・祭り、小説・漫画・ドラマ）を扱い、学習した語彙や文型を実際の会話の中で使用する機会を設けることで、学生が主体的に授業に参加できる環境づくりを重視した。グループ活動を通して質問やアドバイスをしたり、自分の経験や考えを述べたりする活動を取り入れることで、学生同士の相互交流を促し、積極的な授業参加を促すことを目指した。</p> <p>また、各課の語彙や文型の理解を確認するために小テストを定期的実施した。これにより、学生が授業前後に復習や予習を行う習慣を身につけることにつながったと考えられる。さらに、活動の際にはメモを作成し、それをもとに説明するタスクを取り入れたことで、学生が学習した表現を整理しながら発話する機会を確保した。</p> <p>このように、知識の理解だけでなく実際のコミュニケーションの中で日本語を使用する活動を重視した授業構成により、学生が主体的に授業に参加する姿勢を育てることができたと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>全体として高い評価が得られており、平均値は4.7-4.8であった。「授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったか」(Q3) および「シラバスと授業内容に整合性はあったか」(Q4) はいずれも平均4.8で、授業計画に基づいた授業運営が概ね適切に行われていたと考えられる。一方で、「授業内容は興味あるものであったか」(Q5) は平均4.7であり、他の項目と比較するとわずかではあるが改善の余地が示唆される結果となった。</p> <p>改善策としては、学生の関心や経験により関連づけられるような話題や活動を取り入れながら授業内容を展開することで、学習内容への興味・関心をさらに高めていきたい。また、学習した語彙や文型を実際のコミュニケーション場面で活用できるようなタスク活動を充実させ、学生が自分の経験や考えを表現する機会を増やすことによって、授業内容への主体的な関わりを促していく。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>全体として高く、平均値は4.7-4.8であった。「話し方は明瞭でしたか」(Q6)、「教科書・参考書・配布プリントの使用は適切でしたか」(Q8)、「板書や機器の使用は適切でしたか」(Q9)、「学生の授業参加を促す工夫がなされていましたか」(Q11) はいずれも平均4.8であり、授業の進め方や教材の活用について概ね適切であったと考えられる。一方で、「熱意の感じられる授業でしたか」(Q7) および「遅刻や私語が授業の妨げにならないよう対応していましたか」(Q10) は平均4.7であり、他の項目と比較するとわずかながら改善の余地が示唆される結果となった。</p> <p>改善策としては、活動の進め方やフィードバックの方法を工夫することで、学生が学習内容の意義を実感しながら取り組める授業としたい。学生の様子を適宜確認しながら声掛けを行うなど、集中して学習できる環境づくりを継続していく。これらの取り組みにより、授業方法</p>

項目見出し	コメント
	<p>のさらなる改善と学生の学習意欲の向上を図っていききたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>授業内容、授業方法、理解度・満足度のいずれの項目においても平均値は4.7-4.8であった。全体として学生から概ね高い評価が得られた。特に、授業のわかりやすさや授業参加を促す工夫、授業内容の理解度および満足度に関する項目においては安定した評価が得られており、学生が授業に一定程度主体的に参加していたことがうかがえる。</p> <p>本授業では、日常生活に関連する身近なトピック（出身国の料理、伝統的な行事・祭り、小説・漫画・ドラマ）を扱いながら、学習した語彙や文型を実際のコミュニケーション活動の中で使用する機会を設けることを重視した。各トピックでは必ずグループ活動を取り入れ、グループ活動を通して学生同士が互いに質問やアドバイスをしたり、自分の経験や意見を述べたりする活動を取り入れることで、学生が日本語を実際に使用する機会を確保し、授業への主体的な参加を促すことを目指した。小テストを実施し、語彙や文型の理解を確認することで、学習内容の定着を図った。学生が授業前後に復習や予習を行うきっかけを作るよう努めた。</p> <p>一方で、「授業内容は興味あるものであったか」や「熱意の感じられる授業でしたか」といった項目では、他の項目と比較するとわずかではあるが改善の余地が示唆される結果となった。今後は、学生の関心や経験により関連づけられるような話題（トピック9の漫画に関しては興味がない学生が多数いた）や活動を取り入れるとともに、授業の導入時に学習目標や活動の意図をより明確に示すことで、学生が学習内容の目的を理解しながら学習に取り組める授業づくりを心がけたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 金1

科目名 日本語基礎B

教員名 諸石 慈

回答者数/履修者数 6/7

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>平均値は5.0であり、全員が「満足」と回答した。学生が授業内容や授業の進め方に対して概ね高い満足感を持っていることが確認できた。本授業では、日常生活に関わる身近なトピック（特別な日、ネットショッピング、歴史と文化の町、生活と文化、エコ活動、引っ越し、ほっとする食べ物、語学学習）を取り上げながら、語彙や文型の理解を深めるとともに、ペアなどのコミュニケーション活動を取り入れて授業を進めた。これらの活動を通して学生が日本語を実際に使用する機会を確保し、主体的に授業へ参加できる環境を整えたことが、高い満足度につながったものと考えられる。</p> <p>向上策としては、学生が主体的に日本語を使用する機会を重視し、トピックに基づくコミュニケーション活動を継続して取り入れていく。学生の経験や関心と結びつけながら授業内容を展開することで、学習内容への理解と興味をさらに深められる授業づくりを目指す。また、学生の理解状況を適宜確認しながらフィードバックを行うことで、学習内容の定着を図り、今後も高い満足度を維持できるよう授業改善に努めていきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本授業では、日常生活に関わる身近なトピックを取り上げながら、日本語でのコミュニケーション能力の向上を目指した。具体的には、スポーツ観戦、住まい探し、食事、訪問、旅行など、学生が実際の生活場面で遭遇する可能性の高い話題を扱い、語彙や文型を学習するとともに、それらを用いて自分の経験や意見を表現する活動を取り入れた。これにより、学習した日本語が実際の生活やコミュニケーションに結びつくことを学生が実感できるよう工夫した。</p> <p>授業では、教科書の内容を基に短い文章の読解を行なった。学生同士が質問し合ったり、自分の考えを短く述べたりする活動を通して、日本語を実際に使用する機会を多く設けることで、授業への主体的な参加を促した。さらに、小テストや随時試験を実施することで、語彙や文型の理解度を確認するとともに、授業内容の復習や予習を促した。これらの取り組みにより、学生が学習内容を段階的に定着させながら授業に取り組める環境を整えた。このように、トピックに基づく読解活動とコミュニケーション活動を組み合わせることで、学生が授業内容を自分の経験や生活と結びつけて考えることができ、学習への関心や意欲の向上につながったと考えられる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>平均5.0であり、「授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったか」、「シラバスと授業内容に整合性はあったか」、「授業内容は興味あるものであったか」のすべての項目において全員が高い評価を付ける結果となった。これらの結果から、本授業の内容構成や授業計画は概ね適切であり、学生にとって理解しやすく、興味を持って取り組める内容であったことがうかがえる。本授業では、日常生活に関わる身近なトピックを扱いながら語彙や文型の理解を深めるとともに、短い文章の読解やコミュニケーション活動を組み合わせることで授業を構成した。これにより、学生が学習内容を具体的な場面と結びつけて理解できたことが高い評価につながったと考えられる。</p> <p>今後も学生の関心や経験に関連する話題を取り入れながら授業内容を充実させていきたい。学生が学習内容をより主体的に活用できる授業づくりを進め、授業内容への理解と興味の維持・向上を図っていきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問</p>	<p>全体として高い評価が得られ、平均値は4.7-5.0であった。「話し方は明瞭でしたか」、「熱意の感じられる授業でしたか」、「学生の授業参加を促す工夫がなされていたか」については平均5.0であり、授業の進め方や学生参加を促す取り組みについて概ね良好な評価が得られた。一方で、「教科書・参考書・配布プリントの使用は適切でしたか」および「板書や機器（パワーポイント等）の使用は適切でしたか」</p>

項目見出し	コメント
一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー／教 養セミナー Q4～Q7	<p>か」は平均4.7であった。他の項目と比較するとわずかながら改善の余地が示唆される結果となった。</p> <p>改善策としては、教科書や配布資料の内容をより分かりやすく提示するために、まずは資料の整理や提示方法の工夫を行う。重要な語彙や表現を視覚的に確認できるよう板書やスライドの構成を改善していきたい。また、学生が学習内容を理解しやすいよう、活動の前後に説明やまとめを行うなど、教材と授業活動のつながりをより明確に示す工夫を行う。教材や機器の活用をさらに効果的なものとし、授業方法の一層の改善を図っていきたい。</p>
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>学生の理解度や満足度は概ね高い水準にあることがわかった。授業内容の構成やシラバスとの整合性、授業内容への関心に関する項目および授業理解度・満足度はいずれも平均5.0であった。学生が授業内容を理解しながら学習に取り組んでいたことがうかがえる。また、授業中の取り組み姿勢に関する評価も高く、学生が授業活動に積極的に関わっていたことが示唆された。</p> <p>本授業では、日常生活に関わる話題（特別な日、ネットショッピング、歴史と文化の町、生活と文化、エコ活動、引っ越し、ほっとする食べ物、語学学習）を取り上げながら、語彙や文型の理解を深め、ペアワーク（なるべく出身国が被らないよう心がけた）を通して学習内容を実際のコミュニケーションの中で使用する機会を設けた。学生が自分の経験や考えを日本語で表現する活動を取り入れることで、学習内容と実生活との結びつきを意識できるようにした点が、授業への関心や参加意欲の向上につながったと考えられる。</p> <p>一方で、教材や機器の使用に関する項目は他の項目と比較するとやや低い結果であった。今後は教科書や配布資料の提示方法を見直す。特に板書の整理を行い、授業内容をより分かりやすく提示できるよう改善を図っていく。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火2

科目名 教養セミナー

教員名 諸石 慈

回答者数/履修者数 5/9

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>回答者全員が「5 (満足)」と回答し、平均値は5.0であった。私は本授業を初めて担当した科目であったが、学生からは概ね高い満足度が得られたと考える。本授業では、ディスカッション、地域理解に関する調査活動、フィールドワーク、プレゼンテーションなどの活動を通して、学生が主体的に学習に参加する機会を設けることを重視した。本授業を受講した学生は日本語入門レベルの留学生が大半であったため、これらの活動について説明する時間を多く要す結果となった。しかしながら、これらの活動を通して、学生の主体的な学びと自己理解・他者理解・協働に対する学びを促す授業を展開することができたと思う。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本授業では、学生が主体的な学習ができるようディスカッション、地域理解に関する調査活動、フィールドワーク、プレゼンテーションなどの活動を取り入れた授業を行なった。学生は日本語入門レベルの留学生が大半であったため、特にディスカッションの時間は厳しいと考えていたが、在学中以降でも必要とするストラテジー向上のために、必ず学生同士で意見を交換しながらテーマや課題について考える機会を設けた。また、自ら考えを整理し、相手の意見を踏まえて理解を深める学習環境を整えることを意識した。地域理解の回では、自身の出身地に関する情報とハウステンボスでのフィールドワークで得た情報を整理させて発表会を実施した。学生にとって身近なテーマを題材とすることで、学習内容を自分事として捉えやすくなり、授業への関心や学習意欲の向上につながったと考えられる。授業アンケートにおいては、「積極的にゼミに参加しましたか」および「このゼミナーに参加して満足できましたか」の項目で平均値5.0という結果が得られている。学生が授業活動に積極的に参加し、授業に対して高い満足度を示していたことがうかがえる。今後も学生同士の対話や協働的な学習を重視した授業活動を継続し、学生の学習意欲をさらに高めていきたいと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>質問3および質問4については、いずれも平均値5.0であった。回答者全員が最も高い評価を付けていることから、授業内容への関心や教員の授業姿勢については肯定的であったと考える。本授業では、ディスカッションや地域理解に関する調査活動、ハウステンボスでのフィールドワーク、プレゼンテーションなどの活動を通して、学生が主体的に学習に参加できる授業を展開した。受講した学生は日本語入門レベルの留学生で、自分や他人を紹介したり個人的情報について質問や答えたりすることを目指すレベルであるため、特にディスカッションは難しい内容であったと思う。しかし、これらの活動を通して学生同士が意見を交換しながら理解を深める機会を設けたことが、学習への関心の向上につながったものと考えられる。一方で、質問5については平均値4.8であった。受講した学生は日本語入門レベルであったため、授業時間内で個々の学生の疑問や質問に対応できない場面があったのだと思う。したがって、今後は授業内だけでなく授業外での質疑応答の時間も十分に確保し、今回のアンケート結果を今後の授業改善に活かしていく。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教</p>	<p>質問7については平均値5.0であった。回答者全員が最も高い評価を付けていたことがわかる。課題の提示方法については概ね適切であったと考える。質問8および質問9についても平均値4.8と高い評価が得られていた。授業内で実施したディスカッションやプレゼンテーション、教員の説明についても概ね肯定的だったがうかがえる。一方で、質問6「課題の量や難易度は適切でしたか」については平均値4.6であった。ほかの質問項目と比較すると評価にわずかな差が見られた。本授業では、ディスカッションやプレゼンテーション、ハウステンボスでのフィールドワークなどの活動を組み合わせて授業を進めた。し</p>

項目見出し	コメント
養セミナー Q4～Q7	<p>かし、履修した学生は日本語入門レベルの留学生が大半であったため、課題の内容や量、準備に負担を与えたのではないかと考える。今後は課題の目的や取り組み方をより明確に説明する。教養セミナーのシラバスは留学生だけでなく日本人学生対象となっているため、特に日本語入門レベル（相手がゆっくり、はっきり話して、助け舟を出してくれるなら、とても簡単なやりとりをすることができる）を目指すレベルの留学生への授業展開は難しい。しかし、卒業後も必要とする様々なストラテジーを向上させるためにも、当該シラバスの活動と課題は必要であるため、今後は学生が無理なく取り組める授業構成となるよう工夫を行う。</p>
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>後期の授業アンケート結果は、授業内容および授業方法の各項目において概ね高い評価が得られていた。特に、授業への満足度に関する項目では平均値5.0となっており、回答者全員が最も高い評価をつけていることから、学生が授業内容や授業活動に対して肯定的であったと考える。また、「学ぶことに対して興味・関心が増しましたか」や「教員はセミナーに対して熱意を持っていましたか」といった項目においても平均値5.0であった。教養セミナーを通して学生の学習意欲や関心を高められた授業であったと考える。本授業では、ディスカッション、地域理解に関する調査活動、ハウステンボスでのフィールドワーク、プレゼンテーションなどの活動を取り入れた。学生の主体的な学習と自己理解・他者理解・協働に対する学びを促す授業を展開した。学生は日本語入門レベルの留学生であったため、意見交換をさせることは非常に難しい回となったと思う。しかしながら、各回のテーマや課題について考える機会を多く設けたことで、学生が他者・他国からの留学生の考えを踏まえて自分の理解を深める良い機会となったのではないかと考える。一方で、授業方法に関する項目では、課題の量や難易度に関する評価が他の項目と比較してやや低い結果であった。今後は課題の目的や進め方をより明確に示すとともに、学生の学習状況を確認しながら課題の内容や活動の進め方についてより詳しい説明や調整をするなど、授業方法の改善を図ってゆきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火3

科目名 専門演習ⅡB

教員名 余 乾生

回答者数/履修者数 3/3

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>専門演習Ⅱの科目は、今年度最初の授業アンケートを取りました。総人数3名のうち3名が回答しました。満足度は4.7です。そのうち、日本人学生は4.0で、留学生は5.0です。</p> <p>向上策としては、①予習復習を明確に促していきたいです。②授業中の私語などについて注意喚起の声掛けを明確に行いたいです。③やさしい日本語を練習し、留学生にもわかりやすい日本語で対応する予定です。④授業中に日本人学生の役割を増やして、授業参加を促す予定です。⑤論文指導が主要な目的とする授業ですが、もう少し講義の内容を入れる可能性を検討する予定です。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>①留学生の日本語能力がまだ堪能ではないので、ゆっくり話しをするとか、やさしい日本語に言い換えるとかの工夫をしました。その際、日本人学生にも協力してもらい、日本人学生の授業参加を促しました。</p> <p>②すでに3年生ですので、留学生にもできる限り日本語で報告などしてもらいました。</p> <p>③4年生になったら、2万字の日本語の論文を書く必要があることを学生に早めに伝えて、授業の趣旨を理解してもらい、授業参加の意欲を向上させました。</p> <p>④学生に早い段階から、日本語文献リストの作成、注の書き方、そして日本語文献を読む練習をさせました。一人ひとり自身の作文を読ませるなどのことによって、AI時代でも、日本語能力をきちんと身に付けるように図っています。そのため、学生自身がその成長を感じさせることができたところがあると思います。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3わかりやすさは4.3です。うち日本人学生は4.0で、留学生は4.5です。改善策としては、やさしい日本語の練習をして、留学生にもわかりやすい日本語で対応する予定です。そして、日本人学生の役割を増やす予定です。</p> <p>Q4シラバスとの整合性は4.3です。うち日本人学生は4.0で、留学生は4.5です。改善策としては、授業の最初にシラバスの予定を伝えて、その後適宜に繰り返す予定です。そして、やさしい日本語の練習をして、留学生にもわかりやすい日本語で対応する予定です。</p> <p>Q5授業への興味は4.7です。うち日本人学生は4.0で、留学生は5.0です。改善策としては、もう少し日本人学生の役割を増やしていく予定です。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6話の明瞭さは5.0です。うち日本人学生は5.0で、留学生も5.0です。改善策としては、NHKのラジオを聞き、話し方を真似するなど、自分の日本語の会話力を向上させ、やさしい日本語の練習をして、留学生にもわかりやすい日本語で対応する予定です。</p> <p>Q7熱意は4.7です。うち日本人学生は4.0で、留学生は5.0です。改善策としては、授業中に日本人学生の役割を増やして、授業参加を促す予定です。</p> <p>Q8教材使用は4.3です。うち日本人学生は3.0で、留学生は5.0です。改善策としては、論文指導が主要な目的とする授業ですが、もう少し講義の内容を入れる可能性を検討する予定です。</p> <p>Q9機器使用は4.7です。うち日本人学生は4.0で、留学生は5.0です。改善策としては今年度通り、授業の進展とともにスクリーンで資料を見せる予定です。さらに、板書なども合わせてやる予定です。</p> <p>Q10私語対応は4.7です。うち日本人学生は4.0で、留学生は5.0です。改善策としては、授業中私語に対してははっきり止める予定です。</p> <p>Q11授業参加は4.7です。うち日本人学生は4.0で、留学生は5.0です。改善策としては、やさしい日本語の練習をして、留学生にもわかりやすい日本語で対応する予定です。そして、日本人学生の役割を増や</p>

項目見出し	コメント
	す予定です。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>留学生の対応で、自分自身の留学生時代を思い出しました。留学生は日本語になれるまで大変苦労するので、丁寧に対応することが必要だと思います。特に日本語を練習させる機会と時々英語などでの対応が一番重要だと感じました。さらに、日本人学生と留学生が混在するゼミのあり方について、どのペースで授業を進めばよいのかは悩ましいところです。とりわけ、日本人学生が少数派になっている状況下で、ますます難しくなります。これからは、日本人学生の役割を増やしつつ、留学生との交流を図りたいです。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 金1

科目名 貧困に対する支援

教員名 余 乾生

回答者数/履修者数 58/65

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>貧困に対する支援の科目は、今年度は2回目の授業です。総人数65名のうち58名が回答しました。満足度は4.6で、去年度の3.9より上昇しました。そのうち、日本人学生は4.7で、留学生は4.9です。</p> <p>向上策としては、①予習復習を明確に促していきたいです。②授業参加を促すために、授業中適度に受講生の名前を呼び（学籍番号を呼ばない）、答えさせていきたいです。③授業中の私語などについて注意喚起の声掛けを明確に行いたいです。④内容的には、もう少し具体例を入れていく予定です。⑤授業レジュメやPPTの内容を工夫して、1頁の内容を少なめにするなどもう少しわかりやすいものにしたいです。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>難しいポイントを数回の授業を渡って、何度も繰り返して説明しました。</p> <p>毎回の授業後は、小テストの形で確認問題を用意しました。出席の確認とともに、授業の振り返りを行いました。そして、次回の授業でこうした確認問題を説明し、受験勉強も兼ねて行いました。こうして授業の復習と試験との関係性を意識させることによって学習意欲の向上を図った。</p> <p>授業レジュメは穴埋めの形にしました。毎回のレジュメには10個程度の穴埋めを用意し、授業中に確認する形でした。見やすくするために、授業中レジュメを適宜に拡大しつつ受講生に見せました。また、見逃しの場合があると考えて、別資料として、穴埋めの結果もPDFで添付しました。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3わかりやすさは4.5で、去年度の4.0より上昇しました。うち日本人学生は4.5で、留学生は4.9です。改善策としては、もう少し具体例を入れていくことと授業レジュメやPPTの内容を工夫して、1頁の内容を少なめにする予定です。</p> <p>Q4シラバスとの整合性は4.7で、去年度の4.2より上昇しました。うち日本人学生は4.6で、留学生は4.8です。改善策としては、授業中に第1回で示したシラバスの内容を、後の授業でも適宜に示して、今は全体の中にどこまで進めたのかを復習する予定です。</p> <p>Q5授業への興味は4.4で、去年度の3.8より上昇しました。うち日本人学生は4.4で、留学生は4.9です。改善策としては、もう少し具体例を入れて、授業中に受講生の回答を求める予定です。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6話の明瞭さは4.5で、去年度の4.1より上昇しました。うち日本人学生は4.5で、留学生は4.9です。改善策としては、NHKのラジオを聞き、話し方を真似するなど、自分の日本語の会話力を向上させる予定です。</p> <p>Q7熱意は4.7で、去年度の4.2より上昇しました。うち日本人学生は4.7で、留学生は4.8です。改善策としては、授業中に受講生の回答を求めるなどして、授業参加を促す予定です。</p> <p>Q8教材使用は4.7で、去年度の3.7より上昇しました。うち日本人学生は4.7で、留学生は4.9です。改善策としては、授業レジュメやPPTの内容を工夫して、1頁の内容を少なめにする予定です。</p> <p>Q9機器使用は4.7で、去年度の4.0より上昇しました。うち日本人学生は4.6で、留学生は4.9です。改善策としては授業レジュメやPPTの内容を工夫して、1頁の内容を少なめにする予定です。</p> <p>Q10私語対応は4.5で、去年度の4.2より上昇しました。うち日本人学生は4.5で、留学生は4.9です。改善策としては、授業中私語に対してははっきり止める予定です。</p> <p>Q11授業参加は4.7で、去年度の3.9より上昇しました。うち日本人学生は4.7で、留学生は4.9です。改善策としては、授業中に受講生の回答を求めるなどして、授業参加を促す予定です。</p>

項目見出し	コメント
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>貧困に対する支援は理論的な授業です。内容が多くて難しいです。したがって、授業参加を促すことも難しいです。しかし、一方的に授業を行うのも、受講生の理解度の向上につながらないことが理解できました。今後はもっと授業参加について工夫して、わかりやすい授業にしておきたいです。今回は重要かつ難しい内容について、何度も繰り返して説明してみました。すこし理解度が高めたと思います。今後も継続しようと思っています。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 金2

科目名 専門演習 I B

教員名 余 乾生

回答者数/履修者数 9/11

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>専門演習 I の科目は、今年度最初の授業アンケートを取りました。総人数11名のうち9名が回答しました。満足度は5.0です。そのうち、日本人学生は5.0で、留学生も5.0です。</p> <p>向上策としては、①予習復習を明確に促していきたいです。②授業中の私語などについて注意喚起の声掛けを明確に行いたいです。③やさしい日本語を練習し、留学生にもわかりやすい日本語で対応する予定です。④授業中に日本人学生の役割を増やして、授業参加を促す予定です。⑤論文指導が主要な目的とする授業ですが、もう少し講義の内容を入れる可能性を検討する予定です。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>①留学生の日本語能力がまだ堪能ではないので、ゆっくり話しをするとか、やさしい日本語に言い換えるとかの工夫をしました。その際、日本人学生にも協力してもらい、日本人学生の授業参加を促しました。②日本語の上達を図って、英語を極力使用しないようにしていますが、重要な連絡や説明を行ったときには英語を使用しました。③留学生のグループワークを重視して、授業参加を促してきました。④4年生になったら、2万字の日本語の論文を書く必要があることを留学生に早めに伝えて、授業の趣旨を理解してもらい、授業参加の意欲を向上させました。⑤留学生に早い段階から、日本語文献リストの作成、注の書き方、そして日本語文献を読む練習をさせました。一人ひとり自身の作文を読ませるなどのことによって、AI時代でも、日本語能力をきちんと身に付けるように図っています。そのため、学生自身がその成長を感じさせることができたところがあると思います。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3わかりやすさは4.9です。うち日本人学生は5.0で、留学生は4.8です。改善策としては、やさしい日本語の練習をして、留学生にもわかりやすい日本語で対応する予定です。</p> <p>Q4シラバスの整合性は4.6です。うち日本人学生は5.0で、留学生は4.3です。改善策としては、やさしい日本語の練習をして、留学生にもわかりやすい日本語で対応する予定です。</p> <p>Q5授業への興味は4.9です。うち日本人学生は4.7で、留学生は5.0です。改善策としては、もう少し日本人学生の役割を増やしていく予定です。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6話の明瞭さは4.8です。うち日本人学生は4.7で、留学生は4.8です。改善策としては、NHKのラジオを聞き、話し方を真似するなど、自分の日本語の会話力を向上させ、やさしい日本語の練習をして、留学生にもわかりやすい日本語で対応する予定です。</p> <p>Q7熱意は5.0です。うち日本人学生は5.0で、留学生も同様に5.0です。改善策としては、授業中に日本人学生の役割を増やして、授業参加を促す予定です。</p> <p>Q8教材使用は4.4です。うち日本人学生は4.0で、留学生は4.7です。改善策としては、論文指導が主要な目的とする授業ですが、もう少し講義の内容を入れる可能性を検討する予定です。</p> <p>Q9機器使用は5.0です。うち日本人学生は5.0で、留学生も5.0です。改善策としては今年度通り、授業の進展とともにスクリーンで資料を見せる予定です。</p> <p>Q10私語対応は4.8です。うち日本人学生は4.3で、留学生は5.0です。改善策としては、授業中私語に対してははっきり止める予定です。</p> <p>Q11授業参加は4.9です。うち日本人学生は5.0で、留学生は4.8です。改善策としては、やさしい日本語の練習をして、留学生にもわかりやすい日本語で対応する予定です。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を</p>	<p>留学生の対応で、自分自身の留学生時代を思い出しました。留学生</p>

項目見出し	コメント
受けての授業担当者の所感	<p>は日本語になれるまで大変苦労するので、丁寧に対応することが必要だと思えます。特に日本語を練習させる機会と時々英語での対応が一番重要だと感じました。さらに、日本人学生と留学生が混在するゼミのあり方について、どのペースで授業を進めばよいのかは悩ましいところです。とりわけ、日本人学生が少数派になっている状況下で、ますます難しくなります。これからは、日本人学生の役割を増やしつつ、留学生との交流を図りたいです。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 金5

科目名 Japanese Economy

教員名 余 乾生

回答者数/履修者数 14/18

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>Japanese Economyの科目は、今年度は2回目の授業です。総人数18名のうち14名が回答しました。満足度は4.8です。去年度の4.6から少し上昇しました。うち日本人学生10名の満足度は4.8で、去年の4.7より少し上昇しました。留学生4名の満足度も4.8で、去年の4.5から少し上昇しました。向上策としては、受講生の検討の時間をもう少し増やしていきたいです。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>Japanese Economyの科目では、留学生と日本人学生を混ぜる形でグループ分けし、このグループも定期的にメンバーを変更していました。こうして英語の練習も兼ねて、もって日本人学生と留学生の交流を図りました。</p> <p>そして、授業全体は受講生自身が英語の経済関連のニュースを自分で見つけて、授業で投票の形で、受講生の一番関心のあるテーマを選んで授業を進めました。こうして受講生の参加意欲の向上を図りました。</p> <p>それぞれのテーマについて、受講生一人一回の英語でのプレゼンテーションを求めました。こうして復習も兼ねて、学習意欲などの向上を図りました。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3わかりやすさは4.8で、去年度の4.7より少し上昇しました。うち日本人学生は4.7で、去年度の4.8より少し減少しましたが、留学生は5.0、去年度の4.5より上昇しました。</p> <p>Q4シラバスとの整合性は4.9で、去年度の4.7より少し上昇しました。うち日本人学生は4.8で、去年度と同様です。留学生は5.0で、去年度の4.5より上昇しました。</p> <p>Q5授業への興味は4.6で、去年度と同様です。うち日本人学生は4.6で、去年度の4.8より少し減少しました。留学生は4.8で、去年度の4.3より少し上昇しました。</p> <p>改善策としては、今までのやり方の維持と受講生の検討の時間をもう少し増やしていきたいです。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6話の明瞭さは4.9で、去年度の4.8より少し上昇しました。うち日本人学生は4.9で、去年度の4.8より少し上昇しました。留学生は5.0で、去年度の4.8より少し上昇しました。</p> <p>Q7熱意は4.9で、去年度の4.6より少し上昇しました。うち日本人学生は5.0で、去年度の4.8より少し上昇しました。留学生は4.8で、去年度の4.1より上昇しました。</p> <p>Q8教材使用は4.7で、去年度の4.9より少し減少しました。うち日本人学生は4.6で、去年度の4.9より減少しました。留学生は5.0で、去年度の4.8より少し上昇しました。</p> <p>Q9機器使用は去年度の4.9と同様です。うち日本人学生は4.8で、去年度の4.9より少し減少しましたが、留学生は5.0で、去年度の4.9より少し上昇しました。</p> <p>Q10私語対応は4.7で、去年度の4.6より少し上昇しました。うち日本人学生は4.7で、去年度の4.5より少し上昇しました。留学生は去年度の4.8と同様です。</p> <p>Q11授業参加は4.8で、去年度の4.7より少し上昇しました。うち日本人学生は4.8で去年度と同様です。留学生は4.8で、去年度の4.5より少し上昇しました。</p> <p>改善策としては、今までのやり方の維持と受講生の検討の時間をもう少し増やしていきたいです。また、私語や遅刻に対しては、もう少しはっきり注意喚起を行う予定です。</p>

項目見出し	コメント
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	日本人学生と留学生が混ざっている状態で、全部英語で経済学を教える授業は、いろいろ難しいところがありました。結果的にはうまく授業が進みましたようで、来年度も頑張りたいです。

アクションプランシート

2025年度後期 土2

科目名 社会保障Ⅱ

教員名 余 乾生

回答者数/履修者数 52/60

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>社会保障Ⅱの科目は、今年は2回目行いました。総人数60名のうち52名が回答しました。満足度は4.2で、去年度の4.0より少し増加しました。うち日本人学生50名の満足度は4.2で、去年度の3.9より少し上昇しました。留学生2名の満足度は4.5で、去年度の4.8より少し減少しました。全体としては、日本人学生の満足度の引き上げが課題です。</p> <p>向上策としては、①予習復習を明確に促していきたいです。②授業参加を促すために、授業中適度に受講生の名前を呼び（学籍番号を呼ばない）、答えさせていきたいです。③授業中の私語などについて注意喚起の声掛けを明確に行いたいです。④内容的には、もう少し具体例を入れていく予定です（国家試験対策も兼ねて）。⑤PPTの内容を工夫して、1頁の内容を少なめにするなどもう少しわかりやすいものに行きたいです。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>毎回の授業後は、小テストの形で確認問題を用意しました。出席の確認とともに、授業の振り返りを行いました。そして、次回の授業でこうした確認問題を説明し、受験勉強も兼ねて行いました。こうして授業の復習と試験との関係性を意識させることによって学習意欲の向上を図った。</p> <p>授業レジュメは穴埋めの形にしました。毎回のレジュメには10個程度の穴埋めを用意し、授業中に確認する形でした。見やすくするために、授業中レジュメを適宜に拡大しつつ受講生に見せました。また、見逃しの場合があると考えて、別資料として、穴埋めの結果もPDFで添付しました。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3わかりやすさは4.1で、去年度と同様です。うち日本人学生は4.1で、去年度の4.0より少し上昇しました。留学生は4.0で、去年度の4.7より減少しました。わかりやすさは課題です。改善策としては、もう少し具体例を入れていくことと授業レジュメやPPTの内容を工夫して、1頁の内容を少なめにする予定です。</p> <p>Q4シラバスとの整合性は4.2で、去年度の4.3より少し減少しました。うち日本人学生は4.2で、去年度と同様です。留学生は5.0で、去年度の4.7より少し上昇しました。日本人学生にとっての整合性は課題です。改善策としては、授業中に第1回で示したシラバスの内容を、後の授業でも適宜に示して、今は全体の中にどこまで進めたのかを復習する予定です。</p> <p>Q5授業への興味は3.9で、去年度の4.1より少し減少しました。うち日本人学生は3.9で、去年度の4.0より少し減少しました。留学生は4.5で、去年度の4.7より少し減少しました。日本人学生の授業への興味は課題です。改善策としては、もう少し具体例を入れて、授業中に受講生の回答を求める予定です。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6話の明瞭さは4.1で、去年度と同様です。うち日本人学生は4.1で、去年度の4.0より少し上昇しました。留学生は5.0で、去年度の4.7より少し上昇しました。日本人学生にとっての話の明瞭さは課題です。改善策としては、NHKのラジオを聞き、話し方を真似するなど、自分の日本語の会話を向上させる予定です。</p> <p>Q7熱意は4.3で、去年度の4.4より少し減少しました。うち日本人学生は4.3で、去年度と同様です。留学生は4.0で、去年度の4.8より減少しました。熱意を感じさせるのは課題です。改善策としては、授業中に受講生の回答を求めるなどして、授業参加を促す予定です。</p> <p>Q8教材使用は4.5で、去年度の4.0より上昇しました。うち日本人学生は4.5で、去年度の3.9より上昇しました。留学生は5.0で、去年度の4.7より上昇しました。日本人学生にとっての教材使用は課題です。改善策としては、一度見せる授業のレジュメの量を削減する予定です。</p>

項目見出し	コメント
	<p>Q9機器使用は4.4で、去年度の4.3より少し上昇しました。うち日本人学生は4.4で、去年の4.2より少し上昇しました。留学生は4.5で、去年度の4.7より少し減少しました。教材使用は課題です。改善策としては、一度見せる授業のレジュメの量を削減する予定です。</p> <p>Q10私語対応は4.2で、去年度の4.3より少し減少しました。うち日本人学生は4.2で、去年度と同様です。留学生は4.5で、去年度の4.8より少し減少しました。私語対応は課題です。改善策としては、授業中私語に対してははっきり止める予定です。</p> <p>Q11授業参加は4.3で、去年度の4.0より少し上昇しました。うち日本人学生は4.3で、去年度の3.8より少し上昇しました。留学生は5.0で、去年度の4.8より少し上昇しました。日本人学生にとっての授業参加は課題です。改善策としては、授業中に受講生の回答を求めるなどして、授業参加を促す予定です。</p>
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>社会保障Ⅱは理論的な授業です。内容が多くて難しいです。したがって、授業参加を促すことも難しいです。しかし、一方的に授業を行うのも、受講生の理解度の向上につながらないことが理解できました。今後はもっと授業参加について工夫して、わかりやすい授業にしておきたいです。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火2

科目名 教養セミナー

教員名 余 乾生

回答者数/履修者数 9/10

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>授業の満足度について、2025年度は5.0で、2024年度の教養セミナーの4.8より上昇しました。総人数10名のうち9名が回答しました。全員が留学生です。</p> <p>向上策としては、①留学生の日本語能力がまだ堪能ではないので、英語を使用しつつ、重要な連絡や説明を行うことを今後も予定しています。②留学生のグループワークを重視して、授業参加を促していく予定です。③日本語の練習を重視して、できるだけ日本語を話す機会を確保する予定です。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>①留学生の日本語能力がまだ堪能ではないので、英語を使用しつつ、重要な連絡や説明を行ってきました。②留学生のグループワークを重視して、授業参加を促してきました。③日本語の練習を重視して、できるだけ日本語を話す機会を確保してきました。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q2授業への興味は5.0です。2024年度の教養セミナーの授業への興味は4.7です。少し上昇しました。改善策としては、英語の使用、グループワークの重視、日本語の練習の機会をこれからも授業に取り込んでいく予定です。</p> <p>Q3関心の増加は5.0です。2024年度の教養セミナーの関心の増加は4.8です。以前と比較すると点数は微上昇しました。改善策としては、上記同様に英語の使用、グループワークの重視、日本語の練習の機会をこれからも授業に取り込んでいく予定です。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q4教員の熱意は5.0です。2024年度の教養セミナーの教員の熱意は4.9です。以前と比較すると微上昇しました。改善策としては、留学生の意見ややりたいことを確認して、それらを踏まえつつ、授業を進行する予定です。</p> <p>Q5教員の誠実さは5.0です。2024年度の教養セミナーの教員の誠実さの点数は4.8です。以前と比較すると点数は微上昇しました。改善策としては、上記同様に留学生の意見ややりたいことを確認して、それらを踏まえつつ、授業を進行する予定です。</p> <p>Q6学生の参加は4.9です。2024年度の教養セミナーの学生の参加は4.8です。以前と比較すると点数は微上昇しました。改善策としては、英語の使用、グループワークの重視、日本語の練習の機会をこれからも授業に取り込んでいく予定です。</p> <p>Q7相談の誠実さは5.0です。2024年度の教養セミナーの相談の誠実さは4.8です。以前と比較すると点数は微上昇しました。改善策としては、英語の使用、グループワークの重視、日本語の練習の機会をこれからも授業に取り込んでいく予定です。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>留学生の対応で、自分自身の留学生時代を思い出しました。留学生は日本語になれるまで大変苦労するので、丁寧に対応することが必要だと思います。特に英語での対応と日本語を練習させる機会が一番重要だと感じました。これからも、英語の使用、グループワーク、日本語の練習の機会を重視していきたいです。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 水1

科目名 English Writing Skills II
 教員名 Lohr Michael Cory Daniel

回答者数/履修者数 15/18

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>多くの学生がブログ記事の課題について肯定的なコメントをしており、TOEICや英検などのテストに重要なライティングスピードの向上に役立つと評価していました。</p> <p>ある学生から、ブログやライティング活動はとても良いが、もっと文法の授業をしてほしいというコメントがありました。この意見を真剣に受け止め、来学期から定期的な文法課題を導入する予定です。</p> <p>最後に、宿題がTOEICの勉強の妨げになっているというコメントもありました。宿題の量については常に配慮していますが、忙しいスケジュールを持つ学生にも対応できるよう、今後も検討していきたいと思えます。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>前期の経験を活かし、ブログ記事の課題やエッセイプロジェクトなどの内容を学生のレベルに合わせて改善しました。授業では引き続きアクティブラーニングの手法に重点を置き、学生のモチベーションと授業内容の質を維持することができました。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3~5については、全体的に高い評価が得られました。Q5にやや低い評価が見られますが、これは多くの学生が文法学習にもっと取り組みたいと感じていたことが原因かもしれません。この点を踏まえ、来学期から新しい週次文法課題を導入する予定です。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6~11については、高い評価が得られました。Q8についてはさらなる改善の余地があります。来学期から始まる新しい文法課題では、授業で使用する文法テキストを選定しました。これにより、この分野の改善につながることを期待されます。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>アンケート全体を通じた印象として、学生たちは授業に対して概ね非常に好意的な評価をしていました。英語のアカデミックライティングは難しい科目ですが、私の指導法が学生たちのその課題に取り組む上で役立っていると感じています。コメントはとても参考になり、一つ一つ丁寧に検討した上で、文法指導の強化など、今後に向けた改善策を講じています。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木4

科目名 English Reading Skills II

教員名 Lohr Michael Cory Daniel

回答者数/履修者数 14/19

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>学生による授業評価は全体的に高いものでした。自由記述のコメントの中には、リーディングの課題を楽しめたという意見や、読むスピードが上がったという意見もありました。</p> <p>一方で、英語ビブリオバトルのプロジェクトの目的がよく分からなかったというコメントもありました。来学期はプロジェクトの説明を改善し、読んでいる本により深く関わるための有益な活動であることを学生に伝えることで、学習をより意味のあるものにしていきたいと思えます。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生がグループで協力し、読んだ本を短い動画にアレンジする新しいプロジェクトを導入しました。学生たちは皆このプロジェクトを楽しんでいたようで、物語の構造を理解するのにも役立ちました。</p> <p>また、読むのが遅い学生でもポイントを獲得しやすくなるよう読書目標を調整し、読書を続けるモチベーションを高められるようにしました。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3~5の評価スコアは高い結果となりましたが、Q5にやや低いスコアが見られました。これはビブリオバトルのプロジェクトが影響していると思われる。今後はビブリオバトルの発表回数を、現在の年2回から年1回に減らすことを検討しています。これにより、ビブリオバトルの質の向上につながることを期待されます。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6~11についても全体的に高い評価が得られました。Q10についてはさらなる改善の余地があります。静かに読書をする時間に他の学生が話していることを気にする学生もいるかもしれません。今後は授業中の読書時間に教室内の環境が最適な状態になるよう、状況を注意深く見守りながら引き続き努めていきたいと思えます。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>アンケートとコメントを読んで、学生たちに授業が好意的に受け入れられたと感じています。多読の重要性をうまく伝え、学生たちが与えられた目標を達成する手助けができたと思えます。</p> <p>ビブリオバトルに関するコメントは参考になりました。今後のプロジェクトの改善にどのように取り組むか、引き続き検討していきたいと思えます。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木1

科目名 倫理学
 教員名 木村 勝彦
 回答者数/履修者数 196/255

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>今年度の倫理学に対する受講生の総合満足度に関する質問項目Q13の平均評価値は4.6で、5をつけた者が129名、4が57名、3が9名、2が1名で、1をつけた者はいなかった。196名の回答者から4.6の評価が得られたことは、ほとんどの受講生がこの授業に満足した結果であると受けとめてよいであろう。これに関連して、授業内容の理解度に関する質問項目Q12の平均評価値は4.5で、5をつけた者が125名、4が51名、3が19名、2が0名であったが、1をつけた者が1名いたことは反省点である。とは言え、この結果も受講生の多くが授業の内容を的確に把握し、学修効果が得られていたものと受けとめてよいと思われる。両項目において5の評価をつけた者が64.8%、4の評価をつけた者が27.6%で、合わせて92.4%に上っており、こうした結果は自由記述における学生の意見がすべて好意的・肯定的なものであったことによっても裏打ちされていると言ってよいであろう。これまで隔年開講であったこの科目については、伝統的な学説史の解説を行うことから現代社会の具体的な事例を取り上げるというかたちへと、2年前に内容の大幅な見直しを行ったが、そうした改訂が功を奏したものと考えられる。学生の意見にも、さらに現代的な事例を数多く紹介して欲しいとの要望が多くみられたため、今後もさらに改訂を重ねることにより理解度及び満足度を高めていく所存である。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>倫理学における学生の準備学習に関する質問項目Q1の平均評価値は3.9で、5をつけた者が82名、4が54名、3が27名、2が11名で、1をつけた者も11名見られた。今回の調査において最低の評価値であり、唯一3点台を示したことは大きな反省点である。準備学習としてはmanabaの小テスト機能を利用し、各回の授業内容の復習を兼ねた確認テストとして課しており、ほとんどの学生は意欲的に取り組んでいる。しかし、授業が進むにつれて一部の学生の間慣れからくる倦怠状況がみられ、提出をしない者が増加する傾向がみられた。その都度注意を喚起したが、芳しい効果がみられなかったため、次年度以降どのように改善するかが課題であると認識している。学生自身の授業時間中における学修態度に関する質問項目Q2では平均評価値4.3で、5をつけた者が86名、4が80名、3が30名で、2以下をつけた者はいなかった。ほとんどすべての学生が意欲的に授業を受講していたと言ってよいと思われ、自由記述欄に示された多くの意見によってもそのことは確認することができる。実際に授業中に私語等によって受講生を注意したことはなく、全体として静謐な教室環境が維持されていたものと考えている。しかし、この項目の平均評価値も今回の調査においてはQ1に次ぐ低さとなっており、授業態度の向上にも改善の余地が大きいものと認識している。Q1とQ2の両項目で5の評価をつけた者が42.9%、4をつけた者が34.2%で、合わせて77.1%であったことも、80%台に達しなかった点で物足りず、さらに強く学生を授業に惹きつけ、積極的な受講態度を見せるように導いていく工夫が不可欠であると言わなければならない。自由記述欄からも授業内容そのものに対する関心は高いことがうかがわれるため、その関心を持続させるための内容・方法の改善を検討していく所存である。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業内容に関する質問項目のうちまとまりや分かりやすさを問うQ3の平均評価値は4.6で、5をつけた者が121名、4が62名、3が12名で、2以下をつけた者はいなかった。またシラバスの整合性を問うQ4の平均評価値も4.6で、5をつけた者が129名、4が50名、3が17名で、2以下をつけた者はいなかった。こうしたことから授業内容はシラバスに沿ったまとまりのあるものとして編成され、わかりやすいものになっているとの評価を得ていたとすることができる。そして授業内容に興味あるものであったかを問うQ5の平均評価値は4.5で、5をつけた者が122名、4が59名、3が12名、2が3名で、1をつけた者はいなかった。5及び4をつけた者がほとんどであったが、2という評価を</p>

項目見出し	コメント
	<p>つけた者がみられ、全体としても前2項目と比べると0.1ポイント低くなっていることは反省すべき点であると認識している。事例の説明や学説の解説において哲学分野に独特の抽象的な概念や専門用語を使用せざるを得ないこと、さらには自分自身による主体的な思考・判断を求め内容であることから、苦手意識を有する学生が一定数存在する傾向がうかがわれ、そのことが結果に反映しているものと思われる。授業のまとまりや整合性には大きな問題はないと考えられるが、内容をさらに精選・吟味すると共に、専門用語や抽象的な概念を可能な限り平易な言葉に置き換えたりすることなどによって、学生が倫理学という学問に接近しやすくなるような工夫を重ねていきたい。とはいえ授業内容に関する3つの質問項目において、5の評価をした者が63.2%、4の評価をした者が29.1%で、合わせて92.3%の学生が倫理学の授業内容に高い評価を与えていると判断することができる。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>倫理学の授業方法に関する評価は概して高く、1項目を除いて4.6以上の平均評価値を得たことから、学生にとって効果的な方法となっていたとすることができる。まず話し方に関する項目Q6の平均評価値は4.6で、5をつけた者が138名、4が48名、3が12名で、2以下をつけた者はいなかったことから、明瞭な話し方による授業ができていたものとする。授業における熱意に関する項目Q7の平均評価値は4.6で、5をつけた者が137名、4をつけた者が49名、3が10名で、2以下をつけた者はいなかったことから、本職がこの授業に傾けた熱意は学生たちに十分に伝わったものと思われる。項目Q8については教科書・参考書を使用しなかったため配布プリントに関する評価になるが、平均評価値は4.6で、5をつけた者が138名、4が45名、3が13名で、2以下をつけた者はいなかったことから、重要語句を空欄にした配布プリントは十分に効果的なものとして受けとめられていたとすることができる。板書や機器（パワーポイント）に関する項目Q9の平均評価値は今回の授業アンケートにおける全項目の中で最も高い4.7を示し、5の評価をつけた者が145名、4が43名、3が7名であったことから、パワーポイントによるスライドの提示という方法が高い評価を得ているものと考えられる。ただしこの項目においては1をつけた者はいなかったものの、2をつけた者が1名存在しており、どのような点に物足りなさを感じたのかを精査する必要がある。遅刻や私語等の防止に関わる項目Q10の平均評価値も4.6と高く、5をつけた者が133名、4が48名、3が13名であったことから、基本的には学生への注意喚起等も適切になされていたものとする。2をつけた者が2名存在することは小職の気づかないところで、学生の私語等が授業の妨げになっていたものと推測され、この点は大いに反省すべきである。学生の授業参加への促しに関する項目Q11の平均評価値は4.5で、5をつけた者が121名、4が53名、3が22名で、2以下をつけた者はいなかったことから、学生の主体的な学修を促すことができているものと思われる。これら6つの項目において5をつけた者が68.9%、4が24.3%で、合わせて93.2%の学生が高い評価をしており、倫理学の授業方法は十分に効果的なものになり得ていると考えている。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>今年度の倫理学の授業評価アンケートの結果は例年並みであり、全体としては格段に良くなっている訳でもないが、個々の評価項目の数値に関しては項目ごとの開きが少なくなっている。すなわち、すべての評価項目において概ね4.6という高い評価を得ることができたと言えることができるであろう。特に授業内容に関する評価にその傾向が顕著に見られていることから、受講する学生たちにとって倫理学の内容が興味・関心を惹くものとなっており、学修意欲の向上につながっていると評価することができるように思われる。その要因としては、大学における倫理学の授業としては伝統的なあり方、すなわち西洋倫理史の主要学説の解説を中心とする従来の授業内容を大幅に変更し、生命操作や尊厳死・安楽死などの死の選択、さまざまなモラルディレンマなど現代社会における具体的な倫理的問題に関する具体的事例を紹介する回数を増やしたことが挙げられるであろう。自由記述による意見においても、こうした内容に対する好意的な評価が述べられていたことがその証左になると思われる。その一方、伝統的な学説史の解説も重要な意義を有するにもかかわらず、これについては難解で理解が困難との意見が寄せられており、それらを踏まえて授業内容をさらに精査・検討することが評価の更なる向上につながるものと考えている。授業方法に関しては特に問題なく、平均して高い評価値を示してい</p>

項目見出し	コメント
	<p>ることから、基本的には現在の方法をさらに改善していくことで対応できるであろう。特に重要語句を空欄にしたプリントを配布し、パワーポイントを利用して語句を示す方法は好評のようであるため、今後活用していきたいと考えている。ただし授業方法に関連して、授業中におけるアクティブラーニングをどのように展開して、学生の積極的な授業参加を促していくかが大きな課題であるが、高度に抽象的な思弁を本質とする哲学・倫理分野の科目で、しかも受講生が200名を越す授業の中でそれをいかに実践していくかについては困難を伴うと言わざるを得ない。哲学・倫理分野の科目であるからこそ、参加する学生たちの主体的・能動的な思考が不可欠であるが、所属学科や関心・意欲も多様な受講生にそれを要求することは、言うは易く行うは難きものがある苦慮するところである。とは言え、その方向で改善していくためにどのような方途があり得るかを、引き続き検討していく所存である。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 月4

科目名 専門演習B

教員名 柳 智盛

回答者数/履修者数 5/7

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>専門演習Bの授業満足度の結果は、4.2の平均であった。4年次の卒業研究論文の執筆に向けての内容を中心に授業を進めた。特に、論文の書き方や先行研究の資料集めなどを中心に受講者が必要とする内容を中心に進めた。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>受講生の授業態度や学習意欲などの向上のため、卒業研究論文の執筆に向けての指導などでは、理解が難しい学生もいたため、個別指導などを通して、全員が授業の到達目標に近づけるために工夫をしながら授業を行ったが、学生によっては負担にも感じる部分があったと思う。また、授業の進め方においては具体的な課題を提示し各自の卒業研究論文を自ら取り組めるような工夫しながら授業を行った。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>各受講生の卒業研究論文の進捗状況に合わせて毎回の授業を展開する形式であったため、学生の個々の能力や進むペースが違う中、受講生全員が授業の到達目標に近づけるかが課題でもあり、授業の内容においては平均4.0の結果であった。各学生の卒業研究論文のテーマに合わせて授業内で発表を行い、それに対してディスカッションを行うことで授業を進めるなどの工夫を行った。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>授業の方法については、3.8から4.4の評価結果であった。授業では、テーマにもよるが基本的に自分の考え方をまとめ全員で共有する形式として、各自の卒業研究論文を進めながらゼミ内でのディスカッションを通して自分の考え方と他の学生の考え方をまとめ、教員を含めた学生同士のコミュニケーションの練習の場として、今後も工夫しながら進めていきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>今回の専門演習Bの授業は、ゼミ生としての指導も含めて行う必要があり、ゼミの中には修学上の配慮が必要とする学生もいることから、授業だけではなく関わる時間が多かったことから、授業時間内でも関係性が作りやすかった。個々の学修能力を踏まえて、大学生活・学修を含めた指導をしていく必要があると考える。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 月5

科目名 卒業研究

教員名 柳 智盛

回答者数/履修者数 5/6

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>卒業研究の授業満足度の結果は、4.6の平均で全体の平均より高い結果であった。大学での学びを総まとめするような卒業研究論文を完成することが授業のねらいである。特に、卒業研究論文のテーマは、3年次から学生自分の興味関心のあるテーマで執筆を進めて、教員からの指導として論文の書き方や先行研究の資料集めなどを中心に行う授業である。クラス内での授業に合わせて個別指導を細かく行う工夫した。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>受講生の授業態度や学習意欲などの向上のため、卒業研究論文の完成に向けての指導などでは、理解が難しい学生もいたため、個別指導などを通して、全員が授業の到達目標に近づけるために工夫をしながら授業を行ったが、学生によっては負担にも感じる部分があったと思う。また、授業の進め方においては具体的な課題を提示し各自の卒業研究論文を自ら取り組めるような工夫しながら授業を行った。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>各受講生の卒業研究論文の進捗状況に合わせて毎回の授業を展開する形式であったため、学生の個々の能力や進むペースが違う中、受講生全員が授業の到達目標に近づけるかが課題でもあり、授業の内容においては4.2から4.6という結果になったと考えられる。各学生の卒業研究論文のテーマに合わせて授業内で発表を行い、それに対してディスカッションを行うことで授業を進めるなどの工夫を行った。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>授業の方法については、4.4から4.6の評価結果であった。授業では、卒業研究テーマにもよるが基本的に自分の考え方をまとめ、全員で共有する形式として、各自の卒業研究論文を進めながらゼミ内でのディスカッションを通して自分の考え方と他の学生の考え方を述べる形式で授業方法を進めてきた。教員を含めた学生同士のコミュニケーションの練習の場として、今後も工夫しながら進めていきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>今回の卒業研究の授業は、ゼミ生としての指導も含めて行う必要があり、ゼミの中には修学上の配慮が必要とする学生もいることから、卒業研究論文の執筆においても配慮をしながら指導したことで、全ての受講生が卒業研究論文を完成することができた。そのようなこともあり受講生と関わる時間が多かったことから、授業時間内でも関係性が作りやすかった。個々の学修能力を踏まえて、大学生活・学修を含めた指導をしていく必要があると考える。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火3

科目名 加齢と障害に関する理解

教員名 柳 智盛

回答者数/履修者数 7/18

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>本授業の満足度は平均3.9で受講生の満足度は全体平均をかなり下回る結果であった。社会福祉学科専門科目ではあるが、教職課程の指定科目でもあり授業内容が教職を目指す学生が加齢と障害に関連した知識をより深く学べるように展開している授業内容である。しかし、学科専門科目の自由選択科目でもあることから、教職課程の学生でない受講生も多く受講していることから授業内容と学生の興味関心がマッチしていないことが、満足度が低い理由でもある。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本授業は、加齢と障害に関する知識修得後に各自で授業内容をまとめて、社会においての問題点や改善点を自ら調べ、考える形の授業内容である。さらに、受講生同士でディスカッションを通して内容をより深める作業を行う。振り返り作業を通して作成した各自の発表資料・発表態度などを受講生同士で評価表を作成した上で、担当教員の評価と照らし合わせる授業展開をすることで、学修意欲の向上にもつながったと考えられる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業の内容については、3.7~4.1の評価であり、受講生が興味を持って授業を受けていたと考えられる。受講生は、加齢と障害に関する知識を修得後、グループワークや発表を通して、受講生自身が興味関心のある加齢と障害に関する諸問題を自ら調べることで、受講生の授業内容への関心度がより高くなったと考えられる。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>授業の方法については、3.7~4.0の平均で、受講生において授業の方法は的確であったとは考えられないと考えられる。しかし、本授業は、教職課程の学生に求められる知識に基づいて、自ら課題設定や課題解決をねらいとすることが多い授業であることから、受講生にとっては理解が難しくそれに適した授業内容ではないかとの改善点が多くある授業であったと思う。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>本授業は社会福祉の分野の中でも、主な授業内容は教職課程の養成において、加齢と障害に関連する知識をより深く修得するために設けた科目である。授業の評価方法において、プレゼンテーション及びディスカッションを中心とした授業展開であることから受講生が高い興味関心を持って授業に臨んでいた。今年度の受講生とは、授業の展開がうまくいかなかった点を踏まえて、次年度の授業展開について再検討が必要である考える。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 水3

科目名 社会福祉の原理と政策Ⅱ

教員名 大島 啓

回答者数/履修者数 39/51

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>授業評価の満足度は、ほぼ平均並みであった。自由記述は肯定的意見（話が楽しい、おもしろい、分かりやすい）が大半で、早口との指摘が1件あった。教科書を離れてレジュメを洗練させているため、レジュメにイラストがあり想像しやすい、理解しやすいなどの感想があった。引き続きレジュメのブラッシュアップに努めたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生に興味を持ってもらうために、プリントに多くの画像や図、関連知識などを配置し、無味乾燥な内容にならないよう努めた。またレジュメに学生が書き込む部分を多数用意し、常に手を動かす機会を作ることによって、集中力の低下を防ぐよう努めた。あと受講生から寄せられた質問には、次の授業の冒頭で必ず答えるようにしている。書き込む部分をパワーポイントでプロジェクターに映し出すことで、板書する時間の短縮と、教室の後ろからも文字を見えやすくする効果を図っている。授業の最後に行っている小テストが、復習に効果大ということで大変好評である。正解が多いと「うれしい」とコメントカードに書いてくる学生も多い。国家試験の問題を少しづつ入れ替えながら、今後もこの手法を改善して継続していきたい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業編成はシラバスに従い、整合性を持たせた。内容も時事的、歴史的なトピックを適宜挿入し、興味関心を高めるよう努めた。学生の反応としては、解説が分かりやすい、歴史的背景等の話が興味深いというものが多。リフレクションカードの反応は上々である。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>話し方や熱意、配布資料の使用法については、一定の評価を得ていると考えている。例年寄せられる早口についての指摘が、今年も1件あった。気を付けたい。授業の最後に行う復習テストの実施は好評である。授業の最初に行う、学生のコメントへのフィードバックの時間も意識して短くした結果、それが長すぎるという意見は見られなくなった。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>社会福祉の原理と政策Ⅱは、福祉の社会的背景や歴史、制度の概略や倫理を示す教養的な内容の科目である。この教養型の授業スタイルに対しては、「ややくどい」という内容の感想が寄せられることもあるので、毎回すっきりとした授業内容とスタイルを心掛けている。授業評価の満足度はおおむね納得のいくものではあり、自分としては授業スタイルの一つの型を形成できていると実感している。ただいくら改善の余地(早口など)は残されているので、引き続き努力していきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 水1

科目名 専門基礎演習B

教員名 梅野 潤子

回答者数/履修者数 6/8

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>授業の満足度は平均4.8と高いものであった。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本授業では、授業開始時に受講生と協議し、授業内容を考え授業計画を作成した。そのため、受講生が取り組みたい内容が含まれており、学修意欲の向上につながったと思われる。また、授業に向けた課題も複数回課したため、予復習についても平均4.5と高い結果となった。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業内容については、各項目ともに高い評価を得た。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>授業の方法についても、各項目ともに高い評価を得た。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>2年次のゼミであるため、レポートの書き方や参考文献の調べ方など、アカデミックスキルに関する内容を盛り込むとともに、受講生の取り組みたいことも授業内容に取り入れたことが、高い満足度につながったと思われる。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木3

科目名 ソーシャルワーク演習（社会）Ⅳ

教員名 梅野 潤子

回答者数／履修者数 9／10

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q10</p>	<p>本授業は、社会福祉士国家資格取得希望者向けの必修科目である。実習を終えた学生がそれぞれの実習体験を持ち寄り、事例を作成し事例検討を行うものであった。実際の現場の事例をもとにグループごとに事例を作成し、それらに対してアセスメントや支援計画を作成するという実践的な内容であったため、実習後の学生にとって満足度の高い物となった。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>国家資格取得希望者が受講しており、実習経験も有しているため、受講生の目的意識が高く、それが授業の予復習への取り組み（平均4.1）や受講態度（平均4.4）に好ましい影響をもたらしたと思われる。また、授業に各受講生の実習経験を活用したことにより、実習の振り返りや他の実習生の経験の共有にもつながり、それが学習意欲の向上につながったと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>授業のまとめ、シラバスの整合性、授業内容ともに高い評価を得た。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>授業の方法についても、いずれの項目も高い評価を得た。特に遅刻・私語への対応や授業参加の促進については、実習科目ということもあり厳しく対応した結果、高い得点となっている。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>過去6年間を掛けて、実習後の学生向けの授業内容を他のクラス教員と協議しながら構築してきた。概ね各項目で受講生からの評価は高く、学生の主体性を引き出す授業を展開することができていると捉えている。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 月4

科目名 ソーシャルワークの基盤と専門職（社会）

教員名 野田 健

回答者数／履修者数 30／42

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q10</p>	<p>Q13の満足度は4.9点であったことから、学生に受け入れられる授業が行えたかと評価する。ただ一方で、Q1の学生の授業態度の自己評価が4.2点、Q2の予習復習が4.4点、Q12の理解度が4.7点とスコアが少し低い。この科目は国家試験科目でもあるため、満足度が高いこと自体は良いが、最も重要な点は理解度であり、だからこそ学生が主体的に学べる授業内容でなくてはならない。そのことを踏まえると、まだまだ改善しなくてはならない点があると考え。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生の受講態度・学習意欲等については、授業が学生にとって「面白い」「理解しやすい」ものであるかが最も重要であると考えている。特に1年次であり、実習等の体験もないことから、DVDを活用することで視覚的に理解できるようにしている。また、学修進度について学生本人がわかるように小テストも取り入れている。それらが評価につながったものと考え。</p> <p>来年度以降も、より分かりやすい映像資料を用いつつ、またゴール（社会福祉士国家試験）がどのようなものであるのかがわかるように小テスト等でも工夫をしながら、受講者が満足を得やすい授業を展開していくよう努めていく。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3～5は、5.0、4.8、4.8点であったため、おおよそ問題はなかったものと考え。Q4はシラバスとの整合性、Q5は授業内容への興味であることから、その点に関して、来年度実施の際は見直したい。</p> <p>なお、その見直しを行うにあたり、国家試験の出題傾向が変わり、事例を用いた問題が増えたことを踏まえ、今まで以上に授業内でも事例を使っていくことが望ましいと思われる。については、授業案に事例紹介・解説も組み入れるよう改善を目指す。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q6～11は、5.0、4.9、4.9、4.9、4.8、4.8、4.8であった。4.8の箇所は、板書・機器使用の適切さ、遅刻や私語への対応、参加を促す工夫である。それぞれ、具体的に何がいけなかったのか具体的にわからないため、具体的な改善方法が探れないが、上記したとおり「面白く」「わかりやすい」授業を今以上に追及しつつ、より参加型の方法に切り替えていくことで、今回のアンケートに答えていきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>この授業は、何年も担当をしていることもあり、毎年改善を図りながら昨年度以上の内容にしようと思つて努力している。その結果がアンケート結果に出ていると思われる。</p> <p>ただ、社会福祉の実践現場は日々進歩しており、上記したとおり、国家試験も出題方法が変わってきている。その変化を常に適切に捉えながら、授業内容・方法も常に発展・進化させていく必要がある。その気持ちを忘れずに来年度以降も努めていきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火4

科目名 ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅰ

教員名 野田 健

回答者数／履修者数 10／12

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q10</p>	<p>Q13の満足度は4.9であったことから、学生にとって良い授業ができたと思われる。しかし、一方で、Q1の予習復習、ならびにQ2の学生自身の態度の評価が4.7点であり、若干点数が落ちる。この授業は、実習のための授業であることから、学生が主体的に学ぶことが一番重要となる。そのため、学生自身の態度の評価が5.0点になるよう、受講者全員が主体性を持ったものにしていかなくてはならないと考える。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>この授業は、実習に行く前、実習から帰ってきた後のプログラムがすでに用意されているが、このプログラムを適切に行っていくために重要になるのは、学生のモチベーションである。その引き上げに関して、この授業では、学生同士で意見交換や作成物のチェックをする機会を多く設け、互いに今のくらい頑張っているのかを確認しながら取り組めるように工夫している。それが今回の授業評価の結果につながったと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3～5は、すべて5.0であったことから、学生に受け入れられたと考える。また、この項目の数値が高いことは、教員側の努力だけでなく、学生自身の意識・資質が関係している。今回、担当した学生は誰もが非常に意識が高く、努力することを惜しまなかった者ばかりである。そうした学生の意識・資質によるところが今回の結果を生み出したと考える。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q6～11もほぼ5.0点であり、学生に高く評価された。ただ、上記のとおり、この項目も学生の意識・資質によるところであり、今回の学生が主体的に取り組み、資料等を大切に扱った結果であると考え。来年度以降も、今回と同じ評価を得られるよう、1人ひとりの学生に丁寧に関わっていきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>何度も書いているが、学生が高い意識をもって実習に臨んだ結果が、今回の授業評価に反映していると考え。そのように振り返ると、授業内容も重要であるが、学生のモチベーションをいかに高めていくかも非常に重要な要素であると考え。ついては、今後も社会福祉士の先輩として、社会福祉士の資格を取ることの意義や将来性を伝えながら、学生が積極的に授業に取り組めるよう努めていきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 月3

科目名 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ

教員名 韓 榮芝

回答者数/履修者数 48/56

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>履修者56名、回答者41名（内留学生7名）回答率85.7%、授業満足度は4.1（去年4.1）留学生は4.9（去年4.8）。本科目は1年生を対象に学科専門（必修）科目で、内16名2年生以上の学生、他学科や留学生も含め、国家試験の必須科目でもある。講義を主に、個人ワーク、グループワーク、動画視聴などを併せ進めている。章ごとに小テストや課題レポートを行い、予習と復習を強化している。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>今回は全ての授業が対面で行った。中クラス（56名）の講義であり月曜1限目の授業であったため、遅刻や欠席のないように授業の最初に前回の授業内容を丁寧に復習し、簡単な小テストを行った。本科目は卒業必須科目であり、国家試験（SW/PSW）の受験科目でもある。そのため、予習と復習を徹底させ、受講生に理論的知識を得るのみならず現場での理論を実践に結びつけるように、動画の視聴や参考資料を配布するなど理解しやすく実施した。授業毎に次の授業内容をレジュメ配布、図やグラフなどを取り入れながら丁寧に資料作成をし、復習を積極的に取り組むようにレポートを課題とした。受講者からは、グループワークや具体的事例の提示が学習意欲を高めたという評価が多く見られた一方、理解の定着を促すための振り返りの時間や、学生同士の意見交換の機会をさらに充実させることが望まれている。今後は、対話的学習をより意識した授業設計を進めていく必要があると考えている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>質問3から5の平均得点順に3.9,4.2,4.1（去年4.2, 4.3, 4.2）、うち留学生3.8, 4.1, 4.0（去年4.9, 4.9, 4.9）であった。改善策として、事前学修や事後復習を徹底したことである。社会福祉士の受験科目であり、卒業必修科目でもあるので、丁寧に留学生も含め分かりやすく事例やリアルな動画視聴を取り入れていたこと。また、教科書に書いていない事例もグループワークで議論をしたり理解を深め、授業の参加を促して理解を深めること。授業の目的や流れ、学習のポイントが明確で理解しやすかったとの評価を得た。特に、授業の冒頭で目標やキーワードを提示した点、レジュメが整理されていた点、具体例を用いた説明が理解を助けた点が評価されている。また、重要事項の強調や段階的な説明により、授業の全体像を把握しやすかったという意見もあった。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>質問6から11順に、3.9、4.3、4.1、4.2、4.2、4.1（去年4.1、4.5、4.5、4.0、4.0、4.5、4.2、一昨年3.8、4.1、4.0、4.0、4.0、3.9）であった。授業中に小人数でグループワークを行い、質問紙を用いて質疑応答を随時に行ったこと。予習と復習時間を確保するために授業毎にコメントを書いてもらい、フィードバックを行ったこと、授業前後に課題レポートを出すなど学修を促していた。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>「改善が望まれる点」として、より具体的な説明が必要であるとの指摘があり、専門用語の理解に個人差が見られたことから、基礎的概念の補足説明や確認の機会を増やす必要がある。また、配布資料と説明内容の対応関係が分かりにくいとの意見もあり、資料構成の整理と説明方法の改善が課題として挙げられる。そのため、今後の改善として、第一に、学習キーワードの具体化と基礎概念の補足説明の充実。</p>

項目見出し	コメント
	第二に、資料構成の整理と視覚的提示の改善。第三に、グループワークと振り返り活動を組み合わせた参加型授業の強化と考えている。

アクションプランシート

2025年度後期 月5

科目名 卒業研究

教員名 韓 榮芝

回答者数/履修者数 8/9

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>本授業の受講者は9名で回答者数が8名（うち留学生7名）、回答率88.9%。満足度の平均評価は4.8（去年5.0）であった。向上策として、学生の要望や進み具合を把握し、メリハリのある授業を取り組めた。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>留学生が多く、受講生に対する論文作成の技法は勿論、心のケアを継続して丁寧に指導していくこと。そのため、学生個々の実情に応じて相談を行い、日本人学生と留学生との特徴を応じて卒業研究や、国試対策及び就活支援を進めていた。ゼミ生の学習状況（卒業研究）や就職上の悩みに対しきめ細やかな相談をし、国試対策においては学内だけでなく学外の学修もグループで実施し互いに学び合い活動を通じて全員一致で合格できるような雰囲気をつくる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>質問3から質問5の平均点は、4.5、4.6、4.5（4.8、4.8、4.8）であった。改善策として、学生の疑問や連絡に対してより細やかな対応、個々のニーズや状況に対応して個別相談を行い、学生の話しを真摯に受け止め、ゼミ運営は全員で参画し、互いにアイデアを出し合って学生同士の間や教員との信頼関係を築くように心かけたこと。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>質問6から質問11の平均点は、Q6～Q11：4.6、4.6、4.8、4.5、4.8、4.8（4.8、4.8、4.8、4.8、4.8、5.0）であった。改善策として、学習意欲を高めるために、学生自身が課題を見つけ取り組めるように事前学習を促し、互いに学び合えるように授業中に課題発表やディスカッションを行い、知識や情報を共有していくこと。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>4年のゼミ生に対し今回は前期続き後期もアンケートを取った。少人数のゼミであり、且つ留学生が全員本ゼミに所属したため、学生らとの距離が近くマンツーマンで学生の実情や要望をよく把握できた。また、ゼミ生と一緒に授業運営を進めていくことができた。今回の授業アンケートを踏まえて今後学生のご意見を授業運営に反映していき、学生らの関心・興味を持つように、学習意欲を高めるように学修環境を作ることが重要だと思う。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火3

科目名 保健医療と福祉

教員名 韓 榮芝

回答者数/履修者数 41/56

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>履修者56名、回答者41名（内留学生4名）回答率73.2%で、授業満足度は4.2（去年4.0）、留学生は5.0。本科目の担当は2年目であり、社会福祉士や精神保健福祉の受験科目である。授業の形態は講義を中心に、個人ワーク、グループワーク、少人数の発表を用いて、互いに学び合うことができた。受講生は二年生や上級生、留学生もいるので専門用語や定義などを振り返り復習することが重要だと考え、動画を取り入れ事例や関係する人物などについてイラストなどを用いて、予習と復習ができるように授業毎に内容に合わせて設問とその解答を作り、授業レジュメ資料を事前に配布し、国試に関する過去問を練習し多くの受講者が授業内容を理解しやすいとのコメントもあった。しかし、前年度より+0.2ポイントであるが、全体の平均満足度よりまた低く、今後さらに工夫していく学生個々の状況に応じ授業方法を改善していく。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>中クラスの講義ということもあって、木曜5限目の授業があったため、遅刻や欠席が少ないが居眠りのないため授業を積極的に参加するように、授業の最初に前回の授業内容を復習し、簡単な小テストを行った。本科目は2年生以上を対象に社会福祉士及び精神保健福祉士の必須科目となり、新カリの国家試験（SW/PSW）の受験科目でもある。受講生全体の学習意欲が高く見られたが、予習と復習ができるように、受講生に理論的知識を得るのみならず現場での理論を実践に結びつけるように、動画の視聴や参考資料の配布などを実施した。授業毎に次の授業内容を受講生にレジュメを配布し、図やグラフなどを取り入れながら丁寧に作成し、復習を積極的に取り組むように授業レポート提出や、授業後の振り返りを徹底して行った。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>質問3から5の平均得点順に4.1、4.3、4.4（去年3.8、4.2、4.0）であった。改善策として、事前学修や事後復習を徹底したことである。社会福祉士の受験科目でもあり、丁寧に留学生も含め分かりやすくように事例やリアルな動画視聴を取り入れていくことが重要であると思われる。また、教科書に書いていない事例もグループワークで議論しながら理解を深め、授業の参加を促して理解を深める。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>質問6から11順に4.1、4.4、4.2、4.3、4.5、4.4（去年3.9、4.4、4.0、4.2、4.2、4.1）であった。授業中に小人数でグループワークを行い、質問紙を用いて質疑応答を随時に行ったこと。予習と復習時間を確保するために授業毎に学修内容に踏まえ設問とその解答を書いてもらい、フィードバックを行ったこと、授業前と後に課題レポートを出すなど学修を促していたこと。授業冒頭で到達目標が明確に示されていたこと。特に、授業の構成の流れが理解しやすくなるように授業毎に明記し、タイムスケジュールが提示されていたこと。また、配布資料と画面表示が対応して、授業進行が時間ごとに区切られていたことで、授業構成の明確さに対する肯定的な意見が多く見られた。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>授業アンケート評価を受けて、また、公開授業では授業の工夫点と教育的効果について、「国家試験の事例を活用した点」、「事前グループ編成による円滑な討議限られた情報から多面的に検討する学習過程」、「法制度理解とソーシャルワーカー支援を関連付けた点」、「教員による個別助言」などを評価して頂き、主体的学習と実践的思考の促進が確認できた。また、グループワークの進め方や指示の具体性についても肯定的意見が多く、「自身の授業設計の参考になる」との記述</p>

項目見出し	コメント
	<p>も見られた一方、「ワールドカフェ形式などの討議方法の工夫」「グループディスカッションが活発に行われ」、「発表内容が具体的に理解しやすかった」という評価が多く、 教員からの助言により意見が出しやすい環境が形成されていたことが示された。 以上の結果から、本授業は①目標提示と構造化された進行②事例を用いた実践的学習③討議を中心とした主体的参加という点で教育効果が確認されたので良かったと思う。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 水1

科目名 専門基礎演習B

教員名 韓 榮芝

回答者数/履修者数 6/10

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>本授業の受講者は10名で回答者数が6名（うち留学生2名）、回答率60.0%。満足度の平均評価は4.0(今年から始めてアンケートを実施したため過去のデータない)であった。向上策として、学内（グループワーク学修）と学外（実践現場の見学、レクリエーション活動の企画等）両方の授業を取り入れてゼミ運営を行った。また、学生の要望や進み具合を把握し、実情に応じメリハリのある授業を取り組めた。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>留学生も含め、受講生に対する心のケアを継続していくことは依然として重要である。そのため、学生個々の実情に応じて相談を行い、興味関心のあるテーマや福祉現場で何か起きているのか身をもって学修していくようにゼミ運営を進めていた。ゼミ生の学習状況を把握しながらや悩みに対しきめ細やかな相談し、学内だけでなく学外の学修もグループで実施し互いに学び合い活動を通じて学修と研究の雰囲気をつくる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>質問3から質問5の平均点は、3.7、4.0、3.3（去年実績がない）。改善策として、学生の疑問や連絡に対してより細やかな対応、個々のニーズや状況に対応して個別相談を行い、学生の話しを真摯に受け止め、ゼミ運営は全員で参画し、互いにアイデアを出し合って学生同士の間や教員との信頼関係を築くように心かけたこと。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>質問6から質問11の平均点は、3.5、4.2、3.7、3.8、4.0、4.2（去年実績がない）。改善策として、学習意欲を高めるために、学生自身が課題を見つけて、個人ワークやグループワークを取り組めるように事前学習を促し、互いに学び合えるようにゼミ中に課題発表やディスカッションを行い、知識や情報を共有していくこと。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>2年生ゼミを対象にアンケートを取るのは今年度始め、少人数のゼミであるため、学生らとの距離が近く、マンツーマンで学生の実情や要望を聞くことができたし、ゼミ生と一緒に授業運営を進めていくことができた。今回の授業アンケートを踏まえて今後学生のご意見を授業運営に反映していき、学生らの関心・興味を持つように、学習意欲を高めるように学修環境を作ることが重要だと思う。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 月4

科目名 精神保健福祉の原理Ⅱ

教員名 足立 孝子

回答者数/履修者数 9/13

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>本科目は、2023年にも授業評価アンケートを行っているが、2023年度はQ13「授業の満足度」は「4.9」であった。今年度は、満足度が「4.8」に低下している。長崎国際大学に赴任してから3年目になることから、情性で授業をしていないか、もう一度気持ちを引き締める必要があると思った。現場の臨場感を伝えるために、体験したこと、思ったこと、嬉しかったこと、疑問に思っていることなどを熱を込めて伝えてきたつもりだが、その熱意が冷めないようにしていきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>毎回、オリジナルのレジュメを切り、わかりやすい資料づくりを心がけてきた。さらに、教科書の内容だけでなく、最近の話題や時事問題などを積極的に取り入れ、学生にも考えてもらうように促した。例えば、「優生保護法」や「Y問題（精神科ソーシャルワーカーの失態）」などを詳しく解説し、学生の意見を求めた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>2023年度は、Q3「授業はよく編成されており、わかりやすかったか」が「4.9」、Q4「シラバスとその整合性」が「4.8」、Q5「授業内容は興味あるか」は「4.9」であったのに対し、今年度は、Q3が「5.0」、Q4が「5.0」、Q5は「4.9」であった。一昨年度に比べて、わずかではあるが上昇している。今後は、さらに学生の興味をひく授業を心がけていきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>こちらの項目も2023年度に比べて、全体的に上昇している。とくにQ8「配布プリントについて」やQ9「板書の使用」が0.2ポイント上昇していた。とくに板書は、わかりやすく丁寧に書くことを心がけたことが評価につながったと思われる。Q10「遅刻や私語への対応」も0.1ポイント上昇していたが、Q11「授業参加を促す工夫」は、「4.6」であり、低い評価のままであった。私語はあまりみられないが、寝ている学生に対してどう対応していくか、どのように学生の興味関心を高めていくか考えていきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>2023年度に比べて、全体的な数値は上がっているが、「満足度」が下がっていることが気になる。精神保健福祉にあまり興味のない学生も実際に履修しており、ほとんど授業を聞いていないことがわかる。精神保健福祉士を目指し、やる気がある学生との温度が著しい。どのように教室全体を盛り上げていけばいいのか、科目の運営を考えていく必要がある。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 水1

科目名 ソーシャルワーク演習（精神）Ⅲ

教員名 足立 孝子

回答者数／履修者数 8／9

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q10</p>	<p>2025年度に続き、本年度もソーシャルワーク演習（精神）Ⅲでは、授業の満足度「5.0」を獲得することができた。本科目では、事例検討を繰り返し行っている。前期のソーシャルワーク演習（精神）Ⅱでは、教員が提示する事例を使って、学生同士グループの中で、事例の理解を深め（アセスメント）、さらに今後の支援の方向性（プランニング）まで行ってもらった。後期の授業（演習Ⅲ）では、学生が実習中に実際に体験した事例を使い、学生自身が事例提供者となって、アセスメント・プランニングを行う。さらに、昨年度からは授業の終盤はファシリテーターも学生に行ってもらっている。司会進行や板書も学生に担当してもらうことで、より主体的に事例検討に取り組めたのではないかと考える。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>前期授業（演習Ⅱ）から、「アイスブレイク」を取り入れて、発言しやすい、やわらかい雰囲気づくりを心がけた。また、実習前から事例検討を行うことを何度もアナウンスし、意識を高め、実習にも集中して取り組むことができたと感じる。アセスメントとプランニングをグループで考えることによって、学生自身の考えが深まるばかりでなく、他学生の意見を良く聴き、その意見を取り入れることができるようになった。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>今年度も昨年度に続き、Q3「授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすいか」、Q4「シラバスとの整合性」、Q5「授業内容の興味」のすべてにおいて「5.0」を獲得することができた。授業の中で繰り返し、今やっていることの意義を繰り返し、将来の仕事にどのように結びつくのかイメージがしやすいように工夫した。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>今年度は、Q6「話し方」、Q7「熱意」、Q9「板書」、Q10「遅刻や私語の対応」、Q11「授業参加の促し」については、「5.0」を得ている。これまでは、Q10に対して厳しい意見をもらうことが多かったが、今年度はダメなことはダメを貫いたので、評価が上がったと思われる。ただし、教科書や配布プリントについて、評価が下がっていることについては、アセスメントシートの作成方法などを見直すなどの対応をしていきたい。すべての学生が積極的に授業に参加し、グループ内では意見を交わすことができていたが、授業内で全体に向けて発表する学生が限られており、その点についてはもう少し配慮するべきであったと考えている。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>本授業で行っている事例検討は、精神科病院で実際に行われているものを応用したものである。段階的に実施する①教員の提示する事例の検討、②学生が事例提供し検討する、③ファシリテーターも学生が行うことによって、学生の積極性を段階的に高めることができた。今後は実際の事例検討会（精神科病院で行われる）に学生も実際に参加するなどして、学生のスキルを上げていくことができると考えている。夏の実習を体験することで、学生が凄まじく成長するということを実感できる科目である。今後は、さらなる成長を促し、現場の実践へとつなげていけるように指導していきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 月5

科目名 生活支援技術ⅢB

教員名 浦 秀美

回答者数/履修者数 7/9

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>本科目は2022年度以降アンケートをとっていなかったため、久しぶりのアンケート実施となった。</p> <p>22年度との比較やカテゴリ別の平均値との比較を行う。</p> <p>22年度の満足度の平均値は3.4であったのに対し、今年度は4.9であったため、単純に比較することはできないが数値は大幅に向上させることができていたことが分かった。また、講義科目の間13の平均点が4.7、社会福祉学科の平均点が4.5、1年生の平均点が4.6、全体の平均点が4.6であったのに対し、本科目は4.9であった。平均点より上回る結果を得ることができた。</p> <p>知識と技術の教授の際、テキストの内容を要約したプリントを作成し、重要ポイントを伝えたり、国家試験に出題される場合、どのように出題されるのかについても伝えた。また、視聴覚教材を活用したことが高値につながったと考える。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>演習の科目であることから、受講学生全員に対し発問し、回答に対してのリアクションを丁寧に行った。また、受講態度については、ほとんどの学生が良好な態度であったため、特段工夫をする必要はなかった。</p> <p>授業での振り返りをポートフォリオを通じて提出させたり、重要ポイントを問題形式にしたものを配付したり、定期試験前には項目ごとのまとめの資料や出題形式について丁寧に伝えた。また、定期試験前に学生からの質問に個別に対応し、不安なく学修（試験）に取り組めるように関わったことが学生の満足度を高めたのではないかと考えている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>講義科目の間3の平均点が4.7、社会福祉学科の平均点が4.5、1年生の平均点が4.6、全体の平均点が4.6であったのに対し、本科目は5.0であった。平均点より上回る結果を得ることができた。また、22年度の本科目の平均値は3.8であったことから大幅に数値を上げることができた。理由として、分かりやすさを重視した。文章の要約や図表を作成し資料として配付した。このことで学生が内容を理解、深化することに寄与できたと考えている。</p> <p>講義科目の間4の平均点が4.8、社会福祉学科の平均点が4.6、1年生の平均点が4.7、全体の平均点が4.7であったのに対し、本科目は4.6であった。平均点より概ね上回る結果を得ることができた。また、22年度の本科目の平均点は3.6であったことから大幅に数値が改善できた。授業内容とシラバスが合致していることを授業の度に伝えたことが高値につながったと考える。</p> <p>講義科目の間5の平均点が4.7、社会福祉学科の平均点が4.5、1年生の平均点が4.6、全体の平均点が4.6であったのに対し、本科目は4.9であった。平均点より上回る結果を得ることができた。また、22年度の本科目の平均点が3.7であったため、大幅に改善できた。興味を持たせるために、物品を使用した授業だけでなく、現場で実際に使用されている福祉用具を視聴覚教材で示したり、グループでディスカッションさせるといった取り組みが高値につながったと考える。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>講義科目の間6の平均点が4.7、社会福祉学科の平均点が4.5、1年生の平均点が4.6、全体の平均点が4.7であったのに対し、本科目は4.9であった。平均点より上回る結果を得ることができた。また22年度は4.0であったため大幅に改善できた。常に意識して話したことが高値につながったと考える。</p> <p>講義科目の間7の平均点が4.8、社会福祉学科の平均点が4.6、1年生の平均点が4.7、全体の平均点が4.7であったのに対し、本科目は5.0であった。平均点より上回る結果を得ることができた。22年度は3.9であったため大幅に改善できた。一人ひとりに語りかけること、一人ひとりの目指す方向性を把握したうえで解説したりリアクション</p>

項目見出し	コメント
	<p>したりしたことが高値につながったと考える。 講義科目の間8の平均点が4.7、社会福祉学科の平均点が4.6、1年生の平均点が4.7、全体の平均点が4.6であったのに対し、本科目は4.7であった。平均点より上回る結果を得ることができた。22年度が3.6であったため、大幅に改善することができた。プリントには必ず鏡文を設け、毎回資料を配付し、PDFデータをポートフォリオに掲載した。また、欠席学生や紛失学生にも適宜対応したことが高値につながったと考える。</p> <p>講義科目の間9の平均点が4.7、社会福祉学科の平均点が4.6、1年生の平均点が4.7、全体の平均点が4.7であったのに対し、本科目は5.0であった。平均点より上回る結果を得ることができた。22年度は3.3だったため大幅に改善できた。他の科目でも配付プリントをモニターに映し、学生のペースにあわせスクロールしたことが高値につながったと考える。</p> <p>講義科目の間10の平均点が4.7、社会福祉学科の平均点が4.6、1年生の平均点が4.6、全体の平均点が4.6であったのに対し、本科目は5.0であった。平均点より上回る結果を得ることができた。22年度は3.4だったため大幅に改善できた。適宜私語に対応したことがよかった。</p> <p>講義科目の間11の平均点が4.8、社会福祉学科の平均点が4.6、1年生の平均点が4.6、全体の平均点が4.6であったのに対し、本科目は5.0であった。平均点より上回る結果を得ることができた。22年度が3.6だったため大幅改善だった。</p>
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>4年ぶりに授業アンケートを行い、22年度の数値や本アンケートでコメントしたことを確認した上で授業を展開した。改善内容と取り組みが今年度の受講学生にはマッチしたものと考え。</p> <p>授業項目は科目によって異なるが、自立支援や利用者への尊厳、適切ではないケアを行わない、職業倫理といったテーマを基盤に項目の解説を行うことで、基本姿勢に統一感をもって授業が展開できたと考えている。</p> <p>次年度以降も今回のような評価を学生にしてもらえよう、個別に丁寧に対応していきたいと考える。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 水3

科目名 介護概論 I B

教員名 浦 秀美

回答者数/履修者数 14/21

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>本科目は今年度初めて授業アンケートを実施した科目であるため、推移の明示はできない。そのため、カテゴリ別集計との比較を行う。講義科目の間13の平均点が4.6、社会福祉学科の平均点が4.5、1年生の平均点が4.6、全体の平均点が4.6であったのに対し、本科目は4.7であった。平均点より上回る結果を得ることができた。</p> <p>満足度が平均点より上回った理由としては以下の事柄に起因していると考えている。①講義科目という性質上、テキストや資料を活用した授業展開になりがちであるが、個人ワークやペアワーク、グループワークに取り組みさせるような内容にしたこと、②授業内容の理解やイメージを深めるために関連した動画を活用したこと。</p> <p>満足度をさらに向上させるためにはまずは今年度の授業展開を踏襲しつつ、学生の要望を適宜確認し授業を構成していきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生の受講態度で心がけたこととして、少人数の受講者であることを活かし、一人ひとりに話しかけるように席の近くまで行きながら説明したり、学生間での取り組みの際に適宜学生の言葉をひろいフォローしたり、アドバイスしたりしたことが良かったのではないかと考える。</p> <p>学習意欲の向上のためには、ワークで取り組むことが受講学生の何に役立つのか、必要性があるのかについて適宜伝えていたことが良い結果に結びついたと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>講義科目の間3の平均点が4.6、社会福祉学科の平均点が4.5、1年生の平均点が4.6、全体が4.6であったのに対し、本科目は4.8であったことから、いずれの項目の平均点も上回る結果を得ることができた。分かりやすさの高値としては、本科目に連動している介護概論 I Aの内容や振り返りを適宜行い、視聴覚媒体を用いたことに起因していると考えている。</p> <p>講義科目の間4の平均点が4.7、社会福祉学科の平均点が4.6、1年生の平均点が4.7、全体が4.7であったのに対し、本科目は4.8であったことから、いずれの項目の平均点も上回る結果を得ることができた。シラバスとの整合性が高値としては、毎回の授業の冒頭と終了時にシラバスに触れていたことに起因していると考えている。</p> <p>講義科目の間5の平均点が4.6、社会福祉学科の平均点が4.5、1年生の平均点が4.6、全体が4.6であったのに対し、本科目は4.9であったことから、いずれの項目の平均点も上回る結果を得ることができた。授業内容が興味あるものであったということが高値としては、介護福祉士国家試験出題基準に沿っていることに加え、福祉(介護)実践者になった際に必要な知識であることを意識させるような声かけや課題設定を行ったことに起因していると考えている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>講義科目の間6の平均点が4.6、社会福祉学科の平均点が4.5、1年生の平均点が4.7、全体が4.7であったのに対し、本科目は4.9であったことから、いずれの項目の平均点も上回る結果を得ることができた。話し方の明瞭性が高値としては、話す内容や脈略を意識しながら伝えていたことに起因していると考えている。</p> <p>講義科目の間7の平均点が4.7、社会福祉学科の平均点が4.6、1年生の平均点が4.7、全体が4.7であったのに対し、本科目は4.9であったことから、いずれの項目の平均点も上回る結果を得ることができた。熱意ある授業に関し高値であったこととしては、介護の知識や技術は介護福祉士にとって必要であることと同時に、他の領域で活躍する人材になるにあたって必要であることを常に伝えたことに起因していると考えている。</p>

項目見出し	コメント
	<p>講義科目の間8の平均点が4.6、社会福祉学科の平均点が4.6、1年生の平均点が4.7、全体が4.7であったのに対し、本科目は4.9であったことから、いずれの項目の平均点も上回る結果を得ることができた。理由として、プリントにテキストのページ数を入れたり、プリントを書き込み式にし、ファイリングしやすいようにしたこと起因していると考え。</p> <p>講義科目の間9の平均点が4.6、社会福祉学科の平均点が4.6、1年生の平均点が4.7、全体が4.7であったのに対し、本科目は4.6であったことから、概ね平均点を上回る結果を得ることができた。理由として、後方の座席に着席している学生もモニターで内容を追いやすような工夫をしたことに起因していると考え。</p> <p>講義科目の間10の平均点が4.6、社会福祉学科の平均点が4.6、1年生の平均点が4.7、全体が4.6であったのに対し、本科目は4.9であったことから、いずれの項目の平均点も上回る結果を得ることができた。理由は、その都度指摘したことに起因すると考える。</p> <p>講義科目の間11の平均点が4.6、社会福祉学科の平均点が4.6、1年生の平均点が4.6、全体が4.6であったのに対し、本科目は4.9であったことから、いずれの項目の平均点も上回る結果を得ることができた。理由は、適宜個人での取り組みを入れつつ、グループ編成も工夫したことに起因していると考え。</p>
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>本科目の授業アンケートは今年度が初めてであったが、全ての項目において平均値を上回るもしくは平均値に概ね近い数値をおさめることができた。</p> <p>開講年次は1年であるが、今年度は1年生・2年生が半数ずつで編成されたことから、1年生チーム・2年生チームでディスカッション時は編成したり、混合チームを編成したり、学生の様子に沿って工夫をすることができた。</p> <p>授業内容を理解につなげるためには、短文で表現し、短文で表現したものを用いて知識の定着を図る際には文章でレポートをまとめさせる取り組みが展開できた。</p> <p>一方、授業導入時の前回授業の振り返りにも注力した。教員側から関わり、簡単な発問から、徐々に難易度を上げ発問することにも取り組んだ。</p> <p>今後の課題としては、予習・復習を主体的に取り組みさせることであると考えている。振り返りシートの提出で復習をさせたり、予習レポートを課したりしているが、学生が予習をしている・復習をしているという意識に乏しい様子も見られる。今後も工夫や検討を重ねていきたいと考える。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木1

科目名 臨床心理学

教員名 中村 尚生

回答者数/履修者数 6/7

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>本授業では、履修生の一定程度の満足度が得られたと考えられる。2022年度後期のアンケート結果と比較しても、理解度および満足度は高かったと考えられる。本科目は対面授業による実施かつ少人数の受講生だったため、授業内容の一部であるカウンセリング技法などをペアワークの方法を用いて体験的理解を促進できたことが、高い評価につながったと考えられる。しかし、2022年度後期のアンケート結果と類似する傾向として、準備学修(Q1)の評価が相対的に低かった。心理学関連科目の性質を踏まえると、学修内容の抽象度が高く、知識を教授されるだけでは学びの実感に欠ける場合がある。そのため、準備学修と授業内容の連続性を保ち、主体的な学びの機会を提供する必要がある。次回の授業内容を事前に通達したうえで、受講生の身近な経験と理論を関連づけるような事前課題を提示したり、授業後の小テストの頻度を増やしたりすることで、準備学修を積極的に奨励し、知識定着や学修理解の促進を図りたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>健康栄養学科開講の科目であったため、臨床心理学の知識を概説することに加え、管理栄養士を志す履修生の対人援助技術の向上に寄与する授業内容を取り入れた。例えば、摂食障害患者の認知・行動的特徴や栄養指導の基盤となる学習理論、カウンセリング技法などの内容が挙げられる。そのような内容を積極的に学修できるように視覚教材や体験ワークを多く取り入れた。それによって、受講生の注意集中の持続や、具体的なコンテンツから知識を構築するといった一定程度の学修効果があったと考えられる。加えて、過去の授業(臨床栄養学など)で学修したことなどを聞き取りながら、発展的な学修内容が提供できるように心掛けた。これらの取り組みが履修生の学修意欲に肯定的に作用したと考えられる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3や4の質問項目に対する評価を踏まえると、次年度は、シラバスと授業内容の関連についてより丁寧に説明をしたり、各回の授業内容が学びの総体として連続性をもつような授業構成にしたりすることで、改善を図りたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q8の質問項目に対する評価を踏まえると、授業資料が電子データによる配信の形式をとったことが影響していると考えられる。授業内容や課題によって、紙媒体を用いることが効果的だと判断される場合には、授業資料を配付することも検討したい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>本授業では、受講生の準備学修の時間があまり確保できていなかったと考えられる。これに鑑みると、授業担当者は履修生が予習・復習の意義を感じられるような授業設計をおこなうべきだと考える。例えば、反転学習を取り入れ、授業課題が次回の授業内容と明確な連続性をもつように工夫したり、復習の必然性を高めるために随時試験を授業内で複数回実施したりすることが挙げられるだろう。また、栄養学や栄養指導との関連性を踏まえた臨床心理学の知識や技術を、授業内</p>

項目見出し	コメント
	容に積極的に取り入れることで、学修意欲や知的好奇心を高め、授業外学修を積極的に推奨していくことも重要だと考えられる。

アクションプランシート

2025年度後期 火5

科目名 介護概論ⅠA

教員名 久田 貴幸

回答者数/履修者数 40/47

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>本科目の満足度の平均は4.7であった。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本科目は、福祉を学ぶ1年生に対して介護福祉の理解を求めるものであった。学生の中には、介護福祉に対してネガティブなイメージを持つものが多く、その多くが誤った認識であることが理解できたのではないかと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>本科目のわかりやすさ4.8、シラバスと授業内容の整合性4.8、授業内容に対する興味4.8であった。この結果は、例年通りであると言える。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>本科目において大きな改善が必要な項目は見当たらない。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>授業において学生の介護に対するイメージを把握した上で、授業冒頭で回答する形で双方向性を意識した。その上で、一般的に知られていない新たな介護の魅力を伝達できたと考える。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 水その他

科目名 介護過程ⅢB

教員名 久田 貴幸

回答者数/履修者数 3/5

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>本科目の満足度の平均は4.3であった。この結果は例年通りと言える。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本科目は、介護福祉士を目指す4年生に対し介護に必要な基礎知識を振り返り、就職および国家試験に向けて準備することを目的に実施した。自身の将来に関係する内容であったため学生の受講態度、学習意欲等の向上につながったとかがえる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>本科目のわかりやすさ4.7、シラバスと授業内容の整合性4.3、授業内容に対する興味4.3であった。この結果は、例年通りであると言える。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>本科目において大きな改善が必要な項目は見当たらない。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>受講学生は、自身の進路や国家試験に向けて必要な確認が行えたと考えている。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 金1

科目名 介護過程ⅡB

教員名 久田 貴幸

回答者数/履修者数 7/7

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>本科目の満足度の平均は4.6であった。この結果は例年通りと言える。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本科目は、介護福祉士にとって必要な専門的な思考プロセスを学ぶことを目的としている。学生の興味関心に照らし合わせながら、理論の伝達だけでなく、事例に基づいた個人ワーク・グループワークを活用したことが学生の受講態度、学習意欲等の向上につながったと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>本科目のわかりやすさ4.3、シラバスと授業内容の整合性4.0、授業内容に対する興味4.3であった。この結果は、例年通りであると言える。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>本科目において大きな改善が必要な項目は見当たらない。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>本科目の受講者は7名であった。学生たちのほとんどは、介護または福祉専門職を目指している学生であり、そのモチベーションを維持・向上させることを念頭に授業を実施した。また、卒業後の進路についても明確に考えることができるように授業を行った。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 金2

科目名 介護過程Ⅰ

教員名 久田 貴幸

回答者数/履修者数 9/9

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>本科目の満足度の平均は4.9であった。この結果は例年通りと言える。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本科目は、介護福祉士にとって必要な専門的な思考プロセスを学ぶことを目的としている。学生の興味関心に照らし合わせながら、理論の伝達だけでなく、事例に基づいた個人ワーク・グループワークを活用したことが学生の受講態度、学習意欲等の向上につながったと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>本科目のわかりやすさ4.8、シラバスと授業内容の整合性4.8、授業内容に対する興味4.8であった。この結果は、例年通りであると言える。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>本科目において大きな改善が必要な項目は見当たらない。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>本科目の受講者は9名であった。学生たちのほとんどは、介護または福祉専門職を目指している学生であり、そのモチベーションを維持・向上させることを念頭に授業を実施した。この点において概ね目標達成できたと考える。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木2

科目名 社会福祉調査の基礎

教員名 斐 孝承

回答者数/履修者数 44/54

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>本授業に関する受講生の満足度は、4.4点であり主観的には満足度が高かったが、本学の平均などに比べて低く、去年により若干下がっている。今年を受講生の状況を十分に把握しなかったことがその原因として考えられる。長年担当している科目であるが、受講生の変化に対応する。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>去年に比べて意欲が低く、受講の基本姿勢に問題があった学生と意欲が高い学生の差があった。どちらも満足できるように授業内容の難易度を工夫した。 問題を難しい問題から簡単な問題まで準備した。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>国家試験科目であるため、カリキュラムが決まっているが、授業内容に興味を持ったない学生も5名程度いる。今後はその学生も興味を持つような、たとえなどを準備して意欲を高める。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>他の項目に比べて、授業方法や評価が高い傾向である。しかし、話が明瞭だったかの項目は他より点数であった。話し方については、内容が多いため早口で伝えていることがその原因の一つであると考えている。 また、学生の授業参加を促すような工夫についても点数が若干低かったが、学生の参加を促すために、個別質問と演習問題を毎回出しているが、今後は、グループアップも入れて授業を促すことを改善策として考えている。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>国家試験資格の必須科目であり、内容自体が他の科目より面白い、楽しい内容である。今回は、授業態度の良くない学生の対応が大変だったが、学生のアンケートにもその件が指摘されている。しかし、本科目は確実な知識となっており、復習予習ができる仕組みとなっていることは、受講生が気づいている。授業については学生個人の温度差をどのように解決するのが課題である。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 金3

科目名 ソーシャルワーク演習（精神）Ⅰ

教員名 丸山 貴志

回答者数／履修者数 9／10

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q10</p>	<p>授業に対する満足度は、平均4.9と高い評価を得ることができた。受講者数が少ないこともあるが、多くの学生が満足できる内容だったのではないかと思われる。今後も評価が下がることがないように授業に取り組んでいきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>演習科目で、受講者数も少ないことから、個々に対して丁寧な対応ができたことが学習意欲等の向上につながったと思われる。また、ロールプレイを実施する際は、より実践に近いケースを想定した課題にしたことが意欲向上につながった要因であると考えます。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3の授業はよく構成され、まとまっており、わかりやすかったかの質問で、若干低い平均値だった。今後、授業の構成はシラバスに沿って流れをつくり、しっかり順序だてることで分かりやすい授業となるよう工夫していきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q9の板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切だったかの質問で、若干低い平均値だった。演習科目であるため、板書やパワーポイントは、ほとんど使用しなかったことが理由の一つとして考えられる。今後は、重要な内容やロールプレイでのポイントなどは、板書はパワーポイントの資料を活用しながら授業を進めていきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>(2)でも述べたが、本授業は演習科目で、受講者数も少ないことから、個々に対して丁寧な対応ができた。このことは学習意欲等の向上につながったと考えている。また、学生一人一人の特性や学修の進捗状況をしっかり把握できたことは、よい授業につながった要因だと考える。 演習科目であるが、板書やパワーポイントなど適切に活用し、よりよい授業となるよう今後も取り組んでいきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 水3

科目名 心理学

教員名 針塚 緑樹

回答者数/履修者数 22/23

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>本授業では、アンケートの結果より一般学生、留学生ともに概ね高い満足度が得られたと考えられる。本授業は既存の教材を使用せず、担当教員が事前に準備した資料をmanabaを活用して授業を行った。基本的には、資料は紙で配布せず個人でダウンロードして使用する形としたが、希望者には資料を紙媒体で配布する工夫も行った。自由記述にも挙げられていたように、出来る限り受講生が日常生活や自身を振り返りながら取り組めるよう、理論の説明においても具体例の提示や実際の実験動画、グラフや図などを提示することで理解が深まり、結果として満足度に繋がったと考えられる。そのため、今後もし出来る限り受講生にとって身近なテーマを取り上げながら心理学や人の心理について興味関心をもってもらえるようなテーマを選定することが必要と考えられる。また、授業の構成上グループワークは1回のみの実施であったが、今後は受講人数に応じてより柔軟に体験的ワークをもっと取り入れながら受講生間で意見交換ができるような工夫をしていくように考えている。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本授業は、健康栄養学科1年生を対象に全学共通科目として開講された科目であった。栄養学科では、3年次に臨床心理学が開講されていることを踏まえ、まずは心理学という人の心理全体について興味関心を持ってもらうことや、健康栄養学という人の健康や人と関わることを考える対人援助職を志す受講生が自身の身の健康や人と関わることについて日頃から振り返られるような授業テーマを設定した。栄養指導に繋がるようなカウンセリングに関わる臨床心理学だけでなく、さまざまな心理学の分野を学ぶことによって、他者や自己を理解するために多角的な視点を持つきっかけとなれるよう、新しい理論や一般的にトレンドになっていることから、心理学の基礎知識を学べるよう留意した。そのため、授業の資料は動画を含めた視覚情報を多用し、さらにレポート形式を取り入れることや体験的学びとなるようなワークも導入した。これらの取り組みにより、受講生にとって主体的・経験的な学びとなり授業の注意集中の維持に繋がったと考えられる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業内容に関するQ3~5に対する評価からは、受講生は本授業について授業内容の構成を一定程度評価し、関心をもって授業に臨んでいたと考えられる。このことは、全体的な授業評価であるQ12~13の結果と同様の結果であり、授業内容の評価が全体的な満足度・理解度に繋がったと考えられる。自由記述からは、受講生にとって心理学という学問が身近な生活に繋がっている内容であり普段経験していることを振り返りながら理解できるようなテーマ設定であることがより学びやすさや学修の楽しさとして経験できたと考えられる。授業内でも、心理学の専門用語についてSNSなどの影響から以前よりも一般的に認知されていることと、心理学の基礎ではあるが受講生にとっては初めて聞く用語もあったようであったため、そういったことも確認しながら引き続き受講生に理解しやすいよう丁寧に解説し展開していくことが必要と考えられる。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6~11授業の方法については、概ね適切な授業運営が出来ていたと考えられる。しかしながら、Q1の「なんらかの準備学習などをしましたか」の質問項目において低い得点であったため、授業中だけでなく事前事後学習につながるような授業の構成が必要であったと考えられる。授業内では、manabaのアンケートを活用していたが、小テストなどをこまめに実施し事前事後学習につながる工夫や改善に努めていきたい。</p>

項目見出し	コメント
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>本授業では、概ねどの評価においても一定の理解度や満足度を得られていたと考えられるが、他科目と比較して唯一受講生の準備学習が低かったことが示された。授業内における理解度の高さにも起因していたかもしれないが、受講生がより学びを深めたいという自主的・積極的な自己学習意欲に繋がらなかったと考えられる。そのため、復習学習の意義や予習学習が次回の授業内容と繋がるような、学習の連続性を意識した授業展開が必要と考えられる。そのためには、授業内で随時試験を実施することや、課題を設定するなどの工夫が挙げられる。しかしながら、最も重要なことは受講生の知的好奇心を刺激するような授業テーマを設定し、受講者が自ら授業外学習に取り組むような働きかけや推奨を行うことと考える。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木3

科目名 ソーシャルワーク演習（社会）Ⅳ

教員名 山下 彦

回答者数／履修者数 11／12

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q10</p>	<p>今回は4.3の結果を得た（11名）。2024年度は4.5（11名） 本科目における当該質問は、全体平均とほぼ同じまたは少し上回っているようであった。 授業内容は実習の経験を基に学生自ら事例を作成し、作成した事例を解決するための計画案を提示するものである。要は授業内容が自ら経験したことを基に展開していくものである。そのため自分や同じグループ内の学生と課題を見つけ出し、その課題を解決する方法を導き出す過程に満足していると思われる。今後の向上策としては、利用者の生活課題を解決する方法は、専門職の捉え方次第であり、その引き出しの多さをもつことの重要性を他の学生と一緒に議論しながら進めたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本科目における学生の受講態度は、意欲的に取り組む行為がみられた。その理由は、本科目が実習の経験を基に各学生が事例を作成し、自ら事例の課題解決を行う展開が組み込まれているためである。しかし、質問項目1「なんらかの準備学習などをしましたか」において、1名のみ「2」と回答していた。これは、授業後の取り組みを促すような働きかけが不十分であったと思われ改善の余地があり、状況に応じて学生の意見を適度に反映したい。 学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法においては、全員が同じ学習効果が得られるよう努めた。具体的には、課題が進まない学生に対して、教員から学生へ個別に働きかけ、疑問点等を確認し一緒に進める場面を設けた。この学習意欲は受講態度とも関連があると思われるため、今後も学生の受講態度を観察し、グループ指導・個別指導の教授法を磨き改善したい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>今回は、質問3平均4.2、質問4平均4.4、質問5平均4.3の結果を得た（11名）。 2024年度は、質問3平均4.3、質問4平均4.5、質問5平均4.4（11名） 質問4に対するものとして全体を通してシラバスに即し、大きな変更なく授業を展開した。その結果、授業アンケートにおいてもシラバスと授業内容の整合性に関し高い評価を得ることができた。本科目の流れは実習と関連し、ある程度完成されたものでもあり次年度も引き続きシラバスに即した授業展開を心がけたい。またQ3「授業を良く編成され、まとまっており、わかりやすかったですか」という項目に関して、平均4.2と他の項目と比べて低くなっていく。これは15コマで学生に何を教授するかポイントを明確にし、次年度対応したい。 受講態度が授業内容と関連があると思われるため、講義系科目での知識が豊富であると事例に対する課題解決の導き出し方も多種多様となることの意味付けを学生に働きかけたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>今回は、質問6平均4.2、質問7平均4.4、質問8平均4.5、質問9平均4.5、質問10平均4.6、質問11平均4.5の結果を得た（11名）。 2024年度質問6平均4.6、質問7平均4.5、質問8平均4.3、質問9平均4.4、質問10平均4.3、質問11平均4.4（11名） 全体平均を下回る、もしくは同等程度であった。低位だった項目は、Q6「話し方は明瞭でしたか」が平均4.2であった。改善策としては、授業展開において明確に伝えるポイントを教示するよう次年度対応したい。またQ10「遅刻や私語への対応」の項目は平均4.6であった。遅刻者への対応は随時、口頭指導するも期待した効果は得られなかった。考えられる理由は本科目がグループ演習であるため、気が合う学生同士になると授業態度に影響すると思われる。今年度は実習内容、実習先等が重ならないようグループ編成を行った。次年度は、これに加え学年を考慮した対応を実施したい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を</p>	<p>予習復習の項目は低位であるものの、全体に対し毎授業フィードバ</p>

項目見出し	コメント
受けての授業担当者の所感	<p>ックを適宜行ったので次年度も実施したい。加えて、学習意欲の向上と授業態度を意識したグループ編成に気をつけ、授業展開を行うことが本科目のポイントであると考え。</p> <p>今回のアンケートで頂いた評価及び自由記述の御意見を基に更に改善したい。本科目を受講する学生においては、実習後における事例検討・事例研究の意義および本質をつかんで頂くよう、グループ及び個別に対応しながら熱意をもって働きかけていきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 金2/3

科目名 栄養生理学実習

教員名 熊井 まどか

回答者数/履修者数 35/38

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>授業の満足度の評価は4.7であり、昨年度より0.3ポイント低下した。実習前の講義やレポート返却時の実習のまとめの時間を十分にとり、理解度の向上を図る。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>実習開始前に実習に関連する復習の講義及び実習内容の説明を行うことについて、理解度が向上した等の肯定的なコメントが多くみられた。次年度においても、丁寧な事前の講義を継続するよう努める。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業内容に関わる項目の評価は、Q3・4は4.9、Q5は4.7であり、昨年と同様に高い評価が得られた。「人体の構造と機能」に対する興味・関心が高まるよう、学生自身が被験者となり、体を使って実施する実習内容を継続する。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>授業方法に関わる項目の評価は、Q6~8は4.8、Q9~11は4.7であった。「板書の字が薄かったり、小さい時があり見えないことがある」とのコメントがあったため、次年度は太字用マーカーを使用し、大きな字で板書するよう心掛けたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>生成AIを用いたと思われるレポートが増え、以前と比較してレポート自体は読みやすくまとまりのある形となったが、実習の内容を十分に理解できておらず、形骸化したものになっている。また、講義・実習中の unnecessary スマートフォンの使用について、注意はしているものの、制御が難しいと感じている。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 金4/5

科目名 栄養生理学実習

教員名 熊井 まどか

回答者数/履修者数 29/30

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>授業に対する満足度の評価は4.7であり、前年度と同様の結果であった。実習前の講義やレポート返却時の実習のまとめの時間を十分にとり、理解度の向上を図る。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>実習開始前に実習に関連する復習の講義及び実習内容の説明を行うことについて、理解度が向上した等の肯定的なコメントが多くみられた。次年度においても、丁寧な事前の講義を継続するよう努める。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業内容に関わる項目の評価は、Q3・4は4.9、Q5は4.8であり、昨年と同様に高い評価が得られた。「人体の構造と機能」に対する興味・関心が高まるよう、学生自身が被験者となり、体を使って実施する実習内容を継続する。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>授業方法に関わる項目の評価は、Q6・7、9~11は4.8、Q8は4.9であった。「学生の授業参加を促すような工夫がなされていたか」の質問に対して、3の評価がみられたことから、実習前の講義の際には、学生への問いかけを増やし、一方向の授業にならないよう努めたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>生成AIを用いたと思われるレポートが増え、以前と比較してレポート自体は読みやすくまとまりのある形となったが、実習の内容を十分に理解できておらず、形骸化したものになっている。また、講義・実習中の unnecessary スマートフォンの使用について、注意はしているものの、制御が難しいと感じている。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火1/2

科目名 調理学実習Ⅲ

教員名 古賀 貴子

回答者数/履修者数 24/29

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>Q13の評価結果は4.8（昨年度4.8）であった。昨年度より担当者が交代した科目であるが、評価推移は昨年度と同じである。自由記述の中で、なるべく次の時間を授業入れないで欲しいと思いましたとの意見があった。この点に関し、昼休みまでかかる回が2回程度あったためと思われるが、予め昼休みまでかかる回の昼食持参（途中の実習工程の待ち時間昼食が取れるように）について、初回時の学生への事前アナウンスを徹底することで対応したい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>自由記述の中で、加工食品を作るという初めての経験に対する肯定意見が複数あった。また、動画やスライドを使用した事前の工程説明や途中の説明・補助についても、分かりやすく感じていたようであった。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3は4.7（昨年度4.6）、Q4は4.8（昨年度4.7）、Q5は4.8（昨年度4.8）であった。昨年度より担当者交代にあわせて、実習内容の組み替え等を行い、今年度も昨年度と同じ授業内容とした。自由記述にも否定的な意見はなかった。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q6～Q11は、4.8、4.9、4.8、4.8、4.7、4.8（昨年度は4.8、4.7、4.5、4.6、4.7、4.8）であった。昨年度より担当者交代した科目であるが、昨年度よりも概ね評価推移は向上していた。「1」や「2」と回答した学生はみられず、「3」と回答した学生は1～2名であったこと、自由記述の中にQ6～Q11に関する内容は書かれていなかったことから、今後の評価推移により改善が必要な場合は改善策を検討したい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>昨年度より担当者交代した科目であり、昨年度15回の実習を通して、時間のかかる回があることも把握でき、加工食品を作るため時間がかかるものもあることから、実習内容の組合せを再考した。その結果、昨年度よりも時間内にスムーズに終わる回が増えた。ただし、前述の通り、昼休みまでかかる回が2回程度あったことから、学生に予めその点の理解を求め、昼休みまでかかる回の昼食持参（途中の実習工程の待ち時間昼食が取れるように）について、初回時の学生への事前アナウンスを徹底することで対応したい。</p> <p>実習を通して、食品加工の原理や食品の特性を理解するため、復習課題の提出を評価手段・方法に入れている。これにより、1年次および2年次前期までの関連の講義科目の教科書等も再度見直すことになる</p>

項目見出し	コメント
	ため、復習にもつながり、定期試験対策にもなることから、学生には十分に取り組んでもらいたい。

アクションプランシート

2025年度後期 火4/5

科目名 調理学実習Ⅲ

教員名 古賀 貴子

回答者数/履修者数 19/29

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>Q13の評価結果は4.8（昨年度4.8）であった。昨年度より担当者が交代した科目であるが、評価推移は昨年度と同じである。自由記述の中で、食堂が化学反応を起こしていく実験的な視点を持つことが出来て良かった、この授業を受けて調理の特性、食品の特徴を学びながら楽しくできた、先生のお手本がすごく勉強になり日常生活やこれから実践的なことが増えるなかで活用できると思った、座学で学んだことを用いた授業であり復習にもなり、実際に行うことでより理解が深まったといった意見があった。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>自由記述の中で、加工食品を作るという初めての経験に対する肯定意見が複数あった。また、動画やスライドを使用した事前の工程説明や途中の説明・補助についても、分かりやすく感じていたようであった。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3は4.8（昨年度4.9）、Q4は4.9（昨年度4.9）、Q5は4.9（昨年度4.9）であった。昨年度より担当者交代にあわせて、実習内容の組み替え等を行い、今年度も昨年度と同じ授業内容とした。自由記述にも否定的な意見はなかった。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q6～Q11は、4.8、4.9、4.8、4.8、4.8、4.8（昨年度は4.9、4.9、4.7、4.8、4.4、4.8）であった。昨年度より担当者交代した科目であるが、昨年度よりも概ね評価推移は向上していた。「1」や「2」と回答した学生はみられず、「3」と回答した学生は1名であったこと、自由記述の中にQ6～Q11に関する内容は書かれていなかったことから、今後の評価推移により改善が必要な場合は改善策を検討したい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>昨年度より担当者交代した科目であり、昨年度15回の実習を通して、時間のかかる回があることも把握でき、加工食品を作るため時間がかかるものもあることから、実習内容の組合せを再考した。その結果、昨年度よりも時間内にスムーズに終わる回が増えた。実習を通して、食品加工の原理や食品の特性を理解するため、復習課題の提出を評価手段・方法に入れている。これにより、1年次および2年次前期までの関連の講義科目の教科書等も再度見直すことになるため、復習にもつながり、定期試験対策にもなることから、学生には十分に取り組んでもらいたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 金2/3

科目名 調理学実習 II

教員名 古賀 貴子

回答者数/履修者数 28/30

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>Q13は5.0（昨年度4.8）であった。 調理学で学んだ知識を実際に確認するような内容を話しながら師範をした後に、学生が実習をすることで、調理に不慣れな学生も分かりやすいと感じてくれているようであった。師範の説明がわかりやすい、技術だけでなくなぜそうなるのか、なぜこの工程が必要なのか、その原理なども添えて説明して下さるので理解しやすい、入学した頃は全く調理できなかったが、調理学実習を通して自分で調理できるようになったなどの意見が挙がっていた。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>調理学実習では、調理のポイントだけでなく、食材のことや調理の理論（前期開講科目の「調理学」の内容等）などを話しながら師範授業（調理から盛り付けまで）をしている。この方法はこれまでの学生にも好評であると感じている。また、高校が調理科出身（調理師免許取得者）からほとんど調理をしたことがない学生までいるが、各班全員でフォローし合いながら調理を楽しく進めるようにと話している。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3は4.9（昨年度4.8）、Q4は5.0（昨年度4.8）、Q5は5.0（昨年度4.9）であった。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q6～Q11は4.9, 5.0, 4.9, 4.8, 5.0, 5.0（昨年度は4.8, 4.9, 4.8, 4.5, 4.8, 4.8）であった。 Q9の評価が4.8（昨年も4.5と最も低かった）であり、これに関し、学生は各実習台から上部に設置してあるモニターを見ることになるが、調理学実習室のモニターが小さく画質があまり良くないことが考えられる。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>調べ学習の課題は、内容を再度見直して次年度以降も継続していく。また、『調理学実習IおよびII』の実習内容と『調理学』の理論（実践に対応する論理的知識）を結びつけながら、常にブラッシュアップして分かりやすい授業展開に努めたい。 前年度のアンケートの自由記述の中に、実習室の一か所に課題の答えを貼り出すと効率が悪いので、マナバにアップしてほしいとの意見が一件あったが、今年度はそのような意見はなかった。これについては、以下の対応をしたため、次年度以降も続けていく。 ・第1回目の授業の際に、マナバにアップはしないことをその理由も含めて伝える。 ・答えには、参考する教科書のページ数も併せて記載しているため、</p>

項目見出し	コメント
	すべての解答を書き写すのではなく、参考する教科書のページ数を控えておき、自分で再度教科書を見直すなど考えること。

アクションプランシート

2025年度後期 金4/5

科目名 調理学実習 II

教員名 古賀 貴子

回答者数/履修者数 21/30

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>Q13は5.0（昨年度4.9）であった。調理学で学んだ知識を実際に確認するような内容を話しながら師範をした後に、学生が実習をすることで、調理に不慣れな学生も分かりやすいと感じてくれているようであった。前期の調理学や調理学実習で学習したことや他の教科で学んだことの復習になり前期よりも理解が深まりました、ポイントを説明しながら師範があるのでわかりやすい、初めて聞く料理とか初めて食べる食材があってたくさん初めての経験ができてよかったですなどの意見が挙がっていた。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>調理学実習では、調理のポイントだけでなく、食材のことや調理の理論（前期開講科目の「調理学」の内容等）などを話しながら師範授業（調理から盛り付けまで）をしている。この方法はこれまでの学生にも好評であると感じている。また、高校が調理科出身（調理師免許取得者）からほとんど調理をしたことがない学生までいるが、各班全員でフォローし合いながら調理を楽しく進めるようにと話している。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3は4.9（昨年度4.8）、Q4は4.7（昨年度4.9）、Q5は4.9（昨年度5.0）であった。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q6～Q11は4.9, 4.9, 4.6, 4.5, 4.9, 4.9（昨年度は4.8, 4.8, 4.8, 4.7, 4.9, 4.8）であった。Q9の評価が4.5（昨年も4.5と最も低かった）であり、これに関し、学生は各実習台から上部に設置してあるモニターを見ることになるが、調理学実習室のモニターが小さく画質があまり良くないことが考えられる。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>調べ学習の課題は、内容を再度見直して次年度以降も継続していく。また、『調理学実習 I および II』の実習内容と『調理学』の理論（実践に対応する論理的知識）を結びつけながら、常にブラッシュアップして分かりやすい授業展開に努めたい。前年度のアンケートの自由記述の中に、実習室の一か所に課題の答えを貼り出すと効率が悪いので、マナバにアップしてほしいとの意見が一件あったが、今年度はそのような意見はなかった。これについては、以下の対応をしたため、次年度以降も続けていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回目の授業の際に、マナバにアップはしないことをその理由も含めて伝える。 ・答えには、参考する教科書のページ数も併せて記載しているため、

項目見出し	コメント
	<p>すべての解答を書き写すのではなく、参考する教科書のページ数を控えておき、自分で再度教科書を見直すなど考えること。 また、今回、プリントの解説もして欲しいとの意見があった。これについては、課題の答えは掲示しているので、計算問題など答え（解答・解説）をみても分からない場合は、随時個別質問に来るようにと伝えている。Q8が4.6で二番目に低く、この点について再度徹底することで改善したい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 金1

科目名 臨床栄養管理学Ⅱ

教員名 林 俊介

回答者数/履修者数 53/59

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/栄養セミナー Q10</p>	<p>本年度は4.8(A・Bクラス)の評価だった。昨年度4.7 (A/Bクラス)、一昨年度(4.6/4.5)、3年前(4.2/4.6)で、ここ数年間は安定した評価であった。</p> <p>本科目は臨床栄養分野の学修の最初の科目となる。これまでの基礎科目での学修とこれからの実践科目や臨地実習へ繋がる学修としてこの科目は、重要である。現場での実践がより理解できるような教材や話題を提供し、将来管理栄養士として様々な分野で活躍できるよう意識付けを出来るような授業展開を心掛けている。これらの授業での取り組みが満足度の向上に繋がると考えている。</p> <p>課題レポートの内容を見直しして、より学習者自らが調べ学修に取り組むようなものにする事で、この科目の学修への興味を高め、気付きを促し、能動的な学修に繋がるようにしたことが本科目への満足度の向上に寄与したと考えている。安定した授業の満足度の評価スコアを維持している。</p> <p>今回の授業アンケートのコメントは、「資料だけでなく動画を用いてわかりやすい授業にしようとしていたのでとても授業内容への理解が深まりやすかったです。」「プリントで補足とか疾患の説明など詳しく記載されているので教科書だけだと分からないこともイラストや写真でわかったりするので理解しやすかったです。」「栄養剤など実物を持ってきてくれるのが、わかりやすかったです。」などである。</p> <p>Manabaを活用し、授業で使用した映像を後から見られるようにしたり、質問への回答、補足の説明や資料の提示、関連するサイトの紹介を丁寧に行い、学生の授業の復習や課題レポート作成に役立つよう作成している。課題としては、予習・復習等、課外学修の時間を増やすことであるため、授業後の復習にmanabaを全く閲覧しない層へのアプローチと考えている。具体的な授業後の学修活動を提示して、行動を促すことを進めた。これらの取り組みが満足度の向上に繋がっていくと考えている。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>この科目は、臨床栄養分野での疾患と栄養管理、食事や食事療法の基本を学修するものであるため、基礎科目での学修内容を適時振り返りつつ、常に実践的な授業になるように配慮している。授業の中では、実際に臨床現場で使用される各種の栄養剤や治療用特殊食品などを多様な教材を多数提示している。また疾患に関する様々な映像や資料などを教材として使用し、実際の患者や治療に関することを話題にし、イメージが湧くように心がけて授業展開をしている。これらは、学生の授業への興味関心を高め、受講態度と学習意欲の向上に寄与しているものと考えられる。</p> <p>昨年度より学生数の関係もあり、この科目は1クラスでの授業実施となった。今回は、57名の授業であったが、学生が授業に集中し、飽きがこないようにアクティブラーニングの手法を用いた学修展開を行っている。授業の始めに出席カード(リフレクションカード)を使用し、本時の授業内容に関する基礎科目での学修、前時の復習、事前の予習などの確認をするようにしている。学生の授業への参加度を高めるため、発問に対する考察と短い学生同士のディスカッションを取り入れるようにし、考える力を養うよう授業展開を意識して行っている。また授業で紹介した栄養剤や減塩食品などの様々な製品を手にとらせ、実物を体感できるようにしている。</p> <p>自由記述でも「とても興味深い内容で、身近なことに例えて話や画像、動画を使用して説明してくださるので、イメージしやすく分かりやすかったです。」「どうしてその症状が出るのかや、その状態になるのかという説明を毎回して下さったので、理解がしやすかったです!」などのコメントも多数あった。</p> <p>本年度も、Manabaを利用した課題レポートを実施した。これまでも「調べ学修」に繋がるようにし、授業時間内では時間を掛けて出来</p>

項目見出し	コメント
	<p>なかった内容などを後から自分で調べ、自らの経験と照らし合わせ、考えることが出来、更にこの科目の学修を深めることに繋げるようにしている。授業で学修している各疾患について、身近にそれらの疾患の患者がいる場合は、許可を取り、配慮しながらインタビューを試みることを行っている。直接患者から話を聞くことで、病気の大変さ、治療における管理栄養士の役割や必要性などが深く理解できたとしてレポートには多数感想があった。それらにより管理栄養士を目指す学修意欲が更に向上したことが分かる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>本年度 質問3(4.8) 質問4(4.8) 質問5(4.7) R6年度 質問3(4.8) 質問4(4.8) 質問5(4.8) R5年度 質問3(4.8/4.2) 質問4(4.7/4.7) 質問5(4.7/4.5) R4年度 質問3(4.1/4.7) 質問4(4.5/4.9) 質問5(4.3/4.7)</p> <p>質問3, 4, 5は、授業評価のスコアは維持できた。学修内容はモデルコアカリキュラム及び管理栄養士国家試験の出題基準を基に、同期に履修する臨床栄養管理学Ⅰや3年次の臨床栄養管理学Ⅲなどの学修内容と調整してシラバスを作成している。2年次で学修する内容について、当該学年として適切なレベルでの様々な疾患等についての学修になるようにしていきたいと考えている。1つ1つの疾患について、他の科目での学修状況などを踏まえた構成としている。内容についても、各疾患(生活習慣病、依存症、感染症など)を扱う中で、長崎県や学生自身の出身地の疾病構造や食習慣の地域性や実際に発生した災害時の対応、社会の変化、その病気を患った有名人の話などを動画教材も用いて、授業を行う様にしている。</p> <p>各疾患のガイドライン等の改訂に合わせて、常に最新の内容で学修ができるように学修教材等は、見直しを行って対応している。</p> <p>自由記述では、「実際に使われているものや日常で買えるようなものを持参していただき、とても分かりやすいなと思った。資料も関連づけて勉強することができるのでとても良かった。」「実際に資料を回してくれるため、見て、手に取って分かることができるため分かりやすいです。映像なども見れるのがありがたいです。」などのコメントがあった。また、スーパーやドラッグストアなどに行き、それらの製品が実際にどのように販売されているかを見てくるように指示して、学修が深まるように工夫している。</p> <p>学習内容が自身の身の回りのことと繋がりを持って理解することができるよう授業内容に合わせ展開したことで興味関心を高めることが出来たと思われる。卒業生からも「先生の臨床の授業のプリントなどは取っておいて、今でも時々見直して、仕事しています。」と言われることもある。今後、更に学生の興味・関心を高められるように授業教材の作成と更新を常に行い、学修内容を考えていきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>本年度 質問6(4.8) 質問7(4.9) 質問8(4.9) 質問9(4.8) 質問10(4.7) 質問11(4.8) R6年度 質問6(4.7) 質問7(4.8) 質問8(4.9) 質問9(4.9) 質問10(4.7) 質問11(4.8) R5年度 質問6(4.6/4.3) 質問7(4.7/4.9) 質問8(4.7/4.5) 質問9(4.8/4.6) 質問10(4.8/4.7) 質問11(4.8/4.6)</p> <p>質問6, 7, 8, 9, 10, 11は、授業評価のスコアは、維持することができた。</p> <p>授業で示した実製品は、2年生の段階で臨床栄養の分野で栄養管理や治療のために使用されるこれらの製品を見て、手に取って観察することで非常に学生の興味関心を高めることが出来ている。</p> <p>出席カード(リフレクションカード)にあった質問等は、授業後にマナバ上で回答したり、次の授業で説明したりし、質問等には可能な限り丁寧に対応した。自由記述では、「林先生の授業では毎授業生徒に質問を投げかけたり、授業後、manabaで質問の生徒からの質問の回答を行っていたり熱意を感じる授業であった。」とのコメントもあった。授業の質の担保に努めたことで高い評価を得ることにつながったと考えている。</p> <p>各疾患にまつわる時事のニュースや人物の話題などの引用や適切な教材の提示と授業展開ができていると考えている。授業の中でこれら</p>

項目見出し	コメント
	<p>の教材を上手く取り入れ、無駄なく分かりやすく、印象に残るような効果的な学修が出来ている。</p> <p>基本的なことであるが、本時の学修でどこが大事なのか、覚えるべきことが何なのかを丁寧に伝えることが授業の改善に繋がると今回のアンケートのコメントを見ても分かる。</p> <p>自由記述では、「先生の話し方がよくて、理解しやすく、難しいけど楽しい授業でした。」「毎授業配布するプリントが、わかりやすくまとまっていて良かった。また、マナバのコースニュースが更新されていてよかった。」とのコメントもあった。</p> <p>本年度も、1つのクラスでの授業実施であったが、57名だったため教室の広さと履修者数のバランスは、ちょうど良く授業を進めやすかった。授業方法は常に改善に取り組み、受講者に受け入れられるように務めたい。</p>
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>今回の授業アンケートは、A・Bクラス合同での授業実施であったが、これまでと同等の高い評価を得られた。</p> <p>これまでもmanabaを利用し、予習・復習に役立つよう学修を促進するように実践してきた。様々な授業展開の工夫に取り組み、学生に興味を持って授業に参加してもらえるような形を作り上げることが出来ていると思われる。また、一方的な授業にならないよう双方向性のある授業になるよう心がけたことが奏効していると思う。</p> <p>2年生の段階としては臨床や様々な疾患に対して、まだ実感、身近なこととして感じられないが、課題レポートなどを通して、より臨床場面で、管理栄養士がどのように求められているのかが実感できるような調べ学修に取り組みさせた。レポートの感想にもしっかり取り組んだ受講者からは、「管理栄養士がどの様に必要とされているかが初めて分かった。」「栄養指導の際に、患者にどの様な接し方をすればよいか考えさせられた。」など、臨床栄養で、まずは、学生に学んで欲しいこと、感じて欲しいことを伝えることができた。</p> <p>4月からは、この学年を前期に3科目講義と実習を行うので、これらのコメント、評価を参考に、学生の状況を踏まえた授業展開を考えていきたい。</p> <p>質問1の項目は、今回は(3.9)、昨年(3.9)、一昨年(4.2/3.9)、R4年(3.9/3.9)であり、授業に対する事前の取り組みは改善しているようであるが、予習・復習、これまでの授業での知識の定着が十分でないと思われることが少なくない。授業への取り組みや予習・復習など自己学修を更に促すような学修支援・指導をしていきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 水4/5

科目名 卒業研究

教員名 廣田 昌彦

回答者数/履修者数 2/2

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>次年度は、4年次に進めなかった3年生がいるが、卒業研究を次年度も継続して行っても、単位がとれないとのことである。私は次年度末で退職するが、その学生をどのように指導していくのかが、なかなかむずかしい。引き継いでくださる教員の方がやさしいといいのだが-----。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>特にありません。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>卒業研究の時間には、臨時授業や会議をはじめとして、いろいろな行事が組み込まれてきます。なかなかまっとうに授業ができないなかで、さらに「〇〇先生の臨時の授業が行われることがあって出席できません。」などといった理由で、授業をうれしそうに欠席する学生もいて、授業時間やモチベーションの維持に苦勞しています。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>特にありません。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>卒業研究の授業を、大学としても、学生としても、軽んじているように感じます。学部教授会で、卒業研究の時間に、臨時の行事をいれないでほしい旨、お願いしても、効果はありません。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 月3

科目名 臨床栄養管理学Ⅰ

教員名 山口 留美

回答者数/履修者数 49/58

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/栄養セミナー Q10</p>	<p>満足度は概ね良好であると思うが、一部の学生の授業態度を改善することができなかった点は反省点として挙げられる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>3限目授業で居眠り等をする学生がおり、国家試験の過去問題を提示して、授業内容のどこが問われているのかを理解させたり、計算問題を出すことで自ら考える時間を設けたことは良かったのではないかと思う。計算を苦手とする学生に対しても、周りの学生と話し合うことで理解が進んだと思う。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/栄養セミナー Q2~Q3</p>	<p>特に大きな問題点はないと思う。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/栄養セミナー Q4~Q7</p>	<p>特に大きな問題点はないと思う。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>例年、予習復習など(Q1)の点数が上昇しないため、授業はじめに時間をかけて前回の復習を行うことや、レスポンドで質問項目などを提出させ、質問に答える方法を取ってきたことで理解が進んだのではないかと感じる。しかし、学生自身で能動的に予習復習を行わせるためにも、復習小テストなど取り入れていきたいと考えている。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 月4/5

科目名 給食栄養管理実習 (学内)

教員名 山口 留美

回答者数/履修者数 33/38

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/栄養セミナー Q10</p>	<p>管理栄養士として働く際に重要となる業務の一つであるが、学生が苦手とする献立作成について、対象者の把握から献立展開までを重点に授業を行った。大学でじっくりと献立作成に向かう機会が少ないため、満足度は高い結果となったと感じられる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>食材の旬を知るための資料作成や、病院等での行事食などの調理実習を取り入れたことにより、普段はあまり意識しないような点を学ぶことで結果につながったのではないかとと思われる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/栄養セミナー Q2~Q3</p>	<p>特に大きな問題点は無いと思う。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/栄養セミナー Q4~Q7</p>	<p>特に大きな問題点は無いと思う。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>概ね良好な結果となった。学生の能力の差、また臨地実習期間と重なったこともあり、献立完成までの時間にばらつきはあったものの、空いた時間には資料作成などを行い、自ら考えることが多かったのではないかとと思う。また、班員との協力で作成した行事食メニューなどを通して、調理従事者等の作業工程、衛生管理などを含め考えることの重要性を学ぶことができたのではないかとと思われる。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 金4/5

科目名 臨床栄養管理実習

教員名 山口 留美

回答者数/履修者数 44/49

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/栄養セミナー Q10</p>	<p>これまで講義で学んだ内容をもとに、応用を含めどのように活用されているのかなどを知ること、知識の定着を図ったことで興味を持っていたのではないかと思う。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>症例を提示し、管理栄養士としてどのように考え、改善に向け何を提案をしていくのかなど、個人で考えた後にグループワークで他の人の意見を聞き、最善策と思われる案を作り上げるなどの作業が、やりがいを感じられることにつながったように思う。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/栄養セミナー Q2~Q3</p>	<p>特に大きな問題点はないと思う。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/栄養セミナー Q4~Q7</p>	<p>特に大きな問題点はないと思う。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>自らの意見を伝える、他の意見を聞くことの大切さを感じてもらえたと思う。意見を伝えるためには様々な知識を得る必要があり、能動的に調べ、授業に参加することができたのではないか。消極的な学生も、教名のグループワークでは意見を述べることができるなど、良い雰囲気で行えたと感じた。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木1

科目名 生化学

教員名 川内 美樹

回答者数/履修者数 26/32

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>質問13の平均点は4.7であった。昨年度とほぼ同じであった。コメント欄を見ると、「わかりやすかった」や「勉強しやすかった」とコメントが多く、またプリントの予習、教科書、板書を使用することで、学生がするべきことをはっきりさせ学習意欲につながったのではないかと思う。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>授業態度の評価は昨年より増加しており4.7であった。上記にも記載の通り例年同様事前に予習プリントを配布し予習ノートを作った上で授業に参加するように指導しているが、毎年予習をしない学生への対応が課題であったが、今年度は準備学習の取り組みも上々でよかったと思う。コメント欄を見ても、「予習プリントがあるので授業がスムーズにわかる」や「ノート、プリント、教科書を利用することで何回も学べるので知識が身につけやすい」という意見があることから、この点は受講態度や学習意欲の向上につながったと考える。今後も続けていきたい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>質問3に関しては、平均点が4.8と昨年度と同じであり、質問5の興味に関する質問も平均点が4.7と昨年と同じであった。プリントで自己学習の機会を設けたことやクラスの雰囲気合わせた授業を心がけることで授業の理解度も上がり、全体的に高いポイントであったと思われる。質問4に関しては、平均が4.6であった。おそらく授業を丁寧にすることを心がけているため、シラバス通りに進まないところがあったためだと思うが、授業内で説明はしているため学生への影響はほとんどなかったと考える。例年の課題である質問5の「興味を持った」学生が上昇していたので良かったと思う。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>質問6から11に関する項目は、全て平均点が4.7以上と高評価で大変良かったと思う。この結果やコメント欄より、なるべくわかりやすい言葉で丁寧に説明することで、学生もノート作成しやすく、理解しやすいように感じる。「授業内容をまとめて書いてくれるのでとてもわかりやすい。また、ノートにまとめる時にしっかり内容を整理できたので、テスト対策がしやすい」というコメントもあり、授業をする側としては大変嬉しく感じた。色々な角度から教えていくことが今の学生には必要であると思う。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>今年度は昨年同様2クラス編成の少人数で授業をすることができた。今まで学生に評判のよかった予習プリントの配布やノート作成を引き続き導入した方法で実施した。質問1の予習の項目が徐々に上がってきているので、引き続き予習の大切さは伝えていきたいと思う。今年度の学生は、あまり理解できなかったというコメントは少なかったが、試験結果を見ると全くわかっていない学生は一定数いる。来年度の栄養代謝学は、さらに内容が難しくなり理解する内容も増えるので、より良い予習のあり方を検討して確実に勉強できるように指導していきたい。小テストを実施しても学力差が大きく、下位の学生をどのように指導していくべきなのか学科全体で検討が必要である。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 金5

科目名 生化学

教員名 川内 美樹

回答者数/履修者数 28/34

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>質問13の平均点は4.8であった。もう一つのクラスとほぼ同じであった。コメント欄をみると、「わかりやすかった」や「勉強しやすかった」とコメントが多く、またプリントの予習、ノート、教科書を使用することで、学生がすべきことをはっきりさせ学習意欲につながったのではないかと思う。家に帰った後も復習ができるようノートにまとめておくことは、満足度を上げるためにとても重要であると感じた。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>授業態度の評価は4.6であった。昨年同様事前に予習プリントを配布し予習ノートを作った上で授業に参加するように指導したが、予習を全くしないと答える学生は一定数おり、準備学習の評価が低いことが残念である。今年度の1年生は授業外学修時間の低下が問題になっている。きちんと予習をしている学生はコメント欄を見ても、「予習プリントがあるので授業がスムーズにわかる」や「ノート、プリント、教科書を利用することで知識が身につきやすい」という意見があり、授業外学修時間をきちんと確保できる学生が成績上位であると思われる。離学防止のためにも1年生のうちから授業外学修時間の重要性を教える必要性を感じる。また、授業環境も大切で、集中できる環境作りを心がけたい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>質問3、4に関しては、平均点が4.9と大変高く、質問5の興味に関する質問も平均点が4.7ともう一つのクラスと同じであった。プリントで自己学習の機会を設けたことやクラスの雰囲気合わせた授業を心がけることで授業の理解度も上がり、全体的に高いポイントであったと思われる。例年の課題である質問5の「興味を持った」学生が上昇していたので良かったと思う。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>質問6から11に関する項目は、全て4.9と高評価で大変良かったと思う。この結果やコメント欄より、なるべくわかりやすい言葉で丁寧に説明することで、学生もノート作成しやすく、理解しやすいように感じる。このクラスは金曜5限目に実施されたので学生のモチベーションが保てるのか心配であったが、「授業内容をまとめて書いてくれるのでとてもわかりやすい。」また、「他の科目で分からなかったところが、この授業で分かるようになった」というコメントもあり、授業をする側としては大変嬉しく感じた。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>2クラスとも同じような評価で安心した。こちらのクラスでも質問1の予習の項目が上がってきているので、引き続き予習の大切さは伝えていきたいと思う。来年度の生化学は1クラス開講になると思われるので、より集中して授業ができるよう工夫していきたいと考えている。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 月2

科目名 食品学Ⅱ
 教員名 藤井 俊輔
 回答者数/履修者数 32/39

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>本講義の満足度は4.8であり、例年とほぼ同程度の結果であった。これ以上の向上はなかなか難しいが、年度毎に講義のスタイルや資料の見直しを行い、満足度の維持と向上を目指したい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>毎回、前回の講義内容に関する質問等をマナバで受け付け、その質問に回答する流れを作っている。この取り組みが、講義内容をより身近に感じることにつながり、授業態度や学習意欲の向上につながっているのではないかと考えている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>本項目の結果は、4.8~4.9ポイントであり、例年よりもやや高い結果となった。本項目に関して、特に意識して講義を行ったということはないが、シラバスとの変更点がある場合は、その都度アナウンスをし、講義内容に関してもできるだけ身近なものに例えるようにして、学生が興味を持ちやすい構成とした。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>本項目の結果は、4.7~4.9ポイントであり、例年とほぼ同水準の結果であった。これ以上の改善はなかなか難しいが、これらの項目の中で最も低い結果であった「学生の参加を促したか？」という項目については、次年度の改善点であると捉えている。例えば、学生同士でディスカッションをするような時間を設けるなどの時間を講義の中に取り入れるなど、講義構成の変革を進めたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>本講義の満足度は他の科目と比べても比較的高い水準を維持しており、かつ、理解度も4.7ポイントと高い結果を得ることができた。この結果を維持できるよう今後も努めたい。一方で、学生の予習や復習、受講態度に関する項目が平均的ではあるが、かなり低い傾向があるため、次年度はこの点について強化していきたいと考えている。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火1

科目名 食品学Ⅱ
 教員名 藤井 俊輔
 回答者数/履修者数 30/33

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>本講義の満足度は4.7であり、例年とほぼ同程度の結果であった。また、もう一方のクラスと比較しても、ほぼ同じ結果であった。満足度のこれ以上の向上はなかなか難しいが、年度毎に講義のスタイルや資料の見直しを行い、満足度の維持と向上を目指したい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>毎回、前回の講義内容に関する質問等をマナバで受け付け、その質問に回答する流れを作っている。この取り組みが、講義内容をより身近に感じることにつながり、授業態度や学習意欲の向上につながっているのではないかと考えている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>本項目の結果は、4.8~4.9ポイントであり、例年よりもやや高い結果となった。また、もう一方のクラスと比較してもほぼ同じ結果であった。本項目に関して、特に意識して講義を行ったということはないが、シラバスとの変更点がある場合は、その都度アナウンスをし、講義内容に関してもできるだけ身近なものに例えるようにして、学生が興味を持ちやすい構成とした。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>本項目の結果は、4.7~4.9ポイントであり、例年とほぼ同水準の結果であった。また、もう一方のクラスともほぼ同じ結果であった。これらの項目の中で最も低い結果であった「学生の参加を促したか？」という項目については、次年度の改善点であると捉えている。例えば、講義で得た知識を使って、ある課題に対して学生同士でディスカッションをするような時間を設けるなどの時間を講義の中に取り入れるなど、学生の参加を促すような工夫を行っていきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>本講義の満足度は他の科目と比べても比較的高い水準を維持しており、かつ、理解度も4.7ポイントと高い結果を得ることができた。この結果を維持できるよう今後も努めたい。一方で、学生の予習や復習、受講態度に関する項目は、もう一方のクラスよりもやや高い結果であったが、講義の理解度に関しては、やや低い結果となった。これらの差に関しては明確な答えを導き出せていないが、どちらのクラスもほぼ同水準の結果となるよう次年度以降も努めたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 月3

科目名 応用栄養学Ⅱ

教員名 松尾 嘉代子

回答者数/履修者数 55/66

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/栄養セミナー Q10</p>	<p>全体の平均より、高い満足度を得ることができている。これまでも平均より高い満足度を得ることができているので、今後も学生のニーズに合った授業展開ができるよう、授業運営を工夫しながら改善を図っていききたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>毎回の授業は、学生が予習復習に取り組みやすいよう、シラバス通りに進めている。そのために授業準備を徹底し、前回の授業内容で学生から寄せられた質問には授業の最初に回答し、興味を持って受講できるように導入している。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/栄養セミナー Q2~Q3</p>	<p>毎回、シラバス通りに進めているので、学生からも高いと考える。過去も、毎回高評価を得ているので、今後も、分かりやすい授業を展開できるよう工夫していききたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/栄養セミナー Q4~Q7</p>	<p>特に改善が必要な授業内容はないが、さらに充実した授業になるよう、実施方法については常に学生の意見を尊重しつつ、検討していききたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>学生の自由記述にも、好意的なコメントが多く寄せられているので、今後も、学生のニーズに応えられるような授業展開を心掛けていききたい。 特に、3年生以降にスタートする臨地実習に必要な学修内容であるため、実践的な知識やスキルについても分かりやすく伝えていききたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火2

科目名 基礎栄養学

教員名 吉村 亮二

回答者数/履修者数 34/39

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/栄養セミナー Q10</p>	<p>不満を感じている学生はおらず、評価は4.6と昨年の4.4と同程度でした。図解に力を入れた授業展開としているが、自由記述からもそれが分かりやすいと感じる学生が多かったことがこの結果に繋がっていると思います。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>これまでと同様に図解に力を入れた授業展開としており、それが学生に適していると考えています。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/栄養セミナー Q2~Q3</p>	<p>不満を感じている学生はおらず、今後も学生の興味のある内容を紹介するなどより理解しやすい授業に努めます。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/栄養セミナー Q4~Q7</p>	<p>不満を感じている学生はおらず、評価の平均点から現状の学生に適した授業を行っていると推察します。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>近年は安定して高い評価を得られているため、ようやく学生に適した授業を行えるようになったのではないと感じています。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 水2

科目名 基礎栄養学

教員名 吉村 亮二

回答者数/履修者数 34/41

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/栄養セミナー Q10</p>	<p>不満を感じている学生はおらず、評価は4.7と昨年の4.4と同程度でした。図解に力を入れた授業展開としているが、自由記述からもそれが分かりやすいと感じる学生が多かったことがこの結果に繋がっていると思います。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>これまでと同様に図解に力を入れた授業展開としており、それが学生に適していると考えています。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/栄養セミナー Q2~Q3</p>	<p>不満を感じている学生はおらず、今後も学生の興味のある内容を紹介するなどより理解しやすい授業に努めます。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/栄養セミナー Q4~Q7</p>	<p>不満を感じている学生はおらず、評価の平均点から現状の学生に適した授業を行っていると推察します。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>近年は安定して高い評価を得られているため、ようやく学生に適した授業を行えるようになったのではないと感じています。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 水2/3

科目名 微生物学実習

教員名 射場 仁美

回答者数/履修者数 31/33

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>満足度は4.5ポイントであった。昨年度と同様に高い評価が得られた。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生の理解促進と学習意欲の向上を目的として、実験手技の説明に際し、教員が実際に操作を行うデモンストレーションを取り入れた。手順を視覚的に確認できるようにしたことで、学生は実験の流れや注意点を具体的に把握しやすくなり、実施に対する不安が軽減された。その結果、実験に主体的に取り組もうとする姿勢が強まり、受講態度の改善につながったと考えられる。</p> <p>また、身近な物品や生活環境から細菌を検出する実験を行い、微生物学が日常生活と密接に関わっていることを体験的に理解できるようにした。自ら採取したサンプルから細菌が検出される過程を観察することで、自分の生活と関連づけて捉えることが可能となり、学習への興味・関心が高まった。</p> <p>これらの取り組みにより、学生からは「実験の手順が理解しやすかった」「身近な題材で学ぶことで内容がより身近に感じられた」といった肯定的な反応が得られ、授業への積極的な参加態度が見られた。以上のことから、本授業方法は学生の受講態度および学習意欲の向上に寄与したと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>4.6~4.7ポイントで昨年度と同様に高い評価が得られた。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>話し方の不明瞭さ、マイクの声が小さいため後ろの実験台では聞こえづらいの指摘があった。</p> <p>マイクの使用環境の改善として、実験室の騒音や換気音を考慮し、必要に応じてマイク位置の調整や音量の再設定を行うことで、全体に均一に音声が届くよう配慮する。</p> <p>さらに、教員の説明を補助する体制の整備として、後方の実験台に助手を配置し、説明が聞こえにくい場合や学生からの質問が生じた場合に即時に補足説明を行えるようにする。この体制により、教員の声が届きにくい場面でも学生の理解を途切れさせることなく支援できると考える。</p> <p>これらの取り組みにより、学生が授業内容を確実に受け取れる環境を整え、学習の円滑な進行と理解度の向上につなげたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>授業アンケートでは、全体として学生の満足度が高く、授業内容や進め方が概ね良好であったことを確認できた。一方で、説明が聞き取りづらい場面があったとの指摘も受けたため、今後はマイク音量の確認を徹底し、後方に助手を配置して補足説明が行える体制を整えるなど</p>

項目見出し	コメント
	、授業環境の改善に努めたい。

アクションプランシート

2025年度後期 木4/5

科目名 微生物学実習

教員名 射場 仁美

回答者数/履修者数 35/36

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>満足度は4.7ポイントであった。昨年度と同様に高い評価が得られた。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生の理解促進と学習意欲の向上を目的として、実験手技の説明に際し、教員が実際に操作を行うデモンストレーションを取り入れた。手順を視覚的に確認できるようにしたことで、学生は実験の流れや注意点を具体的に把握しやすくなり、実施に対する不安が軽減された。その結果、実験に主体的に取り組もうとする姿勢が強まり、受講態度の改善につながったと考えられる。</p> <p>また、身近な物品や生活環境から細菌を検出する実験を行い、微生物学が日常生活と密接に関わっていることを体験的に理解できるようにした。自ら採取したサンプルから細菌が検出される過程を観察することで、自分の生活と関連づけて捉えることが可能となり、学習への興味・関心が高まった。</p> <p>これらの取り組みにより、学生からは「実験の手順が理解しやすかった」「身近な題材で学ぶことで内容がより身近に感じられた」といった肯定的な反応が得られ、授業への積極的な参加態度が見られた。以上のことから、本授業方法は学生の受講態度および学習意欲の向上に寄与したと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>4.8~4.9ポイントで昨年度と同様に高い評価が得られた。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>話し方の不明瞭さ、マイクの声が小さいため後ろの実験台では聞こえづらいの指摘があった。</p> <p>マイクの使用環境の改善として、実験室の騒音や換気音を考慮し、必要に応じてマイク位置の調整や音量の再設定を行うことで、全体に均一に音声が届くよう配慮する。</p> <p>さらに、教員の説明を補助する体制の整備として、後方の実験台に助手を配置し、説明が聞こえにくい場合や学生からの質問が生じた場合に即時に補足説明を行えるようにする。この体制により、教員の声が届きにくい場面でも学生の理解を途切れさせることなく支援できると考える。</p> <p>これらの取り組みにより、学生が授業内容を確実に受け取れる環境を整え、学習の円滑な進行と理解度の向上につなげたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>授業アンケートでは、全体として学生の満足度が高く、授業内容や進め方が概ね良好であったことを確認できた。一方で、説明が聞き取りづらい場面があったとの指摘も受けたため、今後はマイク音量の確認を徹底し、後方に助手を配置して補足説明が行える体制を整えるなど</p>

項目見出し	コメント
	、授業環境の改善に努めたい。

アクションプランシート

2025年度後期 木2

科目名 スポーツ栄養学

教員名 小田 和人

回答者数/履修者数 5/5

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>過半数の学生が満足していたが、より理解しやすく興味を持てる授業を行うよう努力する。 個々の理解度を細かく把握するため、manabaを上手く活用し、質問や疑問に回答していく。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>その分野のポイントについて説明を行い、授業を展開した。 具体的な例を増やした上で、そのメカニズムや根拠の説明を行った。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>シラバスに沿った流れで授業を進めたが、内容が難しいところもあるため、もっとかみ砕いた説明が必要だと感じた。 一般の方を対象とした健康増進に対する内容や、マネージャーからみたサポートの仕方について幅広く説明していく。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>臨地実習や就職活動に伴う欠席に対してのフォローをより増やすようにする。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>大半が満足していたが、より多くの学生に受けて良かったと思わせる授業ができるように心がけたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 金2

科目名 スポーツ栄養学

教員名 小田 和人

回答者数/履修者数 46/61

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>過半数の学生が満足していたが、より理解しやすく興味を持てる授業を行う必要があると感じた。 個々の理解度を細かく把握し、学生からの質問や意見に応える時間をもっと取るように心がける。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>シラバスの流れに従って講義を行ったこと。 毎授業後、確認問題やアンケートをmanabaや配布資料にて実施し、理解度の確認を行った。 その上で、再度その分野のポイントについて説明を行ったこと。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>学生たちに興味をもってもらうためには、アスリートやスポーツをしている学生だけでなく、一般の方を対象とした内容やマネージャーからみたサポートの仕方について幅広くする説明する必要があると感じた。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>内容が難しいところもあるため、もっとかみ砕いた説明が必要だと感じた。 理解度を高めるために、復習だけでなく、事前の予習も徹底して指導する必要があると感じた。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>大半が満足していたが、より多くの学生に受けて良かったと思わせる授業ができるように心がけたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 水1

科目名 教養セミナー

教員名 小田 和人

回答者数/履修者数 5/5

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>過半数の学生が満足していたが、より理解しやすく興味を持てる授業を行う必要があると感じた。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>全員が積極的にセミナーに参加しており、進捗状況に応じて内容を調整したこと</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>内容に関して特に問題はなかったように感じた。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>方法に関しても問題はなかったように感じた。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>授業への欠席も少なく、積極的に参加されていた。より自ら学ぶ姿勢が出るような授業の工夫が必要と感じた。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 月2

科目名 公衆栄養学Ⅱ

教員名 川野 香織

回答者数/履修者数 29/38

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>本年度の満足度は前年度の4.5から4.7へと向上した。回答分布では「満足」が多く、学生の多くが授業に肯定的な印象を持っていることが示された。今後もこの満足度を維持・向上させるため、スライドの要点化や授業内での理解度確認の時間を増やすなど、到達度をより実感できる工夫を取り入れる。さらに、公衆栄養学Ⅱの内容に即した具体的な事例や演習を充実させることで、理解の深化と満足度の一層の向上を図りたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>各回の導入で学習テーマの位置づけや意義を明確に示し、学生が内容を全体の流れの中で理解できるよう工夫した。この導入部分の改善により、授業への入り方がスムーズになったと考える。 また、スライドの要点化や説明の段階的提示により、情報量の多い内容でも整理して理解しやすい構成を心がけた。授業内には短い確認や振り返りの時間を設け、学生が自らの理解度を把握できるようにしたことで、主体的な学習態度が促された。 さらに、公衆栄養学Ⅱの内容に沿った事例や簡単な演習を取り入れ、学んだ知識がどのように活用されるかをイメージしやすくした。これらの取り組みにより、学生の学習意欲や授業への関心が高まり、受講態度の向上につながったと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>前年度 (4.3/4.7/4.2) から今年度 (4.8/4.8/4.8) へと評価が向上しており、授業の目的提示や関心を引き出す工夫が一定の成果を上げたと考えられる。この改善を継続しつつ、学生がより主体的に学びを深められるよう、授業中の小テストや理解度確認のためのミニディスカッションの時間をさらに充実させたい。これらの取り組みにより、理解度の可視化と学習への参加意欲を高め、関心と理解の双方を一層向上させていくことを目指す。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>前年度 (4.5/4.7) から今年度 (4.7/4.8) へと全体的に改善がみられた。特に、資料の活用や授業の進め方については評価が上昇しており、これまでの改善の取り組みが一定の成果を上げたと考えられる。一方で、授業参加を促す工夫については、十分に機能しきれていない面がある。今後は、ミニアンケートや短時間のディスカッションなど、学生が参加しやすい仕組みを強化し、主体的な関わりをより引き出していきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>全体的に前年度より良い評価であったと考える。一方で、双方向性や理解の定着に関しては、授業方法の一部で改善の余地がみられた。特に遅刻・私語への対応など、学習環境づくりに関する項目ではわずかな低下がみられた。今後は小テストやディスカッションなどアウトプット場面を充実させ、全員が主体的に参加できる授業を目指したい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木2

科目名 公衆栄養学Ⅱ

教員名 川野 香織

回答者数/履修者数 26/30

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/栄養セミナー Q10</p>	<p>本年度の満足度は前年度の4.7と同等であり、多くの学生が授業に肯定的な印象を持っていることが示された。今後もこの満足度を維持・向上させるため、スライドの要点化や理解度確認の時間を増やし、到達度を実感しやすい工夫を取り入れる。さらに、公衆栄養学Ⅱの内容に即した具体的な事例や演習を充実させることで、理解の深化と満足度の一層の向上を図りたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>各回の導入で学習テーマの位置づけや意義を明確に示し、内容を全体の流れの中で理解できるよう工夫した。この導入部分の改善により、授業への入り方がスムーズになったと考える。また、スライドの要点化や説明の段階的提示により、情報量の多い内容でも整理して理解しやすい構成を心がけた。授業内には短い確認や振り返りの時間を設け、学生が自らの理解度を把握できるようにしたことも、主体的な学習態度の促進につながった。さらに、公衆栄養学Ⅱの内容に沿った事例や簡単な演習を取り入れ、学んだ知識の活用場面を具体的にイメージできるようにした。これらの取り組みにより、学習意欲や受講態度の向上がみられたと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/栄養セミナー Q2～Q3</p>	<p>前年度 (4.7/4.9/4.7) から今年度 (4.8/4.7/4.6) へと、授業の編成やシラバスとの整合性は概ね維持されている一方、授業内容への興味に関する項目ではわずかな低下がみられた。授業の目的提示や導入で関心を引き出す工夫は一定の効果を持っていると考えられるが、内容への興味をさらに高める工夫が必要である。今後は、小テストやミニディスカッションを取り入れ、理解度を可視化しつつ主体的に学べる場面を増やすことで、関心と理解の双方を高めていきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/栄養セミナー Q4～Q7</p>	<p>前年度 (4.7/4.9) から今年度 (4.6/4.8) へと全体としては概ね維持傾向であり、資料の活用や授業の進め方については改善がみられた。一方で、「遅刻や私語への対応」に関する評価が相対的に低く、注意喚起や学習環境づくりに改善の余地があると考えられる。今後は、授業冒頭でのルール共有や声かけの工夫に加え、ミニアンケートやディスカッションなど参加しやすい活動を取り入れることで、授業への集中度と参加意識を高めていきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>全体として前年度と同程度、あるいは一部で改善がみられ、授業改善の取り組みが一定の成果を上げたと考えられる。一方で、授業内容への興味や授業方法の一部項目、特に遅刻・私語への対応など、細かな運営面に課題が残った。今後は小テストやミニディスカッションなどのアウトプット機会を増やし、集中しやすい環境づくりと主体的な参加を促す工夫を強化することで、授業の質をさらに高めていきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木1/2

科目名 健康科学実習

教員名 菊地 優子

回答者数/履修者数 30/38

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>満足度は4.7でおおむね良好であった。 「2」と回答した学生が1名いたが、質問1・2で「2」と「1」と回答した学生であったため、もともとのモチベーションが低かった可能性が考えられる</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>身の回りの環境や自身の健康に関する内容を実際に測定することで、講義で学んだ内容を身近に感じてもらえるようにした。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>アンケート結果は概ね良好であったが、機器を使用する実習では待ち時間が長くなってしまったため、待ち時間に取り組む課題を準備する等、工夫が必要であると感じた。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>教室外で環境測定を行ったり、学生同士で測定する項目が多く、学生が自由になる時間帯が多くなってしまった。 また、グループワークでも学生間で取り組みに差が出ることもあったため、今後は一定の介入が必要だと感じた。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>本科目は担当初年度であったが、アンケート結果は概ね良好であった。実習の内容が興味を持ちやすく、難しいものであったことが主な理由だと考えられる。学生が楽しみながらもきちんと学修できるように実習項目や内容を工夫していきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木2

科目名 公衆衛生学 I

教員名 菊地 優子

回答者数/履修者数 35/39

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>満足度は4.7であり概ね良好であった。昨年度との比較はできないが、もう一方のクラスは4.5であったため、理解度をもう少し高くし、改善する必要がある。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>教科書では重要な点がわかりにくいと感じてしまう学生がいるため、教科書の内容をスライドにし、大事な個所を穴埋めにして配布した。自由記述の結果からも一定の効果があったと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>進度により、シラバス通りにいかなかったり、小テストの回を変更したりしたが、それ以外はシラバスに準じて進めることができたと考えられる。管理栄養士の業務に直結する授業ではないが、私たちの生活に密着した分野であるため、身近な例を出してもう少し興味をもってもらえるように工夫したい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>配布資料で穴埋め部分や大事な箇所がわかりにくいというコメントがあった。1つのスライドに情報量が多くなってしまいうこともあるので、もう一度見直し、改善していきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>授業をしている際にはあまりリアクションがなく、心配していたが、アンケート結果は概ね良好でよかった。試験の結果からはよく理解できていたと言いはるので、今後はもう少し理解度を確認しながら進めていきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木4/5

科目名 健康科学実習

教員名 菊地 優子

回答者数/履修者数 22/29

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>満足度は4.8でおおむね良好であった。3と回答した学生は設問5でも3と回答して答しており、興味の低さを改善できる授業内容ではなかった。</p> <p>初年度であるため昨年度との比較はできないが、もう一方のクラスでも4.7であったため、特に問題はないと考える。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>身の回りの環境や自身の健康に関する内容を実際に測定することで、講義で学んだ内容を身近に感じてもらえるようにした。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>アンケート結果は概ね良好であったが、機器を使用する実習では待ち時間が長くなってしまったため、待ち時間に取り組む課題を準備する等、工夫が必要であると感じた。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>教室外で環境測定を行ったり、学生同士で測定する項目が多く、学生が自由になる時間帯が多くなってしまった。</p> <p>また、グループワークでも学生間で取り組みに差が出ることもあったため、今後は一定の介入が必要だと感じた。</p> <p>また、欠席する学生が一定数おり、一部の学生に負担がかかっていることもあったため、欠席した学生の対応についても考えていきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>担当初年度であったが、2クラスとも概ね良好な結果であったことはよかった。しかし、アンケート当日に欠席者が多く、回収率が75.9%と低くなってしまったため、実際はもう少し評価は低い可能性もある。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木5

科目名 公衆衛生学Ⅰ

教員名 菊地 優子

回答者数/履修者数 31/45

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>満足度は4.5であり概ね良好であった。もう一方のクラスは4.7であったため、ややこちらのクラスの方が低かった。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>教科書では重要な点がわかりにくいと感じてしまう学生がいるため、教科書の内容をスライドにし、大事な個所を穴埋めにして配布した。また、毎時間、前回の復習を行うようにした。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>質問3がやや低い結果となったが、管理栄養士のカリキュラム上あまり変更はできないため、授業の構成を理解してもらえるように意義などの説明が必要である。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>教室が受講生に対して広がったため、学生の様子が見えにくいところがあった。その都度声はかけていたがなかなか移動もしないため、今後座席を指定することも検討したい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>同じ内容、資料で実施したもう一方のクラスより、やや低い結果となった。こちらのクラスは5限目であったためか、欠席が多く、その影響もあると考えられる。また、そのためか本アンケートでは回収率が68.9%と低かった。授業中に回答を促しても答えない学生や授業を多く休むような学生はmanaでリマインドをしても回答してくれるはないため、回収率を上げる工夫も必要である。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木4

科目名 栄養教育論Ⅰ

教員名 高江洲 有沙

回答者数/履修者数 54/61

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/栄養セミナー Q10</p>	<p>担当して2年目の科目であるが、満足度は平均4.3と概ね満足いただけたと思う。本科目は、まずは知識を得ることが中心の講義であるため説明内容が多く、配付資料とスライドの文字数が多くなってしまふことは授業初回に口頭にて説明をしている。理由としては、3年次の栄養教育論実習では行動科学理論を理解した上での実習となることから、これらを踏まえて授業に望んでもらいたいと考えている。今後は学生の理解度を適宜確認できるようにmanabaもさらに活用していきたい。そして、学生自ら考える時間を設けながら授業を展開していきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>毎授業開始時に記述式の小テストを実施したが、その日の教科書や配付資料を復習し理解しておかなければ解けない問題を作成していたため難しかったとのコメントから解けない学生が多かったが、次は解けるようにと前向きに捉え復習にもつながったとのコメントもあった。実際に回数を追うごとに小テストの点数が上昇している学生もいた。復習することで勉強習慣の大切さを実感し、学習意欲向上につながった学生もいたことから、今後も知識だけでなく、自ら学ぶ姿勢を身につけられるような授業展開と学生の理解度を確保する小テスト等を実施していきたいと考えている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/栄養セミナー Q2~Q3</p>	<p>昨年度の平均値より、分かりやすさや興味に関しては0.1低下したが、シラバスとの整合性は0.1上昇し、概ね良好な評価をいただけたと思う。授業編成に関しては、教科書に沿って進め、行動科学理論や行動変容技法に関しては例を挙げながら別途配付資料にて説明し、必要に応じて演習も取り入れたが学生の理解度の差が出る結果であった。また、本科目は必須科目であり、栄養教育の対象者との関わり方を理論から学ぶ内容であるが興味がない学生が増えたことは残念である。今後は科目の特性を十分に説明しながら実践的内容を増やしていきたいと考えている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/栄養セミナー Q4~Q7</p>	<p>昨年度同様に各項目において平均4以上の評価で概ね良好であったと思う。教材に関する項目に変化はなく、授業に集中させるために配付資料は適宜、空欄を作ってスライドや教科書の内容を記載できるように工夫しているが量が多いとのコメントがあった。授業内で、教科書部分を伝えているが、話を聞きながらメモを取ること、読み書き同時にすることが難しい学生が一定数いることが分かったため、資格取得及び取得後の知識として必要不可欠な内容を削ぐことは心苦しく残念であるが、配付資料の内容見直しを検討していこうと思う。また、スライドの見えやすいように設定しているが、常に後方席に座っているので、今後は前方への着席を促していきたいと考えている。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>担当2年目の科目となり、ゆとりをもって授業展開できたと感じている。教材に関する評価が昨年度同様、低い傾向であるため、学生の理解度を踏まえて取捨選択した内容が求められていると感じている。しかし、管理栄養士国家試験内容が、年々実践的な内容を問われることや実際の栄養教育では十人十色と言われるように対象者に合わせた対応が求められるので、おのずと多くの知識が必要であることから配付資料の容量が多くなってきていることは理解していただきたいと思う。今後は、学生が復習しやすいように、さらに事例を取り入れた教材づくりと授業に向かう姿勢を注視しながら授業展開し、授業後に質問に来る学生が少ないことから、コミュニケーション能力を身につけてもらうためにも積極的な声掛けと、小テストとレポート以外での</p>

項目見出し	コメント
	理解度確認の方法も再検討していきたい。

アクションプランシート

2025年度後期 金3

科目名 国際栄養論
 教員名 高江洲 有沙
 回答者数/履修者数 7/7

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/栄養セミナー Q10</p>	<p>満足度は平均4.9と、昨年度より上昇し、概ね満足いただけたと思う。昨年度同様、グループワークや動画を活用した授業展開ができたことと考えられる。次年度も継続して、最新の国際的な健康や栄養に関する情報を用いながら授業展開していきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>昨年度同様にグループワークを適宜取り入れ、学生の進捗状況を見ながら議論内容を見直したりしたことで、学生同士の積極的な発言や考えている様子も見られたことから、学修意欲の向上に繋がったと思われる。また、動画を活用した視覚的な学習形態と海外で活動しているゲストスピーカー2名を招いてご講話いただいたことで、より海外に興味を持ってもらえたと考えている。今後も学生の状況も見ながら進めていきたい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/栄養セミナー Q2~Q3</p>	<p>各項目で概ね良好な評価をいただけたと思う。国際的な健康及び栄養に関する取り組みを理解するためには、多角的な視点が必要となることから、最新の世界情勢も取り入れながら学生自身の身近な出来事とつなげて興味関心を持ってもらえるような内容を設定し、授業を展開した。また、学生自らが課題(問題)に対する自分なりの考えを発言できるようになるために、グループワークではファシリテーターを学生自身で体験したことも今回の評価につながったと考えている。今後も継続して実施していきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/栄養セミナー Q4~Q7</p>	<p>各項目、概ね良好な評価をいただけたと思う。話し方に関しては、グループワークでの指示が明瞭でないところがあったのではないかと考えられるため、今後は、指示や授業参加を促すような発言を明確に伝えていきたい。ただし、国際協力の現場では、対象者に指示することが最良ともいえないケースもあることから、疑似体験をしてもらいながら、適宜、指示するように努めていきたい。また、配付資料やスライドの教材も最新情報を取り入れながら、常に改良していきたいと考えている。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>今年度も受講者数は少ないが開講できて安堵した。近年、地球規模で健康・栄養・食の課題を解決していくこと、プラネタリーヘルスがスタンダードな考え方となっており、このことを念頭において、学生がこれまで学んだ栄養学の専門的な知識と関連付けながら、自らの考えを持って相手に伝える力を身につけられるような授業展開を意識して行うことができたと感じている。今年度は、JICA海外協力隊で海外在住の本学卒業生でもある栄養士隊員とのオンライン講話と、国際協力の現場で現地人の生活の支援活動をしているNPO団体の理事長からも講話いただき、学生は海外を身近に感じる出来た様子が見られたことから、今後も海外で活動する方々の講話や座談会を取り入れていきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 月1

科目名 給食経営管理論Ⅱ

教員名 吉永 奈津希

回答者数/履修者数 52/68

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>授業に対する満足度の評価は、昨年度4.3、今年度4.2であった。スライド資料に関しては、1名からコメントがあるため、修正できる箇所がないか検討したい。また、レポート課題に関する問い合わせが多かったことから、出題形式についても改善の必要があると考えている。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>単元毎の確認テストや計2回の小テストは学生の受講態度の向上につながっていると感じている。しかし、授業中の居眠りが多かった点は、次年度対策が必要であると考えている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3～5の評価は昨年度と比較していずれも上昇していたが、回答2「やや良くない」が1～2名みられた。説明が多くなり、授業中に居眠りをしている学生もいたことから、授業の途中に練習問題を解く時間を設けるなど、学生が自分で考える時間を確保できるよう工夫したい。また、本科目と3年次の給食経営管理実習、3・4年次の臨地実習、さらに就職後（給食の現場）との関わりも伝えながら授業をしていくことで、興味を持ってもらえるようにしたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q7、Q10、Q11の評価は、昨年度と比較して低下していた。また、Q6については回答1「良くない」が1名いた。Q6については昨年度から改善に取り組んでおり、平均値は上昇していたため、次年度も引き続き意識して講義を行いたい。さらに、Q11に関しては、途中で練習問題を取り入れるなど、学生に問いかける時間を確保できるよう工夫していきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>「理解しやすい」と「わかりにくい」といった意見が混在しており、その要因が授業方法に起因するのか、学生の理解度の差によるものなのか判断が難しい状況であった。また、アンケートは授業中に実施し、複数回アナウンスを行い、コメント記入も依頼していたものの、10名以上が未回答であり、自由記述も少なかった。具体的な改善策を検討するためにも、次年度は回答率の向上にも努めたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火2

科目名 生物有機化学

教員名 佐々木 茂貴

回答者数/履修者数 72/102

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>本講義の満足度は、例年4.5程度で推移している。理解度が2評価が2名、3評価が4名、満足度3評価が3名であり、講義内容を難しいと感じている少数の学生への個別対応が課題であると考えているので、次年度は個別質問の機会を設ける予定である。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>パワーポイントの印刷資料を配布した。動画部分は繰り返し提示した。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3で3評価が6名、Q4では3評価が1名、Q5では2評価が1名、3評価が4名いた。これらの少数の学生に対しては個別の追加説明の機会を設定する。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6-11では3評価が1-6名である。他の対応と同じであるが、少数の学生への個別対応のやり方を工夫する必要がある。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>ほぼ、すべての項目で、担当者の意図は多くの学生に伝わっているのが分かるが、一部の学生は、「難しい」「分かりにくい」と感じている。これらの学生は「どこが分かっていないのかもわかっていない」可能性があるため、できるだけ学生が質問しやすい雰囲気を作ったり、個別質問の体制を整える必要があると感じている。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 水2

科目名 臨床薬物代謝学

教員名 椛島 力

回答者数/履修者数 94/114

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>昨年度（満足度4.4）とほぼ同じ、満足度4.6であり、一定の評価は受けていると考える。次年度以降も、維持・向上できるようにアンケート結果を精査する。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>薬物動態の解析法について、投与経路・投与方法ごとにグラフなどを用いて解説し、さらに、イメージしやすいように図解した。また、国家試験の問題を使って、重要な公式の覚え方や組み立て方を解説した。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>平均4.6-4.7であり、一定の評価は受けていると考える。学生が苦手とする分野であるが、臨床において重要な分野であり、薬剤師として働く上での重要性を説明し、次年度以降も、維持・向上できるように努める。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>平均4.6-4.7であり、一定の評価は受けていると考える。次年度以降も、維持・向上できるように努める。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>概ね例年とほぼ同じ評価だったので、大きな問題もなく授業ができたのではないと思う。定期試験では、8割以上の学生が合格する一方で、不合格者の理解不足が顕著であった。どこが理解できていないか、理解させるにはどうすれば良いか検討する。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木3

科目名 薬剤学

教員名 椛島 力

回答者数/履修者数 81/101

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>昨年度と同様、満足度4.6であり、一定の評価は受けていると考える。次年度以降も、維持・向上できるようにアンケート結果を精査する。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>遠隔対応の再履修者用の授業動画を、復習に利用できるように、全受講生に視聴できるようにした。演習問題などを通して、間違いやすいポイントや重要な点を示した。物理系が苦手な学生が多いので、国家試験の過去問の解説をするなど、分かりやすい授業を心がけた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>昨年度同様、平均4.6-4.7であり、一定の評価は受けていると考える。教科書を変更したが、問題なく移行できたと考え。次年度以降も、維持・向上できるように努める。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>全項目、平均4.7であり、一定の評価は受けていると考える。小テストの解説に関するコメントがあったので、次年度はさらに改善する。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>教科書を変更したが、アンケートの結果では、概ね問題なく授業できたのではないと思う。復習のために授業動画をYoutubeにアップしたが、定期試験直前に視聴回数が急増しており、普段からいかに興味を持って復習させるかが課題である。国家試験を意識させながら、どのように興味を持たせるか検討したい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火1

科目名 物理学演習

教員名 市川 和洋

回答者数/履修者数 17/30

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>Q12理解度では平均3.5、Q13満足度も3.9と、高校での未履修、難しい講義内容を考慮すれば評価はよく出ていると考えています。実際にQ6-11の授業方法については3.9-4.5となっており、講義自体は適切に行うことが出来ていると考えています。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本講義は専門科目の薬品物理化学につながる科目で、高校物理未修者クラスに当たり、難しく感じたものと思います。できるだけ式を使わず概念理解と、平易な表現を心掛けました。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>3.9-4.6程度ですので構成はおおむね適正であったと考えています。引き続き改善したいと考えています。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>前述の通り、Ⅲの項目では評価は3.9-4.5であり、4次カリからの開講5年になりますが、全体として改善がみられると考えています。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>3クラス制のCクラスで高校物理未履修者ばかりです。理解度ベースでは5一定の底上げ効果はあったと考えています。2年時の学修で苦労するとみこまれる学生もおり、近年の入学者水準の引き下げが影響していると考えています。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木2

科目名 薬品物理化学 II

教員名 市川 和洋

回答者数/履修者数 82/97

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>理解度4.0に対し、Q13満足度4.3と難しい講義内容に対して満足度が高めに現れていると考えています（例年同一傾向です）。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本講義は物理化学講義の中でも原理や数式を扱うセクションに当たり、もともと難しく感じるセクションとなっています。概念理解と、平易な表現を心掛けました。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>評価は4.3-4.6ですので構成はおおむね適正であったと考えています。並行開講の演習との関連性など引き続き改善したいと考えています。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>項目IIIにおいては、評価は4.3-4.6ですのでおおむね適正であったと考えています。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>本年は改訂コアカリ対応にあわせて講義資料改訂を継続しました。中間試験、定期試験はほぼ同一問題で実施しました。単位未修得者が繰り返し本科目を履修していること、中間・定期での大幅な得点率の変化などが見られました。低得点層から学力水準（入学学力）の低下がみられる一方で、学修努力の跡が見られるものなど、学生間のばらつきが感じられました。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木1

科目名 免疫学

教員名 岸原 健二

回答者数/履修者数 74/93

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>(2011→2025年度の推移)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Q13 (満足度)) : 3.6→3.6→4.0→3.7→4.2→4.2→4.1→3.9→3.8→4.1→4.5→4.5→4.3→4.5→4.5 ・Q12 (理解度)) : 3.4→3.4→3.9→3.6→4.0→4.1→4.0→3.7→3.8→3.9→4.2→4.2→4.0→4.4→4.4 <p>Q13満足度とQ12理解度の両方とも昨年度と同様の評価であった。例年通り、復習用の講義動画の配信やmanabaの小テストでの課題出題を毎授業後に実施し。学生のコメントから動画の配信は授業内容の理解に役立ったようだ。再履修者は、全員本試験で合格しており、問題はなかった。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>(2011→2025年度の推移)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Q1 (準備学習)) : 3.1→3.1→3.8→3.5→3.8→3.9→3.9→3.6→3.7→3.8→3.7→3.8→3.8→4.1→4.3 ・Q2 (授業態度)) : 3.4→3.7→4.0→3.6→3.9→4.0→4.1→3.8→3.9→4.0→4.1→4.2→4.0→4.3→4.5 <p>今年度は、昨年度に比べて準備学習および授業態度の自己評価が向上していた。この学年の特徴であるかもしれないが、学生の授業に取り組む態度は例年より良好であるように感じた。ただし、質問二来る学生は少なかったため、学生が質問しやすい環境を作る必要を感じた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>(2011→2025年度の推移)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Q3(授業の編成)) 3.7→3.6→4.1→3.7→4.2→4.2→4.1→3.8→3.9→4.1→4.5→4.4→4.2→4.5→4.6 ・Q4(シラバスとの整合性)) : 3.8→3.9→4.2→3.8→4.4→4.3→4.2→4.0→3.9→4.2→4.6→4.5→4.4→4.7→4.7 ・Q5(授業内容)) : 3.8→3.8→4.1→3.9→4.3→4.2→4.2→3.9→3.9→4.1→4.5→4.4→4.3→4.5→4.6 <p>今年度は、授業の編成と授業の内容の評価が、昨年度より若干向上した。今年度は、昨年度の授業内容と変更はないが、授業全体としては、問題なく円滑に実施できた。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>(2011→2025年度の推移)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Q6(話し方)) : 3.8→3.7→4.1→3.7→4.3→4.2→4.1→3.8→3.9→4.1→4.4→4.4→4.2→4.5→4.6 ・Q7(教員の熱意)) : 3.8→4.0→4.2→3.9→4.4→4.3→4.3→4.0→4.0→4.2→4.6→4.6→4.4→4.7→4.6 ・Q8(教科書等の使用)) : 3.8→3.9→4.3→3.7→4.4→4.2→4.2→4.0→4.0→4.1→4.6→4.5→4.4→4.6→4.6 ・Q9(板書や機器の使用)) : 3.8→3.8→4.2→3.7→4.4→4.3→4.3→4.0→4.0→4.0→4.6→4.5→4.4→4.7→4.6 ・Q10(遅刻等への対応)) : 3.6→3.8→4.1→3.6→4.1→4.2→4.2→3.9→4.1→4.1→4.5→4.5→4.3→4.6→4.7

項目見出し	コメント
	<p>・ Q11(授業参加への促し)): 3.6→3.6→4.0→3.6→4.3→4.2→4.2→3.9→4.0→4.1→4.4→4.5→4.3→4.6→4.6 今年度の評価は、昨年度と概ね同様であった。評価値はとくに問題なく高い評価であった。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>昨年度と同様の授業を実施したが、全体的に評価は横ばいであった。定期試験(本試験)の合格率は昨年度よりかなり高かった(80%→88%)。復習問題集のポートフォリオへの掲載などが功を奏したかもしれない。来年度以降も、講義動画の配信や復習問題の出題を継続するほかに、学生のコメントを参考に改善していきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 水1

科目名 生薬学Ⅱ
 教員名 宇都 拓洋
 回答者数/履修者数 75/98

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>満足度4.8ポイントであることから多くの学生が満足している様子が分かる。今後も、5に近い評価になるように講義を充実させていきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>講義プリントを事前に配布することで、予習を促した。また講義開始時に前回の講義の復習テストを実施した。講義後は、毎回マナバで質問受付を行い、次回の講義で質問への回答を実施した。確認試験および定期試験の1か月前に、昨年の問題を全員に配布し、学習意欲向上に取り組んだ。さらに、今年度は覚え方や資料を追加するなど工夫を行った。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>3つすべてが4.8の評価であることから、多くの学生が高評価であったと考えている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>すべての項目が4.8以上の評価であることから、多くの学生が高評価であったと考えている。昨年度は、4.5があったので、今年度は改善されたと考えている。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>大部分の学生は満足していたと考えられる。自由記述欄においても、ポジティブなコメントが多く見られた。一方で、確認試験および定期試験の成績については、下位層の学生が増加しており、再試験においても得点の向上が見られない。上位層の学生はほぼ満点に近い点数を獲得しているにもかかわらず、下位層では内容をほとんど理解できていないケースが多い。また今年度は、学生の要望に応え、出席確認を厳格に実施した。真面目に取り組んでいる学生から好評であったため、来年度以降も継続したい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木4

科目名 医薬品情報論

教員名 大磯 茂

回答者数/履修者数 65/110

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>満足度に関しては、評価平均が4.3と昨年度の4.4より0.1ポイント低い評価点であった。授業形態は基本的に前年度のやり方を踏襲し、マナバフォリオを利用した予習・復習課題も実施した。質問項目の中で12の「授業内容を理解できましたか」の回答の平均が4.2であり、授業内容の理解度が今回の評価点低下につながっている可能性がある。自由コメントでは資料の色の使い方からどこが大事か分からないというコメント等あり資料の様式については改善の必要性があるか検討したい。一方、定期的な課題実施により演習を多くできたという意見があり、履修者が学習を進める上で予習・復習を強く意識されるのにプラスの因子となったと考えている。次年度もマナバによる予習・復習課題は継続したい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>これまでと同じ教科書を指定して、その内容に沿って講義を進めた。マナバフォリオを利用した予習および復習を実施し、その結果を最終の成績に反映するようにした。また小テストを9回目授業の後に実施し、すぐに解答を公開することにより、形成的評価も行えるようにした。小テストが履修期間中の学修を進める動機になっている部分もあると思うので、次年度も授業中間の小テストを実施したいと思うが、今年度の小テストのやり方についていろいろと意見をいただいたので、それらの意見を参考に改善すべき点は対応したい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>今年度の評価は4.3から4.6と、昨年度の4.3から4.5の評価とほぼ同程度であった。話している内容が分かりづらいところがあったとの意見があったので、話し方に注意して講義を進めたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>今年度の評価点は4.3~4.5で、昨年度の4.4~4.5の評価点よりも若干低下した。講義資料の色分けなどについて意見をいただいております。次年度の資料作成時は様式について改善の必要性があるか検討したい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>今年度は昨年度と同様の授業形態ではあったものの授業全体の満足度評価点は若干低下した。個々の意見の中にはこれまでに寄せられた意見と同様のものもあったが、改善できる点については対応して、さらなる内容の充実を図りたい。この授業は、覚えることも多いため、一つ一つの事項をただ覚えるだけでは対応できない部分もあると考えられる。医薬品情報論で教える内容は医薬品開発の歴史との関連性が強く、それらと絡めて理解する方が分かりやすいと思われるので、そのことを強く意識できるような授業を展開できると思われるので、予習・復習の実施が理解度の向上につながると思われるので、予習・復習の重要性をあらためて伝えていきたいと思う。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木3

科目名 分析化学Ⅰ

教員名 大庭 義史

回答者数/履修者数 65/85

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>昨年度4.8と比べ0.1ポイント減で、一昨年と同じポイントとなったが、評価2以下を付けた学生も無い点は評価できる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>講義の動画公開、国試との関連性、実践の場（薬局、病院）でどのように生かされるのかを適宜説明した。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>昨年度（4.8, 4.9, 4.7）と比べ、いずれの項目も0.1ポイント減であったが、評価2以下を付けた学生も無い点は評価できる。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>昨年度（4.8, 4.8, 4.8, 4.8, 4.7, 4.7）と比べ、Q9を除いて0.1ポイント減であったが、評価2以下を付けた学生も無い点は評価できる。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>全体として、評価はQ1を除き昨年度と比較して0～-0.1ポイントの変動であったが、4.5以上の高評価帯では誤差範囲と考えている。一方で、Q1「準備学習を行ったか」の項目が、昨年度の4.1から3.4へと0.7ポイント低下している点は注視すべきと考えている。今年度入学生の基礎学力・学習習慣の差や、他科目との時間的バランスの取りづらさなどが影響しているのかもしれない。今後は、「多くの学生が十分な予習・復習を行えていない」という前提を踏まえ、授業内で理解を補完できる構成や、短時間でも取り組める準備学習の提示などを検討する必要があると考えている。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火1

科目名 公衆衛生学Ⅱ

教員名 小川 由起子

回答者数/履修者数 80/89

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>2017/4.5, 2018/4.2, 2019/4.2, 2020/4.4, 2021/4.8, 2022/4.7, 2023/4.5, 2024/4.8, 2025/4.7</p> <p>昨年度よりも0.1P減少したものの概ねも昨年とおなじであった。学生からのコメントにも</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料が丁寧に作られていて書き込みながら授業をやってくださったのでわかりやすかったです。 ・話し方がとても興味を惹かれるような授業をされるのでとても分かりやすく、理解しやすい授業だったと思います。また、先生の授業を聞いてみたいと思いました。 <p>というありがたいコメントが多かった。GoodNoteを使い書き込み形式で授業を進めたのが良かったと思う。一方で書き込みが早くて間に合っていない学生もいた。ある程度は時間をおいていたが内容が多いためこの待ち時間が限界に思う。次年度も引き続き授業内容を試行錯誤しながら理解力が深まるように努力したい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>今回の学生アンケートの記入式コメントで、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料が丁寧に作られていて書き込みながら授業をやってくださったので、わかりやすかったです！！ ・少し早口で聞き取れない時があったが、熱意のある授業だった ・話し方がとても興味を惹かれるような授業をされるのでとても分かりやすく、理解しやすい授業だったと思います。また、先生の授業を聞いてみたいと思いました。 ・小テストで思い出すことで全て忘れることがなくてよかったです。 ・感染症について詳しく知ることが出来て良かった。 ・はきはきと話してくださるのでとても聞き取りやすいです。楽しかったです。 <p>とかなり好印象であった。GoodNoteの活用がこの学年には功を奏したのだと思う。</p> <p>さらに授業時の小テストやアンケートでの質問対応により、学生さんの不安や不満を取り上げ、次の授業にいかせたと考えている。一方で</p> <ul style="list-style-type: none"> ・速いのでメモが間に合わないし、読みにくい と書くのが早いとのコメントもあった。 <p>学生により成績や理解度が異なってくるため、毎年考えることであるが、できれば成績ごとにアンケート結果をまとめていただくと対応策がしぼれると考えられる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3:2023/4.6, 2024/4.8, 2025/4.7 Q4:2023/4.6, 2024/4.8, 2025/4.8 Q5:2023/4.5, 2024/4.7, 2025/4.7</p> <p>自由記述欄に「話し方がとても興味を惹かれるような授業をされるのでとても分かりやすく理解しやすい授業だったと思います。また、先生の授業を聞いてみたいと思いました。」というコメントがあったが、Q5は評価1の学生が1名いたので、今後授業中にmanabaにてアンケートを取り、検討していきたい。どの学習レベルの学生なのかを知りたい。</p> <p>カリキュラム上、微生物学が2年後期からということで、基礎がないままに感染症法を取り扱うのは難しく、基礎を固めてからこの授業をした方がもっと理解度が増すと考えられる。また前述の通り、成績とアンケート結果を紐づけていただくと対応しやすくなると考えられる。今後も引き続き、国家試験が科目の枠を超えて出題されるので生物、衛生、実務等をつなげて今後も講義ができれば学生にとっても有意義なものになると考えている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方</p>	<p>Q6:2015/4.6,2016/4.3,2017/4.6,2018/4.2,2019/4.3,2020/4.5,2021/4.8,</p>

項目見出し	コメント
<p>法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>2022/4.8,2023/4.7, 2024/4.8, 2025/4.8 Q7:2015/4.7,2016/4.4,2017/4.6,2018/4.3,2019/4.3,2020/4.5,2021:4.9,2022/4.8,2023/4.7, 2024/4.8, 2025/4.8 Q8:2015/4.6,2016/4.2,2017/4.6,2018/4.1,2019/4.3,2020/4.4,2021:4.8,2022/4.6,2023/4.6, 2024/4.8, 2025/4.7 Q9:2018/4.2,2019/4.3,2020/4.4,2021:4.8,2022/4.7,2023/4.7, 2024/4.8,2025/4.8 Q10:2018/4.1,2019/4.2,2020/4.2,2021:4.8,2022/4.5,2023/4.6,2024/4.8,2025/4.7 Q11:2018/4.2,2019/4.3,2020/4.3,2021:4.6,2022/4.6,2023/4.5,2024/4.7,2025/4.7</p> <p>昨年度とお胸同じ評価をいただいております。特に「熱量の感じられる授業」との回答が今期は5と4しかいなかったので、次年度も引き続きそのような評価が得られるように精進します。どのくらいの成績の学生までがこの授業のやり方で理解できるのか、その境界線が知りたい。それによって、例えば予習の仕方やresponを使用した授業が可能かどうかを判断したいと考える。成績の幅が広いため、学年でも理解力に差はみられるので、ポートフォリオで復習/小テストを解かせた後のアンケートやリフレクションシートを配布するなどして学生の意見を取り入れていきたいと思う。次年度も引き続きmanabaでアンケートを取りながら学生の学力に合わせた授業を構築していきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>対面授業で学生の顔を見ながら講義ができ、小テスト・課題を授業後に（締切は翌週の授業日の前日）配信し復習ツールをあげることができたことが高評価につながったと考える。学生の雰囲気やわかっているかどうかがある程度手に取れるので、授業の組み立てがしやすく、学生のニーズに合わせることもできた。しかしどの年度の課題でもあるが、後ろに座る傾向が高く、中間試験前などは後ろで別のことをやっている生徒がいないかの対策が必要だと考える。また一昨年度から、「病原微生物学」を履修する前に、感染症の話をしなければいけないという学生にとっては不利なカリキュラムということ、また微生物の昨年同様基礎の「微生物学」の講義と並行しているが、学生に不利益を講じさせない授業形態をとることができた。講義終了後にポートフォリオでの小テストを課題として出し理解力を少しでも深めることを考えた。定期試験の結果から、昨年同程度で理解することができた学生が多かったようである。今後も学生の意見をポートフォリオを使って聞きながら、成績が伸び悩んでいる学生をどうしたら一定レベルまで上げることができるのかをよく考えて来年度講義にのぞみたいと思う。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火3

科目名 病原微生物学

教員名 小川 由起子

回答者数/履修者数 90/105

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>2017:4.3, 2018:4.4, 2019:4.1, 2021:4.4, 2022:4.7, 2023:4.8, 2024:4.8 2025:4.8 (2022年度より2年後期、病原微生物へと名称変更) 昨年度と同等、ここ3年は4.8と高い評価を得ている。 自由記述欄には、 ・わかりやすい授業ありがとうございました。 ・何回か同じことを伝えてくださったため、メモが取りやすく理解しやすかった。 ・話し方が明瞭で、どこが重要かについて毎度わかりやすく言及して下さったので復習しやすかった。 など良い印象がある反面、 ・次のスライドにいくのが速すぎてメモができなかったとの意見が1件あった。内容が15回でするには膨大な量のため、どうしても早口になってしまうが、学生の主体性に任せてキーワードに絞った授業をし、自宅学習で考えさせてもよいかもしれない、次年度はこの辺りを検討してみようと思う。次年度も引き続き、学生の目線に合わせた講義を展開していきたいと思う。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>昨年同様3年前期に感染防御学にてウイルス学の一部を実施したおかげで、時間に少し余裕ができたため、より基礎的なことから始めたことが理解につながったと思う。昨年の反省点を踏まえ、説明を少し少なくし、ゆっくり話すよう心掛けたつもりであったが国家試験問題を見ると話さなければいけない内容が増え、今年もぎりぎりの時間での授業となってしまった。例年同様、授業終了後にmanabaでアンケートや質問、意見を伺い、その都度修正しながら進めた。学生の意見を授業後すぐに吸い上げることで、思いもよらなかった考えがあることに気づき、修正することができる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>2017 : Q3:4.3, Q4:4.3, Q5:4.3 2018 : Q3:4.5, Q4:4.4, Q5:4.4 2019 : Q3:4.2, Q4:4.1, Q5:4.1 2021 : Q3:4.5, Q4:4.5, Q5:4.5 2022 : Q3:4.8, Q4:4.7, Q5:4.6 2023 : Q3:4.7, Q4:4.6, Q5:4.7 2024 : Q3:4.6, Q4:4.7, Q5:4.6 2025 : Q3:4.8, Q4:4.8, Q5:4.8</p> <p>昨年度よりQ3,5は0.2ポイント上昇、Q4は0.1ポイント上昇 前期に感染防御学にてウイルス学の一部を実施したおかげが昨年の反省点を鑑み、説明を少し少なくしたつもりであったが、その分質問が昨年より多かった。学生自身に考えてもらう時間を作ってもよい方向へ進んだ。興味ある授業にできるように次年度も引き続き今回の方法を軸に進めていきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>2017 : Q6:4.4, Q7:4.4, Q8:4.3, Q9:4.3, Q10:4.2, Q11:4.3 2018 : Q6:4.5, Q7:4.5, Q8:4.5, Q9:4.5, Q10:4.4, Q11:4.4 2019 : Q6:4.2, Q7:4.3, Q8:4.1, Q9:4.1, Q10:4.1, Q11:4.2 2021 : Q6:4.6, Q7:4.6, Q8:4.6, Q9:4.6, Q10:4.4, Q11:4.5 2022 : Q6:4.9, Q7:4.9, Q8:4.8, Q9:4.8, Q10:4.6, Q11:4.7 2023 : Q6:4.8, Q7:4.8, Q8:4.7, Q9:4.7, Q10:4.7, Q11:4.7 2024 : Q6:4.8, Q7:4.7, Q8:4.7, Q9:4.7, Q10:4.6, Q11:4.6 2025 : Q6:4.8, Q7:4.9, Q8:4.8, Q9:4.8, Q10:4.7, Q11:4.7</p> <p>昨年度よりすべての項目で0.1~0.2ポイント上昇した。中でも熱意のある授業の評価が4.9だったことが大変うれしかった。自由記述欄に</p>

項目見出し	コメント
	<p>ある下記の件、学生に伝わったことが何よりうれしかった。 ・話し方が明瞭で、どこが重要かについて毎度わかりやすく言及して下さったので復習しやすかった。 自由記述欄の「次のスライドに行くのが早かった」というコメントもあったことから、次年度はスライドの中身も少し吟味する必要があるかもしれない。 遅刻や私語に対する対応については昨年同様評価2の学生はおらず、ポイントも0.1ポイント上昇したので、注意喚起は昨年よりはできていたと思う。授業中の私語、遅刻に関する対応は引き続き実施する。授業後のmanabaによるアンケート調査で、授業を注意で分断させてほしくない、大人なんだから自己責任という意見もあったので、この点はさらに考えるべき反省点である。 おおむね納得のいく評価をいただくことができた。 今年度の結果から、基礎的なところから始めるのが理解につながることもわかった。 今後は同系列の科目と連携を取りながら、点と点が線で結べるような授業体系を取っていきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>昨年のアンケート結果と比べると、いずれの設問でも昨年よりも0.1～0.3ポイント上昇していた。昨年のアンケート結果を分析して対応したところ、その対応が今年度の学生には合ったからだと思う。最近の国家試験では応用問題が多く、細菌・ウイルスに関しても難しくなっている。より基礎的な内容をきちんと理解させたいうえで点と点が線で結べるような授業にできるように努力した。学生が理解しているかどうかは、manabaのアンケート機能からチェックをしたことで、より理解が深まったと考えられる。次年度に向けて今年度のアンケート結果を分析し、授業を構築していこうと思う。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木2

科目名 薬物治療学Ⅲ

教員名 小川 由起子

回答者数/履修者数 86/88

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>2019/4.3, 2020/4.0, 2021/4.4, 2022/4.7, 2023/4.6, 2024/4.7, 2025/4.5</p> <p>回答率は、webで中間試験前に実施したところ、昨年の61.8%→97.7%と高くなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メモする時間もないほどに次々と進み、振り返るための動画もなく授業に置いていかれることが多かった。 ・授業の進むスピードが速かったので、動画を残して欲しかった。 <p>との自由記述欄のコメントがあった。授業に集中してもらおうようにあえて動画は残さなかったがコロナ世代の学生は、少し甘くないと難しいのかもしれない。自分で勉強する力がつくように次年度は何かしらの工夫を凝らしたいと思う。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>毎回授業後のアンケート（質問等）には丁寧に回答し、manabaにアップしていたことは助かったと数名の学生からきいた。ただ自分で考えるのではなくすべて教えてもらうことに慣れている学生がこの学年は多かったため、社会にでて困らないように今後も引き続き学生自身が考える能動的自発的学習ができる様な教授法を検討したい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3:2019/4.2, 2020/3.8, 2021/4.4, 2022/4.6, 2023/4.6, 2024/4.7, 2025/4.3 Q4:2019/4.4, 2020/4.1, 2021/4.4, 2022/4.7, 2023/4.7, 2024/4.7, 2024/4.6 Q5:2019/4.4, 2020/4.1, 2021/4.4, 2022/4.6, 2023/4.5, 2024/4.7, 2024/4.5</p> <p>今年度はQ3に評価2の学生が3名、評価1が1名、Q5に評価2の学生が1名はいた。授業中に横柄な学生グループがいたのでそのグループと考えられるが、それでも評価が低いには変わりはない。授業内容は国試に直結したものを中心に実施したが、manabaでのアンケートを見ると理解できないところがある、難しすぎるという意見ともう少し難しめの臨床的なものでもよいという意見もあり、ここでも理解力の差が激しいと考えられる。成績によっても理解度に差が認められることから、昨年もお願ひしていたが、アンケートと成績を紐づけての統計結果の作成をぜひお願ひしたい。次年度は受け身だけの授業にならないように、配布資料ならびに授業の進め方を再考し、学生一人一人が考えることのできる授業を作り上げたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q6:2019/4.5, 2020/4.2, 2021/4.5, 2022/4.8, 2023/4.7, 2024/4.8, 2025/4.6 Q7:2019/4.5, 2020/4.3, 2021/4.6, 2022/4.8, 2023/4.8, 2024/4.8, 2025/4.6 Q8:2019/4.2, 2020/3.9, 2021/4.5, 2022/4.7, 2023/4.7, 2024/4.6, 2025/4.4 Q9:2019/4.3, 2020/4.0, 2021/4.5, 2022/4.7, 2023/4.7, 2024/4.7, 2025/4.5 Q10:2019/4.4, 2020/4.1, 2021/4.5, 2022/4.6, 2023/4.5, 2024/4.5, 2025/4.4 Q11:2019/4.3, 2020/4.2, 2021/4.5, 2022/4.6, 2023/4.5, 2024/4.7, 2025/4.5</p>

項目見出し	コメント
	<p>昨年に比べ、いずれの項目でも0.1～0.2ポイント減少した。学生からの自由記述欄では悪いことが多かった。資料が多くて速いというのであればあらかじめ資料はmanabaにあげているので予習してくるべきである。学生の理解力の違いもあるが、プリントをもう少し学生主体でできるように工夫したほうが良いのではないかと考えている。学生の成績分布を知り授業内容を組み立てるのが、この大学では必要であると考えてるのでぜひ成績と関連付けた統計をお願いしたい。Q6、Q8-Q10で評価1をつけた学生が2名ずついるので、プリントの量が多すぎるという意見もあつことを鑑み、今後さらに配布資料は吟味し、来年度に備えたい。さらに「respon」等を使用し、参加型の授業を遠隔授業の中で実施することで学生の理解度を深めることができると考えられるので、次年度以降も引き続き活用を考える予定である。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>国家試験の出題が8疾患を軸として、多岐にわたり科目を越えての出題に代わってきているため、昨年同様できるだけ生物、衛生、薬理、治療、実務をつなげた講義を目指した。今年は昨年よりも国家試験は分野を超え、理論で薬理と薬物治療の連問が多数出題された。自宅学習時間も多くとれると考えていたが、全科目で多くの課題があり、中間試験と実力試験がかぶっていたり、学生の中には消化不良を起こしている人がいることも事実である。講義の進め方は今後も再考する必要があり、次年度以降検討していきたい。また教科書が高いこともあり購入していない学生も多く見受けられたので、分野を超えての出題が今後増えるので、予備校の参考書ではなく、教科書を熟読することの大切さを引き続き教えていきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火3

科目名 疾病学Ⅰ

教員名 隈 博幸

回答者数/履修者数 77/90

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>満足度は4.7で、昨年度(4.8)より0.1ポイント低下したが例年並みと評価している。今年度は授業中のレスポンスがあまりなく、良く言えばおとなしい学生たちであった。しかしコメントなどは概ね良く、良くも悪くもいつもと同じという感じであった。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>特に思い当たる点はないが、疾病学という性格上、日常や芸能人などの病気や話題を取り入れることを心掛けており、一定の興味を引くことができたと考えている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>上述のように、講義後に10分程度復習テストを課したコマをつくった。しかしQ1ではあるが準備学習をしないと答えた学生が2名(評価1)、4名(評価2)おり、期末評価に加えるなどの工夫が来年度は必要であると感じた。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>特になし。1名、熱意・プリント使用・私語等について評価1を付けた学生がいるが、特に思い当たるところがない。他の学生の大部分は4または5であることから、改善が必要だとは思っていない。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>授業は毎年マンネリにならないように気を付けてはいるつもりであるが、今年度の学生のように反応の薄い場合、どうしたら良いか困ることもある。基本的には教材の準備に時間をかけ、伝えたいことを時間内に全て伝えるよう心掛けており、評価は例年とほぼ同じで安堵している。プリントとスライドの内容が異なるとのコメントも見受けられたので、来年度はその部分の改善を考えたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 金1

科目名 細胞生物学

教員名 黒川 健児

回答者数/履修者数 91/100

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>満足度の平均は4.6と全体平均並みであった。ここ5年は4.6、または4.5である。今後も4.0以上を維持できるように学生の意見を参考に工夫を続けたい。講義範囲を広くとっており、毎回の授業後の確認テスト、隔週で行う小テストにより講義から脱落者を出さないよう工夫している。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>隔週で行う小テストをコロナ禍以来CAIで行って来たが、資料参照不可の紙媒体での実施に戻した。これはスマホを用いた小テストにおいて生成AIを用いたカンニング行為があるとの学生からの指摘に対応したものであり、アンケートでは好意的な記述が3件あった。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業内容は体系化された薬学教育カリキュラムの一部であるが、興味を持ってもらえるように映像資料を使うなどの工夫をしている。平均は3項目とも4.5以上で、資料がわかりやすかったとのコメントもあり、一定の評価を得ていると考える。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>今回のコメントには無かったが、話し方が単調であること、大事なところを強調して欲しいことについてコメントをよく受けるので、その点は気を付けるようにしている。遅刻や私語に対する注意は積極的には行っていないが、必要に応じて行うよう心掛けている。授業参加の促進としては、確認テストへの回答や小テストへの準備として各自での勉強を促している。平均は6項目とも4.5以上となっており、一定の評価を得ていると考える。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>小テストを紙媒体に戻したことで、成績評価の公平性を担保できたと考える。中間試験や期末試験で得点できていない学生さんのためには、学生間での説明し合う時間を設けるなどのアクティブラーニングの機会を増やすことの有用性を考えている。今後、時間を調整して取り入れていきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木1

科目名 医薬品化学 II

教員名 小島 直人

回答者数/履修者数 65/82

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>回答者の95%が4以上の評価であり、平均が4.7であったことから、概ね評価されていると考えている。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>授業の冒頭に関連する国家試験問題を提示し、該当事項を講義した後で、実際に取り組んでもらった。パワーポイントの資料を映写し、適宜、それに書き込みながら講義したが、できるだけ文字を少なくし、見やすい資料とすることに努めた。</p> <p>また、予習問題として、各回の内容に関する正誤問題を20題出題し、事前に目を通しておくように指示している点も効果があったものと考えており、次年度も継続したい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>2023年度：Q3(4.5), Q4(4.6), Q5(4.5) 2024年度：Q3(4.4), Q4(4.6), Q5(4.3) 2025年度：Q3(4.7), Q4(4.8), Q5(4.7)</p> <p>どの項目も概ね評価されており、現時点で改善すべき点はないと考えている。来年度もこの評価を維持できるように努めたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>2023年度：Q6(4.6), Q7(4.6), Q8(4.6), Q9(4.6), Q10(4.5), Q11(4.4) 2024年度：Q6(4.6), Q7(4.6), Q8(4.6), Q9(4.5), Q10(4.6), Q11(4.4) 2025年度：Q6(4.8), Q7(4.8), Q8(4.7), Q9(4.7), Q10(4.8), Q11(4.7)</p> <p>どの項目も概ね評価されており、現時点で改善すべき点はないと考えている。来年度もこの評価を維持できるように努めたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>これまでに学修してきた有機化学の知識を応用すれば、暗記することを最小限にできることを理解してもらえるように努めた。説明がわかりやすかったとのコメントが多かったため、次年度も以降も同様の評価となるように努めたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火3

科目名 病原微生物学

教員名 小林 秀光

回答者数/履修者数 101/107

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>2023年度 (総合満足度: 4.5、日本人学生: 4.5、韓国留学生4.8) 2024年度 (総合満足度: 4.4、日本人学生: 4.4、韓国留学生4.4) 2025年度 (総合満足度: 4.7、日本人学生: 4.7、韓国留学生4.8)</p> <p>昨年の総合満足度が4.4であったので、3ポイント上昇した。自由記述にはポジティブなコメントが多く、一定以上の学生が楽しみつつ興味を持って本科目を聴講していたことが伺える。しかし、「プリントのサイズを小さくしろ」や「論述問題にキーワードが欲しい」等という困ったコメントが見られたので少々残念であった。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>3年生を対象とする必修専門科目であり、微生物系科目(微生物薬品学、衛生化学、公衆衛生学など)や臨床系科目(実務実習など)に関連する重要な科目である。もちろん国家試験にも多くが出題される。従って、国家試験の勉強に役立つように、社会的に注目を集めている事例(コロナウイルスやインフルエンザ、梅毒やマイコプラズマ肺炎等)についてしっかり授業した。また、出来るだけ分かり易い言葉を使って解説し、教科書の項目ごとに自作のプリント「まとめ」を配布する等して学修サポートした。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>2023年度: 質問3: 4.3、質問4: 4.5、質問5: 4.4 2024年度: 質問3: 4.4、質問4: 4.5、質問5: 4.4 2025年度: 質問3: 4.6、質問4: 4.7、質問5: 4.6</p> <p>昨年より1~2ポイント程度上昇した。次年度は、ALをもっと工夫してより多くの学生が興味を持てる分かり易い授業に取り組みたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>2023年度: 質問6: 4.5、質問7: 4.6、質問8: 4.4、質問9: 4.4、質問10: 4.5、質問11: 4.5 2024年度: 質問6: 4.4、質問7: 4.4、質問8: 4.3、質問9: 4.3、質問10: 4.4、質問11: 4.3 2025年度: 質問6: 4.7、質問7: 4.8、質問8: 4.7、質問9: 4.6、質問10: 4.6、質問11: 4.6</p> <p>昨年より2~4ポイント大幅に上昇した。次年度もこれらの項目の評価が維持されるように話し方に気を付けたい。また、受講生よりまとめのプリントに十分なメモ欄を設けることを望んでいるが、まとめプリントがあまりに枚数が増えるのもおかしいので、学生自身がノートを作成するよう促したい。また、受講生がプリントに頼りすぎると教科書やその他の専門書を軽視することが懸念されるので注意したい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>今年は「アンケートの自由記述欄」への書き込み(質問や感想など)がとても多く、授業中においても積極性が感じられた。本科目の「S」及び「A」評価の成績優秀者の割合が例年よりも多くなった。この学年の今後の伸びに期待したい。ストレート卒業率や国家試験合格率が悪化しないように、今後の学修支援には全教員が一層努力する必要がある。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 水2

科目名 微生物学

教員名 小林 秀光

回答者数/履修者数 78/96

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>2023年度 (総合満足度: 4.4、日本人学生: 4.4、韓国留学生なし) 2024年度 (総合満足度: 4.4、日本人学生: 4.4、韓国留学生5.0) 2025年度 (総合満足度: 4.6、日本人学生: 4.6、韓国留学生5.0)</p> <p>一昨年の総合満足度4.4、昨年の総合満足度4.4であったので、2ポイント上昇した。 自由記述はポジティブなコメントが殆どで、大多数の学生が楽しみつつ興味を持って本科目を聴講したことが伺える。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>2年次学生を対象とする必修専門科目であり、微生物系科目(病原微生物・ウイルス学、微生物薬品学、免疫学、衛生化学、公衆衛生学など)や臨床系科目(疾病学や実務実習など)の基礎となる重要な科目である。 従って、導入的科目の性格を持っているので、先ず学生がこの分野に興味を持てるように、社会的に注目を集めている事例(コロナやインフルエンザ、アニサキスやマイコプラズマ等)についてスライド枚数を昨年よりさらに増やして紹介した。また、出来るだけ分かり易い言葉を使って解説し、教科書の項目ごとに自作のプリント「まとめ」を配布する等して学修サポートした。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>2025年度 質問3: 4.6、質問4: 4.6、質問5: 4.6</p> <p>昨年より1~2ポイント程度上昇した。次年度は、ALをさらに工夫してより多くの学生が興味を持てる分かり易い授業に取り組みたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>2023年度: 質問6: 4.5、質問7: 4.5、質問8: 4.4、質問9: 4.4、質問10: 4.6、質問11: 4.6 2024年度: 質問6: 4.5、質問7: 4.6、質問8: 4.4、質問9: 4.5、質問10: 4.6、質問11: 4.6 2025年度: 質問6: 4.7、質問7: 4.7、質問8: 4.4、質問9: 4.5、質問10: 4.7、質問11: 4.6</p> <p>授業法は継続的に評価されていると思う。次年度はこれらの項目の評価が上昇するようALを工夫したい。また、受講生よりまとめのプリントに十分なメモ欄を設けることを望んでいるが、まとめプリントがあまりに枚数が増えるのもおかしいので、学生自身がノートを作成することを促したい。また、受講生がプリントに頼りすぎると教科書やその他の専門書を軽視することが懸念されるので注意したい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>この学年は概ね授業に集中しており、積極性が感じられる。本科目の「A」評価の成績優秀者の割合は昨年より大幅に増え、再履修者は1名に留まった。学年全体としての総合理解度は比較的良好なものと考えられる。従って、ストレート卒業率や国家試験合格率が改善することが期待できる。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 金1

科目名 地球環境論

教員名 平良 文亨

回答者数/履修者数 181/281

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>限られた時間の中で、広範な分野を学ばせる必要があるが、持続可能な社会あるいは地球環境の保持を行動に移すためには、興味・関心を持たせることが入り口となることを意識して授業計画を行いたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>課題の回答・解説で重要部分を復習するとともに、授業の補足としてより深堀して地球環境を奥深さを学修するよう促した。また、外部講師や映画鑑賞により普段の講義とは異なる授業展開を行うなどの変化をつけた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業途中で演習問題を行うなどの変化も検討したい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>多少声が小さい場面があったようなので、90分声の強弱を意識したい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>全学共通科目（選択）ということで、それぞれの知識や経験が大きく異なる背景を有する学生に対して、講義資料を工夫する必要があるとともに、社会に出ていく学生が最低限必要な知識を修得可能となるように講義内容・課題を工夫した。薬学部での専門科目にも応用できる点が多々あり、充実した時間だったと思う。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 金1

科目名 放射線化学

教員名 高井 伸彦

回答者数/履修者数 73/83

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>73名中56名が評価5を選択しており、評価4（15名）を合わせると、73名中71名が満足としている。 昨年度は、前半部分を淀教員が担当していたが、今年度から急遽15回の講義を全て受け持つことになった初年度であるため、推移を示すことができないが、これをベースとして良い講義を心がけたいと考えている。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>ICT (CAI) を利用して、中間試験対策をするように薦めており、勉強したいと考えている学生がチャレンジできる環境を整えている。しかし一方で、シラバスも確認しない、講義の注意点もすぐに忘れてしまう学生が数名おり、要求ばかりするが、その学習努力をしない学生の学力の向上が今後の課題と残っていると感じる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>評価は4.6-4.8であり、73名中57名が評価5を選択していることから、講義に真面目に取り組んでいる学生には、効果的にできていると思われる。今年度から全ての講義を担当することになったため、経年変化を示すことができないが、これをベースとして良い講義を実施したいと考えている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>ほぼすべての項目において4.6-4.8を示しており、Q7の熱意の感じられる授業であると回答した学生が、73名中59名いることから、今後のこの講義内容を維持したいと考えている。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・興味をひく話題があり、話を聞きやすかった。 ・内容は難しいなと感じたけど、授業がまとまっていてとても分かりやすく満足しています。聞き取りやすく配布資料も理解しやすく勉強しやすかったです。 ・資料が見やすくよかったです ・話し方が明瞭で興味もてた。 ・高井先生の授業は、動画とか実際に道具を持ってきたり楽しくてとてもわかりやすいです。高井先生の授業いつも楽しみです！ <p>との意見を大切にして、今後も講義に真摯に取り組みたいと考えている。</p>

項目見出し	コメント
	<p>一方で、教員の話をもっと聞いていないと思われるコメントが、今年度多く見受けられた。それが入学時の学力などの問題点ではないかとも考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつも授業楽しいです！！ けど、テスト範囲とか割合とか、言ってることコロコロ変えるの少しやめてほしいです笑 ・授業やプリント、動画配信などは非常に良いと感じましたがあのテストはあんまりだと思います。授業でやってない所をいくつも出したり、沢山の誤字誤植、テスト直前に範囲を追加するなどは いくらなんでも酷いと思いました。 <p>試験範囲は、毎回講義前に伝えており、その動画を定期試験まで見て確認できるようにしているが、それさえ確認もしない学生が今年度多くいる感じを強く受けた。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火1

科目名 公衆衛生学Ⅱ

教員名 長岡 寛明

回答者数/履修者数 60/90

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>授業満足度は4.7であり、昨年と同等の値であり、概ね満足できる結果であると考え、内容はほぼ昨年と同じであるが、本講義は、薬剤師でありかつ日本で生活する人として知っておくべき内容を、より専門性の高い内容である。学生にとっては身近な事項であり、テレビ・新聞等のニュースをみたり、聞いたりすることによりより深く理解できる内容と思う。本年の国家試験にも時事問題的な問題が出題されており、日々、新しい事項や統計が公表されている現状から、新しい内容を講義しつつ、学生の興味を引く内容に更新していきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>ワーポイントの使用、学期はじめにプリントの配布、重要語句の赤字表示などにより、私語の減少はみられた。また、YouTubeへの講義内容のアップロードやフォーリオを用いて、知識の確認のための小テスト等を行ったことで学力向上につながったものと思われる。授業開始直後の私語については、注意したことにより、減っていった。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>授業内容に関しては、4.6～4.7の評価であった。内容がかなり専門性の高い内容であるが、薬学部2年生であるので、理解してほしい内容である。興味に関しては、CBTだけをにらんでの講義ではなく、その後の国家試験や卒業後に必要な基礎知識の内容を行っている。また、この分野の大半は新聞を読む、ニュースを見る(聴く)などの社会常識の範囲でかなりの部分をカバーできるものである。なので、今後も最新的话题を盛り込んだ授業をし、学生の興味を引く授業を行いたい。さらなる自己点検を実施し、よりよい講義を目指したい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>授業方法に関しては、4.6～4.7の評価であり、概ね満足できる結果であると考え、学生の授業参加を促す工夫をしたいと考えている。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>本年も、ポートフォーリオを活用した小テスト実施とともに質問・コメントを受け付けたところ、多数の質問やコメントが寄せられていた。個々の質問・コメントに完璧な回答ができたとは思えないが、それなりに努力して、真摯に回答したので、学生にもある程度満足してもらえたのではないかなと思う。自由記述欄に提出された意見に関しては、反省すべき点は反省していきたいと思う。講義に当たり、より充実した資料を作成し、更によりよい講義にしていきたいと思う。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火4

科目名 薬理学Ⅱ（末梢-1・前臨床）

教員名 西奥 剛

回答者数／履修者数 92／107

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q10</p>	<p>概ね高評価であり、来年度も同様に行っていく。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>定期試験では、中間試験での該当範囲を除いたため、定期試験への学修意欲が向上したと考えられる。 また、講義の開始時に小テストを導入し、毎回の講義の復習を行わせた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>概ね高評価であり、来年度も同様に行っていく。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー／教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>概ね高評価であり、来年度も同様に行っていく。 講義時間と講義内容の都合上、話し方が若干早めになる。 資料等でこの点を補っていくよう努力する。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>概ね高評価であり、同様に行っていく。 予習・復習の評価が良くないため、来年度はこの点の改善に努める。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 月4

科目名 医薬品情報論

教員名 室 高広

回答者数/履修者数 95/110

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>満足度が昨年度4.2から4.4へ上昇した。次年度以降、一層満足度の高い授業を行えるよう努める。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>講義中に説明しているそれぞれの内容に関して、臨床での重要性・この知識がどのように利用されるのかを説明し、CBTや国試でどの程度取り扱われているのかなど、試験対策情報も添えるようにしている。また復習できるよう動画配信も行った。授業態度の評価であるQ1が4.0から4.3Q2は4.2から4.5と上昇していた。単に今年の学生が学習意欲が高かっただけかもしれないが、引き続き、学修意欲を向上させるような授業を行うことを心がける。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3-5は平均4.5で昨年より0.1点上昇した。Q5の授業内容は興味あるものでしたか？の回答が増加した影響である。臨床での重要性などの情報をわかりやすく伝える他、学生の興味を引くことができるよう心がける。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6-Q11は平均4.6であり昨年より0.1上昇した。資料も教科書も同じものを使用しているのだが、Q7が0.1点上昇していることはうれしい変化である。Q10が0.2点上昇しており、昨年度より学習意欲の高い学生であったことがうかがえる。引き続き、臨床での重要性などの情報をわかりやすく伝えるよう心がける。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>昨年に比べ回答率はやや低下している。そのためか、全体的に評価は前年度より上昇している。また質問項目から本年度の学生は昨年度よりも学習意欲が高いことが推察できる。留学生にも理解しやすいよう動画配信を行うなどの工夫はしたものの、留学生の評価は低かった。留学生の回答が1名のみですべて3点をつけていたことから本質的な評価はよくわからない。一昨年は学生の授業科目に対する興味が低く、評価も低かったが、今年は評価が回復した。学生の性質によらずに評価が向上できるよう、授業方法をさらに工夫していく。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 水1

科目名 薬物治療学Ⅲ

教員名 山口 拓

回答者数/履修者数 52/88

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>本年度・本講義の理解度は4.4、満足度は4.6で、昨年度から理解度は変化なく、満足度がポイント増であった。全ての講義について講義終了後に録画した講義動画を見逃し配信として学生に提供したことは、ポイント上昇に寄与したと考えている。本アンケート結果を踏まえて、講義方法、パワーポイントおよび配布プリントの作成方法など、さらなる向上に努めたいと思う。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>従来実施している薬物治療学ⅠやⅡのように、可能な限りイラストや図表を多く取り入れたパワーポイントおよび配布プリントを作成し、飽きのこない教材作製に注力したつもりである。また、本講義は教科書の各単元(疾患別)の内容に沿って実施した。可能な限り情報収集した講義内容に関連する最新の新薬情報を積極的に紹介した。また、単元終了後に内容確認のために教科書単元(疾患別)の章末にある確認問題(症例問題)を自学自習のために実施するよう伝達し、事後(自宅)学習への動機付けを促した。さらに講義内容に関する補助資料(疾患ガイドラインや重要薬・新薬の添付文書など)をManabaコンテンツを活用して提供し、薬物療法の理解を深めるとともに講義時間の効率化を図った。これらの方策は、事後(自宅)学習および講義内容の反復学習にも繋がっていること、また可能な限り次回の講義に使用する講義プリントを事前に配布し、講義前にそのプリントを読んでおくことや既に学習(履修)履修済みの関連項目・分野の事前学習(予習)を促したことから、学習理解の向上や記憶固定の動機付け、受講態度・学習意欲等の向上に貢献していたと考える。また、今年度も成績評価の10%に相当する課題として5回の小テストを実施した。この小テストは、定期試験の結果から本講義の予習復習に貢献していると考えられる。さらに、全ての講義について録画した講義動画を見逃し配信として学生に提供し、復習としての事後(自宅)学習、講義内容の反復学習および定期試験前における学修内容の学び直しに寄与できたと考えている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>質問3:4.3、質問4:4.6、質問5:4.7であり、昨年度と比較して微増しているが、さらなる向上に努め、昨年同様にクオリティの高い教材作りを心がけたいと思う。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>質問6:4.6、質問7:4.7、質問8:4.4、質問9:4.5、質問10:4.5、質問11:4.6であった。各項目が昨年度と比較してほぼ変化がなかったが、さらなる向上に努めたいと思う。</p>

項目見出し	コメント
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>本講義は小川由起子教授とのオムニバスとなっている。これまで薬物治療学ⅠやⅡにて実施していない感染症および悪性腫瘍領域（小川担当）や神経精神疾患領域（山口担当）が講義内容であり、体系的に講義内容を構築している。本年度・本講義の理解度および満足度は、昨年度から大きな変化はないが、さらなる向上に努めたいと思う。</p> <p>一方で、毎年の課題であるが、本講義に関わる学生に伝えなければならない情報量（新薬情報や診断・治療ガイドライン改訂に伴う新規の薬物療法など）が年々肥大化していることに苦慮している部分がある。学生に今後の実務実習に必要な情報を身につけさせること、将来の薬剤師国家試験受験を見据えて見落としが無きよう新規情報を含めた本講義内容について伝えねばならないことを考慮すると、年々増加する一方の講義内容を取捨選択することは非常に困難で、講義時間も切迫している実状がある（講義時間が足りない）。これが一部の学生における不満要因となって理解度や満足度にも若干反映されていると思われる。本件はカリキュラムの改訂を含めて対応する必要がある喫緊の課題であると考えている。</p> <p>講義内容については次年度もさらに最新の情報（新薬情報や新しい薬物治療ガイドラインなど）に更新し、これを取り込むことを念頭に、さらなる向上に努めたいと思う。次回の講義プリント配布および診断・治療ガイドライン」の提供が学生の学習理解の向上に貢献していることから、今後も積極的に講義に取り入れたいと考える。また、全ての講義について録画した講義動画を見逃し配信として学生に提供して、復習としての事後学習および講義内容の反復学習に寄与できたと考えられるので、次年度以降も見逃し配信の情報提供スタイルは継続したい。さらに、この講義動画をオンデマンド配信している現状を活用して、定期試験前に担当回9回全ての講義動画を限定配信したことは、復習を兼ねた学修内容の学び直しと学習理解の向上にかなり寄与したと考えられ、今後も継続したい。少なくとも、このようなアンケートによって学生の要望を把握して真摯に受け止め、取り込み可能な講義内容に関する案件は次年度の講義に活かしたいと思う。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 金2

科目名 薬物治療学 I

教員名 山口 拓

回答者数/履修者数 63/115

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>本年度・本講義の理解度は4.4、満足度は4.6であった。昨年度からそれぞれ0.1および0.4ポイント微増したが、本アンケート結果を踏まえて、講義方法、パワーポイントおよび配布プリントの作成方法など、さらなる向上に努めたいと思う。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>例年のように、可能な限りイラストや図表を多く取り入れたパワーポイントおよび配布プリントを作成し、飽きのこない教材作製に注力した。可能な限り情報収集した講義内容に関連する最新の新薬情報を積極的に紹介した。また、単元終了後に内容確認のための問題を提示し、Manabaを活用した解答情報の提供を行うことによって事後（自宅）学習への動機付けを促した。さらに講義内容に関する補助資料（疾患ガイドラインや重要薬・新薬の添付文書など）についてManabaコンテンツを活用して提供し、薬物療法の理解を深めるとともに講義時間の効率化を図った。これらの方策は、事後（自宅）学習および講義内容の反復学習にも繋がっていること、また可能な限り次回の講義に使用する講義プリントを事前に配布し、講義前にそのプリントを読んでおくことや既に学習(履修)履修済みの関連項目・分野の事前学習(予習)を促したことから、学習理解の向上や記憶固定の動機付け、受講態度・学習意欲等の向上に貢献していたと考える。今年度も成績評価の10%に相当する課題として10回の小テストを実施した。この小テストは、定期試験の結果から本講義の予習復習に貢献していると考えられる。さらに、全ての講義について録画した講義動画を見逃し配信として学生に提供し、復習としての事後（自宅）学習、講義内容の反復学習および定期試験前における学修内容の学び直しに寄与できたと考えている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>質問3：4.5、質問4：4.7、質問5：4.6であり、昨年度と比較していずれも微増しているが、さらなる向上に努め、昨年同様にクオリティの高い教材作りを心がけたいと思う。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>質問6：4.6、質問7：4.7、質問8：4.6、質問9：4.5、質問10：4.6、質問11：4.5であり、昨年度と比較して微増しているが、大きな変化はなく、さらなる向上に努めたいと思う。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を</p>	<p>本年度・本講義の理解度および満足度は、昨年度からそれぞれ微増し</p>

項目見出し	コメント
受けての授業担当者の所感	<p>ていたが、大きな変化はないと捉えており、さらなる向上に努めたいと思う。</p> <p>一方で、毎年課題であるが、本講義に関わる学生に伝えなければならない情報量（新薬情報や診断・治療ガイドライン改訂に伴う新規の薬物療法など）が年々肥大化していることに苦慮している部分がある。学生に今後の実務実習に必要な情報を身につけさせること、将来の薬剤師国家試験受験を見据えて見落としが無きよう新規情報を含めた本講義内容について伝えねばならないことを考慮すると、年々増加する一方の講義内容を取捨選択することは非常に困難で、講義時間も切迫している実状がある（講義時間が足りない）。これが一部の学生における不満要因となって理解度や満足度にも若干反映されていると思われる。本件はカリキュラムの改訂を含めて対応する必要がある喫緊の課題であると考えている。</p> <p>講義内容については次年度もさらに最新の情報（新薬情報や新しい薬物治療ガイドラインなど）に更新し、これを取り込むことを念頭に、さらなる向上に努めたいと思う。次回の講義プリント配布および診断・治療ガイドライン」の提供が学生の学習理解の向上に貢献していることから、今後も積極的に講義に取り入れたいと考える。また、全ての講義について録画した講義動画を見逃し配信として学生に提供して、復習としての事後学習および講義内容の反復学習に寄与できたと考えられるので、次年度以降も見逃し配信の情報提供スタイルは継続したい。さらに、この講義動画をオンデマンド配信している現状を活用して、定期試験前に15回全ての講義動画を限定配信したことは、復習を兼ねた学修内容の学び直しと学習理解の向上にかなり寄与したと考えられ、今後も継続したい。少なくとも、このようなアンケートによって学生の要望を把握して真摯に受け止め、取り込み可能な講義内容に関する案件は次年度の講義に活かしたいと思う。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木2

科目名 有機薬化学Ⅰ

教員名 山口 泰史

回答者数/履修者数 73/84

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>満足度は、昨年の4.5から4.2へと下がった。今年度入学してきた学生のレベルを考えると、授業スピードを落とすべきかもしれない。しかし、薬学部のカリキュラムを考えると、基礎分野である有機化学は低学年時に理解しなければ、他の分野（生化学、天然物化学、衛生化学、薬理学等）の学習に問題が出る。今年度の学生の中には、明らかに学習についてこれないものもある。入試募集の在り方も考える時期に来ているように思う。</p> <p>復習の重要性について、毎回の授業で強調してるが、学生自らの意志の力がなければ、復習はできない。復習できなければ、理解度は上がらない。まさに、悪循環である。小テストや定期試験の答案に自由記述欄を設けると「復習を行う」と記入する。ぜひ実行してもらいたい。</p> <p>さらに、この学年は例年と比べ、欠席が非常に多い。多くの学生は、4回程度は休んでよいと思っているようだ。欠席によって今まで習ったことのない分野（例えば立体化学など）が理解できないのは当然のことである。欠席を減ら取り組みを今以上に取り組むべきかもしれない。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前後期に合計25コマの補習授業を行った。始めは勉学が遅れている学生に限っていたが、後期からは希望者すべてに開放した。毎回の参加者は50-60人で、グループ学習である程度の成果が見られた。（学生には、2年生以降は補習を行いことは不可能なので、自ら勉強するように伝えた。） ・授業のはじめに、前回の重要点と今日のKeywordを示し、終わりに再確認した。 ・学生がぼんやり眺めるパワーポイントをいっさい使用せず、学生の理解を確かめながら（低学年の学生に有効と判明している）板書のみで授業を行った。 ・この授業では、薬学の基本である構造式を理解させる必要があるため、板書で授業を行っている。 ・90分授業の途中で、1-2分の休憩を挟んだ。（授業後半に対する集中力が増した） ・できる限り、問題集や章末問題を用いる演習の時間をとって、理解を促した。
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は4.5-4.7であったが、今年度は4.1、4.5、4.2と低下した。 ・本科目は薬学の基礎であり、教育の観点から、内容を変更することはできない。 ・基礎の理解が得られるまで、根気よく授業を行う。
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の4.5-4.7から4.2-4.6と全般的に下がった。すべての学生さんに効果的な教育方法は見つからないのかもしれない。

項目見出し	コメント
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>1年次の有機化学の基礎を3教科担当した。教科担当者として、よりよい教育を目指し、努力するのは当然である。しかし、学習するのは、あくまで学生であり、教員はサポートする役に過ぎない。教員が強調する「復習の大切さ」を素直にきき、まじめに努力している学生は、有機化学の基礎だけでなく、応用分野にも対応できるようになっている。一方、定期試験に焼き付け刀で臨む学生は、有機化学の基礎ができておらず、2年次以降、有機化学だけでなく関連科目も苦勞している。このことから、学生さんの素直さが、一見無関係な自然科学の学びにも大きく影響しているようである。薬学という学問は、積み上げ式で学ぶものである。日々努力し、6年後の各自の目標である「薬剤師国家試験合格」を達成してもらいたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木1

科目名 医療生命倫理

教員名 太田 一寿

回答者数/履修者数 72/84

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>例年通り、4.8と高い評価をいただいた。この状況を維持していきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>双方向コミュニケーション形式で学生にアウトプットさせると、集中力維持や主体的学習体験へとつながり、結果高い評価となる様だ。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>特になし</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>特になし</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>そろそろこのアンケートの意義も薄れてきたと感じている。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 水1

科目名 製剤学

教員名 神谷 誠太郎

回答者数/履修者数 88/105

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>授業満足度は4.6と初めて高得点を獲得した。とても嬉しく思っています。以前は4.2や4.3だったのでこの状態を維持行けるようにしていきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>意識して、ゆっくり話した。またスライドでページを変更する時、必ず今は何ページの上の方に書いてあると何度も言うように話していました。今どこを説明しているかが理解できたので高評価につながったのかなと考えています。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>シラバスと授業内容に整合性はありましたかの項目は普段高くないが、今回は好ポイントだった。理由は分かりませんが、これらを続けていきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切でしたかの部分は、普段はあまりポイントが高くない項目でした。今回4.7と比較的高かったのですが、理由は分かりません。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>少しずつポイントをあげてきたので、引き続きポイントをあげられるよう努力したい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 水2

科目名 臨床薬物代謝学

教員名 川崎 達也

回答者数/履修者数 100/114

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>Q13平均値は、4.4→4.2→4.2→4.3と推移し例年と同程度であった。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年上の学生を対象とした本科目に関するアンケート結果を含む初回予習資料の配布により、計画的な学習を喚起した。 ・インタビューフォームを活用した小テスト課題を設け、実臨床とのつながりを意識させた。 ・毎回の小テストに講義に関する自由記述欄を設け双方向性の講義を行った。 ・学生から語呂合わせを募集し復習長期記憶形成の機会を提供した。 ・配布資料および小テストを活用して、併用禁忌、併用注意となる薬物相互作用に着目させた。
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3平均値は、4.5→4.1→4.2→4.2と推移し例年と同程度であった。 Q4平均値は、4.6→4.3→4.5→4.6と推移し例年と同程度であった。 Q5平均値は、4.4→4.1→4.4→4.3と推移し例年と同程度であった。 毎回実施している小テストに自由記述欄を設け、改善などの要望があれば受け付けている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6平均値は、4.5→4.1→4.1→4.0と推移し例年と同程度であった。平均値以外で特筆すべき点として、自由記述欄で聞き取りづらい旨意見が2件あった。昨年と異なり(持病の喘息発作を誘発する)感染症を予防したくマスクをしたことによるものである。次年度は昨年までと同様にマスク無しで講義を行い、風邪様の症状が出た際は休講し、補講(録画視聴によるオンデマンド形式)を実施することで改善させる。</p> <p>Q7平均値は、4.6→4.3→4.3→4.5と推移し例年と同程度であった。 Q8平均値は、4.5→4.3→4.3→4.4と推移し例年と同程度であった。 Q9平均値は、4.6→4.3→4.4→4.5と推移し例年と同程度であった。 Q10平均値は、4.5→4.5→4.2→4.6と推移し例年と同程度であった。 Q11平均値は、4.5→4.4→4.4→4.5と推移し例年と同程度であった。 毎回実施している小テストに自由記述欄を設け、改善などの要望があれば受け付けている。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>今年度は初めて中間試験を導入したが、定期試験一次合格率が改善し(昨年40%→本年82%)、学生の理解度向上に効果があったと判断している。アンケートの各種数値は例年と変わりがないため以下、自由記述について所感を記載する。 「理解が追いつかない」、「早く話される」といった意見があった。2022年度より、毎年内容を削減しているが、たった7回で国試</p>

項目見出し	コメント
	<p>1/2領域を扱うため、これ以上講義の進行を遅らせることは困難であり、本学のカリキュラム編成に無理があるものと判断している。薬理系教員1名からも同様の意見を頂いており、薬学部教務委員会におかれましては、カリキュラム再編の際に3年前期に0.5-1科目、薬剤系科目を設置することをご一考願います。</p> <p>小テスト自由記述蘭の採点について「よく分からないコメントを書くことで加点されたりするのはだめだと思う。」とあるが、加点しておらず事実誤認である。また、初回講義開始の1ヶ月前から予習用資料をmanabaに公開しており、初回講義終了直前および初回小テストで伝えているにも拘らず「口頭でも言ってくれなかった」など他責甚だしく、こういった学生には教養セミナー1回目「大学での学びとは」からやり直していただきたい。年々、文章・資料が読み取れない、自学できない学生が増加しており、一度入試募集のあり方を見直す、あるいは薬学部独自の初年次教育（教養セミナー）を検討していただきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 月2

科目名 病院薬学
 教員名 神田 紘介
 回答者数/履修者数 82/99

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>満足度の平均は4.6と比較的高い満足度をえることができた。直近5年間の推移であるが4.2⇒4.6⇒4.6⇒4.5⇒4.6とおおむね例年通りである。 授業中のあなたの態度はどうだったかという問が4.4と毎年上がってきているため、興味を持たせる授業に徐々に近づいていると感じている。 臨床の話をもっとできれば、より向上するのではないかと感じている。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>昨年度はピ逃げの対策を求める声があったため、レスポンを2度入れることで、その対策を行った。 レスポン2回の差異はほとんどなく、今年度はピ逃げに対する意見は見られなかったため、いなかったものと思われる。 授業に内容を一部変更し、一般的な話にとどまらず、病院薬剤師が得意としている個別最適化や中毒ついでに関するコマも作った。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>病院薬剤師に興味がない学生が、興味を持たないのは仕方がない部分がある。 国家試験では問われることになるため、国家試験を題材に興味を引くようにしていきたいと思う。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>多くは4.7であった。 ここは例年より向上しており、授業アンケートを受けての改善が進んでいると感じている。 しかし、授業準備を前日や当日の朝も行う関係で、配布資料への反映が間に合わないことが多かった。 そのため、やや良くないと評価を行っていた学生がいたことは反省点である。 授業準備を早めに行うことを心掛けたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>毎年授業アンケートを受けて授業の改善を行っているが、その効果が数字に表れてきている。 来年度は配布資料に気を付け、できれば、一般的な話に加え臨床をイメージできるような講義ができればと考えている。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火2

科目名 分子細胞生化学演習

教員名 田中 宏光

回答者数/履修者数 65/89

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>数値は例年の通りでした。数値1を付けた学生が一人、2を使った学生が二人見られる。学力の低下のせいだと考えられる。少しでも勉学を深めてほしい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本授業は演習科目であり、これから進級するにあたり、もれなくしっかり実力をつけるための、基礎の復習として進めている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>図を用いて、専門語彙の意味、概念を確認を取るよう進めている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>他の講義とは別の切り口で、語彙の理解を進めるように心がけている。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>全体のアンケートの数値に反してすべての項目で、1、2の評価をつけていると考えられる学生が存在する。その学生の学力と精神的な面が心配である。ごく少数のこれらの学生には特別な講義メニューが必要かもしれない。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木1

科目名 医療生命倫理

教員名 田中 宏光

回答者数/履修者数 64/84

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>生物学の進展は非常に早く、それに伴い倫理に関する改正も進められている。現在の科学の状況と、そこにたどり着いた歴史について講義し、若い人の考えを尊重しながら私自身が若い人の意見を吸収して次の講義に生かしている。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>一般には手に入りにくい映像を利用して、科学の歴史の理解に役立った。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>今年も生殖科学での倫理規の変更があった。セミナーに参加した内容を来年度の学生に伝えたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>「学生の授業参加を促すような工夫がなされていましたか」の数値が低いようだ。興味のある講義であるように、心がける。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>倫理に関して伝えたいことは多数あるが、うまく伝えるのは難しい。学生といっしょに考えることのできる問題提起を含む講義を進め、医療行為に真摯に取り組む薬剤師になるために心に残るよう、今後も進めていきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 土4

科目名 衛生化学 I

教員名 出口 雄也

回答者数/履修者数 86/92

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>満足度は4.8であった。過去3年の4.6～4.7と比べて高い評価が得られた。学生が苦手としている計算問題は、事例を踏まえて丁寧に解説したことが、理解度と満足度の向上につながったと思われる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>Q1は3.9（過去3年間は3.5～3.8）、Q2は4.6（過去3年間は4.3～4.4）と受講態度が例年と比べて高かった。授業の内容と方法は例年と変えていないため、まじめに取り組む学年であったと思われる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3は4.8（過去3年は4.6～4.7）、Q4は4.8（過去3年は4.6～4.8）、Q5は4.7（過去3年は4.7）であった。授業内容は大きく変更していないが、近年で最も高い評価であった。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q6は4.9（過去3年は4.8）、Q7は4.8（過去3年は4.7～4.8）、Q8は4.8（過去3年は4.7～4.8）、Q9は4.8（過去3年は4.7～4.8）、Q10は4.7（過去3年は4.5～4.7）、Q11は4.8（過去3年は4.7～4.8）であった。授業方法も大きく変更していないが、近年で最も高い評価であった。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>学生からのコメントでも改善してほしいことの記載はなかったので、次年度以降も同じ形態で実施していきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火1

科目名 薬理学IV (中枢)

教員名 縄田 陽子

回答者数/履修者数 75/107

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>同じ受講生が回答した前期と同程度の満足度であった。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>復習問題の配付と解説を実施したことが意欲向上につながったと思われる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>平均して、昨年度から0.1pt評価が向上していた。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>平均して0.1~0.3pt向上していた。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>今年度は少し早いペースで講義が進んだため最終回により深い内容の講義を実施した。興味を持つ、持たないなどがあり、実施して良かったのか悩んだが、アンケートの自由記述欄では肯定的な意見があったことから実施して良かったと感じた。 次年度に向けては、勉強方法のポイントなどを講義説明に盛り込み、理解度が不足しがちな学生にとってより理解しやすいと感じてもらえる講義を心がける。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火2

科目名 機能形態学 II

教員名 藤井 佑樹

回答者数/履修者数 69/85

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>授業に参加して満足できたかの項目で4.7の評価を得ることができ、概ねニーズに応えられた講義を提供できたと思う。小テストの自由記述欄を活用し、今後も学生の声を聞き、寄り添った講義を提供していきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>受講生にとって90分の講義内容はかなり長い。集中力を保持させるため、講義の途中での小休憩、雑談をはさむ工夫をしたいことが良かったのではないと思う。なるべくリラックスしてもらうような内容の雑談を心がけた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業内容の興味を持たせたかを問うQ5では4.7の評価を得ることができた。来年度はまた異なる学生に対し授業を行うので、この結果に満足することなく講義資料のマイナーチェンジなど行っていく。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>質問事項1のなんらかの準備学習などをしましたか、の項目が3.5と他の項目に比べ、低かった。予習や復習を促す工夫を来年度から考えていきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>「授業が楽しかった！」の声が多かった一方、資料の情報量の少なさの指摘があった。来年度からは、該当箇所を学生が購入した指定図書などの部分とリンクしているか、ページ数を記載し、CAIの対策に役立てるように講義資料のアップデートを図りたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 水3

科目名 教養セミナー

教員名 藤木 司

回答者数/履修者数 5/5

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>講義に対する満足度が4.8と全体の平均レベルを上回ることができたが、ほぼ目標としていた数値となった。さらにわかりやすい授業を目指すために、講義における理解度や積極的にコミュニケーションできるようなファシリテートや雰囲気作りを意識して進行するように努めるなどにより丁寧な講義として受け止めてもらえるようさらに創意工夫した内容で授業を展開したい。今後の検討課題として次年度に向けてより一層の満足度が得られるように努力したい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>講義中に双方向で学習の理解度を図るために学生の進行役を設定したり、身近なトピックを題材にして学生発信の意見をくみ取れるよう進めたが、その点については一定の効果と学生からの評価を得られたと感じる。講義内容に関わるトピックを織り交ぜながら展開するように意識した構成としたのも評価につながったと感じる。ある程度の具体的事例やトピックスなどを提示しながら、わかりやすく進行できるように徹底して、わかりにくいところさらに改善するように努めたい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>講義の内容についてはシラバスに沿って進めた。それについては学生の評価を得たように感じる。今後はより講義に興味を持たせ自主的な取り組みを実践できるように内容を工夫していきたい。薬剤師国家試験対策へ寄与する内容、演習問題に関してもアップデートしながら対応していきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>前期のホスピタリティセミナーに続き、後期教養セミナーを担当して3年以上経つが、本年度の授業評価ポイントは目標値に近い評価であったので、様々な授業を実施する上での理解度の向上や学生のスキルアップにつながるような創意工夫が学生の理解につながる効果があったのではないかと考える。セミナーの人数が少ないことや留学生がいたことにより、進行の工夫や話し合いの際には配慮が必要な場面も多々あったが、今後はさらに講義における重要なポイントをより明確にして、端的にかつ興味を持ってセミナーへ積極的に参加してもらえるようなわかりやすい講義を進めていけるように準備、実施したいと思う。理解度を測るアンケートを都度導入するなど本年度よりもさらに学生への理解度に関するフィードバックが可能となると考える。一層の努力に務めたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>前期に引き続き本講義に対して十分に準備をして臨んだつもりであったが、本年度は、目標としていた評価ポイントを得ることができたので、様々な授業を実施する上での工夫が学生の理解につながっているのではないかと考える。特にテーマ別発表に関する進め方については、学生の進行ペースを見ながら適宜、アドバイスや方向性についてアドバイスをすることによりスムーズな発表プロダクトの作成につながったように感じた。今後は講義における重要なポイントをより明確にして、さらに端的にわかりやすく進めていけるように準備、実施したいと思う。次年度は本年度よりも理解度を測るアンケートなどを導入</p>

項目見出し	コメント
	して講義内に導入できればさらに学生への理解度に関するフィードバックが可能となると考える。一層の努力に務めたい。

アクションプランシート

2025年度後期 水1

科目名 生化学 I

教員名 藤本 京子

回答者数/履修者数 71/87

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>受講者数87名のうち、81.6%から回答を得た。授業満足度は4.6であり、66名が「4」または「5」と回答し、「1」または「2」の低評価は認められなかった。これらの結果から、全体として授業に対する評価は概ね良好であると考えられる。一方で、昨年度の満足度(4.8)と比較するとやや低下しており、評価の推移としては軽度の減少が認められる。この要因として、本科目が初年度に履修する薬学専門科目であり、高校までの学習内容と大きく異なる点が挙げられる。基礎的かつ重要な内容を含むため、学生によっては難易度が高いと感じる可能性がある。</p> <p>今後の向上策として、抽象的な概念の理解を促進するために、日常生活や人体内で生じている現象と関連付けた具体例を積極的に取り入れる。また、授業内での理解度確認のため、問いかけを多く行い、学生の理解状況を把握しながら進行する。これらの取り組みにより、基礎科目としての学習定着を促進するとともに、満足度の維持・向上を目指す。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>1年生に対しては、授業内容の定着を目的として復習プリントを毎回配布するとともに、授業内容の復習を行う補習を計10回実施した。2年生に対しては、同様に復習プリントを配布し、授業理解の促進を図った。授業進行においては、学生の表情や反応を確認しながら進行速度を適宜調整した。また、毎回の授業において内容のまとめノートの作成を課し、理解の整理と定着を促した。特に優れたまとめについてはポートフォリオを活用して全体に共有し、学習方法の可視化と相互学習を促進した。さらに、ノート内に記載された質問事項については、次回授業の冒頭で解説を行うことで、疑問点の早期解消と学習意欲の維持につなげた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業の構成、シラバスとの整合性、授業内容への興味に関する評価は、それぞれ4.6、4.7、4.6であり、いずれも例年と同程度の水準で推移している。一方で、実際の授業運営においては、理解度や進行状況に応じて授業計画から前後する場面が見られた。その際には、授業中に進行状況や今後の予定を適宜説明し、学生への周知を図った。次年度も授業計画に変更が生じた場合には、ポートフォリオにアップロードして情報共有をしていく。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>話し方や熱意を含む授業方法に関する6項目の評価は、4.6~4.7であり、例年と同程度の水準で推移している。全体としては高評価を維持しており、引き続き一定の教育効果が認められる。一方で、「板書やスライドの文字が小さい」との指摘が一部見られた。これに対しては、教室前方への着席を促す対応を行っているが、今後は画面の拡大を頻繁に行い改善を図る。また、授業中の私語については、内容によっては授業に関する疑問点の共有である可能性があり、単純な区別が難しい場面がある。そのため、該当する学生に対して適宜声掛けを行い、質問であるかを確認した上で、必要に応じて全体に共有・解説することで、学習機会として活用する。今後も、熱意を維持しつつ、双方向的なコミュニケーションの強化を通じて、よりよい授業を作り上げていく。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>今年度も、熱意をもって授業を展開した結果、全体としては概ね良好な評価を得ることができた。一方で、内容の理解が十分でないと回答した学生も一部見られた。この点については、理解が不十分な学生に対し、自ら疑問点を見出し、質問として整理する力を養うことが重要であると考えられる。今後は、そのような力の育成を目的として、補習</p>

項目見出し	コメント
	の中で質問の立て方に関する指導も取り入れていく。 引き続き、学生が科目内容に興味・関心を持ち、主体的に学習に取り組めるよう、理解度に配慮しつつ、関心を喚起する授業を展開していく。

アクションプランシート

2025年度後期 火2

科目名 生物有機化学

教員名 山田 耕平

回答者数/履修者数 82/102

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>満足度は全体平均と同等以上の4.6となり、前回の4.7より減少した。更なる向上策としては、有機化学だけでなく、一般的な勉強の仕方をしっかりと教えたい。もっと基礎を繰り返して満足度と成績がリンクするようにしたい。暗記と理解の両方のアプローチが重要であることを強調していきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>授業の始めに前回の内容のテスト及び解説・その週にきた質問の回答を紹介したことが良かったと思う。さらに、一つの内容を教えるごとに、高校レベル、一年生レベルの基礎を、順を追って説明したからと考えている。また、一つの内容を説明したら小問を解いて演習という形で講義を行っているので、集中力を切らさずに取り組むことができたのではないかと思う。また、重要なポイントだと伝えても特に成績下位の学生には伝わっていないので、繰り返し伝える必要がある。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3は4.8、Q4は4.7、Q5は4.6であった。昨年度は、Q3は4.7、Q4は4.8、Q5は4.7であったことから、全体としてほぼ同等と考えられる。改善点としては、もう少し基礎からの流れを詳細に説明する資料を足していきたいと思う。有機化学はこれまでの学習内容の積み重ねがないと、新しい内容は全くわからないので、学習の穴を埋めるような資料を作成していくつもりである。2年生でも、高校の内容からやり直す必要がある。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6:4.8, Q7:4.7, Q8:4.7, Q9:4.8, Q10:4.7, Q11:4.7と全体平均程度であり、昨年度 (Q6:4.8, Q7:4.8, Q8:4.8, Q9:4.7, Q10:4.7, Q11:4.8) と比較しても向上していると言える。2などの低評価の学生がいなかったことが大きな要因であると考えられる。今後も取りこぼさない講義を心がけたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>昨年度の生物有機化学のアンケートと比較して全体的に評価はわずかに減少したと思う。学生の学力が低下傾向にあるのが問題で、話してみると高校レベルの化学がまったく身につけていない。一方、最終ゴールである薬剤師国家試験の問題は年々難化しており、教える内容を簡単にするわけにもいかない(授業アンケートの評価を上げるにはそれが一番だが)。やはり、基礎を何度も振り返りながら学ぶべき内容を教えていく以外ない。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 金1

科目名 細胞生物学

教員名 石原 知明

回答者数/履修者数 80/100

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>約7割の学生が満足度5、約3割が4を回答しており、全体として高い満足度が得られた授業であったと判断している。自由記述欄においても、資料や説明が分かりやすかったとの意見が多く見られ、概ね良好な講義を提供できたと考えられる。また、授業中に実施している論述問題についても、授業後の添削を含めた取り組みが理解の深化に寄与しているものと考えている。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本授業では、各項目の原理・原則を丁寧に解説し、現象がどのような仕組みで生じているのかという点を重視して説明することを心がけた。単なる知識の暗記ではなく、仕組みを理解することによって学習内容への関心と理解を高めることを目的としている。また、学習内容が薬学分野の学修と結び付くよう、可能な限り薬との関連にも触れ、薬理分野で学んだ知識を応用できるよう配慮した。さらに、理解度を確認するため、毎回授業内で論述形式の問題に取り組む時間を設けた。学生の解答状況を観察し、つまづいている点や誤解が見られる部分についてその場で補足説明を行うことで、理解の定着を図った。加えて、希望者には授業後に添削指導を行い、論理的で分かりやすい文章の書き方についても指導した。これらの取り組みにより、学生が主体的に考えながら学習に取り組む機会を提供することができたと考えている。実際に自由記述欄においても、論述問題への取り組みが理解の助けになったとの意見が見られた。以上のことから、本授業の内容および方法は学生の学習意欲の向上や理解の促進に一定の効果があったと考えられるため、次年度以降も継続して実施していきたい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>約9割の学生が満足度5または4を選択していることから、授業内容については一定の水準に達しているものと考えられる。本授業では、生物分野への関心を高めることを目的として、最新の研究動向や医薬品との関連について可能な限り紹介するよう努めた。今後は、薬との関連についてさらに内容を充実させ、薬理学など他分野の学修と結び付けながら理解を深められるよう、授業内容の改善と充実を図っていききたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>ほとんどの学生が満足度5または4を選択していることから、授業方法については概ね良好な評価が得られていると判断される。今後は、授業内で実施している論述問題について、隣同士の学生が解答を確認し合うなどのアクティブラーニングを取り入れることも検討し、学生同士の相互学習を通して理解を深める機会を設けたい。これにより、学生がより主体的に授業へ参加できる学習環境の形成を図っていききたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>これまで自習用として準備していた論述問題の一部を授業内で実施するようにしたところ、自由記述欄の内容から概ね好評であったと判断されるため、次年度以降も本取り組みを継続したい。今年度は、授業中に観察できた誤答や理解の誤りについてはその場で</p>

項目見出し	コメント
	<p>対応することができたが、全ての解答を十分に確認することはできなかった。今後はポートフォリオ等の形で提出させることも検討し、学生が誤って理解している部分を把握しながら、より効果的なフィードバックが行えるよう改善を図りたい。</p> <p>また、自ら考えて解答を導くことの重要性を理解した学生の姿が見られたことは大きな成果であったと感じている。次年度以降も、学生が主体的に考えながら学習に取り組む姿勢を育むことを意識し、より多くの学生にその重要性が伝わるよう授業運営を行っていききたい。さらに、授業アンケートの結果や学生の学習状況を踏まえながら、授業内容および方法の改善を継続的に行い、学習効果の向上につなげていきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火1

科目名 物理学演習

教員名 榎本 彩乃

回答者数/履修者数 19/28

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>授業アンケートにおける満足度は、今年度も例年と同程度であり概ね良好な評価が得られた。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生の受講態度および学習意欲の向上を目的として、私語や周囲の学習を妨げる行為が見られた際には、その都度丁寧に注意を行い、他学生の妨げにならないようにした。また、学習意欲の向上に向けては、途中式を省かず、図を多用する、基礎的な問題を解かせることで、学力下位層の学生でも理解できるように努めた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>満足度は高いものの実際の理解度は低く試験結果は例年になく点数が低かったため、わかるつもりになっている学生に対して本当に理解しているか確認する術が必要である。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>学生の理解度向上のため、学生の復習を第一として課題の回答も配布し、自学自習をしやすいように工夫していたが、解答を写すだけの学生も散見されたため解答の配布は後日にするなど自力で解く時間を持たせることとする。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>概ね高評価であったものの、理解度向上には結びついていない。随時試験に限らず、manaba、CAIを利用し細かく試験を実施することで学生自身の理解度を確認するように努めていく。一方で簡単な問題を解かせることで成功体験を与えるため、練習問題の配布は引き続きつづける。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火5

科目名 総合実習

教員名 大久保 伸哉

回答者数/履修者数 72/77

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>満足度の評価結果の平均値は4.9（昨年度も4.9）であったことから、おおむねほとんどの学生の満足度は得られたのではないかと考えられる。3点以下の評価をつけた学生は0名であり、これは過去最高の評価であった。自由記述欄においても、（嬉しいことに）否定的なコメントはなかった。今後、満足度の更なる向上（満点の5.0）を目指して、すべての学生それぞれに適した指導ができるよう精進していきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>満足度は、昨年度平均4.8に対して今年度は平均4.9であった。本実習は、OSCE対策に特化した実習であることから、OSCEに合格するために積極的に実習に参加する学生がほとんどである。そういう意味では、本実習自体に学生の受講態度や学習意欲が良好になる要因があると思っている。そのため私が行うことは、学生の高いモチベーションを妨げないような実習を組み立て、実施するだけで良いと考えている。そのために私が実施していることは、実習がスムーズにいくよう授業計画を熟考することと、消耗品を切らさないことである。とても基本的な方法だが、その効果は高い。実際に、自由記述欄には「疎かになったところやできなかったところを具体的に判明でき、改善策をねられるようになったことにとっても感謝しました。」という記載があった。今後も、同じような方法で本実習を実施していきたいと考えている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>アンケート中の質問3-5に関して、質問5において3点をつけた学生が1名いた。質問3および4では3点評価以下をつけた学生は0名であった。この結果は、昨年よりも良く、昨年よりも改善されたことがうかがえる。今後は、3点以下の学生数0を目指したい。方策として、困った素振りや戸惑っている様子を見せた学生を決して見逃さず、発見したら積極的に声をかけ、適宜助言を行うようにしたい。そうすることで、1人でも多くの学生の理解が得られるのではないかと考えている。1名も見逃さないくらいの覚悟をもって、実践していきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>アンケート中の質問6-11に関して、2点以下をつけた学生はいなかった。これは昨年度も同様である。今年度も、昨年度から継続して、各種説明事項は丁寧に分かりやすい説明になるよう意識しながら説明した。加えて、説明用資料のバージョンアップも行った。これらのことが、結果的に学生に“熱意”として伝わったのではないかと実感している。毎年、少しだけでも変化を加えてバージョンアップを繰り返していけば、これらの項目の評価が大幅に下がることはないだろうと考えているし、それがこれまでの5年間を通じた一定の成果につながっていると前向きにとらえている。引き続き、継続していきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>大学教員就任6年度目および同授業の授業評価6回目としては、問題ない評価であったと感じている。それと同時に、今回も含め全6回を通して評価が悪くなかったことから、本実習を実施する上で私の振る舞いは問題ないと考えられる。現状を維持していくことが重要であるとされている。初年度から『次年度は、本年度の評価を下回ることがないよう、作成済みの講義資料（実習で使う配布資料）のアップデートを行い、説明する際に用いるセリフを磨き、整然とした分かりやすく熱意のこもった実習を実施することを目標とする。』という内容の目</p>

項目見出し	コメント
	標を継続して掲げてきた。個人的には、目標に定めた事項を本年度もおおむね実行できたのではないかと考えている。次年度も同様のことを意識しながら、わかりやすい授業になるよう心掛けていきたい。

アクションプランシート

2025年度後期 木4

科目名 生化学実習

教員名 倉岡 卓也

回答者数/履修者数 46/87

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>ほとんどの学生が満足と回答しており、このまま継続して実施していきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>実習前に目的を伝えた上で、終了後に再度何が目的だったのかを伝えることで、学生の理解力の向上を図った。また、国家試験で問われるポイントも同時に伝えた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>概ね良好だったため、このまま継続したい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>概ね良好だったため、このまま継続したい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>実習終了後に学生と話した際に、この実習で授業の内容が理解できたと話してくれる学生が多かったため、このまま継続していきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 月2

科目名 病院薬学

教員名 末廣 真理恵

回答者数/履修者数 72/99

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>平均4.6と比較的高い点数を獲得できているが、もっと学生が興味を持てるような内容となるよう細かい改定を重ねていきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本学の卒業生で実際に近隣で薬剤師をしている先生をゲストスピーカーとして招聘し、学生の質問にも多数こたえていただいたことで、将来薬剤師として自分が働く姿をイメージすることができたと考えられる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>この講義を受ける前の段階で薬局に就職すると決めてしまっている学生は、なかなか興味を持たないようである。将来の選択肢を固定せずに柔軟に考えること、また薬局で勤務する上で病院薬剤師がどのような業務をおこなっているのか知っておくことの重要性を話すことで、授業内容に対して興味を持たせる工夫を行っていきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>配付資料については、現在大幅な改定を検討している。今回のアンケート結果を参考にペーパーレスでも対応できる資料を作成していきたいと考えている。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>予習に関しては課題を出しているにもかかわらず、最も点数が低い。国家試験の実践問題が難化しており、病院薬学の知識を応用すれば正解にたどり着ける問題も増えている。今後、予習や授業態度に関しても自身の学習効果の向上や他の人の迷惑にならないよう注意を促していきたい。また、国家試験にも直結する科目であることを伝えていきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木2

科目名 毒性学

教員名 相田 美和

回答者数/履修者数 87/103

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>Q13 4.6 (R5) →4.6 (R6) →4.7 (R7) Q13満足度は、わずかに上昇した。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生の受講態度は概ね良好であった。授業の終わりにその日の講義内容から小テストを行っており、いわゆるピー逃げや途中退出はし難い形をとっていることが、学習意欲向上につながっていると思いたい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3 4.6 (R5) →4.5 (R6) →4.7 (R7) Q4 4.6 (R5) →4.5 (R6) →4.7 (R7) Q5 4.6 (R5) →4.5 (R6) →4.7 (R7) Q3,4,5は、いずれも少し上昇した。 R5年まで2名のオムニバスだったものを1人で担当するようになった科目であり、昨年度までとは多少、授業の順番を入れ替えるなどして、重複を避けたのがよかったのかもしれない。全体の進行については更に工夫の余地がある。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6 4.5 (R5) →4.5 (R6) →4.7 (R7) Q7 4.6 (R5) →4.5 (R6) →4.7 (R7) Q8 4.6 (R5) →4.5 (R6) →4.7 (R7) Q9 4.6 (R5) →4.4 (R6) →4.7 (R7) Q10 4.6 (R5) →4.4 (R6) →4.7 (R7) Q11 4.5 (R5) →4.5 (R6) →4.6 (R7) Q6-Q11は、いずれも上昇した。 Q11参加を促す工夫は、授業内で問題の解説をするときに、自分で解く時間を意識して設けるようにしてみる。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>Q12授業内容を理解できたが55名が示すように、決して難しい科目ではないのだが、理解できないとする1名に対して、どのような対応をすればいいのか迷う。この1名のための余分な説明を入れると、恐らく大多数にとっては退屈な時間ができることになると思われ、非常に悩ましいところである。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木3

科目名 香粧品学

教員名 相田 美和

回答者数/履修者数 58/93

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>Q13 4.8 (R6) →4.8 (R7) Q13は昨年度と同じであった。もともと香粧品に興味がない学生にとって、興味を引くような話題を探すと向上につながると思う。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>香粧品には興味がない学生向けに、にきびの治療薬や男性型脱毛の治療薬などの薬の話題を時折差し込んでみた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3 4.7 (R6) →4.8 (R7) Q4 4.7 (R6) →4.8 (R7) Q5 4.8 (R6) →4.8 (R7) Q3、Q4は少し上昇、Q5は同じであった。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6 4.7 (R6) →4.8 (R7) Q7 4.7 (R6) →4.8 (R7) Q8 4.7 (R6) →4.8 (R7) Q10 4.7 (R6) →4.8 (R7) Q11 4.7 (R6) →4.8 (R7) Q6-Q11は、いずれも少し上昇した。 ごく一部ではあるが、遅刻する学生がいるので、時たま、授業開始からまだ間もない時間帯に、評価に関わるレスポンス等を実施すると遅刻者が減少できるかもしれない。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>授業アンケートの回収率がもう一つの科目よりもかなり低い。この科目は定期試験がない選択科目であるため、興味がなくても単位のために仕方なく履修している学生もいる。この「仕方なく」の部分がアンケート回答率の低さにつながるのかもしれない。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 月1

科目名 臨床検査学

教員名 高崎 伸也

回答者数/履修者数 85/98

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>満足度が4.8と十分に満足できる結果であった。今まで取り組んできたことを基本的に変えず完成度を高めることの結果であると考えている。取り組んできたことは、学生からの参加を促す双方向の講義スタイルおよび、意見を述べさせること、皆の前でよい意見を取り上げ褒める事であり、これらがよいことを再確認できた。これは、講義を単調とはしないため集中力を切らさない事にも寄与していると考えている。今回の講義でよかった点は維持しながら、さらに完成度をより高め、さらなる向上を目指したいと考える。一方、授業内容の理解が悪くはないが、4.5と高くないのはおそらく講義の難易度のためではないかと考える。本講義は、臨床医学概論、疾病学1と疾病学2を理解していることが前提となっているため、習熟度が低い学生は難易度は高くなる。そのため、年々学力が低下していく学生には難しくなっている可能性があるため対応を考えていきたい。今回、復習しやすいように、定期試験に向けた練習問題を与えたことは評判がよかった。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>講義の導入、双方向の講義スタイル、タイミングを見計らった息抜き、視覚的にうったえかける分かりやすい資料作りなど、学習の意欲や集中力の持続の向上を目指し、取り組んでいる3つのことが良い評価につながっていると考えられる また、学生の集中力を切らさぬように、学生の顔を見ながら、タイミングを見計らい、ちょっとした笑いを盛り込み、息抜きを行っている。学生のコメントにもあるように、これにより学生の集中力の持続につながったと考えられる。 図や表を多く使用し、視覚から分かりやすい資料を心掛けている。このために資料が多くなるのはやむを得ないと考えている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3-5は、いつもと同様以上に、全部4.8とかなりの高評価であった。Q1,2の授業の予習および復習についての項目が、前回と同様、3点台もあり高得点とはならなかった。ただ、無理に宿題などで復習させることは学生の負担増につながると考えられる点で難しい。最終的には、妥当な難易度の試験問題が解けることができている、問題ないとも考えている。簡単な前回の講義に関する復習の課題を毎講義出しているが、評価の対象としていないためか、それだけでは不十分であるように思われる。ただ、この質問の回答の正解率は高いので、ある程度は授業の内容が残っていたり復習を行っていたりすると思われる。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6-11では、4.6以上のみでいずれも十分によかったと思う。現状を維持しながら微調整を行っていきたいと考える。資料が多い事に対して受講生が納得できるよう説明をしたいと考える。学生が勉強したくなるような親しみの持ちやすい資料を心掛けたのが高得点につながったと考える。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>アンケート結果も最近では高評価で落ち着いており、現状のスタイルでよいと考えている。特に今回はさらに特典が高く、講義の導入に力を入れたのが高得点につながったのではないかと考えている。主に行っている3つのこと、つまり、学習の意欲の向上や集中力の持続が良いスタイルになっており、評価につながっていると考えられ満足している。大きな変化ではなく完成度を高めることで、さらなる向上を目指す</p>

項目見出し	コメント
	<p>したいと考える。Q1の授業態度に関する点数が低い、定期試験は高い難易度を設定しているが平均点は高いため習熟度は高いと思われる。自由記述の結果や、今回の結果では表れていないようだが、おそらく学生にとっては、量や内容、試験スタイル(過去問非公開)をハードルが高い面もあると受け取る学生もいると思われるが、それが学生にとって必要なことであることを伝える努力をよりしていこうと思う。また、講義についていくのが難しい学生に主に向けて、練習問題などで勉強に取り組みやすい環境を整えることも今後、より取り組んでいきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木2

科目名 機器分析学

教員名 中村 沙織

回答者数/履修者数 80/93

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>満足度は 4.1→4.3→4.2→4.3→4.1→4.1→4.4→4.5→4.6→4.5→4.7→4.8と推移している。今年度も順調に評価を伸ばすことができ安心していている。講義内容を振り返り、足りなかった点を補いつつさらに向上させていきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>講義の内容構成や配布プリントを毎年改善している。資料に加え要所で板書を用いて説明しているが、今年度は遠隔受講者がいなかったため、板書も活用できた。穴埋め式にしているため、講義を聴きながら書き込むことで重要事項がどこかわかりやすく、また飽きさせにくくしている。 講義ごとにrespon等で質問や感想を募っているが、今年度はコメントがほとんどなかった。また、復習用の問題を配布しており、学ぶべき要点を示していることで復習の一助になっていると感じる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3～Q5はここ3年ほど4.4～4.6を維持していたが、今年度は4.7～4.8であった。 講義の構成や講義内容に興味を持たせるような例示がある程度まとまってきたと感じる。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q6～Q11は昨年同様4.7以上の評価を得ることができた。 講義内容が多いため毎年早口を指摘されていたが、聞き取りやすさを心がけ要事項は何度か繰り返して強調する等の工夫を行い、今回は指摘されることはなかった。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>今年度はいい評価が得られたと思うので、次年度以降もさらにいい授業となるよう心掛けていきたい。配布資料も見やすいと概ね好評であるが、講義内容自体の難しさを感じる学生もいるので、理解しやすいような資料と説明の流れを工夫していきたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 火1

科目名 物理学演習

教員名 吉田 達貞

回答者数/履修者数 31/32

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>Q13: 4.4 (2020) → 4.8 (2021) → 4.7 (2022) → 4.7 (2023) → 4.9 (2024) → 4.6 (2025)</p> <p>本演習科目の開講2年目以降、学生満足度は概ね高い水準で推移している。自由記述では、資料の明瞭さに対する肯定的な意見が多く寄せられた。今後も、一人ひとりの理解状況に応じた支援を継続し、学習上の不安を軽減できるよう努めていく。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>Q1: 4.0 (2020) → 4.1 (2021) → 4.2 (2022) → 4.7 (2023) → 4.5 (2024) → 3.8 (2025)</p> <p>Q2: 4.3 (2020) → 4.5 (2021) → 4.1 (2022) → 4.3 (2023) → 4.7 (2024) → 4.1 (2025)</p> <p>昨年度と同様に、授業内で扱った全ての演習問題をCAI上に登録し、自学習ツールとして提供した。しかし、今年度は学生の利用率が低下しており、準備学習 (Q1) および授業態度 (Q2) の評価低下にも影響した可能性がある。次年度は、CAI演習の一部を成績評価に組み込み、学習習慣の定着を促す仕組みを導入することで、主体的学習の向上を図る。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3: 4.5 (2020) → 4.9 (2021) → 4.6 (2022) → 4.8 (2023) → 4.9 (2024) → 4.7 (2024)</p> <p>Q4: 4.5 (2020) → 4.8 (2021) → 4.8 (2022) → 4.8 (2023) → 5.0 (2024) → 4.8 (2024)</p> <p>Q5: 4.2 (2020) → 4.7 (2021) → 4.4 (2022) → 4.5 (2023) → 4.9 (2024) → 4.5 (2024)</p> <p>授業の構成、シラバスとの整合性、内容の興味深さについては、いずれも高い評価を維持しており、授業設計の方向性は概ね妥当であると考えられる。これまで実施してきた授業構成の工夫や、シラバスに基づく明確な進行、実例を交えた説明などが学生の理解に寄与していると推察される。次年度も、これらの取り組みを継続しつつ、学生の関心を引き出す教材提示や説明方法の改善を適宜行い、授業の質を維持・向上させていく。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6: 4.6 (2020) → 4.8 (2021) → 4.7 (2022) → 4.8 (2023) → 5.0 (2024) → 4.7 (2025)</p> <p>Q7: 4.7 (2020) → 4.9 (2021) → 4.7 (2022) → 4.7 (2023) → 4.9 (2024) → 4.8 (2025)</p> <p>Q8: 4.7 (2020) → 5.0 (2021) → 4.8 (2022) → 4.8 (2023) → 5.0 (2024) → 4.8 (2025)</p> <p>Q9: 4.7 (2020) → 4.9 (2021) → 4.7 (2022) → 4.8 (2023) → 4.9 (2024) → 4.8 (2025)</p> <p>Q10: 4.7 (2020) → 4.8 (2021) → 4.7 (2022) → 4.7 (2023) → 4.8 (2024) → 4.7 (2025)</p> <p>Q11: 4.5 (2020) → 4.7 (2021) → 4.6 (2022) → 4.7 (2023) → 4.9 (2024) → 4.7 (2025)</p> <p>学生を指名して解答させる場面設定や、良い質問を積極的に評価する姿勢が、主体的な授業参加を促す環境づくりに寄与していると推察される。次年度も、学生が安心して発言・質問できる雰囲気づくりを継続しつつ、学習意欲を高めるフィードバックや声かけを適宜行い、主体的参加をさらに促進していく。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>Q12: 4.2 (2020) → 4.5 (2021) → 4.2 (2022) → 4.4 (2023) → 4.7 (2024) → 4.4 (2025)</p>

項目見出し	コメント
	<p>Q12の理解度の向上が例年改善の必要な項目と認識しており、今年度の受講者にとってはB及びCクラスと比較して、課題や演習問題が他のクラスと比較して多く、負担が大きく公平性に欠けるとの指摘があった。本科目では理解定着と実践的思考力の育成を目的として課題量を多めに設定してきたが、一部の学生にとって学習負担が過度となり、他科目とのバランスを取りにくい状況が生じた可能性がある。次年度は、課題の必須部分と発展的内容を明確に区分し、学習負担の調整を図るとともに、課題の目的や評価基準をより丁寧に提示することで、公平性と納得感の向上に努める。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木5

科目名 生薬学実習

教員名 北川 翔大

回答者数/履修者数 37/87

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>結果が平均4.9であることから大多数の学生が満足できていることが伺える。前年度の経験を活かし、学生が詰まりやすい点で適宜サポートを行えたことが高評価につながったのではないかと考える。次年度も引き続き実習の円滑な進行に努め、全体的な満足度の向上に励んでいく。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>基本的には前年度と同様の内容で実施したが、今年度はこれに加え、前年度に寄せられた質問や操作上のミス（試薬の配置や操作時の注意点など）を踏まえた説明を新たに盛り込んだ。その結果、学生が不必要に迷うことなく実習に専念できる環境が整い、これが高評価につながったものと考えられる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>一部3と回答する学生もいたが、いずれの結果も平均値が4.8もしくは4.9と高評価になっていることから、シラバスに記載された内容と整合性のある授業を展開できたと考えられる。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>実習最終週には、学生自身が次の操作を考えて実施する必要がある実験が行われた。学生の様子を見て回り、手が止まっている学生には次の操作を提案することで、実習の円滑な進行および学生の授業参加を促すことが出来たのではないかと考える。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>前年度に引き続き、全体として高い評価を得ることができた。また、前年度の経験を踏まえて学生へのサポートを行えたことが、好意的なコメントにつながったものと考えられる。一方で、アンケートの回収率は42.5%と低い結果であったため、来年度は実習終了時にアンケート回答を個別に案内するなど、回収率の向上に努める必要があると考える。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 木5

科目名 総合実習

教員名 中島 健輔

回答者数/履修者数 50/77

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>おおむね好評化が得られてよかった。今後も同様に高評価が得られるよう努力していく。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>OSCE合格へ向け学生が知りたいであろう情報をしっかり伝えることができた単が良かったと思う。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>改善点は特にはないと思われる。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>改善点は特にはないと思われる。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>おおむね好評化が得られてよかった。今後も同様に高評価が得られるよう努力していく。OSCEについても全員が合格したので今回の方針を引き続き継続していく。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 月4

科目名 コンピュータ基礎ⅠB

教員名 波多江 日成子

回答者数/履修者数 46/83

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>満足度は4.7と良好な値であったが、去年より0.1ポイント下がっておりアンケート回収率も悪いことから、アンケートの取り方ももう少し考える必要があると思われる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>質問には丁寧に対応し、難しいところは例を示して解説した。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>評価からは問題は感じられないが、わかりにくい所が無いかに確認してアップデートしていきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>聞き取りにくいと感じた人がいたようなので、明瞭な話し方を心がけたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>例年と比べて、授業時間内に演習が終わらない学生の割合が増えたように感じられた。 今後はより丁寧な説明を心がけ理解度を向上させたい。</p>

アクションプランシート

2025年度後期 月4

科目名 コンピュータ基礎ⅠB

教員名 福森 良

回答者数/履修者数 28/83

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q10</p>	<p>授業に対する満足度は4.6であり、良好な満足度が得られていると思う。昨今ではICTの活用が重要度をましていることから、引き続き高い満足度が維持できるように授業内容の見直しを行いたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>コンピューター演習ⅠBは演習型の講義となっている。自分自身で積極的に課題に取り組み、さらに学生間でも情報交換をすることで、アクティブラーニングを実践できていると感じる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業の内容についても、良好な点数が得られていた。予習や復習の点で課題がみられるため、予習や復習時間を確保できるように見直しを行いたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 ホスピタリティセミナー/教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6-Q11についても、良好な点数が得られていた。演習型の講義であり、周りとの相談も講義のために必要なファクターであるが、私語を減らすように改善したい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>全体的に良好なアンケート結果であったと思う。昨今の社会情勢から、ICTの活用は薬剤師の職種としても重要度を増していることから、課題内容のアップデートを含めてさらに改善していきたい。</p>